

病院年報

第5巻
(令和2年度)



独立行政法人 地域医療機能推進機構

大阪病院

独立行政法人 地域医療機能推進機構 大阪病院年報第5巻

巻 頭 言

令和二年度は、COVID-19感染症に始まり、その嵐のまっただ中で1年が過ぎたように思います。独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）大阪病院は、厚生労働省（厚労省）直下の公的病院機構の病院として、大阪府や大阪市のCOVID-19感染症対策に協力するとともに、患者対応や地域医療において大きく貢献して参りました。その様な状況のもと、令和二年度の当院の活動状況を、JCHO大阪病院年報第5巻にてご報告させて頂けることを大変うれしく思います。

昨年令和二年の四月に着任するや直ぐにCOVID-19の第一波で緊急事態宣言が発出されました。このPandemicには日本だけでなく世界中が大きな影響を受け、医療は大混乱し、社会・経済活動に急ブレーキが掛かりました。私達の社会や日常生活は一変しました。特に、年度の初めはCOVID-19がどんな感染症で、どう対処すれば良いか解らず、有効な治療手段も無いまま手探りでこの感染症に向き合うことになりました。医療者も、患者も、社会も、不安と先行き不透明感で一杯でした。年報にある通り、四月から六月は外来も入院も患者数が大きく落ち込みました。一部侵襲的な検査や治療は控え、安定している患者さんは電話再診にしました。健診事業も一時的に止めました。年度の後半になり、欧米でワクチンが迅速に開発され、抗体薬の治験も始まり感染症医学の世界では少し光が見えてきました。一方で、日本では第二波、第三波と感染の流行が続き、年が明けてからもその殆どを緊急事態宣言下で過ごすことになりました。COVID-19感染症の波が来る度に、救急外来が発熱患者で一杯になり、発熱救急も一般重症救急も受け入れできなくなる一方で、一般診療の外来・入院患者数は激減し空きがある状況でした。それはこの1年の医事統計に表れています。当然、年度の経営状態は非常に厳しく、コロナ対策の補助金で漸く年度を越すことができました。

過密な都市、国際間の激しい人流、都市や開発フロンティアでの新たな動物感染症との接触機会が増え、新興感染症の世界的なアウトブレイクの確率が高まると推定されていました。COVID-19は、見事に、それを証明しました。そして、厚労省の6番目の事業に感染症が加えられました。同時に、COVID-19 Pandemicでは、1年以内にmRNAやDNAワクチン、或いは、抗体薬が開発され緊急使用が出来る様になりました。世界の科学技術と臨床開発の目覚ましい進歩を目の当たりにしました。また、急性期医療や集中治療の重点化が、日本の医療に必要なことが明確になりました。当大阪病院も、これを機会に一部機器を更新し、人員配置や体制を変え、救急も含めより多くの急性期・集中医療を必要とする人に適正な医療を届けられるようにしました。

現在、日本は高齢化と人口減少、特に、生産人口の減少が大きな問題となっています。一方で、JCHO大阪病院が立地する大阪市の北西部は、2045年に向けてまだ人口が増加します。特に、高齢者の人口増加

が著しく、同時に青年期の人口も少しですが増加すると予想されています。大阪病院は、今後の地域の疾病動向を踏まえ、高齢化に伴い増加する整形外科疾患や虚血性心疾患・脳卒中・がん等の生活習慣病の予防と診断・治療の能力を更に強化しております。また、同時にまだ増加する子育て世代の支援のため、周産期医療や成育医療の一層の充実と、病院を離れた後の子育て世代の支援を強化して参ります。現在、大阪病院は、地域医療支援病院であり、救急指定病院、大阪府がん診療拠点病院、災害医療協力病院でもあります。これからもそれら機能と使命を十分に果たして参りたいと思います。

本年報の作成に当たり、皆様方に当院の現況を知っていただくとともに、地域により良い医療を提供するための資料にしたいと思っております。当院の診療活動に対する皆様方の忌憚の無いご意見をよろしくお願い申し上げます。

今後とも皆様方のあたたかいご支援とご助言を心よりお願い申し上げます。

地域医療機能推進機構 大阪病院 病院長 西田 俊朗

INDEX

■理 念	1
■病院概要	2
■施設基準	2
■学会認定	6
■沿 革	7
■職 員 数	8
■附属施設	8
■組 織 図	9
■医事統計	11
■病歴統計	23
■部門概要	53
■各種委員会	131
■業 績	133

JCHOの理念

我ら全国ネットのJCHOは
地域の住民、行政、関係機関と連携し
地域医療の改革を進め
安心して暮らせる地域づくりに貢献します

JCHO大阪病院の理念

1. 高度で安全な医療を目指します。
2. 患者さんの立場に立って、心温まるケアに専念します。
3. 近隣のかかりつけ医と連携し、地域の医療と福祉を推進します。
4. 職員全員が働きやすい職場づくりをすすめます。

地域医療支援病院としての基本方針

1. 小児救急を含む24時間救急医療をおこなっています。
2. 母子医療センターとして妊娠・分娩と新生児・未熟児の医療に24時間体制で迅速かつ確実に対応します。
3. 各部位の癌に対して、内科的・外科的に積極的な集学的治療をおこなっています。
4. 内視鏡、内視鏡下手術などを用いた低侵襲かつ高度な治療とともに外来化学療法や緩和医療チームにも力を入れています。
5. 慢性疾患に対してもリハビリを含む集学的な治療体制を整え、患者教育にも熱心です。
6. 脊椎・四肢・視覚・皮膚などの疾患に対して、専門性の高い手術的治療を麻酔科、ICU、放射線科等とチームを組んでおこなっています。
7. 心筋梗塞・脳卒中などに対して、各診療科が協力して治療にあたります。
8. 生活習慣病の予防や癌の早期発見についても各診療科が協力して診療にあたります。
9. 各診療科での診療は地域や関連する診療所や病院との連携を大切におこなっています。
10. 地域の医療従事者と合同で医療の質の向上を目的とした研修会等をおこなっています。
11. 職員の子育て支援にも積極的に取り組んでいます。

【病院概要】

開設者： 独立行政法人 地域医療機能推進機構（JCHO）

病院名： 独立行政法人 地域医療機能推進機構 大阪病院

病院長： 西田 俊朗

所在地： 大阪府大阪市福島区福島4丁目2番78号

開設年月日： 平成26年4月1日

許可病床数： 565床（一般病床）

特殊病床： 特定集中治療室（ICU） 12床

脳卒中ケアユニット（SCU） 9床

新生児特定集中治療室（NICU） 9床

継続保育治療室（GCU） 6床

開放型病床15床を含む

標榜科： 整形外科、リウマチ科、形成外科、リハビリテーション科、外科、消化器外科（内視鏡）、呼吸器外科（内視鏡）、肝臓・胆のう・膵臓外科、乳腺・内分泌外科、脳神経外科、内科、消化器内科（内視鏡）、呼吸器内科（内視鏡）、腎臓内科（人工透析）、糖尿病・内分泌内科、循環器内科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、頭頸部外科、小児科、新生児内科、神経精神科、脳神経内科、放射線診断科、放射線治療科、歯科・歯科口腔外科、臨床検査科、病理診断科、麻酔科、救急科

【施設基準】

令和3年3月31日現在

入院基本料	一般病棟入院基本料（急性期一般入院料1）
入院基本料等加算	総合入院体制加算2
	超急性期脳卒上加算
	救急医療管理加算
	診療録管理体制加算1
	医師事務作業補助体制加算1（25対1）
	急性期看護補助体制加算（25対1）
	看護職員夜間配置加算（12対1 配置加算1）
	療養環境加算
	重症者等療養環境特別加算
	緩和ケア診療加算
	栄養サポートチーム加算
	医療安全対策加算1

入院基本料等加算	感染防止対策加算 1 (感染防止対策地域連携加算)(抗菌薬適正使用支援加算)
	患者サポート体制充実加算
	褥瘡ハイリスク患者ケア加算
	ハイリスク妊娠管理加算
	ハイリスク分娩管理加算
	総合評価加算
	呼吸ケアチーム加算
	後発医薬品使用体制加算 2
	病棟薬剤業務実施加算 1
	病棟薬剤業務実施加算 2
	データ提出加算 2
	入退院支援加算 1 (地域連携診療計画加算)
	認知症ケア加算 1
	せん妄ハイリスク患者ケア加算
	精神疾患診療体制加算
	地域医療体制確保加算
特定入院料	特定集中治療室管理料 3
	脳卒中ケアユニット入院医療管理料
	新生児特定集中治療室管理料 2
	小児入院医療管理料 2
指導管理	心臓ペースメーカー指導管理料の注 5 に規定する遠隔モニタリング加算
	糖尿病合併症管理料
	がん性疼痛緩和指導管理料
	がん患者指導管理料イ
	がん患者指導管理料ロ
	がん患者指導管理料二
	外来緩和ケア管理料
	糖尿病透析予防指導管理料
	乳腺炎重症化予防ケア・指導料
	婦人科特定疾患治療管理料
	腎代替療法指導管理料
	地域連携小児夜間・休日診療料 1
	地域連携夜間・休日診療料
	院内トリアージ実施料
	夜間休日救急搬送医学管理料の注 3 に掲げる救急搬送看護体制加算
	外来放射線照射診療料
	ニコチン依存症管理料
	療養・就労両立支援指導料の注 2 に掲げる相談体制充実加算
	療養・就労両立支援指導料の注 3 に掲げる相談体制充実加算
	開放型病院共同指導料
	がん治療連携計画策定料
	肝炎インターフェロン治療計画料
	ハイリスク妊産婦連携指導料 1
	薬剤管理指導料
	医療機器安全管理料 1
	医療機器安全管理料 2

在宅医療	在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料
	在宅療養後方支援病院
	在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に掲げる遠隔モニタリング加算
	在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
検 査	持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定
	BRCA1/2 遺伝子検査
	HPV 核酸検出及びHPV 核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
	検体検査管理加算（Ⅰ）
	検体検査管理加算（Ⅳ）
	胎児心エコー法
	時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
	ヘッドアップティルト試験
	皮下連続式グルコース測定
	神経学的検査
	小児食物アレルギー負荷検査
	内服・点滴誘発試験
	画像診断
CT 撮影及びMRI 撮影	
冠動脈CT 撮影加算	
心臓MRI 撮影加算	
乳房MRI 撮影加算	
小児鎮静下MRI 撮影加算	
頭部MRI 撮影加算	
投 薬	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
注 射	外来化学療法加算1
	無菌製剤処理料
リハビリ	心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）
	脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
	運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
	呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
	がん患者リハビリテーション料
処 置	人工腎臓
	導入期加算2 及び腎代替療法実績加算
	透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
	下肢末梢動脈疾患指導管理加算
手 術 他	脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
	組織拡張器による再建手術（一連につき）（乳房（再建手術）の場合に限る。）
	骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。）
	椎間板内酵素注入療法
	緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））
	網膜付着組織を含む硝子体切除術（眼内内視鏡を用いる）
	乳がんセンチネルリンパ節加算1 及びセンチネルリンパ節生検（併用）
	乳がんセンチネルリンパ節加算2 及びセンチネルリンパ節生検（単独）
	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）
	経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
	経カテーテル大動脈弁置換術

手術他	胸腔鏡下弁形成術	
	胸腔鏡下弁置換術	
	経皮的中隔心筋焼灼術	
	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	
	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー）	
	両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	
	植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術	
	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	
	大動脈バルーンパンピング法（IABP法）	
	腹腔鏡下リンパ節群郭清術（傍大動脈）	
	バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	
	胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る。）	
	腹腔鏡下肝切除術	
	腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	
	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	
	体外衝撃波腎・尿管結石破碎術	
	生体腎移植術	
	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る。）	
	医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術	
	輸血管管理料Ⅰ	
	貯血式自己血輸血管管理体制加算	
	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	
	麻酔管理料（Ⅰ）	
	麻酔管理料（Ⅱ）	
	放射線治療専任加算	
	外来放射線治療加算	
	高エネルギー放射線治療	
	1回線量増加加算	
	強度変調放射線治療（IMRT）	
	画像誘導放射線治療加算（IGRT）	
	体外照射呼吸性移動対策加算	
	定位放射線治療	
	定位放射線治療呼吸性移動対策加算	
	保険医療機関間の連携による病理診断	
	病理診断管理加算2	
	悪性腫瘍病理組織標本加算	
	食事療養	入院時食事療養（Ⅰ）
	歯科	地域歯科診療支援病院歯科初診料
		歯科外来診療環境体制加算2
		クラウン・ブリッジ維持管理料
		歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料
		歯科口腔リハビリテーション料2
		CAD/CAM冠

【医学会認定研修等施設一覧】

厚生労働省臨床研修指定病院	日本消化器内視鏡学会認定指導施設
日本内科学会認定医教育病院	日本乳癌学会認定医・専門医制度認定施設
日本リハビリテーション医学会研修施設	日本透析医学会専門医認定施設
日本精神神経学会精神科専門医制度研修施設	日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設
日本小児科学会小児科専門医研修支援施設	日本核医学会専門医教育病院
日本外科学会外科専門医制度修練施設	日本臨床細胞学会認定施設
日本医学放射線学会専門医修練機関	日本臨床細胞学会教育研修施設
日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設	日本高血圧学会専門医認定施設
日本麻酔科学会麻酔科認定病院	日本脳卒中学会専門医研修教育病院
日本病理学会病理専門医研修認定施設	日本心血管インターベンション治療学会研修施設
日本呼吸器学会認定施設	日本IVR学会専門医修練施設認定施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設	日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本消化器病学会専門医認定施設	日本静脈経腸栄養学会NST稼動施設
日本肝臓学会認定施設	日本栄養療法推進協議会NST稼動施設
日本内分泌学会内分泌代謝科専門医認定教育施設（小児科）	日本食道学会全国登録認定施設
日本糖尿病学会認定教育施設	食道外科専門医準認定施設
日本腎臓学会研修施設（内科・小児科）	日本不整脈学会不整脈専門医研修施設
日本神経学会専門医教育施設	日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設
日本リウマチ学会教育施設	日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設
呼吸器外科専門医合同委員会専門研修連携施設	日本女性医学学会専門医制度認定研修施設
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設	日本病院総合診療医学会認定施設
日本消化器外科学会専門医修練施設	日本消化管学会胃腸科指導施設
日本周産期・新生児医学会周産期（母体・胎児）専門医暫定認定施設	日本総合病院精神医学会一般病院連携研修施設
日本周産期・新生児医学会周産期（新生児）専門医暫定認定施設	日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設
日本生殖医学会生殖医療専門医制度研修連携施設	日本膵臓学会認定指導施設
日本放射線腫瘍学会認定施設	日本脳神経外科学会専門医研修プログラム関連施設
日本手外科学会認定基幹研修施設	日本整形外科学会専門医研修施設
脊椎脊髓外科専門医基幹研修施設	日本形成外科学会認定医研修施設
日本大腸肛門病学会認定施設	日本皮膚科学会認定専門医研修施設
	日本泌尿器科学会専門医教育施設
	日本眼科学会専門医制度研修施設

【沿革】

昭和27年 10月	大阪厚生年金病院 開設（整形外科・内科54床）
29年 3月	外科・皮膚泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・小児科・歯科 新設334床
30年 4月	改築増床 計375床に
32年 7月	総合病院名称使用の承認
33年 4月	増改築増床 計560床に 福島小学校分校 併設（H22.12まで） 厚生年金病院大阪高等看護学院 開院
34年 4月 10月	下福島中学校分校 併設（H22.12まで） 神経精神科・放射線科 新設
36年 4月	麻酔科 新設
38年 4月	リウマチ科・災害外科 新設
43年 7月	臨床研修指定機関となる
45年 9月	脳神経外科・リハビリテーション科・病理検査科 新設
48年 12月	病院新築工事着工（旧病院）
56年 3月	すべての新改築工事完了（旧病院）
57年 3月	10床増床 計570床に
平成 7年 2月	阪神・淡路大震災 医療支援活動
8年 2月	救急告示病院として認定
9年 3月	ICU・救急処置室 開設
12年 4月 10月	開放型病床の承認（15床） 院外処方全面発行開始
13年 7月	地域医療連絡室設置
16年 3月 4月	オーダーリングシステム導入 産科オープンシステム開始
18年 4月 10月	DPC 対象病院に指定 SCU（脳卒中ケアユニット）新設 許可病床数変更570床→565床
19年 4月 12月	院内保育園設置 地域医療支援病院の承認
20年 5月	電子カルテシステム導入
22年 4月	大阪府がん診療拠点病院の指定
23年 4月	東日本大震災 医療支援活動
25年 2月	耐震建替工事着工
26年 4月	独立行政法人地域医療機能推進機構 大阪病院 改組
27年 4月 5月	新病院竣工式 新病院診療開始
28年 4月	新病院グランドオープン
令和 1年 9月	一次脳卒中センター認定
2年 4月	40床休床 NICU9床→6床、GCU6床→0床 13階東45床/西45床→13階東60床 9階西46床→45床 COVID-19 受入病床15床（13東） COVID-19 救急外来 発熱外来用コンテナ設置 COVID-19 3階図書コーナー閉鎖

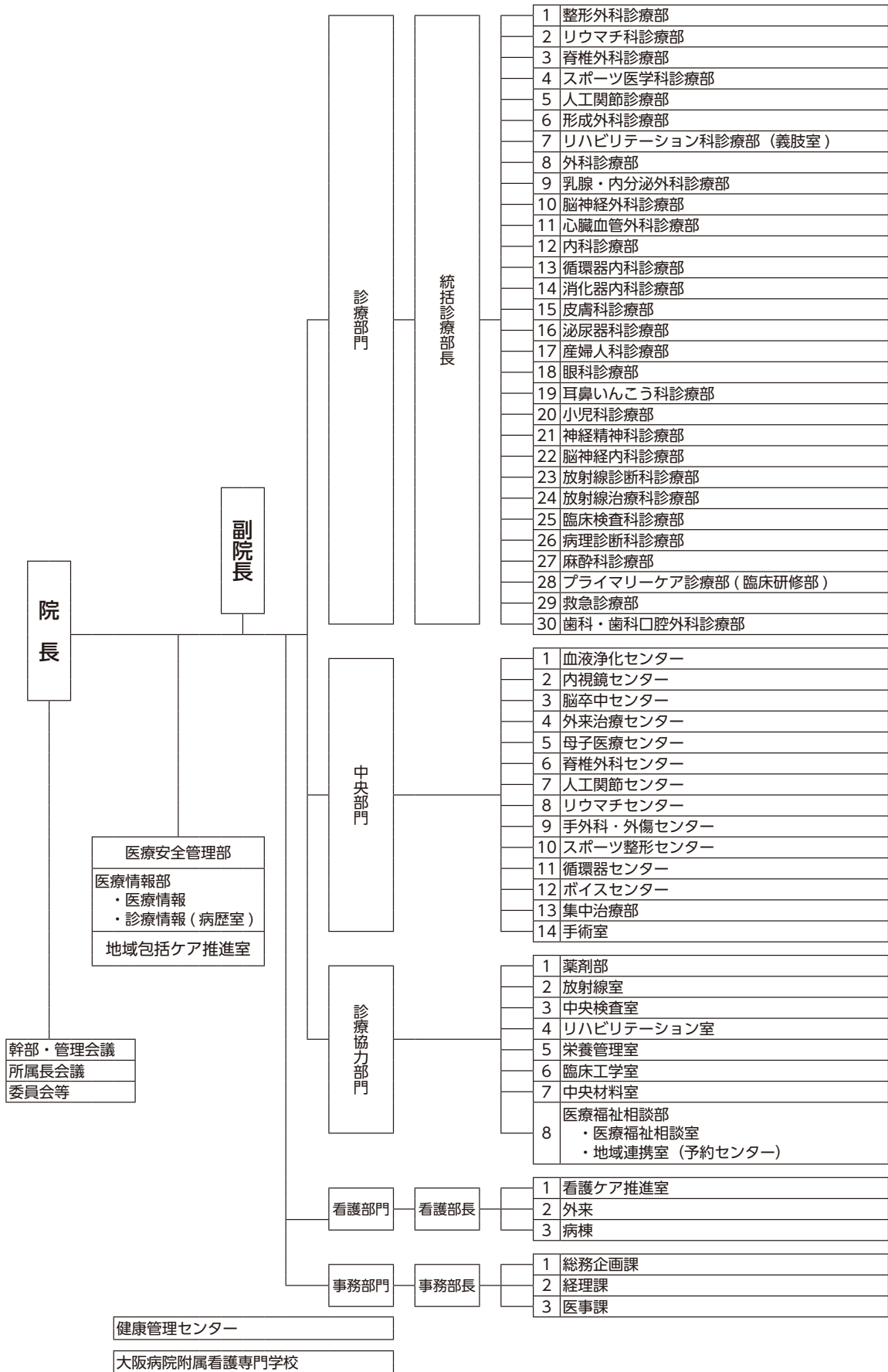
【職員数】

令和3年3月1日現在

	区分	医療職	医技職	福祉職	看護職	事務職	療養 介護職	技能職	合計
病院	常勤	191	163	7.0	511.0	46.0	29.0	6.0	953
	非常勤	4.3	5.0	0.0	10.9	30.1	8.2	0.0	58.5
	小計	195.3	168.0	7.0	521.9	76.1	37.2	6.0	1011.5
	区分	教育職	事務職						合計
学校	常勤	9.0	1.0						10.0
	非常勤	0.0	0.0						0.0
	小計	9.0	1.0						10.0
合計(人)		204.3	169.0	7.0	521.9	76.1	37.2	6.0	1021.5

【附属施設】

独立行政法人地域医療機能推進機構 大阪病院附属看護専門学校





医事統計



■科別外来患者数 【2020年度】

外来診療日：243日

診療科	新患	再来	合計	1日平均患者数		
				新患	再来	合計
整形外科	3,111	29,818	32,929	12.8	122.7	135.5
形成外科	495	3,312	3,807	2.0	13.6	15.7
リハビリテーション科	0	4,663	4,663	0.0	19.2	19.2
外科	333	10,720	11,053	1.4	44.1	45.5
乳腺内分泌外科	555	9,724	10,279	2.3	40.0	42.3
心血管外科	25	1,511	1,536	0.1	6.2	6.3
脳神経外科	708	3,940	4,648	2.9	16.2	19.1
内科	1,846	35,614	37,460	7.6	146.6	154.2
消化器内科	1,150	29,899	31,049	4.7	123.0	127.8
循環器科	638	17,906	18,544	2.6	73.7	76.3
皮膚科	626	10,025	10,651	2.6	41.3	43.8
泌尿器科	279	10,080	10,359	1.1	41.5	42.6
産婦人科	1,572	18,297	19,869	6.5	75.3	81.8
眼科	725	19,182	19,907	3.0	78.9	81.9
耳鼻いんこう科	644	5,718	6,362	2.7	23.5	26.2
小児科	925	6,876	7,801	3.8	28.3	32.1
神経精神科	113	8,104	8,217	0.5	33.3	33.8
脳神経内科	413	4,584	4,997	1.7	18.9	20.6
放射線診断科	445	271	716	1.8	1.1	2.9
放射線治療科	4	2,469	2,473	0.0	10.2	10.2
歯科・歯科口腔外科	1,298	2,593	3,891	5.3	10.7	16.0
合計	15,905	235,306	251,211	65.5	968.3	1,033.8

■病棟別患者数

365日

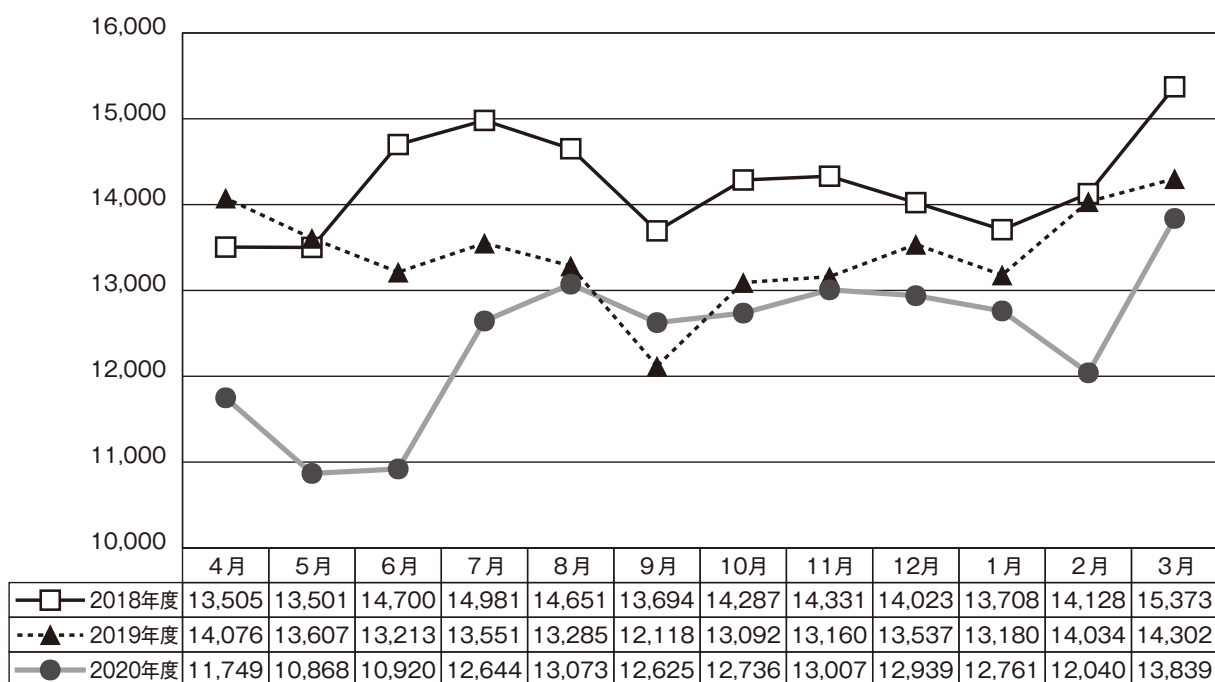
病棟名	取扱患者数	1日平均患者数
8階東	5,131	14.1
8階西	3,250	8.9
8階南	11,128	30.5
9階東	12,459	34.1
9階西	13,640	37.4
10階東	13,765	37.7
10階西	14,129	38.7
11階東	12,981	35.6
11階西	14,008	38.4
12階東	13,988	38.3
12階西	14,132	38.7
13階東	4,797	13.1
13階西	9,510	26.1
ICU	2,260	6.2
SCU	3,063	8.4
NICU	960	2.6
合計	149,201	408.8

■診療科別入院患者数 【2020年度】

入院日数：365日

診療科	繰越延患者数	新入院患者数	退院患者数		在院延患者数	取扱患者数	1日平均患者数	平均在院日数
			死亡	退院				
整形	106	1,807	2	1,836	35,054	36,892	101.1	19.2
形成	10	149	1	161	2,121	2,283	6.3	13.6
外科	37	1,135	32	1,144	13,817	14,993	41.1	11.9
乳腺	13	278	11	278	2,777	3,066	8.4	9.8
心臓	13	138	3	165	2,655	2,823	7.7	17.3
脳外	30	418	22	392	10,492	10,906	29.9	25.2
内科	60	1,481	83	1,336	21,878	23,297	63.8	15.1
消内	34	2,195	30	2,138	13,997	16,165	44.3	6.4
循環	35	937	27	883	9,287	10,197	27.9	10.1
皮膚	3	131	2	136	1,815	1,953	5.4	13.5
泌尿	10	434	7	433	3,962	4,402	12.1	9.1
産婦	28	1,145	5	1,138	7,075	8,218	22.5	6.2
眼科	19	857	0	856	3,250	4,106	11.2	3.8
耳鼻	3	206	1	211	1,445	1,657	4.5	6.9
小児	15	539	0	539	3,156	3,695	10.1	5.9
神内	10	292	4	284	4,113	4,401	12.1	14.2
歯科	0	23	0	23	124	147	0.4	5.4
合計	426	12,165	230	11,953	137,018	149,201	408.8	11.3

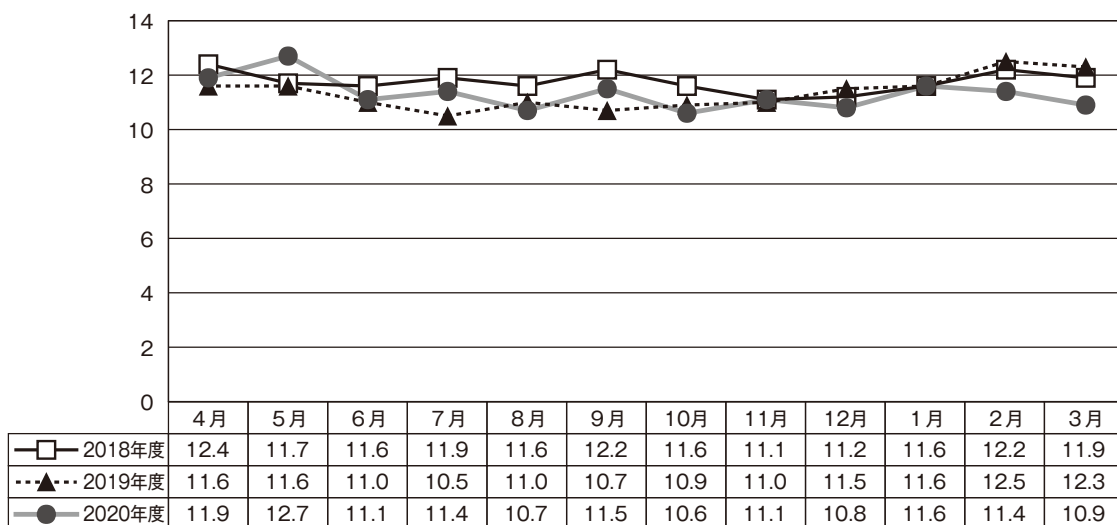
■入院延患者数の推移



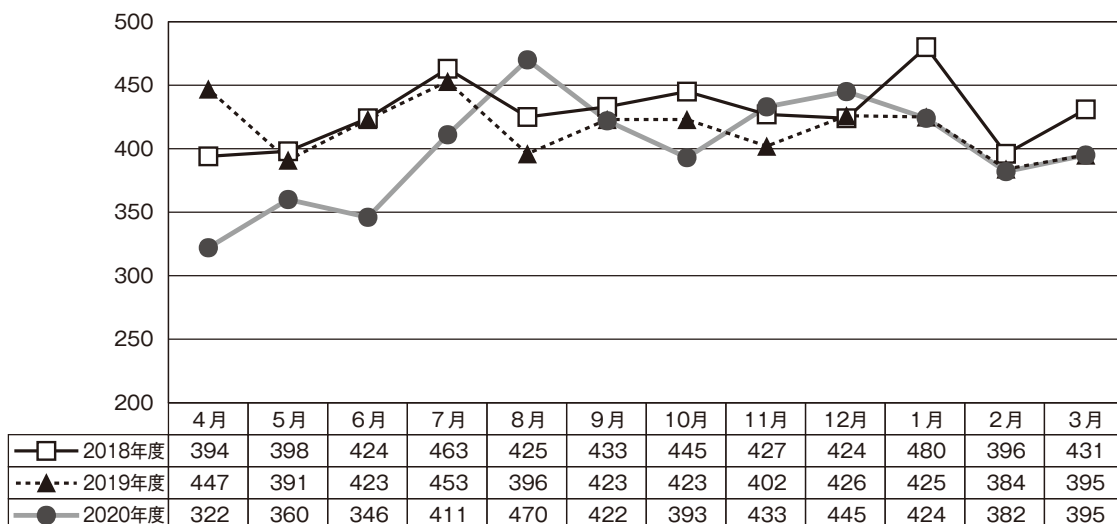
【2020年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
整 形	3,128	2,726	2,703	3,153	3,059	3,169	3,329	3,147	3,046	2,688	3,074	3,670	36,892
形 成	284	189	186	234	206	240	195	160	168	161	154	106	2,283
外 科	1,109	1,113	1,278	1,350	1,364	1,181	1,216	1,435	1,491	1,225	889	1,347	14,998
乳 腺	320	276	210	260	289	264	238	276	224	248	225	236	3,066
心 臓	224	167	249	245	241	303	337	156	235	224	170	272	2,823
脳 外	922	844	692	979	928	808	884	847	940	1,107	796	1,159	10,906
内 科	1,719	1,889	1,608	2,216	1,939	2,099	1,869	2,164	2,124	2,034	1,800	1,839	23,300
消 内	1,088	1,102	1,298	1,305	1,402	1,395	1,541	1,334	1,389	1,325	1,547	1,434	16,160
循 環	847	481	632	625	762	683	724	1,070	1,014	1,362	1,035	962	10,197
皮 膚	81	212	138	167	146	155	159	140	181	202	153	219	1,953
泌 尿	355	323	355	397	461	350	317	458	290	322	411	360	4,399
産 婦	727	634	549	589	813	777	584	661	712	603	791	778	8,218
眼 科	313	273	254	280	423	311	420	413	346	448	272	353	4,106
耳 鼻	64	55	99	191	210	152	148	92	188	208	123	127	1,657
小 児	360	335	290	257	376	294	325	255	233	229	266	475	3,695
神 内	208	249	355	381	435	444	437	392	335	360	321	484	4,401
齒 科	0	0	24	15	19	0	13	7	23	15	13	18	147
合 計	11,749	10,868	10,920	12,644	13,073	12,625	12,736	13,007	12,939	12,761	12,040	13,839	149,201

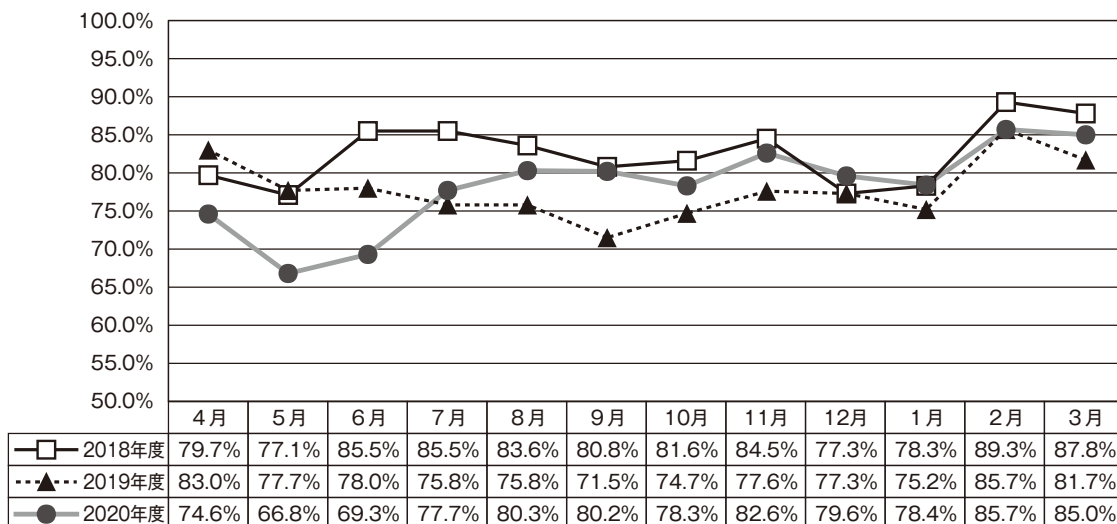
1. 平均在院日数



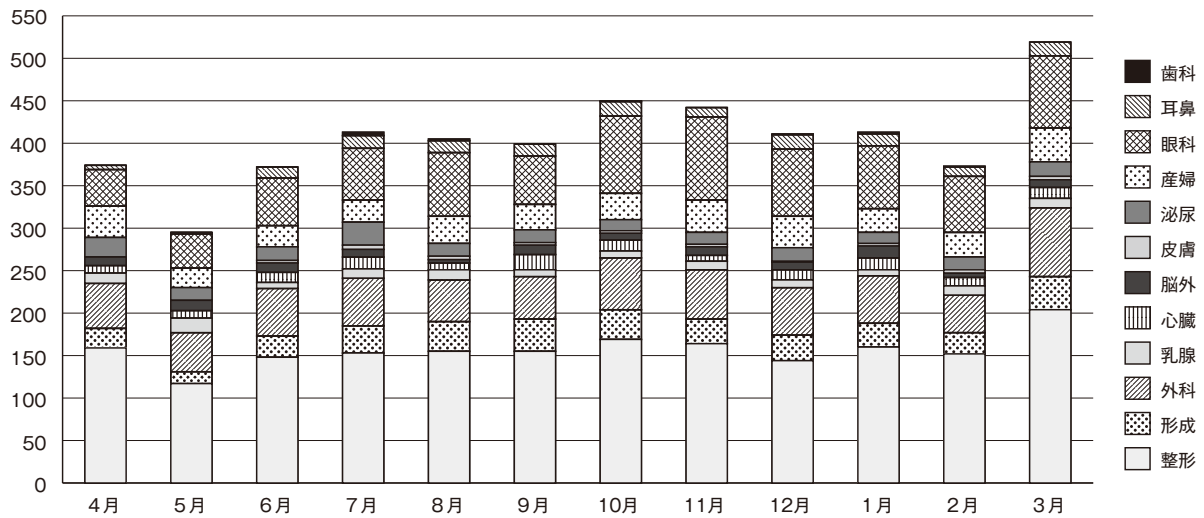
2. 直入患者数の推移



3. 病床稼働率



■診療科別手術件数(手術室実施分)【2020年度】



【2020年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
整形	159	117	148	153	155	155	169	164	144	160	152	204	1,880
形成	23	14	25	32	35	38	35	29	30	28	25	39	353
外科	53	46	56	56	49	50	61	58	56	56	44	81	666
乳腺	12	17	7	11	12	8	8	10	9	7	11	11	123
心臓	9	9	12	14	8	18	13	7	12	14	10	13	139
脳外	10	12	11	9	4	11	8	10	9	14	5	9	112
皮膚	0	0	3	5	4	3	3	3	1	3	4	4	33
泌尿	23	15	16	27	15	15	13	14	16	13	15	17	199
産婦	37	23	25	26	32	30	31	38	37	28	29	40	376
眼科	43	40	56	61	75	57	91	98	79	74	66	85	825
耳鼻	5	2	13	15	14	14	17	11	17	14	11	16	149
歯科	0	0	0	4	2	0	1	0	1	2	1	0	11
合計	374	295	372	413	405	399	450	442	411	413	373	519	4,866

【2019年度】

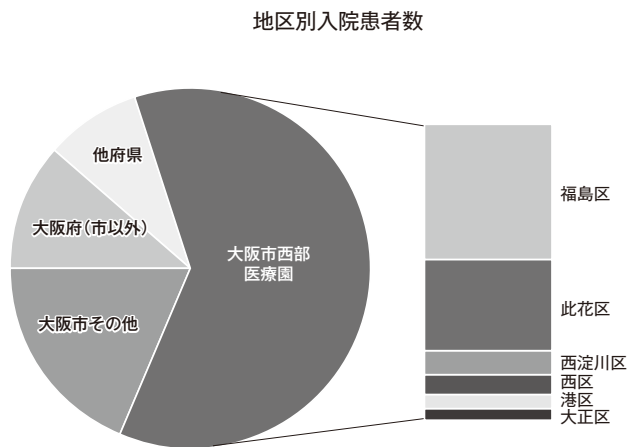
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
整形	150	155	140	177	171	146	158	173	157	155	143	163	1,888
形成	32	29	36	31	51	36	38	33	27	39	32	38	422
外科	50	44	53	53	56	59	57	54	53	46	53	63	641
乳腺	11	10	13	10	14	8	12	12	9	13	11	11	134
心臓	10	11	14	12	12	11	15	9	11	11	13	16	145
脳外	14	12	7	3	7	3	7	7	7	8	7	10	92
皮膚	6	8	8	10	8	2	7	6	4	3	4	3	69
泌尿	10	20	13	15	14	11	14	17	15	22	17	12	180
産婦	38	36	34	42	46	34	31	28	36	32	36	42	435
眼科	62	75	82	95	58	63	56	87	55	80	86	75	874
耳鼻	21	18	14	17	22	14	15	14	13	13	13	16	190
歯科	4	3	3	4	7	1	2	4	3	3	3	2	39
合計	408	421	417	469	466	388	412	444	390	425	418	451	5,109

【2018年度】

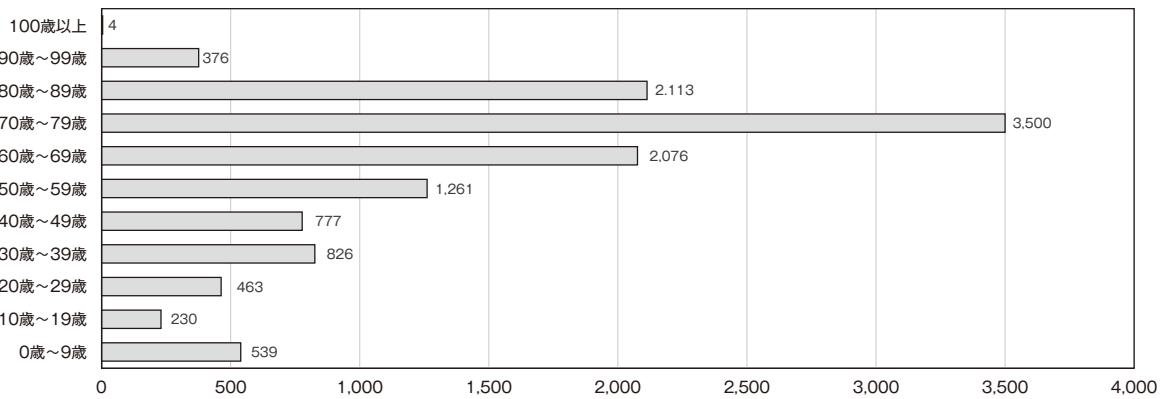
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
整形	134	140	144	149	160	129	157	168	155	162	152	160	1,810
形成	27	44	45	40	62	36	38	49	26	29	34	38	468
外科	60	57	69	62	69	47	73	56	53	58	52	53	709
乳腺	13	13	14	6	9	11	17	10	11	7	14	10	135
心臓	12	12	14	13	15	13	18	20	21	15	14	13	180
脳外	9	4	9	6	7	6	6	8	8	6	11	9	89
皮膚	7	6	8	9	7	6	10	9	7	6	6	5	86
泌尿	10	16	17	16	10	18	19	19	18	14	13	16	186
産婦	21	26	39	29	36	30	34	36	32	25	34	48	390
眼科	61	86	83	66	61	63	76	88	72	87	95	81	919
耳鼻	22	17	18	20	27	15	26	20	22	18	22	22	249
歯科	2	0	4	3	5	4	2	3	2	4	2	4	35
合計	378	421	464	419	468	378	476	486	427	431	449	459	5,256

■診療科別住所地別入院患者数 【2020年度】

診療科	大阪市							その他 大阪府	他府県	合計
	福島区	此花区	西淀川区	西区	港区	大正区	その他			
整形外科	196	143	90	75	49	48	469	421	316	1,807
形成外科	39	37	9	2	3	1	31	18	9	149
外科	400	282	59	42	21	25	162	85	59	1,135
乳腺内分泌外科	43	38	13	9	9	14	70	54	28	278
心臓血管外科	25	27	7	7	16	9	31	10	6	138
脳神経外科	119	102	33	14	14	7	74	39	16	418
内科	442	400	68	57	56	42	242	103	71	1,481
消化器内科	617	556	90	60	43	68	362	207	192	2,195
循環器内科	277	196	79	40	48	31	151	79	36	937
皮膚科	44	31	6	3	2	1	31	9	4	131
泌尿器科	148	88	20	17	8	9	70	39	35	434
産婦人科	469	86	25	73	43	16	263	94	76	1,145
眼科	170	161	67	14	9	6	152	175	103	857
耳鼻いんこう科	64	47	7	7	4	5	34	20	18	206
小児科	266	39	10	70	23	5	74	22	30	539
脳神経内科	85	65	21	11	7	6	52	28	17	292
歯科・歯科口腔外科	8	5	2	0	1	0	3	3	1	23
合計	3,412	2,303	606	501	356	293	2,271	1,406	1,017	12,165



■年齢階層別新入院患者数【2020年度】



【2020年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳～9歳	45	38	40	38	52	53	49	46	34	34	41	69	539
10歳～19歳	18	9	14	16	27	13	20	22	21	19	16	35	230
20歳～29歳	28	31	34	31	40	49	48	37	41	37	49	38	463
30歳～39歳	77	81	61	79	82	71	63	57	45	57	72	81	826
40歳～49歳	71	69	67	71	83	62	67	54	56	55	59	63	777
50歳～59歳	111	105	96	91	100	96	111	107	95	114	110	125	1,261
60歳～69歳	177	173	184	179	162	157	177	191	160	178	177	161	2,076
70歳～79歳	179	122	235	321	338	296	341	360	366	338	239	365	3,500
80歳～89歳	143	136	173	175	186	174	185	187	174	200	174	206	2,113
90歳～99歳	23	21	27	33	38	37	29	36	36	36	34	26	376
100歳以上	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	1	4
合計	872	785	932	1,034	1,108	1,008	1,090	1,097	1,029	1,069	971	1,170	12,165

【2019年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳～9歳	89	71	92	96	83	101	81	77	59	72	64	69	954
10歳～19歳	19	21	18	43	30	26	34	22	41	23	16	24	317
20歳～29歳	39	41	40	43	45	42	56	41	35	37	33	46	498
30歳～39歳	82	86	66	84	87	76	68	62	50	62	77	86	886
40歳～49歳	76	74	72	76	88	67	72	59	61	60	64	68	837
50歳～59歳	116	110	101	96	105	101	116	112	100	119	115	130	1,321
60歳～69歳	182	178	189	184	167	162	182	196	165	183	182	166	2,136
70歳～79歳	298	294	317	341	292	280	302	306	302	328	263	296	3,619
80歳～89歳	179	172	185	202	152	167	179	184	176	200	187	172	2,155
90歳～99歳	21	25	26	22	28	22	28	21	35	36	28	22	314
100歳以上	1	1	0	0	1	0	0	2	0	1	0	2	8
合計	1,102	1,073	1,106	1,187	1,078	1,044	1,118	1,082	1,024	1,121	1,029	1,081	13,045

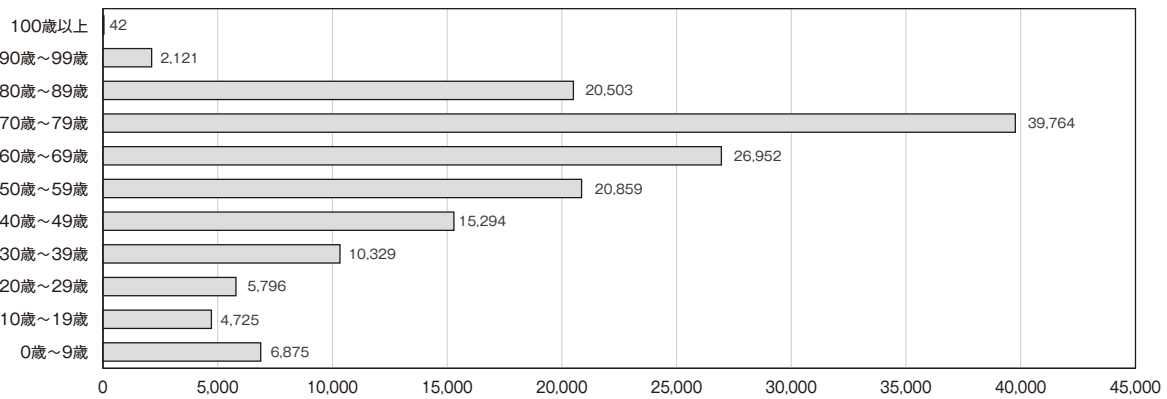
【2018年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳～9歳	58	56	84	91	67	82	76	75	61	79	54	88	871
10歳～19歳	23	14	19	30	47	20	22	19	27	30	12	30	293
20歳～29歳	30	34	36	42	53	39	54	40	38	31	46	38	481
30歳～39歳	50	60	69	97	93	79	83	78	67	68	69	94	907
40歳～49歳	59	63	61	74	84	66	79	80	67	82	68	68	851
50歳～59歳	97	102	123	98	120	114	95	121	107	131	101	98	1,307
60歳～69歳	199	208	208	195	174	193	218	215	183	211	194	207	2,405
70歳～79歳	284	337	303	324	316	254	347	334	266	331	305	315	3,716
80歳～89歳	183	181	202	202	151	155	166	188	181	207	200	182	2,198
90歳～99歳	28	22	35	34	28	27	27	25	21	25	27	25	324
100歳以上	0	0	0	0	1	0	2	0	1	0	0	1	5
合計	1,011	1,077	1,140	1,187	1,134	1,029	1,169	1,175	1,019	1,195	1,076	1,146	13,358

【2017年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳～9歳	66	71	74	68	92	62	66	70	82	60	54	60	825
10歳～19歳	13	30	16	29	26	23	30	20	32	25	17	42	303
20歳～29歳	34	29	35	43	41	33	38	46	34	39	52	41	465
30歳～39歳	65	87	96	85	100	75	82	74	76	76	81	84	981
40歳～49歳	77	88	79	89	98	70	62	65	68	60	66	75	897
50歳～59歳	98	111	105	95	123	96	110	98	103	110	121	119	1,289
60歳～69歳	198	252	261	246	207	178	241	220	178	226	198	209	2,614
70歳～79歳	286	305	305	280	293	296	299	304	280	330	277	327	3,582
80歳～89歳	165	156	180	159	168	164	158	178	177	186	152	169	2,012
90歳～99歳	27	31	12	17	14	13	27	16	19	32	23	22	253
100歳以上	0	0	0	1	1	0	0	2	0	1	0	0	5
合計	1,029	1,160	1,163	1,112	1,163	1,010	1,113	1,093	1,049	1,145	1,041	1,148	13,226

■年齢階層別外来実患者数の推移【2020年度】



【2020年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳～9歳	675	169	626	689	632	614	632	618	631	594	471	524	6,875
10歳～19歳	378	357	355	457	567	323	366	345	445	376	325	431	4,725
20歳～29歳	517	488	477	558	507	467	468	488	457	411	458	500	5,796
30歳～39歳	925	899	885	893	864	866	923	808	851	820	780	815	10,329
40歳～49歳	1,368	1,295	1,358	1,356	1,304	1,247	1,304	1,224	1,262	1,203	1,155	1,218	15,294
50歳～59歳	1,786	1,729	1,772	1,797	1,734	1,663	1,839	1,730	1,785	1,668	1,612	1,744	20,859
60歳～69歳	2,485	2,308	2,330	2,361	2,160	2,203	2,335	2,186	2,211	2,159	2,102	2,112	26,952
70歳～79歳	3,544	3,337	3,445	3,487	3,178	3,312	3,424	3,252	3,314	3,173	3,136	3,162	39,764
80歳～89歳	1,865	1,741	1,730	1,805	1,622	1,700	1,729	1,707	1,679	1,746	1,587	1,592	20,503
90歳～99歳	182	182	164	181	156	177	184	184	166	192	169	184	2,121
100歳以上	9	4	5	3	4	2	6	4	0	2	0	3	42
合計	13,734	12,509	13,147	13,587	12,728	12,574	13,210	12,546	12,801	12,344	11,795	12,285	153,260

【2019年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳～9歳	735	184	682	750	688	668	688	673	687	647	513	571	7,486
10歳～19歳	411	389	387	498	617	352	399	376	485	409	354	469	5,146
20歳～29歳	563	531	519	607	552	508	510	531	498	447	499	544	6,309
30歳～39歳	1,007	979	964	972	941	943	1,005	880	926	893	849	887	11,246
40歳～49歳	1,489	1,410	1,478	1,476	1,420	1,358	1,420	1,333	1,374	1,310	1,258	1,326	16,652
50歳～59歳	1,944	1,882	1,929	1,956	1,888	1,811	2,002	1,883	1,943	1,816	1,755	1,899	22,708
60歳～69歳	2,706	2,513	2,537	2,570	2,352	2,398	2,542	2,380	2,407	2,351	2,289	2,299	29,344
70歳～79歳	3,858	3,633	3,751	3,796	3,460	3,606	3,728	3,540	3,608	3,454	3,414	3,443	43,291
80歳～89歳	2,031	1,896	1,883	1,965	1,766	1,851	1,882	1,858	1,828	1,901	1,728	1,733	22,322
90歳～99歳	198	198	179	197	170	193	200	200	181	209	184	200	2,309
100歳以上	10	4	5	3	4	2	6	4	0	2	0	3	43
合計	14,952	13,619	14,314	14,790	13,858	13,690	14,382	13,658	13,937	13,439	12,843	13,374	166,856

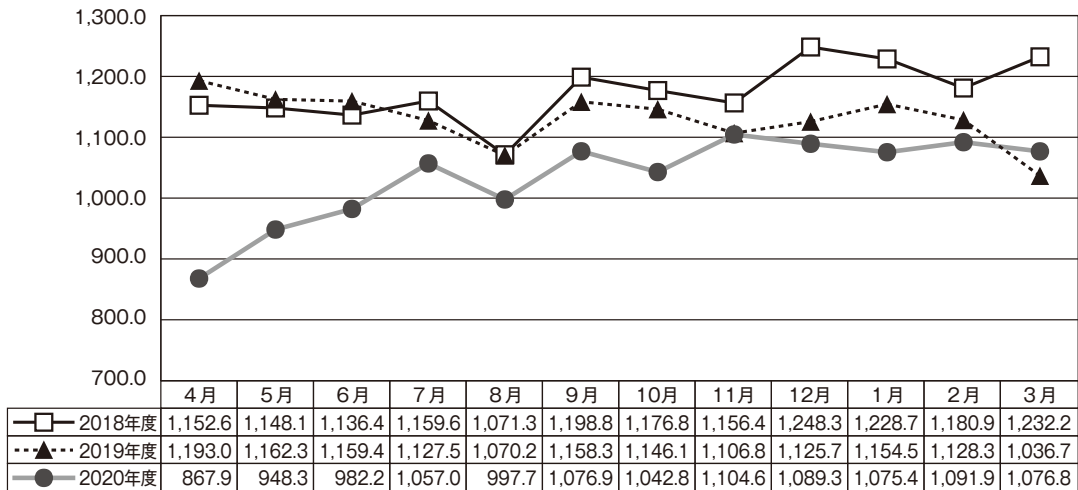
【2018年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳～9歳	600	707	561	713	758	644	698	615	676	631	586	676	7,865
10歳～19歳	410	349	335	479	611	306	373	347	489	400	336	570	5,005
20歳～29歳	427	458	442	485	570	482	514	504	515	582	538	625	6,142
30歳～39歳	915	976	959	969	965	909	1,075	999	1,017	937	961	990	11,672
40歳～49歳	1,264	1,354	1,332	1,357	1,402	1,317	1,527	1,406	1,452	1,388	1,383	1,452	16,634
50歳～59歳	1,721	1,807	1,840	1,823	1,833	1,705	1,951	1,934	1,828	1,842	1,821	1,956	22,061
60歳～69歳	2,435	2,376	2,453	2,489	2,464	2,249	2,685	2,429	2,408	2,547	2,427	2,603	29,565
70歳～79歳	3,529	3,506	3,679	3,577	3,542	3,303	3,725	3,563	3,511	3,393	3,486	3,625	42,439
80歳～89歳	2,003	1,987	1,999	2,037	1,860	1,840	2,075	1,998	1,877	1,849	1,793	1,879	23,197
90歳～99歳	218	218	227	222	216	202	225	210	190	170	159	196	2,453
100歳以上	3	4	2	3	4	3	5	2	2	3	3	4	38
合計	13,525	13,742	13,829	14,154	14,225	12,960	14,853	14,007	13,965	13,742	13,493	14,576	167,071

【2017年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳～9歳	639	640	716	677	741	672	675	722	749	667	562	760	8,220
10歳～19歳	323	340	342	406	565	346	350	363	417	388	314	500	4,654
20歳～29歳	543	533	621	557	642	604	559	523	560	567	547	628	6,884
30歳～39歳	1,075	1,078	1,134	1,079	1,086	1,075	1,127	1,059	1,104	1,084	1,038	1,081	13,020
40歳～49歳	1,413	1,344	1,501	1,425	1,447	1,432	1,467	1,427	1,504	1,419	1,468	1,503	17,350
50歳～59歳	1,798	1,720	1,882	1,778	1,796	1,851	1,836	1,748	1,800	1,783	1,836	1,976	21,804
60歳～69歳	3,174	2,996	3,267	3,098	3,069	3,017	3,085	2,897	2,904	2,910	2,893	3,060	36,370
70歳～79歳	3,355	3,497	3,487	3,400	3,199	3,379	3,579	3,602	3,426	3,349	3,397	3,478	41,148
80歳～89歳	1,759	1,679	1,755	1,722	1,639	1,700	1,764	1,698	1,765	1,705	1,756	1,899	20,841
90歳～99歳	130	125	177	135	145	112	131	119	140	149	138	169	1,670
100歳以上	2	1	2	0	1	1	1	1	1	1	1	2	14
合計	14,211	13,953	14,884	14,277	14,330	14,189	14,574	14,159	14,370	14,022	13,950	15,056	171,975

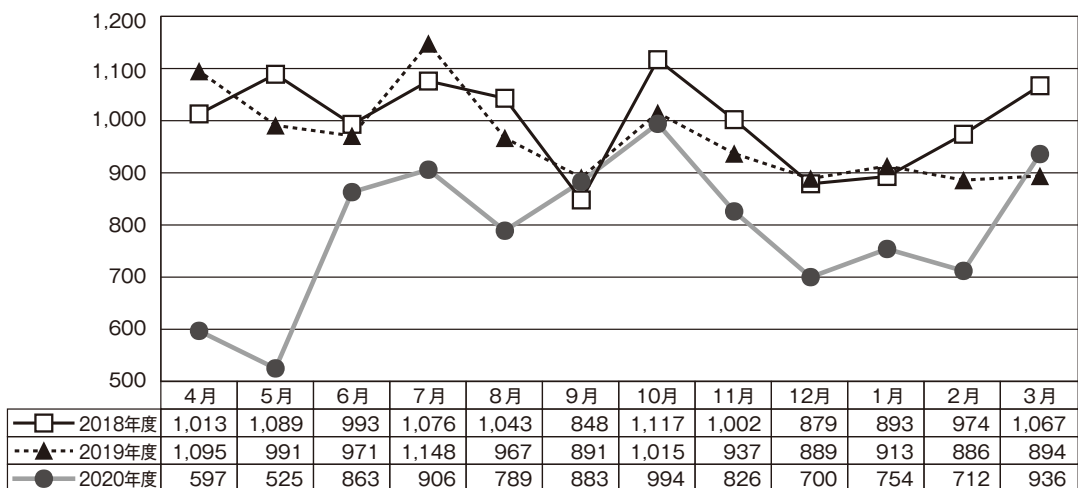
■ 1日平均外来患者数の推移



【2020年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外来日数	21	18	22	21	20	20	22	19	20	19	18	23	243
整形	101.0	118.9	134.3	142.2	134.3	136.8	138.9	150.5	140.6	142.6	143.1	143.2	135.5
形成	9.9	13.1	14.3	16.6	15.4	18.0	16.6	17.6	16.7	14.2	16.9	18.7	15.7
リハ	18.3	18.2	17.5	20.1	19.7	19.7	18.7	21.4	19.4	19.6	18.4	19.4	19.2
外科	40.7	44.3	42.0	45.2	42.9	46.4	49.7	49.2	45.3	50.4	47.3	43.6	45.6
乳腺	38.1	41.6	43.0	41.4	39.6	42.5	41.8	45.7	41.6	43.9	46.8	42.5	42.4
心臓	5.4	7.2	5.8	6.2	5.5	6.5	6.1	6.7	6.8	6.6	7.2	6.2	6.4
脳外	15.8	18.2	19.2	18.1	17.6	20.3	17.8	22.2	22.0	18.7	20.4	19.7	19.2
内科	138.6	144.1	135.0	154.4	158.0	164.1	153.5	164.9	164.6	161.8	164.9	150.4	154.5
消内	103.6	110.6	126.4	133.4	110.0	138.2	136.8	133.3	135.9	130.5	137.3	136.0	127.7
循環	68.2	67.9	72.6	77.1	63.1	76.2	80.9	78.8	83.1	84.7	82.1	81.0	76.3
皮膚	34.9	42.1	43.3	47.9	46.5	45.6	40.3	42.8	44.4	44.1	46.6	47.7	43.9
泌尿	38.2	43.8	44.0	43.0	41.3	44.3	40.7	45.6	43.4	43.7	40.0	43.8	42.7
産婦	69.6	79.3	82.8	87.3	79.8	90.6	75.4	85.7	83.0	81.7	83.2	83.5	81.8
眼科	68.5	78.8	79.4	79.6	82.3	80.1	79.4	85.3	89.1	84.7	90.7	86.7	82.1
耳鼻	18.1	20.8	23.5	27.7	26.3	27.9	29.0	27.6	27.7	28.1	28.3	29.0	26.2
小児	26.9	26.9	28.8	32.1	38.5	34.0	31.7	32.4	35.8	32.7	29.9	35.1	32.1
神経	32.1	33.1	29.9	34.2	34.1	36.2	33.9	36.3	34.4	33.7	34.9	33.7	33.9
脳内	18.6	18.9	19.7	22.1	19.5	20.4	20.4	24.1	20.7	21.8	19.9	21.0	20.6
放診	1.5	1.2	3.1	3.5	3.0	3.2	4.5	3.8	2.9	2.2	3.0	3.2	2.9
放治	7.9	9.6	10.0	9.6	7.7	10.3	12.0	12.4	12.9	11.1	10.7	8.3	10.2
歯科	12.0	9.7	10.8	15.2	13.0	16.0	14.8	18.3	19.6	18.5	20.0	24.1	16.0
合計	867.9	948.3	985.4	1,056.9	998.1	1,077.3	1,042.9	1,104.6	1,089.9	1,075.3	1,091.6	1,076.8	1,034.6

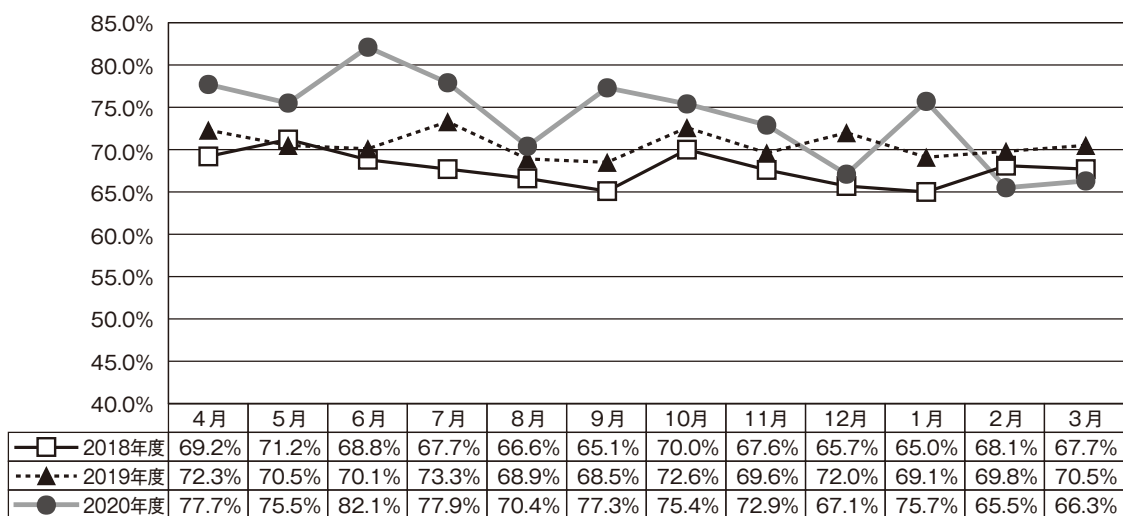
■ 紹介患者数の推移



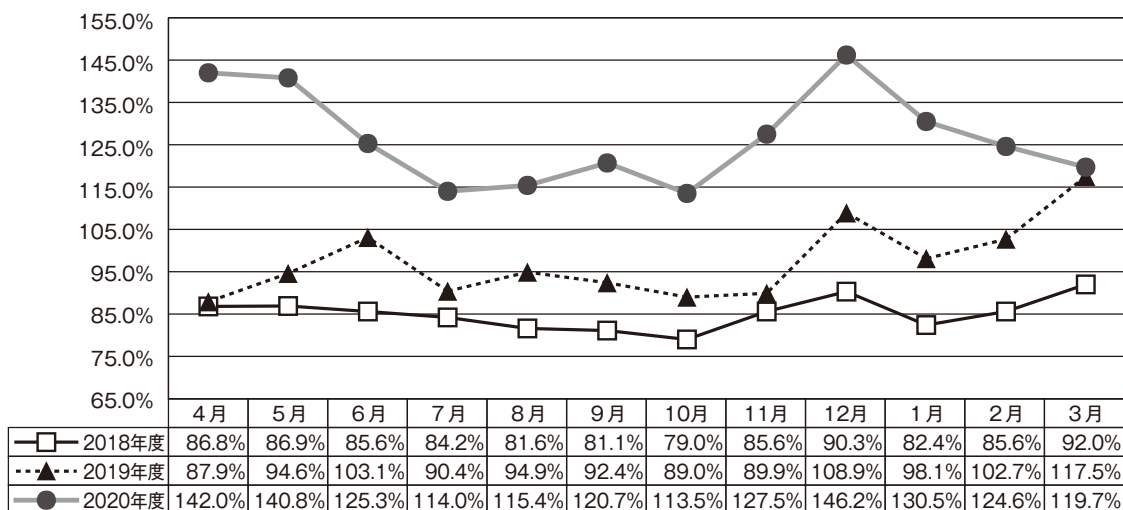
■地域医療支援病院 紹介率と逆紹介率の推移

	項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2018年度	紹介率	69.2%	71.2%	68.8%	67.7%	66.6%	65.1%	70.0%	67.6%	65.7%	65.0%	68.1%	67.7%	67.8%
	逆紹介率	86.8%	86.9%	85.6%	84.2%	81.6%	81.1%	79.0%	85.6%	90.3%	82.4%	85.6%	92.0%	85.1%
2019年度	紹介率	72.3%	70.5%	70.1%	73.3%	68.9%	68.5%	72.6%	69.6%	72.0%	69.1%	69.8%	70.5%	70.7%
	逆紹介率	87.9%	94.6%	103.1%	90.4%	94.9%	92.4%	89.0%	89.9%	108.9%	98.1%	102.7%	117.5%	97.0%
2020年度	紹介率	77.7%	75.5%	82.1%	77.9%	70.4%	77.3%	75.4%	72.9%	67.1%	75.7%	65.5%	66.3%	73.3%
	逆紹介率	142.0%	140.8%	125.3%	114.0%	115.4%	120.7%	113.5%	127.5%	146.2%	130.5%	124.6%	119.7%	125.2%

地域医療支援病院紹介率の推移



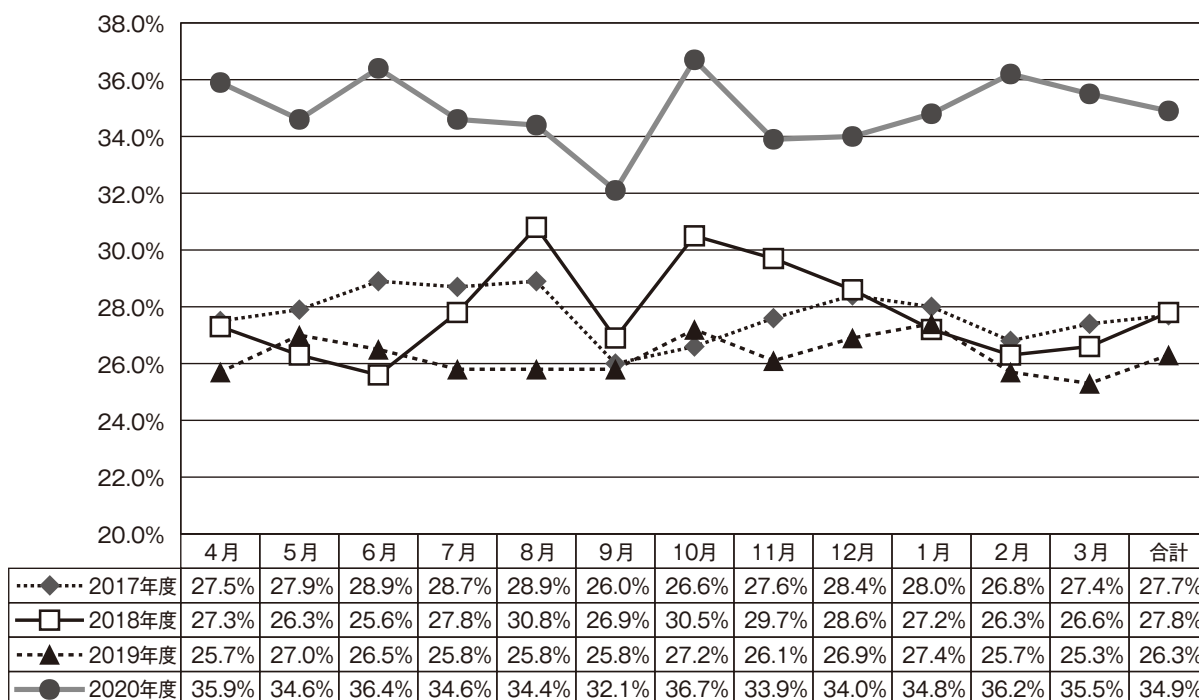
地域医療支援病院 逆紹介率の推移



紹介率 (地域医療支援病院) (65%以上) = $\frac{\text{紹介患者}}{\text{初診患者} - [\text{救急搬送患者(初診)} + \text{休日夜間救急外来患者(初診)}]}$

逆紹介率 (40%以上) = $\frac{\text{逆紹介患者}}{\text{初診患者} - [\text{救急搬送患者(初診)} + \text{休日夜間救急外来患者(初診)}]}$

■重症度、医療・看護必要度の基準を満たす患者割合の推移



2018年4月より、評価項目の変更あり、重症度、医療・看護必要度Ⅱ(25%以上必要)で表記

【2020年度】

月 病棟	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
8南	38.4%	36.2%	34.8%	29.3%	33.3%	28.0%	34.8%	35.1%	33.0%	31.2%	31.0%	30.5%	32.9%
9東	28.4%	25.8%	22.4%	19.6%	18.8%	24.9%	25.2%	25.9%	20.7%	21.1%	25.0%	18.0%	22.8%
9西	43.0%	38.7%	44.2%	50.2%	44.0%	43.5%	47.6%	41.8%	39.3%	36.3%	41.2%	41.0%	42.4%
10東	28.9%	26.0%	37.1%	32.7%	32.0%	24.1%	35.7%	27.3%	33.4%	31.7%	35.0%	32.4%	31.4%
10西	40.1%	39.6%	44.8%	44.2%	42.5%	34.5%	36.2%	32.3%	30.6%	36.3%	40.5%	39.5%	38.4%
11東	26.5%	28.1%	29.0%	23.0%	20.9%	23.9%	29.6%	20.9%	19.9%	21.8%	29.4%	29.9%	25.3%
11西	34.6%	34.7%	40.7%	40.9%	38.3%	36.3%	38.8%	36.0%	39.2%	42.7%	38.6%	37.4%	38.2%
12東	46.2%	37.2%	37.8%	38.4%	39.2%	33.8%	47.0%	37.2%	39.5%	45.2%	42.7%	44.8%	40.8%
12西	40.6%	40.0%	36.2%	34.9%	40.0%	39.9%	40.0%	44.9%	46.1%	41.7%	39.3%	38.3%	40.1%
13東	17.7%	29.1%	33.6%	32.3%	48.2%	50.8%	51.0%	59.4%	59.9%	65.5%	78.6%	68.8%	44.6%
13西	31.7%	77.3%		33.7%	27.2%	25.6%	25.7%	29.1%	27.6%	27.0%	26.8%	35.5%	28.9%
計	35.9%	34.6%	36.4%	34.6%	34.4%	32.1%	36.7%	33.9%	34.0%	34.8%	36.2%	35.5%	34.9%



病 歷 統 計



■退院患者数及び平均在院日数

【2020年度】

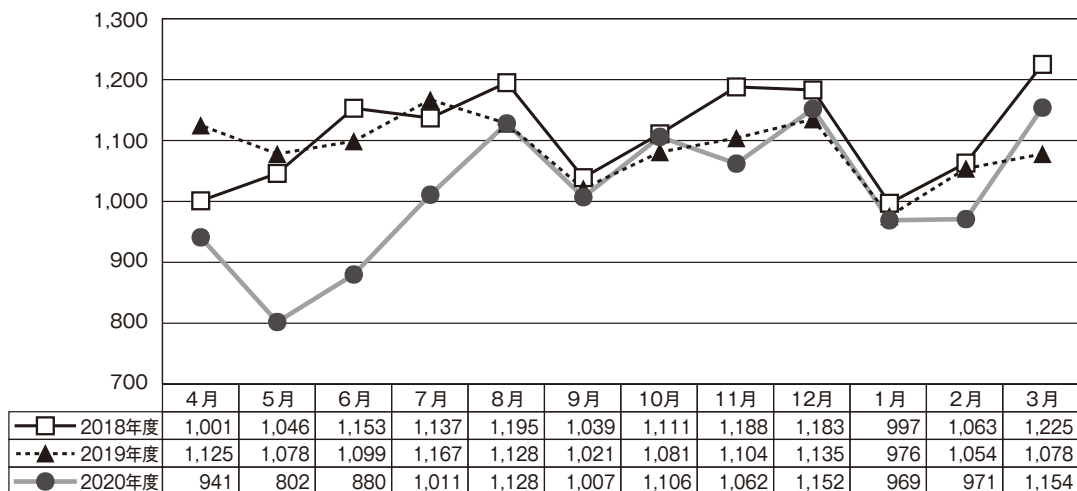
大分類表		退院患者数(人)			延在院日数(日)			退院患者平均在院日数(日)			
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	
1	感染症及び寄生虫症	A00-B99	130	129	259	1,721	1,442	3,163	13.24	11.18	12.21
2	新生物	C00-D48	1,109	1,302	2,411	14,235	15,607	29,842	12.84	11.99	12.38
3	血液及び造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	D50-89	28	29	57	450	375	825	16.07	12.93	14.47
4	内分泌、栄養及び代謝疾患	E00-90	191	186	377	2,329	2,362	4,691	12.19	12.70	12.44
5	精神および行動の障害	F00-90	4	10	14	40	200	240	10.00	20.00	17.14
6	神経系の疾患	G00-99	130	117	247	1,443	1,176	2,619	11.10	10.05	10.60
7	眼および付属器の疾患	H00-59	398	423	821	2,122	1,727	3,849	5.33	4.08	4.69
8	耳および乳様突起の疾患	H60-95	32	27	59	173	123	296	5.41	4.56	5.02
9	循環器系の疾患	I00-99	787	561	1,348	12,114	9,638	21,752	15.39	17.18	16.14
10	呼吸器系の疾患	J00-99	385	218	603	5,763	3,349	9,112	14.97	15.36	15.11
11	消化器系の疾患	K00-93	1,101	823	1,924	7,711	5,804	13,515	7.00	7.05	7.02
12	皮膚および皮下組織の疾患	L00-99	61	69	130	955	1,108	2,063	15.66	16.06	15.87
13	筋骨格系および結合組織の疾患	M00-99	554	778	1,332	10,044	17,217	27,261	18.13	22.13	20.47
14	尿路性器系の疾患	N00-99	255	353	608	3,691	3,306	6,997	14.47	9.37	11.51
15	妊娠、分娩および産じょく(褥)	O00-99		624	624		4,678	4,678		7.50	7.50
16	周産期に発生した病態	P00-96	113	98	211	928	900	1,828	8.21	9.18	8.66
17	先天奇形、変形および染色体異常	Q00-99	33	25	58	217	161	378	6.58	6.44	6.52
18	症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	R00-99	50	44	94	448	280	728	8.96	6.36	7.74
19	損傷、中毒およびその他の外因の影響	S00-T98	364	384	748	5,936	8,238	14,174	16.31	21.45	18.95
20	健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	Z00-99	1	0	1	13	0	13	13.00	0.00	13.00
21	特殊目的コード	U00-U89	153	104	257	1,588	1,048	2,636	10.38	10.08	10.26
合 計			5,879	6,304	12,183	71,921	78,739	150,660	12.23	12.49	12.37

【2020年度】

診療科	退院患者数(人)			延在院日数(日)			退院患者平均在院日数(日)		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
整形外科	789	1,049	1,838	13,709	23,487	37,196	17.38	22.39	20.24
形成外科	77	85	162	1,246	1,274	2,520	16.18	14.99	15.56
外科	724	452	1,176	9,647	5,654	15,301	13.32	12.51	13.01
乳腺内分泌外科	8	281	289	197	3,160	3,357	24.63	11.25	11.62
心臓血管外科	102	66	168	2,084	1,359	3,443	20.43	20.59	20.49
脳神経外科	227	187	414	5,901	4,821	10,722	26.00	25.78	25.90
内科	809	610	1,419	12,960	10,195	23,155	16.02	16.71	16.32
消化器内科	1,226	942	2,168	8,888	7,123	16,011	7.25	7.56	7.39
循環器内科	530	380	910	5,501	4,512	10,013	10.38	11.87	11.00
皮膚科	66	72	138	998	991	1,989	15.12	13.76	14.41
泌尿器科	316	124	440	2,919	1,481	4,400	9.24	11.94	10.00
産婦人科		1,143	1,143		8,278	8,278		7.24	7.24
眼科	415	441	856	2,240	1,964	4,204	5.40	4.45	4.91
耳鼻いんこう科	128	84	212	1,014	656	1,670	7.92	7.81	7.88
小児科	287	252	539	1,944	1,754	3,698	6.77	6.96	6.86
脳神経内科	166	122	288	2,630	1,926	4,556	15.84	15.79	15.82
歯科・歯科口腔外科	9	14	23	43	104	147	4.78	7.43	6.39
合 計	5,879	6,304	12,183	71,921	78,739	150,660	12.23	12.49	12.37

■退院患者数の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	死亡	剖検
2016年度	1,145	962	1,149	1,181	1,126	1,038	1,057	1,073	1,157	948	1,071	1,243	13,150	245	8
2017年度	1,062	1,096	1,166	1,098	1,148	1,108	1,074	1,072	1,195	943	1,079	1,216	13,257	252	14
2018年度	1,001	1,046	1,153	1,137	1,195	1,039	1,111	1,188	1,183	997	1,063	1,225	13,338	264	17
2019年度	1,125	1,078	1,099	1,167	1,128	1,021	1,081	1,104	1,135	976	1,054	1,078	13,046	196	9
2020年度	941	802	880	1,011	1,128	1,007	1,106	1,062	1,152	969	971	1,154	12,183	230	11



■診療科別 退院患者数・手術件数・合併症数 【2020年度】

診療科	退院患者数	手術件数(*)	ESD件数	カテ治療件数	合併症		合併症内訳					
					合併症総数	発生率	感染	出血	縫合不全	穿刺・裂傷	機械的合併症	その他
整形外科	1,838	1,796			37	2.1%	17	1	11	1	4	3
形成外科	162	164			2	1.2%	2					
外科	1,176	666		4	17	2.5%	5	3	1	3		5
乳腺内分泌外科	289	128			2	1.6%		1	1			
心血管外科	168	148		3	4	2.6%	1	1	1	1		
脳神経外科	414	117		30	0	0.0%						
内科	1,419			24	0	0.0%						
消化器内科	2,168	※7(2)	186	4	3	1.5%		2		1		
循環器内科	910	3		394	5	1.3%		2		1		2
皮膚科	138	5			0	0.0%						
泌尿器科	440	200			3	1.5%	1	1		1		
産婦人科	1,143	376		1	5	1.3%		2		3		
眼科	856	805			5	0.6%				5		
耳鼻いんこう科	212	142			4	2.8%		4				
小児科	539											
脳神経内科	288			6	0	0.0%						
歯科・ 歯科口腔外科	23	11			0	0.0%						
合計	12,183	※4,568(2)	186	466	87	1.7%	26	17	14	16	4	10

*手術件数は手術室で行った手術の件数 ※手術室で行ったESDは()をもって再掲とする

■悪性新生物部位別 術後合併症件数 【2020年度】

	感染	出血	縫合不全	穿刺・裂傷	その他	計
胃					1	1
大腸(含直腸)		1	1	1	2	5
肺	1					1
胆道	1	1			1	3
乳房			1			1
子宮頸部		1				1
膀胱		1				1

※ESDは含まない

■死亡原因別死亡数 【2020年度】

	整形外科	形成外科	外科	乳腺内分泌外科	心臓血管外科	脳神経外科	内科	消化器内科	循環器内科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻いんこう科	小児科	脳神経内科	歯科・ 歯科口腔外科	合計
診療科別死亡数	2	1	32	11	3	22	83	30	27	2	7	5		1		4		230
麻酔による死亡数(再掲)																		0
術後1ヶ月以内の死亡数(再掲)			3		2	5	2	1	3	1	1							18
産婦出生による死亡数(再掲)																		0
生後28日以内の新生児死亡数(再掲)																		0
入院48時間以内死亡数(再掲)			4	1		7	7	4	8		2	2		1		1		37

■手術件数・麻酔件数 【2020年度】

	整形外科	形成外科	外科	乳腺内分泌外科	心臓血管外科	脳神経外科	内科	消化器内科	循環器内科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻いんこう科	小児科	脳神経内科	歯科・ 歯科口腔外科	合計
手術件数	1,796	164	666	128	148	117	0	7	3	5	200	376	805	142			11	4,568
麻酔件数	1,796	161	656	128	147	117	0	4	3	5	195	374	805	141			11	4,543
全身麻酔件数(再掲)	1,281	79	580	109	123	70	0	4	2	0	80	166	15	136			10	2,655

■分娩件数・新生児数 【2020年度】

分娩件数	465
帝王切開(再掲)	(80)
新生児数	458
院外出生(再掲)	(0)

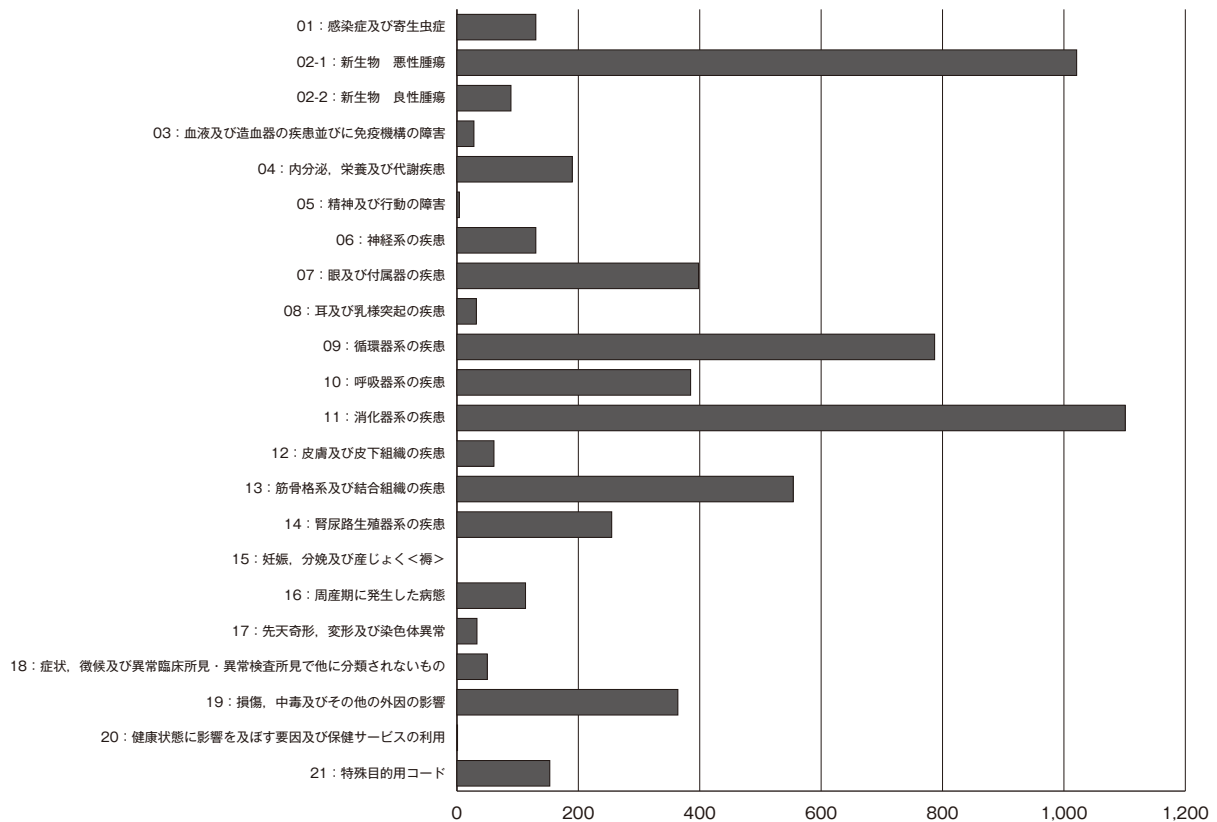
注)分娩件数で帝王切開の数、および新生児数欄で院外出生の数は()をもって再掲とする。

■退院患者診療科別転帰統計 【2020年度】

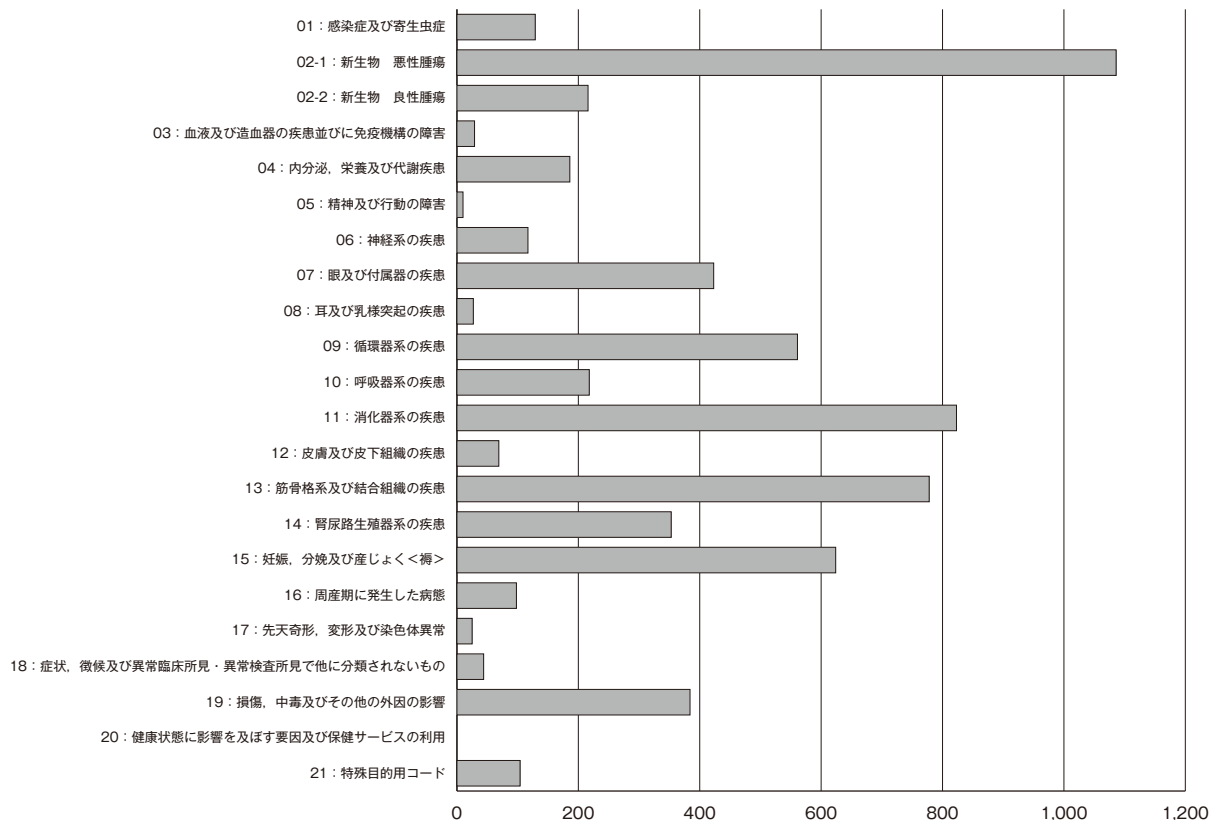
	整形外科	形成外科	外科	乳腺内分泌外科	心臓血管外科	脳神経外科	内科	消化器内科	循環器内科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻いんこう科	小児科	脳神経内科	歯科・ 歯科口腔外科	合計
治癒	1						34	2	1		4						1	43
軽快	1,651	147	1,047	254	111	248	948	1,859	717	123	350	600	838	203	447	231	22	9,796
不変	9	1	40	19	3	2	31	18	8	1	5	25	3	3	3	3		174
増悪							1											1
死亡	2	1	32	11	3	22	83	30	27	2	7	5		1		4		230
(剖検)	(1)						(5)	(1)	(4)									(11)
転院	161	11	42	5	13	118	170	34	52	6	12	12			8	42		686
検了	12	1	15		37	24	146	220	103	5	62	38	15	5	81	8		772
自己退院	2	1			1		6	5	2	1		2						20
分娩												461						461
合計	1,838	162	1,176	289	168	414	1,419	2,168	910	138	440	1,143	856	212	539	288	23	12,183

注)死亡欄で剖検数は()をもって再掲とする。

■疾病(大分類)別・性別・退院患者数(男) 【2020年度】



■疾病(大分類)別・性別・退院患者数(女) 【2020年度】



■疾病別・年齢階層別・退院患者数(男) 【2020年度】

2020年度 (男)		0~	1~9	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	合計	在院日数
I	感染症及び寄生虫症											130	1,721
A00-A09	腸管感染症	1	10	6	3	3	2	4	5	5	6	45	626
A15-A19	結核						1			3	3	7	83
A20-A28	人畜共通細菌性疾患												
A30-A49	その他の細菌性疾患	1	2	1	1		2	1	7	9	15	39	612
A50-A64	主として性的伝播様式をとる感染症	1										1	8
A65-A69	その他のスピロヘータ疾患												
A70-A74	クラミジアによるその他の疾患												
A75-A79	リケッチア症												
A80-A89	中枢神経系のウイルス感染症												
A90-A99	節足動物媒介ウイルス熱及びウイルス性出血熱												
B00-B09	皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症		1		1	1	3	1		7	6	20	212
B15-B19	ウイルス性肝炎				3	1	1	2	2	1		10	92
B20-B24	ヒト免疫不全ウイルス[HIV]病						1					1	12
B25-B34	その他のウイルス疾患		1	2					1			4	25
B35-B49	真菌症										2	2	48
B50-B64	原虫疾患												
B65-B83	ぜんぐ虫>虫症					1						1	3
B85-B89	シラミ症、ダニ症及びその他の動物寄生症												
B90-B94	感染症及び寄生虫症の続発・後遺症												
B95-B98	細菌、ウイルス及びその他の病原体												
B99	その他の感染症												
II -1	新生物(腫瘍)悪性											1,021	13,495
C00-C14	口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物<腫瘍>									5		5	84
C15	食道の悪性新生物							10	13	19	9	51	920
C16	胃の悪性新生物						5	13	26	56	30	130	1,727
C17	小腸の悪性新生物							1	2		2	5	62
C18	結腸の悪性新生物					2	6	34	61	59	21	183	1,782
C19-C20	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物					2	6	12	36	45	8	109	1,399
C21	肛門及び肛門管の悪性新生物									1		1	19
C22	肝及び肝内胆管の悪性新生物						2	3	14	35	7	61	777
C23-C24	胆のう及びその他の胆道の悪性新生物							3	4	8	7	22	381
C25	膵の悪性新生物					2	3	11	12	10		38	557
C26	その他の部位不明確の消化器の悪性新生物<腫瘍>						1					1	5
C30-C39	呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物<腫瘍>						7	13	23	83	43	169	2,645
C40-C41	骨及び関節軟骨の悪性新生物<腫瘍>												
C43-C44	皮膚の悪性新生物<腫瘍>									3	3	6	105
C45-C49	中皮及び軟部組織の悪性新生物<腫瘍>					1	1	13	1			16	266
C50	乳房の悪性新生物<腫瘍>												
C51-C58	女性生殖器の悪性新生物<腫瘍>												
C60-C63	男性生殖器の悪性新生物<腫瘍>							4	13	47	12	76	383
C64-C68	腎尿路の悪性新生物<腫瘍>						1	8	15	42	18	84	998
C69-C72	眼、脳及び中枢神経系のその他の部位の悪性新生物<腫瘍>					1	1		2	1	1	6	228
C73-C75	甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物<腫瘍>									2		2	155
C76-C80	部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物<腫瘍>					1		5	12	12	6	36	528
C81-C96	原発と記載された又は推定されたリンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物<腫瘍>								12	6		18	459
C97	独立した(原発性)多部位の悪性新生物<腫瘍>												
D00-D09	上皮内新生物<腫瘍>						1				1	2	15
II -2	新生物(腫瘍)良性											89	754
D10-D36	良性新生物<腫瘍>				3	3	12	13	22	14	8	75	571
D37-D48	性状不詳又は不明の新生物<腫瘍>		1			1	2	1	3	2	4	14	183
III	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害											28	450
D50-D53	栄養性貧血					1			2	3	3	9	137
D55-D59	溶血性貧血										1	1	12
D60-D64	無形成性貧血及びその他の貧血				1				3		2	6	60
D65-D69	凝固障害、紫斑病及びその他の出血性病態		1					1		5	1	8	153
D70-D77	血液及び造血器のその他の疾患		1						2		1	4	88
D80-D89	免疫機構の障害												
IV	内分泌、栄養及び代謝疾患											190	2,315
E00-E07	甲状腺障害							1	1	1	1	4	41
E10-E14	糖尿病				1	2	13	22	17	32	12	99	1,668
E15-E16	その他のグルコース調節及び膵内分泌障害		2						1	2	1	6	40
E20-E35	その他の内分泌腺障害		18	12	1		8	8	6	2	2	57	267
E40-E46	栄養失調(症)												
E50-E64	その他の栄養欠乏症												

2020年度 (男)		0~	1~9	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	合計	在院日数
E65-E68	肥満(症)及びその他の過栄養<過剰摂食>												
E70-E90	代謝障害	1	3	1			1	1	4	4	9	24	299
V 精神及び行動の障害												4	40
F00-F09	症状性を含む器質性精神障害									1		1	33
F10-F19	精神作用物質使用による精神及び行動の障害						1		2			3	7
F20-F29	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害												
F30-F39	気分[感情]障害												
F40-F48	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害												
F50-F59	生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群												
F60-F69	成人の人格及び行動の障害												
F70-F79	知的障害<精神遅滞>												
F80-F89	心理的発達障害												
F90-F98	小児<児童>期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害												
F99	詳細不明の精神障害												
VI 神経系の疾患												130	1,443
G00-G09	中枢神経系の炎症性疾患		2		1	2	1		1			7	190
G10-G14	主に中枢神経系を障害する系統萎縮症					2		1	1	1	1	6	22
G20-G26	錐体外路障害及び異常運動							1	2	5	2	10	181
G30-G32	神経系のその他の変性疾患							1		1	1	3	37
G35-G37	中枢神経系の脱髄疾患												
G40-G47	挿間性及び発作性障害		1	2		1	8	7	10	11	3	43	450
G50-G59	神経、神経根及び神経そう<叢>の障害			1		1	3	7	15	12	4	43	261
G60-G64	多発(性)ニューロパチ<シ>-及びその他の末梢神経系の障害				2		1			1		4	34
G70-G73	神経筋接合部及び筋の疾患				1				1	2		4	79
G80-G83	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群			1		1						2	34
G90-G99	神経系のその他の障害	1					1		2	2	2	8	155
VII 眼及び付属器の疾患												398	2,122
H00-H06	眼瞼、涙器及び眼窩の障害							1		2	2	5	18
H10-H13	結膜の障害									1		1	2
H15-H22	強膜、角膜、虹彩及び毛様体の障害					1	1	1	2	4		9	145
H25-H28	水晶体の障害					3	9	22	44	108	56	242	637
H30-H36	脈絡膜及び網膜の障害			1	2	1	2	19	11	9	3	48	562
H40-H42	緑内障					4	4	12	16	14	8	58	500
H43-H45	硝子体及び眼球の障害					5	1	8	3	10	4	31	227
H46-H48	視神経及び視(覚)路の障害							1		1		2	15
H49-H52	眼筋、眼球運動、調節及び屈折の障害									1		1	10
H53-H54	視機能障害及び盲<失明>									1		1	6
H55-H59	眼及び付属器のその他の障害												
VIII 耳及び乳様突起の疾患												32	173
H60-H62	外耳疾患				1							1	2
H65-H75	中耳及び乳様突起の疾患	1	5									6	22
H80-H83	内耳疾患					1	2	2	1	4	3	13	46
H90-H95	耳のその他の障害				1	1	4	1	2	1	2	12	103
IX 循環器系の疾患												787	12,114
I00-I02	急性リウマチ熱												
I05-I09	慢性リウマチ性心疾患								1	2	1	4	101
I10-I15	高血圧性疾患									1	1	2	38
I20-I25	虚血性心疾患					1	16	30	38	54	32	171	1,713
I26-I28	肺性心疾患及び肺循環疾患						1		2	3		6	72
I30-I52	その他の型の心疾患				2	4	8	22	67	90	74	267	3,409
I60-I69	脳血管疾患					4	14	28	43	76	56	221	5,205
I70-I79	動脈、細動脈及び毛細血管の疾患				1		6	14	10	40	17	88	1,253
I80-I89	静脈、リンパ管及びリンパ節の疾患、他に分類されないもの						1	3	9	12	1	26	306
I95-I99	循環器系のその他及び詳細不明の障害			1						1		2	17
X 呼吸器系の疾患												385	5,763
J00-J06	急性上気道感染症	3	7	1	1	2	2	1		2	1	20	133
J09-J18	インフルエンザ及び肺炎		5		2	1	4	7	10	38	63	130	2,055
J20-J22	その他の急性下気道感染症	3	7									10	44
J30-J39	上気道のその他の疾患		5	4	9	8	11	11	5	3	1	57	430
J40-J47	慢性下気道疾患	3	7	1	1					3	3	18	145
J60-J70	外的因子による肺疾患				1	1			5	21	45	73	1,546
J80-J84	主として間質を障害するその他の呼吸器疾患							1	8	10	4	23	557
J85-J86	下気道の化膿性及びえ<壊>死性病態					1		1		6		8	146
J90-J94	胸膜のその他の疾患			4	1	4	3		2	2	16	32	410
J95-J99	呼吸器系のその他の疾患			1		1		1	1	8	2	14	297
XI 消化器系の疾患												1,101	7,711
K00-K14	口腔、唾液腺及び顎の疾患		2		1	1	1	1	1	2	1	10	58
K20-K31	食道、胃及び十二指腸の疾患				2		3	4	8	10	7	34	348

2020年度 (男)		0~	1~9	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	合計	在院日数
K35-K38	虫垂の疾患		1	2	8	7	8	1	4	4	1	36	296
K40-K46	ヘルニア				1	1		7	12	33	11	65	427
K50-K52	非感染性腸炎及び非感染性大腸炎			1		3	1	2	2	2	2	13	204
K55	腸の血行障害					1	2			2	5	10	105
K56	腸閉塞	2	1		1	2	1	1	8	13	11	40	479
K57	腸の憩室性疾患					1	4	8	6	11	9	39	400
K58-K59	その他の腸の機能障害			1					1	3	2	7	54
K60-K62	肛門及び直腸の疾患				1		4	3	5	3		16	205
K63	結腸のその他の疾患					4	23	53	135	218	105	538	1,334
K64	痔核					1	1			1	1	4	15
K65-K67	腹膜の疾患					1	2		1	4		8	261
K70-K77	肝疾患				1	2	6	14	9	9	4	45	786
K80-K87	胆のう<嚢>, 胆管及び膵の障害				7	4	12	26	32	51	55	187	2,254
K90-K93	消化器系のその他の疾患			1	1	3	4	7	16	17		49	485
XII 皮膚及び皮下組織の疾患												61	955
L00-L08	皮膚及び皮下組織の感染症	2			1	2	3	4	3	11	8	34	525
L10-L14	水疱症									1	3	4	81
L20-L30	皮膚炎及び湿疹		1		2	1	1	1	1	1		8	78
L40-L45	丘疹落せつ<屑><りんせつ<鱗屑>>性障害												
L50-L54	じんま<蕁麻疹>疹及び紅斑		1										2
L55-L59	皮膚及び皮下組織の放射線(非電離及び電離)に関連する障害									1		1	4
L60-L75	皮膚付属器の障害							2		2		4	20
L80-L99	皮膚及び皮下組織のその他の障害					4	1	1	2	1		9	245
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患												554	10,044
M00-M03	感染性関節障害			1			4	1	1		1	8	340
M05-M14	炎症性多発性関節障害		1				1	1		2	1	6	136
M15-M19	関節症			2	3	3	4	15	23	31	7	88	2,057
M20-M25	その他の関節障害		1	10	16	6	9	12	5	5		64	807
M30-M36	全身性結合組織障害	4	6					2	5	2	1	20	378
M40-M43	変形性脊柱障害						3	3	12	12	4	34	699
M45-M49	脊椎障害					1	11	30	44	51	17	154	3,094
M50-M54	その他の脊柱障害				8	8	11	9	4	2	1	43	682
M60-M63	筋障害			1				1	1			3	11
M65-M68	滑膜及び腱の障害			2	4	3	5	14	8	4		40	200
M70-M79	その他の軟部組織障害				1	2	9	10	9	11	1	43	722
M80-M85	骨の密度及び構造の障害			5	1	1		1	1		1	10	110
M86-M90	その他の骨障害			1			1	5	7	4	1	19	577
M91-M94	軟骨障害			14	2		3	1				20	183
M95-M99	筋骨格系及び結合組織のその他の障害									2		2	48
XIV 腎尿路生殖系系の疾患												255	3,691
N00-N08	糸球体疾患			4		2	3	2	3	6	1	21	383
N10-N16	腎尿細管間質性疾患			1	3	1	4	5	5	19	18	56	631
N17-N19	腎不全				1	1	3	13	19	20	23	80	1,749
N20-N23	尿路結石症						3	2	6	10	5	26	141
N25-N29	腎及び尿管のその他の障害									2		2	51
N30-N39	尿路系のその他の障害	2				1	3	1	5	12	8	32	398
N40-N51	男性生殖器の疾患		2	1			3	2	7	14	7	36	330
N60-N64	乳房の障害				1							1	4
N70-N77	女性骨盤臓器の炎症性疾患												
N80-N98	女性生殖器の非炎症性障害												
N99	腎尿路生殖系系のその他の障害							1				1	4
XV 妊娠、分娩及び産じょく<褥>													
O00-O08	流産に終わった妊娠												
O10-O16	妊娠、分娩及び産じょく<褥>における浮腫、タンパク<蛋白>尿及び高血圧性障害												
O20-O29	主として妊娠に関連するその他の母体障害												
O30-O48	胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア並びに予想される分娩の諸問題												
O60-O75	分娩の合併症												
O80-O84	分娩												
O85-O92	主として産じょく<褥>に関連する合併症												
O94-O99	その他の産科的病態、他に分類されないもの												
XVI 周産期に発生した病態												113	928
P00-P04	母体側要因並びに妊娠及び分娩の合併症により影響を受けた胎児及び新生児	12										12	90
P05-P08	妊娠期間及び胎児発育に関連する障害	17										17	253
P10-P15	出産外傷												
P20-P29	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害	37										37	280

2020年度 (男)		0~	1~9	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	合計	在院日数
P35-P39	周産期に特異的な感染症	3										3	24
P50-P61	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害	19										19	80
P70-P74	胎児及び新生児に特異的な一過性の内分泌障害及び代謝障害	20										20	159
P75-P78	胎児及び新生児の消化器系障害												
P80-P83	胎児及び新生児の外皮及び体温調節に関連する病態												
P90-P96	周産期に発生したその他の障害	5										5	42
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常												33	217
Q00-Q07	神経系の先天奇形	1			1							2	20
Q10-Q18	眼、耳、顔面及び顔部の先天奇形		2								1	3	12
Q20-Q28	循環器系の先天奇形	1		1	1	1	1	2				7	57
Q30-Q34	呼吸器系の先天奇形												
Q35-Q37	唇裂及び口蓋裂	2										2	13
Q38-Q45	消化器系のその他の先天奇形												
Q50-Q56	生殖器の先天奇形	1				1						2	9
Q60-Q64	腎尿路系の先天奇形		1		1		1		1	1		5	28
Q65-Q79	筋骨格系の先天奇形及び変形		6	1					1			8	49
Q80-Q89	その他の先天奇形		2	1				1				4	29
Q90-Q99	染色体異常、他に分類されないもの												
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの												50	448
R00-R09	循環器系及び呼吸器系に関する症状及び徴候				1		1	1	1	1	1	6	136
R10-R19	消化器系及び腹部に関する症状及び徴候		4	1					1		1	7	54
R20-R23	皮膚及び皮下組織に関する症状及び徴候												
R25-R29	神経系及び筋骨格系に関する症状及び徴候										1	1	5
R30-R39	腎尿路系に関する症状及び徴候									1	1	2	14
R40-R46	認識、知覚、情緒状態及び行動に関する症状及び徴候		1						1	2		4	17
R47-R49	言語及び音声に関する症状及び徴候							1				1	8
R50-R69	全身症状及び徴候	3	10	2			1	2	3	3	5	29	214
R70-R79	血液検査の異常所見、診断名の記載がないもの												
R80-R82	尿検査の異常所見、診断名の記載がないもの												
R83-R89	その他の体液、検体<材料>及び組織の検査の異常所見、診断名の記載がないもの												
R90-R94	画像診断及び機能検査における異常所見、診断名の記載がないもの												
R95-R99	診断名不明確及び原因不明の死亡												
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響												364	5,936
S00-S09	頭部損傷		1	2		2	2	4	4	17	20	52	851
S10-S19	頸部損傷			1					1	2	1	5	105
S20-S29	胸部<郭>損傷						1			1	4	6	126
S30-S39	腹部、下背部、腰椎及び骨盤部の損傷				1			1		6	4	12	249
S40-S49	肩及び上腕の損傷		9	7	4		6	11	15	9		61	891
S50-S59	肘及び前腕の損傷		2	8	2	1	2	2	6			23	134
S60-S69	手首及び手の損傷		2	3	4	1	5	3				18	67
S70-S79	股関節部及び大腿の損傷					2		2	2	3	7	16	560
S80-S89	膝及び下腿の損傷			21	15	10	15	6	9	5	2	83	1,861
S90-S99	足首及び足の損傷			1	1			1				3	19
T00-T07	多部位の損傷			1				1				2	41
T08-T14	部位不明の体幹もしくは(四)肢の損傷又は部位不明の損傷												
T15-T19	自然開口部からの異物侵入の作用						1					1	6
T20-T32	熱傷及び腐食												
T33-T35	凍傷												
T36-T50	薬物、薬剤及び生物学的製剤による中毒									2		2	38
T51-T65	薬用を主とししない物質の毒作用				1							1	2
T66-T78	外因のその他及び詳細不明の作用		1	1	1				1		1	5	35
T79	外傷の早期合併症												
T80-T88	外科的及び内科的ケアの合併症、他に分類されないもの					2	4	8	25	17	17	73	946
T90-T98	損傷、中毒及びその他の外因による影響の続発・後遺症									1		1	5
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健												1	13
Z00-Z13	検査及び診査のための保健サービスの利用者												
Z20-Z29	伝染病に関連する健康障害をきたす恐れのある者												
Z30-Z39	生殖に関連する環境下での保健サービスの利用者												
Z40-Z54	特定の処置及び保健ケアのための保健サービスの利用者												
Z55-Z65	社会経済的環境及び社会心理的環境に関連する健康障害をきたす恐れのある者												
Z70-Z76	その他の環境下での保健サービスの利用者												
Z80-Z99	家族歴、既往歴及び健康状態に影響をおよぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者							1				1	13
XXII 特殊目的コード												153	1,588
U00-U49	原因不明の新たな疾患の暫定分類	2	1		5	10	20	21	29	40	25	153	1,588
合計		148	137	136	144	161	401	699	1,148	1,812	1,093	5,879	71,921

■疾病別・年齢階層別・退院患者数(女)【2020年度】

2020年度(女)		0~	1~9	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	合計	在院日数
I	感染症及び寄生虫症											129	1,442
A00-A09	腸管感染症	2	10	2	2			1	1	3	8	29	195
A15-A19	結核								2	2	1	5	126
A20-A28	人畜共通細菌性疾患												
A30-A49	その他の細菌性疾患	1	1	1				2		12	12	29	579
A50-A64	主として性的伝播様式をとる感染症				1		1		1			3	12
A65-A69	その他のスピロヘータ疾患												
A70-A74	クラミジアによるその他の疾患												
A75-A79	リケッチア症												
A80-A89	中枢神経系のウイルス感染症							1				1	18
A90-A99	節足動物媒介ウイルス熱及びウイルス性出血熱												
B00-B09	皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症	2	4			2	3	2	3	7	10	33	256
B15-B19	ウイルス性肝炎				3		1	1	1	13	1	20	100
B20-B24	ヒト免疫不全ウイルス[HIV]病												
B25-B34	その他のウイルス疾患	1		1	1				1	1	1	6	110
B35-B49	真菌症								1		1	2	32
B50-B64	原虫疾患												
B65-B83	ぜんく蠕虫症												
B85-B89	シラミ症、ダニ症及びその他の動物寄生虫												
B90-B94	感染症及び寄生虫症の続発・後遺症								1			1	14
B95-B98	細菌、ウイルス及びその他の病原体												
B99	その他の感染症												
II-1	新生物(腫瘍)悪性											1,086	14,065
C00-C14	口唇、口腔及び咽喉頭の悪性新生物<腫瘍>												
C15	食道の悪性新生物								3	6	3	12	302
C16	胃の悪性新生物					1	2		8	26	24	61	707
C17	小腸の悪性新生物						1		4	2	1	8	93
C18	結腸の悪性新生物						5	17	28	42	41	133	1,154
C19-C20	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物			1	2	5	2	12	31	7	7	60	857
C21	肛門及び肛門管の悪性新生物										4	4	86
C22	肝及び肝内胆管の悪性新生物							1	4	10	20	35	485
C23-C24	胆のう及びその他の胆道の悪性新生物							1	8	9	2	20	416
C25	膵の悪性新生物							11	12	19	11	53	997
C26	その他の部位不明確の消化器の悪性新生物<腫瘍>												
C30-C39	呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物<腫瘍>						2	2	19	55	35	113	2,427
C40-C41	骨及び関節軟骨の悪性新生物<腫瘍>												
C43-C44	皮膚の悪性新生物<腫瘍>									2	3	5	31
C45-C49	中皮及び軟部組織の悪性新生物<腫瘍>			1					16	3	4	24	193
C50	乳房の悪性新生物<腫瘍>					8	45	53	64	55	23	248	2,809
C51-C58	女性生殖器の悪性新生物<腫瘍>			2	11	7	50	46	43	12	12	171	1,572
C60-C63	男性生殖器の悪性新生物<腫瘍>												
C64-C68	腎尿路の悪性新生物<腫瘍>					4		5	8	13		30	565
C69-C72	眼、脳及び中枢神経系のその他の部位の悪性新生物<腫瘍>								1		1	2	99
C73-C75	甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物<腫瘍>								1			1	70
C76-C80	部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物<腫瘍>							3	7	9	15	34	830
C81-C96	原発と記載された又は推定されたリンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物<腫瘍>							1	2	20	1	24	213
C97	独立した(原発性)多部位の悪性新生物<腫瘍>												
D00-D09	上皮内新生物<腫瘍>				5	21	13	6	1	2		48	159
II-2	新生物(腫瘍)良性											216	1,542
D10-D36	良性新生物<腫瘍>			3	26	24	37	29	20	18	20	177	1,131
D37-D48	性状不詳又は不明の新生物<腫瘍>		1	2	3	5	3	3	6	11	5	39	411
III	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害											29	375
D50-D53	栄養性貧血							2	6	2	3	13	57
D55-D59	溶血性貧血		1									1	2
D60-D64	無形成性貧血及びその他の貧血					1			1		3	5	45
D65-D69	凝固障害、紫斑病及びその他の出血性病態		1						3		1	5	32
D70-D77	血液及び造血器のその他の疾患								2			2	58
D80-D89	免疫機構の障害								1	1	1	3	181
IV	内分泌、栄養及び代謝疾患											186	2,362
E00-E07	甲状腺障害			1		1		1	1			4	67
E10-E14	糖尿病		1	1		3	4	9	13	27	15	73	1,228
E15-E16	その他のグルコース調節及び膵内分泌障害		3									3	8
E20-E35	その他の内分泌腺障害		19	5	3	5	9	11	1	4	2	59	275
E40-E46	栄養失調(症)												
E50-E64	その他の栄養欠乏症										1	1	43

2020年度 (女)		0~	1~9	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	合計	在院日数
E65-E68	肥満(症)及びその他の過栄養<過剰摂食>									1		1	69
E70-E90	代謝障害		2	1	3	1	2	2	6	14	14	45	672
V 精神及び行動の障害												10	200
F00-F09	症状性を含む器質性精神障害										2	2	24
F10-F19	精神作用物質使用による精神及び行動の障害				1					1		2	40
F20-F29	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害									1		1	38
F30-F39	気分[感情]障害												
F40-F48	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害			2							1	1	4
F50-F59	生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群					1						1	2
F60-F69	成人の人格及び行動の障害												
F70-F79	知的障害<精神遅滞>												
F80-F89	心理的発達障害												
F90-F98	小児<児童>期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害												
F99	詳細不明の精神障害												
VI 神経系の疾患												117	1,176
G00-G09	中枢神経系の炎症性疾患		1			1	1	1	1			5	70
G10-G14	主に中枢神経系を障害する系統萎縮症									1		1	12
G20-G26	錐体外路障害及び異常運動							1	1	1	1	4	90
G30-G32	神経系のその他の変性疾患										1	1	5
G35-G37	中枢神経系の脱髄疾患			2	1		2					5	48
G40-G47	挿間性及び発作性障害		5		2		5		2	7	6	27	199
G50-G59	神経、神経根及び神経そう<叢>の障害			1	2		5	13	6	13	8	48	227
G60-G64	多発(性)ニューロパチ<シ>-及びその他の末梢神経系の障害				4		1	3		1		9	94
G70-G73	神経筋接合部及び筋の疾患					1	1			1		3	207
G80-G83	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群				1					1	1	3	37
G90-G99	神経系のその他の障害	1			1	3			3	1	2	11	187
VII 眼及び付属器の疾患												423	1,727
H00-H06	眼瞼、涙器及び眼窩の障害				1			1	1	4	3	10	54
H10-H13	結膜の障害												
H15-H22	強膜、角膜、虹彩及び毛様体の障害					1		4		2		7	100
H25-H28	水晶体の障害				1	1	16	28	57	141	77	321	805
H30-H36	脈絡膜及び網膜の障害				2	1	1	10	2	9	4	29	303
H40-H42	緑内障			3			3	7	8	9	7	37	229
H43-H45	硝子体及び眼球の障害						1	2	5	6	4	18	136
H46-H48	視神経及び視(覚)路の障害												
H49-H52	眼筋、眼球運動、調節及び屈折の障害												
H53-H54	視機能障害及び盲<失明>												
H55-H59	眼及び付属器のその他の障害										1	1	100
VIII 耳及び乳様突起の疾患												27	123
H60-H62	外耳疾患												
H65-H75	中耳及び乳様突起の疾患		6									6	22
H80-H83	内耳疾患								5	4	5	14	48
H90-H95	耳のその他の障害		1		1	1	1	1		2		7	53
IX 循環器系の疾患												561	9,638
I00-I02	急性リウマチ熱												
I05-I09	慢性リウマチ性心疾患									4		4	137
I10-I15	高血圧性疾患					1		2		1	2	6	67
I20-I25	虚血性心疾患					1	5	7	14	20	22	69	635
I26-I28	肺性心疾患及び肺循環疾患						1	1	2	2	4	10	130
I30-I52	その他の型の心疾患					4	8	15	24	52	124	227	3,034
I60-I69	脳血管疾患					1	2	9	21	22	55	69	179
I70-I79	動脈、細動脈及び毛細血管の疾患		1		1	2		1	1	19	25	50	904
I80-I89	静脈、リンパ管及びリンパ節の疾患、他に分類されないもの				1	1		1	2	6	3	14	127
I95-I99	循環器系のその他及び詳細不明の障害			2								2	27
X 呼吸器系の疾患												218	3,349
J00-J06	急性上気道感染症	1	7		3	2		2				15	75
J09-J18	インフルエンザ及び肺炎	1	6		2	1	1		6	11	44	72	1,112
J20-J22	その他の急性下気道感染症	3	3		1							7	37
J30-J39	上気道のその他の疾患		2	2	5	3	6	5	5	6	2	36	308
J40-J47	慢性下気道疾患		7		1					1	1	10	72
J60-J70	外的因子による肺疾患				2		1		3	7	20	33	871
J80-J84	主として間質を障害するその他の呼吸器疾患								1	4	3	7	15
J85-J86	下気道の化膿性及び<え<壊>死性病態									1		1	30
J90-J94	胸膜のその他の疾患			1		1	1	1		2	6	12	249
J95-J99	呼吸器系のその他の疾患		1						2	4	10	17	322
XI 消化器系の疾患												823	5,804
K00-K14	口腔、唾液腺及び顎の疾患		1					1	2	6	1	11	78
K20-K31	食道、胃及び十二指腸の疾患					1	1	4	2	22	11	41	394

2020年度（女）		0~	1~9	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	合計	在院日数
K35-K38	虫垂の疾患		1	8	9	4	5	1	1	1	2	32	227
K40-K46	ヘルニア					1		2		4	14	21	233
K50-K52	非感染性腸炎及び非感染性大腸炎				1	1	2		5	1	1	11	157
K55	腸の血行障害						4	4	2	10	9	29	260
K56	腸閉塞							2	5	12	4	23	324
K57	腸の憩室性疾患					3	4	7	8	11	6	39	309
K58-K59	その他の腸の機能障害										2	2	18
K60-K62	肛門及び直腸の疾患						2	5	2	4	8	21	102
K63	結腸のその他の疾患					7	27	55	64	141	71	365	986
K64	痔核						1	1			3	5	15
K65-K67	腹膜の疾患								1	3	3	7	143
K70-K77	肝疾患						6	8	3	2	4	23	309
K80-K87	胆のう<嚢>, 胆管及び膵の障害					9	9	23	19	33	55	148	1,809
K90-K93	消化器系のその他の疾患					1	3	9	5	11	16	45	440
XII 皮膚及び皮下組織の疾患												69	1,108
L00-L08	皮膚及び皮下組織の感染症	1	5		1		3	3	4	5	16	38	539
L10-L14	水疱症								1		1	2	53
L20-L30	皮膚炎及び湿疹				1		1	1	1	2		6	42
L40-L45	丘疹落せつ<屑><りんせつ<鱗屑>>性障害												
L50-L54	じんま<蕁麻疹>疹及び紅斑		1			2					1	4	25
L55-L59	皮膚及び皮下組織の放射線(非電離及び電離)に関連する障害												
L60-L75	皮膚付属器の障害				1	1		1		1		4	25
L80-L99	皮膚及び皮下組織のその他の障害				1					3	11	15	424
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患												778	17,217
M00-M03	感染性関節障害							1		1		2	57
M05-M14	炎症性多発性関節障害			1				1	6	10	4	22	576
M15-M19	関節症				1	2	10	59	101	146	69	388	10,325
M20-M25	その他の関節障害		1	10	7	10	6	10	9	5	3	61	946
M30-M36	全身性結合組織障害	2	8	1	2	1	1	1	1	4	1	22	247
M40-M43	変形性脊柱障害						5	4	6	21	5	41	1,026
M45-M49	脊椎障害				1		2	6	21	30	23	83	1,933
M50-M54	その他の脊柱障害				3	3	8	5	2	4	3	28	466
M60-M63	筋障害		1			1						2	35
M65-M68	滑膜及び腱の障害			7	6	5	3	14	17	10	2	64	261
M70-M79	その他の軟部組織障害			1		1	8	7	9	4	4	34	715
M80-M85	骨の密度及び構造の障害									2	2	4	115
M86-M90	その他の骨障害			1			1	4	4	9	3	22	415
M91-M94	軟骨障害			1						1		2	11
M95-M99	筋骨格系及び結合組織のその他の障害								1		2	3	89
XIV 腎尿路生殖系系の疾患												353	3,306
N00-N08	糸球体疾患				1	2	2	2	4	1	3	15	157
N10-N16	腎尿細管間質性疾患		2	1	6	1	2	5	23	18	30	88	926
N17-N19	腎不全					1	1	3	3	8	18	34	592
N20-N23	尿路結石症							2	6	7	5	20	132
N25-N29	腎及び尿管のその他の障害									2		2	35
N30-N39	尿路系のその他の障害	3	1					1	3	12	29	49	701
N40-N51	男性生殖器の疾患												
N60-N64	乳房の障害						1					1	3
N70-N77	女性骨盤臓器の炎症性疾患			1	4	3	3	1	1	1	2	16	192
N80-N98	女性生殖器の非炎症性障害			1	17	33	42	22	7	5	1	128	568
N99	腎尿路生殖系系のその他の障害												
XV 妊娠、分娩及び産じょく<褥>												624	4,678
O00-O08	流産に終わった妊娠				18	50	21					89	269
O10-O16	妊娠、分娩及び産じょく<褥>における浮腫、タンパク<蛋白>尿及び高血圧性障害			1	1	11	4					17	154
O20-O29	主として妊娠に関連するその他の母体障害				5	21	2					28	301
O30-O48	胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア並びに予想される分娩の諸問題				13	71	8					92	675
O60-O75	分娩の合併症				10	26	7					43	656
O80-O84	分娩			2	91	225	31					349	2,586
O85-O92	主として産じょく<褥>に関連する合併症					4	1					5	31
O94-O99	その他の産科的病態、他に分類されないもの				1							1	6
XVI 周産期に発生した病態												98	900
P00-P04	母体側要因並びに妊娠及び分娩の合併症により影響を受けた胎児及び新生児	8										8	64
P05-P08	妊娠期間及び胎児発育に関連する障害		22									22	326
P10-P15	出産外傷		1									1	9
P20-P29	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害	35										35	331

2020年度（女）		0～	1～9	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	合計	在院日数
P35-P39	周産期に特異的な感染症												
P50-P61	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害	18										18	72
P70-P74	胎児及び新生児に特異的な一過性の内分泌障害及び代謝障害	11										11	82
P75-P78	胎児及び新生児の消化器系障害												
P80-P83	胎児及び新生児の外皮及び体温調節に関連する病態												
P90-P96	周産期に発生したその他の障害	3										3	16
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常												25	161
Q00-Q07	神経系の先天奇形												
Q10-Q18	眼、耳、顔面及び顔部の先天奇形		2	2	1		1					6	28
Q20-Q28	循環器系の先天奇形				2		1					3	54
Q30-Q34	呼吸器系の先天奇形												
Q35-Q37	唇裂及び口蓋裂												
Q38-Q45	消化器系のその他の先天奇形							1	1			2	24
Q50-Q56	生殖器の先天奇形			1	1	1				1		4	14
Q60-Q64	腎尿路系の先天奇形												
Q65-Q79	筋骨格系の先天奇形及び変形		5	3	1							9	33
Q80-Q89	その他の先天奇形							1				1	8
Q90-Q99	染色体異常、他に分類されないもの												
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの												44	280
R00-R09	循環器系及び呼吸器系に関する症状及び徴候									2	1	3	35
R10-R19	消化器系及び腹部に関する症状及び徴候		1			2	1	2	1	5	1	13	66
R20-R23	皮膚及び皮下組織に関する症状及び徴候												
R25-R29	神経系及び筋骨格系に関する症状及び徴候							1				1	8
R30-R39	腎尿路系に関する症状及び徴候												
R40-R46	認識、知覚、情緒状態及び行動に関する症状及び徴候												
R47-R49	言語及び音声に関する症状及び徴候												
R50-R69	全身症状及び徴候	2	4	2	1	1	1		1	6	7	25	164
R70-R79	血液検査の異常所見、診断名の記載がないもの										1	1	4
R80-R82	尿検査の異常所見、診断名の記載がないもの												
R83-R89	その他の体液、検体＜材料＞及び組織の検査の異常所見、診断名の記載がないもの												
R90-R94	画像診断及び機能検査における異常所見、診断名の記載がないもの										1	1	3
R95-R99	診断名不明確及び原因不明の死亡												
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響												384	8,238
S00-S09	頭部損傷	1	1		1		3	1	3	4	15	29	362
S10-S19	頸部損傷				2							2	19
S20-S29	胸部＜郭＞損傷				1						2	3	65
S30-S39	腹部、下背部、腰椎及び骨盤部の損傷				1				1	9	13	24	476
S40-S49	肩及び上腕の損傷		7	2		1	3	5	4	11	4	37	715
S50-S59	肘及び前腕の損傷		3	1	2	1	5	3	4	13	7	39	278
S60-S69	手首及び手の損傷		1	1				2	2		2	8	39
S70-S79	股関節部及び大腿の損傷		2				2	3	4	5	42	58	2,072
S80-S89	膝及び下腿の損傷			12	7	6	14	13	5	5	6	68	1,521
S90-S99	足首及び足の損傷						1			1	2	4	131
T00-T07	多部位の損傷								1	1	1	3	52
T08-T14	部位不明の体幹もしくは(四)肢の損傷又は部位不明の損傷						1					1	2
T15-T19	自然開口部からの異物侵入の作用		1					2		1	2	6	26
T20-T32	熱傷及び腐食									1		1	21
T33-T35	凍傷												
T36-T50	薬物、薬剤及び生物学的製剤による中毒								1			2	7
T51-T65	薬用を主としなない物質の毒作用												
T66-T78	外因のその他及び詳細不明の作用			3	1	1				3	5	13	63
T79	外傷の早期合併症												
T80-T88	外科的及び内科的ケアの合併症、他に分類されないもの	1		1		3	3	7	14	25	32	86	2,389
T90-T98	損傷、中毒及びその他の外因による影響の続発・後遺症												
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健													
Z00-Z13	検査及び診査のための保健サービスの利用者												
Z20-Z29	伝染病に関連する健康障害をきたす恐れのある者												
Z30-Z39	生殖に関連する環境下での保健サービスの利用者												
Z40-Z54	特定の処置及び保健ケアのための保健サービスの利用者												
Z55-Z65	社会経済的環境及び社会心理的環境に関連する健康障害をきたす恐れのある者												
Z70-Z76	その他の環境下での保健サービスの利用者												
Z80-Z99	家族歴、既往歴及び健康状態に影響をおよぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者												
XXII 特殊目的コード												104	1,048
U00-U49	原因不明の新たな疾患の暫定分類	1		1	9	7	13	4	15	22	32	104	1,048
合計		121	131	96	315	637	499	659	899	1,542	1,405	6,304	78,739

■疾病別・年齢階層別・在院日数(男)【2020年度】

2020年度 在院日数 (男)		0~	1~9	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	合計
I 感染症及び寄生虫症												1,721
A00-A09	腸管感染症	5	37	33	33	15	16	29	48	58	352	626
A15-A19	結核						3			17	63	83
A20-A28	人畜共通細菌性疾患											
A30-A49	その他の細菌性疾患	8	10	5	11		20	5	130	131	292	612
A50-A64	主として性的伝播様式をとる感染症	8										8
A65-A69	その他のスピロヘータ疾患											
A70-A74	クラミジアによるその他の疾患											
A75-A79	リケッチア症											
A80-A89	中枢神経系のウイルス感染症											
A90-A99	節足動物媒介ウイルス熱及びウイルス性出血熱											
B00-B09	皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症		7		8	8	33	9		83	64	212
B15-B19	ウイルス性肝炎				35	9	3	5	36	4		92
B20-B24	ヒト免疫不全ウイルス[HIV]病						12					12
B25-B34	その他のウイルス疾患		5	12					8			25
B35-B49	真菌症										48	48
B50-B64	原虫疾患											
B65-B83	ぜんぐ虫症					3						3
B85-B89	シラミ症、ダニ症及びその他の動物寄生虫											
B90-B94	感染症及び寄生虫症の続発・後遺症											
B95-B98	細菌、ウイルス及びその他の病原体											
B99	その他の感染症											
II -1 新生物(腫瘍)悪性												13,495
C00-C14	口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物<腫瘍>									84		84
C15	食道の悪性新生物							230	153	347	190	920
C16	胃の悪性新生物						64	182	271	816	394	1,727
C17	小腸の悪性新生物							12	24		26	62
C18	結腸の悪性新生物					30	35	287	550	466	414	1,782
C19-C20	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物					20	35	125	378	759	82	1,399
C21	肛門及び肛門管の悪性新生物									19		19
C22	肝及び肝内胆管の悪性新生物						34	29	142	481	91	777
C23-C24	胆のう及びその他の胆道の悪性新生物							39	57	212	73	381
C25	膵の悪性新生物						6	46	165	199	141	557
C26	その他の部位不明確の消化器の悪性新生物<腫瘍>						5					5
C30-C39	呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物<腫瘍>						122	184	392	1,153	794	2,645
C40-C41	骨及び関節軟骨の悪性新生物<腫瘍>											
C43-C44	皮膚の悪性新生物<腫瘍>									85	20	105
C45-C49	中皮及び軟部組織の悪性新生物<腫瘍>						19	27	208	12		266
C50	乳房の悪性新生物<腫瘍>											
C51-C58	女性生殖器の悪性新生物<腫瘍>											
C60-C63	男性生殖器の悪性新生物<腫瘍>							8	30	258	87	383
C64-C68	腎尿路の悪性新生物<腫瘍>						18	66	156	595	163	998
C69-C72	眼、脳及び中枢神経系のその他の部位の悪性新生物<腫瘍>					32	19		4	80	93	228
C73-C75	甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物<腫瘍>									155		155
C76-C80	部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物<腫瘍>					4		42	167	211	104	528
C81-C96	原発と記載された又は推定されたリンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物<腫瘍>								93	366		459
C97	独立した(原発性)多部位の悪性新生物<腫瘍>											
D00-D09	上皮内新生物<腫瘍>						4				11	15
II -2 新生物(腫瘍)良性												754
D10-D36	良性新生物<腫瘍>				32	12	151	84	112	96	84	571
D37-D48	性状不詳又は不明の新生物<腫瘍>		2			15	13	5	9	13	126	183
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害												450
D50-D53	栄養性貧血					5			49	44	39	137
D55-D59	溶血性貧血											12
D60-D64	無形成性貧血及びその他の貧血				8				27		25	60
D65-D69	凝固障害、紫斑病及びその他の出血性病態		13					27		95	18	153
D70-D77	血液及び造血器のその他の疾患		3						61		24	88
D80-D89	免疫機構の障害											
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患												2,315
E00-E07	甲状腺障害							9	8	12	12	41
E10-E14	糖尿病				22	31	222	352	349	490	202	1,668
E15-E16	その他のグルコース調節及び膵内分泌障害		6						7	10	17	40
E20-E35	その他の内分泌腺障害		55	36	3		30	29	39	27	48	267
E40-E46	栄養失調(症)											
E50-E64	その他の栄養欠乏症											

2020年度 在院日数 (男)		0~	1~9	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	合計
E65-E68	肥満(症)及びその他の過栄養<過剰摂食>											
E70-E90	代謝障害	4	7	1			2	7	49	82	147	299
V 精神及び行動の障害												40
F00-F09	症状性を含む器質性精神障害									33		33
F10-F19	精神作用物質使用による精神及び行動の障害						2		5			7
F20-F29	統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害											
F30-F39	気分[感情]障害											
F40-F48	神経症性障害, ストレス関連障害及び身体表現性障害											
F50-F59	生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群											
F60-F69	成人の人格及び行動の障害											
F70-F79	知的障害<精神遅滞>											
F80-F89	心理的発達障害											
F90-F98	小児<児童>期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害											
F99	詳細不明の精神障害											
VI 神経系の疾患												1,443
G00-G09	中枢神経系の炎症性疾患		8		2	32	19		129			190
G10-G14	主に中枢神経系を障害する系統萎縮症					4		5	4	4	5	22
G20-G26	錐体外路障害及び異常運動							34	45	71	31	181
G30-G32	神経系のその他の変性疾患							5		27	5	37
G35-G37	中枢神経系の脱髄疾患											
G40-G47	挿間性及び発作性障害		2	11		1	77	49	65	221	24	450
G50-G59	神経, 神経根及び神経そう<叢>の障害			2		3	25	53	133	35	10	261
G60-G64	多発(性)ニューロパチ<シ>-及びその他の末梢神経系の障害				18		11			5		34
G70-G73	神経筋接合部及び筋の疾患				4				14	61		79
G80-G83	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群			29		5						34
G90-G99	神経系のその他の障害	1					26		50	40	38	155
VII 眼及び付属器の疾患												2,122
H00-H06	眼瞼, 涙器及び眼窩の障害							4		6	8	18
H10-H13	結膜の障害									2		2
H15-H22	強膜, 角膜, 虹彩及び毛様体の障害					10	8	2	55	70		145
H25-H28	水晶体の障害					6	23	46	91	321	150	637
H30-H36	脈絡膜及び網膜の障害			7	13	11	16	210	133	140	32	562
H40-H42	緑内障					23	48	85	149	121	74	500
H43-H45	硝子体及び眼球の障害					25	6	37	32	73	54	227
H46-H48	視神経及び視(覚)路の障害							9		6		15
H49-H52	眼筋, 眼球運動, 調節及び屈折の障害									10		10
H53-H54	視機能障害及び盲<失明>									6		6
H55-H59	眼及び付属器のその他の障害											
VIII 耳及び乳様突起の疾患												173
H60-H62	外耳疾患				2							2
H65-H75	中耳及び乳様突起の疾患	6	16									22
H80-H83	内耳疾患					2	5	3	3	23	10	46
H90-H95	耳のその他の障害				14	9	32	13	14	9	12	103
IX 循環器系の疾患												12,114
I00-I02	急性リウマチ熱											
I05-I09	慢性リウマチ性心疾患								59	31	11	101
I10-I15	高血圧性疾患									25	13	38
I20-I25	虚血性心疾患					3	123	225	327	566	469	1,713
I26-I28	肺性心疾患及び肺循環疾患						14		12	46		72
I30-I52	その他の型の心疾患				8	41	73	207	1,014	918	1,148	3,409
I60-I69	脳血管疾患					103	262	485	976	2,243	1,136	5,205
I70-I79	動脈, 細動脈及び毛細血管の疾患				2		105	184	229	402	331	1,253
I80-I89	静脈, リンパ管及びリンパ節の疾患, 他に分類されないもの						13	34	91	157	11	306
I95-I99	循環器系のその他及び詳細不明の障害			15						2		17
X 呼吸器系の疾患												5,763
J00-J06	急性上気道感染症	10	58	4	6	14	9	5		22	5	133
J09-J18	インフルエンザ及び肺炎		30		15	3	51	84	201	556	1,115	2,055
J20-J22	その他の急性下気道感染症	10	34									44
J30-J39	上気道のその他の疾患		36	37	58	55	77	101	38	22	6	430
J40-J47	慢性下気道疾患	25	44	10	6					31	29	145
J60-J70	外的因子による肺疾患				14	19			124	278	1,111	1,546
J80-J84	主として間質を障害するその他の呼吸器疾患							45	246	203	63	557
J85-J86	下気道の化膿性及びえ<壊>死性病態					18		12		116		146
J90-J94	胸膜のその他の疾患			30	14	46	23		22	20	255	410
J95-J99	呼吸器系のその他の疾患			5		4		50	6	186	46	297
XI 消化器系の疾患												7,711
K00-K14	口腔, 唾液腺及び顎の疾患		6		3	3	2	13	3	23	5	58
K20-K31	食道, 胃及び十二指腸の疾患				42		19	60	84	77	66	348

2020年度 在院日数 (男)		0~	1~9	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	合計
K35-K38	虫垂の疾患		8	9	40	52	60	8	29	66	24	296
K40-K46	ヘルニア				6	5		41	72	216	87	427
K50-K52	非感染性腸炎及び非感染性大腸炎			10		31	30	24	38	27	44	204
K55	腸の血行障害					6	9			18	72	105
K56	腸閉塞	4	5		7	13	7	12	130	161	140	479
K57	腸の憩室性疾患					9	37	75	47	132	100	400
K58-K59	その他の腸の機能障害			1					7	29	17	54
K60-K62	肛門及び直腸の疾患				5		154	9	24	13		205
K63	結腸のその他の疾患					11	48	119	283	590	283	1,334
K64	痔核					2	3			7	3	15
K65-K67	腹膜の疾患					11	44		38	168		261
K70-K77	肝疾患				2	12	75	305	175	176	41	786
K80-K87	胆のう<嚢>, 胆管及び膵の障害				91	26	111	366	404	576	680	2,254
K90-K93	消化器系のその他の疾患				8	16	16	31	55	164	195	485
XII 皮膚及び皮下組織の疾患												955
L00-L08	皮膚及び皮下組織の感染症	13			11	18	37	114	26	192	114	525
L10-L14	水疱症									8	73	81
L20-L30	皮膚炎及び湿疹		5		17	15	8	12	13	8		78
L40-L45	丘疹落せつ<屑><くりんせつ<鱗屑>>性障害											
L50-L54	じんま<蕁麻疹>疹及び紅斑		2									2
L55-L59	皮膚及び皮下組織の放射線(非電離及び電離)に関連する障害									4		4
L60-L75	皮膚付属器の障害							14		6		20
L80-L99	皮膚及び皮下組織のその他の障害						161	36	15	30	3	245
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患												10,044
M00-M03	感染性関節障害			5			136	75	54		70	340
M05-M14	炎症性多発性関節障害		38				24	18		36	20	136
M15-M19	関節症			19	23	38	86	335	569	804	183	2,057
M20-M25	その他の関節障害		30	139	207	108	133	98	14	78		807
M30-M36	全身性結合組織障害	34	57					43	98	130	16	378
M40-M43	変形性脊柱障害						62	59	242	259	77	699
M45-M49	脊椎障害					2	236	490	852	1,087	427	3,094
M50-M54	その他の脊柱障害				106	126	143	167	68	42	30	682
M60-M63	筋障害			3				4	4			11
M65-M68	滑膜及び腱の障害			6	12	10	17	95	43	17		200
M70-M79	その他の軟部組織障害				5	8	85	130	177	287	30	722
M80-M85	骨の密度及び構造の障害			28	4	2		7	10		59	110
M86-M90	その他の骨障害			14			26	151	175	186	25	577
M91-M94	軟骨障害			121	10		22	30				183
M95-M99	筋骨格系及び結合組織のその他の障害									48		48
XIV 腎尿路生殖系系の疾患												3,691
N00-N08	糸球体疾患			111		39	11	6	90	95	31	383
N10-N16	腎尿細管間質性疾患			46	28	5	26	25	48	231	222	631
N17-N19	腎不全				11	6	46	176	331	396	783	1,749
N20-N23	尿路結石症						10	9	29	63	30	141
N25-N29	腎及び尿管のその他の障害									51		51
N30-N39	尿路系のその他の障害	15				6	15	8	48	190	116	398
N40-N51	男性生殖器の疾患		6	2			30	10	78	141	63	330
N60-N64	乳房の障害				4							4
N70-N77	女性骨盤臓器の炎症性疾患											
N80-N98	女性生殖器の非炎症性障害											
N99	腎尿路生殖系系のその他の障害							4				4
XV 妊娠、分娩及び産じょく<褥>												
O00-O08	流産に終わった妊娠											
O10-O16	妊娠、分娩及び産じょく<褥>における浮腫、タンパク<蛋白>尿及び高血圧性障害											
O20-O29	主として妊娠に関連するその他の母体障害											
O30-O48	胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア並びに予想される分娩の諸問題											
O60-O75	分娩の合併症											
O80-O84	分娩											
O85-O92	主として産じょく<褥>に関連する合併症											
O94-O99	その他の産科的病態、他に分類されないもの											
XVI 周産期に発生した病態												928
P00-P04	母体側要因並びに妊娠及び分娩の合併症により影響を受けた胎児及び新生児	90										90
P05-P08	妊娠期間及び胎児発育に関連する障害	253										253
P10-P15	出産外傷											
P20-P29	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害	280										280

2020年度 在院日数 (男)		0~	1~9	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	合計
P35-P39	周産期に特異的な感染症	24										24
P50-P61	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害	80										80
P70-P74	胎児及び新生児に特異的な一過性の内分泌障害及び代謝障害	159										159
P75-P78	胎児及び新生児の消化器系障害											
P80-P83	胎児及び新生児の外皮及び体温調節に関連する病態											
P90-P96	周産期に発生したその他の障害	42										42
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常												217
Q00-Q07	神経系の先天奇形	1			19							20
Q10-Q18	眼、耳、顔面及び頸部の先天奇形		7								5	12
Q20-Q28	循環器系の先天奇形	8		6	11	2	17	13				57
Q30-Q34	呼吸器系の先天奇形											
Q35-Q37	唇裂及び口蓋裂	13										13
Q38-Q45	消化器系のその他の先天奇形											
Q50-Q56	生殖器の先天奇形	5				4						9
Q60-Q64	腎尿路系の先天奇形		1		5		3		8	11		28
Q65-Q79	筋骨格系の先天奇形及び変形		18	10					21			49
Q80-Q89	その他の先天奇形		4	17				8				29
Q90-Q99	染色体異常、他に分類されないもの											
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの												448
R00-R09	循環器系及び呼吸器系に関する症状及び徴候				2		4	30	78	5	17	136
R10-R19	消化器系及び腹部に関する症状及び徴候		8	2					3		41	54
R20-R23	皮膚及び皮下組織に関する症状及び徴候											
R25-R29	神経系及び筋骨格系に関する症状及び徴候									5		5
R30-R39	腎尿路系に関する症状及び徴候									8	6	14
R40-R46	認識、知覚、情緒状態及び行動に関する症状及び徴候		2						5	10		17
R47-R49	言語及び音声に関する症状及び徴候							8				8
R50-R69	全身症状及び徴候	23	42	4		5	11	22	35	72		214
R70-R79	血液検査の異常所見、診断名の記載がないもの											
R80-R82	尿検査の異常所見、診断名の記載がないもの											
R83-R89	その他の体液、検体<材料>及び組織の検査の異常所見、診断名の記載がないもの											
R90-R94	画像診断及び機能検査における異常所見、診断名の記載がないもの											
R95-R99	診断名不明確及び原因不明の死亡											
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響												5,936
S00-S09	頭部損傷		2	8		9	34	28	126	319	325	851
S10-S19	頸部損傷			3					58	41	3	105
S20-S29	胸部<郭>損傷						8			28	90	126
S30-S39	腹部、下背部、腰椎及び骨盤部の損傷				4			15		184	46	249
S40-S49	肩及び上腕の損傷		28	25	14		72	152	387	213		891
S50-S59	肘及び前腕の損傷		7	38	13	9	7	8	52			134
S60-S69	手首及び手の損傷		6	12	9	2	28	10				67
S70-S79	股関節部及び大腿の損傷					40		67	67	164	222	560
S80-S89	膝及び下腿の損傷			500	288	268	257	140	245	104	59	1,861
S90-S99	足首及び足の損傷			3	6			10				19
T00-T07	多部位の損傷			3				38				41
T08-T14	部位不明の体幹もしくは(四)肢の損傷又は部位不明の損傷											
T15-T19	自然開口部からの異物侵入の作用					6						6
T20-T32	熱傷及び腐食											
T33-T35	凍傷											
T36-T50	薬物、薬剤及び生物学的製剤による中毒									38		38
T51-T65	薬用を主としでない物質の毒作用				2							2
T66-T78	外因のその他及び詳細不明の作用		2	2	24				3		4	35
T79	外傷の早期合併症											
T80-T88	外科的及び内科的ケアの合併症、他に分類されないもの					38	27	90	320	224	247	946
T90-T98	損傷、中毒及びその他の外因による影響の続発・後遺症									5		5
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健												13
Z00-Z13	検査及び診査のための保健サービスの利用者											
Z20-Z29	伝染病に関連する健康障害をきたす恐れのある者											
Z30-Z39	生殖に関連する環境下での保健サービスの利用者											
Z40-Z54	特定の処置及び保健ケアのための保健サービスの利用者											
Z55-Z65	社会経済的環境及び社会心理的環境に関連する健康障害をきたす恐れのある者											
Z70-Z76	その他の環境下での保健サービスの利用者											
Z80-Z99	家族歴、既往歴及び健康状態に影響をおよぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者							13				13
XXII 特殊目的コード												1,588
U00-U49	原因不明の新たな疾患の暫定分類	22	7		38	74	146	167	307	458	369	1,588
合計		1,143	664	1,384	1,405	1,653	4,451	7,812	14,064	23,252	16,093	71,921

■疾病別・年齢階層別・在院日数(女)【2020年度】

2020年度 在院日数 (女)		0~	1~9	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	合計
I 感染症及び寄生虫症												1,442
A00-A09	腸管感染症	6	43	11	10			1	12	43	69	195
A15-A19	結核								65	58	3	126
A20-A28	人畜共通細菌性疾患											
A30-A49	その他の細菌性疾患	2	7	11				42		253	264	579
A50-A64	主として性的伝播様式をとる感染症				3		3		6			12
A65-A69	その他のスピロヘータ疾患											
A70-A74	クラミジアによるその他の疾患											
A75-A79	リケッチア症											
A80-A89	中枢神経系のウイルス感染症							18				18
A90-A99	節足動物媒介ウイルス熱及びウイルス性出血熱											
B00-B09	皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症	9	13			20	26	14	25	73	76	256
B15-B19	ウイルス性肝炎				42		15	2	4	34	3	100
B20-B24	ヒト免疫不全ウイルス[HIV]病											
B25-B34	その他のウイルス疾患	5		5	13				70	9	8	110
B35-B49	真菌症								30		2	32
B50-B64	原虫疾患											
B65-B83	ぜんぐ虫症											
B85-B89	シラミ症、ダニ症及びその他の動物寄生症											
B90-B94	感染症及び寄生虫症の続発・後遺症								14			14
B95-B98	細菌、ウイルス及びその他の病原体											
B99	その他の感染症											
II-1 新生物(腫瘍)悪性												14,065
C00-C14	口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物<腫瘍>											
C15	食道の悪性新生物								111	80	111	302
C16	胃の悪性新生物					10	32		66	239	360	707
C17	小腸の悪性新生物						15		45	24	9	93
C18	結腸の悪性新生物						107	115	213	329	390	1,154
C19-C20	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物				5	17	34	14	94	363	330	857
C21	肛門及び肛門管の悪性新生物										86	86
C22	肝及び肝内胆管の悪性新生物							8	69	142	266	485
C23-C24	胆のう及びその他の胆道の悪性新生物							7	241	120	48	416
C25	膵の悪性新生物							210	223	299	265	997
C26	その他の部位不明確の消化器の悪性新生物<腫瘍>											
C30-C39	呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物<腫瘍>						16	13	650	1,001	747	2,427
C40-C41	骨及び関節軟骨の悪性新生物<腫瘍>											
C43-C44	皮膚の悪性新生物<腫瘍>									12	19	31
C45-C49	中皮及び軟部組織の悪性新生物<腫瘍>			4					119	19	51	193
C50	乳房の悪性新生物<腫瘍>					44	378	415	781	849	342	2,809
C51-C58	女性生殖器の悪性新生物<腫瘍>				14	172	14	385	499	389	99	1,572
C60-C63	男性生殖器の悪性新生物<腫瘍>											
C64-C68	腎尿路の悪性新生物<腫瘍>						25		137	143	260	565
C69-C72	眼、脳及び中枢神経系のその他の部位の悪性新生物<腫瘍>								8		91	99
C73-C75	甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物<腫瘍>								70			70
C76-C80	部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物<腫瘍>							35	116	243	436	830
C81-C96	原発と記載された又は推定されたリンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物<腫瘍>							3	32	160	18	213
C97	独立した(原発性)多部位の悪性新生物<腫瘍>											
D00-D09	上皮内新生物<腫瘍>				20	61	39	18	3	18		159
II-2 新生物(腫瘍)良性												1,542
D10-D36	良性新生物<腫瘍>			27	170	152	242	186	115	139	100	1,131
D37-D48	性状不詳又は不明の新生物<腫瘍>		1	8	15	33	25	23	55	161	90	411
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害												375
D50-D53	栄養性貧血							9	12	19	17	57
D55-D59	溶血性貧血		2									2
D60-D64	無形成性貧血及びその他の貧血					13			2		30	45
D65-D69	凝固障害、紫斑病及びその他の出血性病態		4						6		22	32
D70-D77	血液及び造血器のその他の疾患								58			58
D80-D89	免疫機構の障害								40	129	12	181
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患												2,362
E00-E07	甲状腺障害			25		22		9	11			67
E10-E14	糖尿病		33	18		36	75	128	184	427	327	1,228
E15-E16	その他のグルコース調節及び膵内分泌障害		8									8
E20-E35	その他の内分泌腺障害		48	15	19	19	54	43	20	48	9	275
E40-E46	栄養失調(症)											
E50-E64	その他の栄養欠乏症										43	43

2020年度 在院日数 (女)		0~	1~9	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	合計
E65-E68	肥満(症)及びその他の過栄養<過剰摂食>									69		69
E70-E90	代謝障害		7	2	20	2	38	40	87	168	308	672
V 精神及び行動の障害												200
F00-F09	症状性を含む器質性精神障害										24	24
F10-F19	精神作用物質使用による精神及び行動の障害				1				39			40
F20-F29	統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害								38			38
F30-F39	気分[感情]障害											
F40-F48	神経症性障害, ストレス関連障害及び身体表現性障害			77						11	8	96
F50-F59	生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群					2						2
F60-F69	成人の人格及び行動の障害											
F70-F79	知的障害<精神遅滞>											
F80-F89	心理的発達障害											
F90-F98	小児<児童>期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害											
F99	詳細不明の精神障害											
VI 神経系の疾患												1,176
G00-G09	中枢神経系の炎症性疾患		7			18	5	8	32			70
G10-G14	主に中枢神経系を障害する系統萎縮症								12			12
G20-G26	錐体外路障害及び異常運動							13	30	33	14	90
G30-G32	神経系のその他の変性疾患										5	5
G35-G37	中枢神経系の脱髄疾患			11	17		20					48
G40-G47	挿間性及び発作性障害		8		6		20		6	47	112	199
G50-G59	神経, 神経根及び神経そう<叢>の障害			4	16		25	75	38	38	31	227
G60-G64	多発(性)ニューロパチ<シ>-及びその他の末梢神経系の障害				39		12	34		9		94
G70-G73	神経筋接合部及び筋の疾患					2	192		13			207
G80-G83	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群				6				24	7		37
G90-G99	神経系のその他の障害	2			35	28			97	18	7	187
VII 眼及び付属器の疾患												1,727
H00-H06	眼瞼, 涙器及び眼窩の障害				3			9	4	19	19	54
H10-H13	結膜の障害											
H15-H22	強膜, 角膜, 虹彩及び毛様体の障害					7		54		39		100
H25-H28	水晶体の障害				1	3	29	52	144	343	233	805
H30-H36	脈絡膜及び網膜の障害				29	17	12	123	13	68	41	303
H40-H42	緑内障			17			15	47	39	43	68	229
H43-H45	硝子体及び眼球の障害						15	9	32	57	23	136
H46-H48	視神経及び視(覚)路の障害											
H49-H52	眼筋, 眼球運動, 調節及び屈折の障害											
H53-H54	視機能障害及び盲<失明>											
H55-H59	眼及び付属器のその他の障害										100	100
VIII 耳及び乳様突起の疾患												123
H60-H62	外耳疾患											
H65-H75	中耳及び乳様突起の疾患		22									22
H80-H83	内耳疾患								14	15	19	48
H90-H95	耳のその他の障害		1		7	9	5	14		17		53
IX 循環器系の疾患												9,638
I00-I02	急性リウマチ熱											
I05-I09	慢性リウマチ性心疾患									137		137
I10-I15	高血圧性疾患					6		21		5	35	67
I20-I25	虚血性心疾患					3	38	26	133	306	129	635
I26-I28	肺性心疾患及び肺循環疾患						16	3	41	16	54	130
I30-I52	その他の型の心疾患					12	81	131	334	594	1,882	3,034
I60-I69	脳血管疾患				16	17	141	361	697	1,414	1,931	4,577
I70-I79	動脈, 細動脈及び毛細血管の疾患		1		2	19		6	147	268	461	904
I80-I89	静脈, リンパ管及びリンパ節の疾患, 他に分類されないもの				19	6		12	8	62	20	127
I95-I99	循環器系のその他及び詳細不明の障害			27								27
X 呼吸器系の疾患												3,349
J00-J06	急性上気道感染症	7	27		17	10		14				75
J09-J18	インフルエンザ及び肺炎	4	35		17	8	7		138	168	735	1,112
J20-J22	その他の急性下気道感染症	14	13		10							37
J30-J39	上気道のその他の疾患		17	15	65	19	45	40	38	53	16	308
J40-J47	慢性下気道疾患		50		3					6	13	72
J60-J70	外的因子による肺疾患				19		7		103	296	446	871
J80-J84	主として間質を障害するその他の呼吸器疾患							2	51	66	154	273
J85-J86	下気道の化膿性及びえ<壊>死性病態									30		30
J90-J94	胸膜のその他の疾患			8		30	6	5		17	183	249
J95-J99	呼吸器系のその他の疾患		4						49	75	194	322
XI 消化器系の疾患												5,804
K00-K14	口腔, 唾液腺及び顎の疾患		3					3	15	52	5	78
K20-K31	食道, 胃及び十二指腸の疾患					4	2	14	17	215	142	394

2020年度 在院日数 (女)		0~	1~9	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	合計
K35-K38	虫垂の疾患		9	51	44	17	44	4	19	9	30	227
K40-K46	ヘルニア					6		17		38	172	233
K50-K52	非感染性腸炎及び非感染性大腸炎				31	2	26		47	25	26	157
K55	腸の血行障害						18	29	19	118	76	260
K56	腸閉塞							8	62	174	80	324
K57	腸の腔室性疾患					19	27	59	63	69	72	309
K58-K59	その他の腸の機能障害										18	18
K60-K62	肛門及び直腸の疾患						7	26	5	13	51	102
K63	結腸のその他の疾患					15	76	127	152	406	210	986
K64	痔核						1	1			13	15
K65-K67	腹膜の疾患								4	90	49	143
K70-K77	肝疾患							45	104	67	54	309
K80-K87	胆のう<嚢>, 胆管及び膵の障害					64	94	187	170	332	962	1,809
K90-K93	消化器系のその他の疾患					7	24	84	27	90	208	440
XII 皮膚及び皮下組織の疾患												1,108
L00-L08	皮膚及び皮下組織の感染症	11	24		16		40	107	35	69	237	539
L10-L14	水疱症								29		24	53
L20-L30	皮膚炎及び湿疹				8		9	3	7	15		42
L40-L45	丘疹落せつ<屑><くりんせつ<鱗屑>>性障害											
L50-L54	じんま<蕁麻疹>疹及び紅斑		3			17					5	25
L55-L59	皮膚及び皮下組織の放射線(非電離及び電離)に関連する障害											
L60-L75	皮膚付属器の障害				12	4		4		5		25
L80-L99	皮膚及び皮下組織のその他の障害				6					25	393	424
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患												17,217
M00-M03	感染性関節障害							17		40		57
M05-M14	炎症性多発性関節障害			3				26	168	338	41	576
M15-M19	関節症				12	54	285	1,518	2,720	4,016	1,720	10,325
M20-M25	その他の関節障害		3	203	146	139	93	158	98	76	30	946
M30-M36	全身性結合組織障害	6	55	11	4	31	16	30	7	47	40	247
M40-M43	変形性脊柱障害						79	94	144	590	119	1,026
M45-M49	脊椎障害				14		31	118	429	665	676	1,933
M50-M54	その他の脊柱障害				32	51	119	79	32	86	67	466
M60-M63	筋障害		15			20						35
M65-M68	滑膜及び腱の障害			22	18	15	8	85	68	38	7	261
M70-M79	その他の軟部組織障害			5		2	115	94	237	84	178	715
M80-M85	骨の密度及び構造の障害									44	71	115
M86-M90	その他の骨障害			6			24	88	75	168	54	415
M91-M94	軟骨障害			6						5		11
M95-M99	筋骨格系及び結合組織のその他の障害								22		67	89
XIV 腎尿路生殖系系の疾患												3,306
N00-N08	糸球体疾患				16	20	12	9	70	4	26	157
N10-N16	腎尿細管間質性疾患		14	9	43	9	7	69	174	186	415	926
N17-N19	腎不全					4	11	26	30	141	380	592
N20-N23	尿路結石症							8	27	55	42	132
N25-N29	腎及び尿管のその他の障害									35		35
N30-N39	尿路系のその他の障害	17	5					8	29	154	488	701
N40-N51	男性生殖器の疾患											
N60-N64	乳房の障害						3					3
N70-N77	女性骨盤臓器の炎症性疾患			8	16	20	28	15	16	46	43	192
N80-N98	女性生殖器の非炎症性障害			4	110	138	197	66	20	23	10	568
N99	腎尿路生殖系系のその他の障害											
XV 妊娠、分娩及び産じょく<褥>												4,678
O00-O08	流産に終わった妊娠				62	153	54					269
O10-O16	妊娠、分娩及び産じょく<褥>における浮腫、タンパク<蛋白>尿及び高血圧性障害			20	2	107	25					154
O20-O29	主として妊娠に関連するその他の母体障害				46	240	15					301
O30-O48	胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア並びに予想される分娩の諸問題				98	525	52					675
O60-O75	分娩の合併症				157	394	105					656
O80-O84	分娩			14	687	1,659	226					2,586
O85-O92	主として産じょく<褥>に関連する合併症					30	1					31
O94-O99	その他の産科的病態, 他に分類されないもの				6							6
XVI 周産期に発生した病態												900
P00-P04	母体側要因並びに妊娠及び分娩の合併症により影響を受けた胎児及び新生児	64										64
P05-P08	妊娠期間及び胎児発育に関連する障害	326										326
P10-P15	出産外傷	9										9
P20-P29	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害	331										331

2020年度 在院日数 (女)		0~	1~9	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	合計
P35-P39	周産期に特異的な感染症											
P50-P61	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害	72										72
P70-P74	胎児及び新生児に特異的な一過性の内分泌障害及び代謝障害	82										82
P75-P78	胎児及び新生児の消化器系障害											
P80-P83	胎児及び新生児の外皮及び体温調節に関連する病態											
P90-P96	周産期に発生したその他の障害	16										16
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常												161
Q00-Q07	神経系の先天奇形											
Q10-Q18	眼、耳、顔面及び顔部の先天奇形		10	11	4		3					28
Q20-Q28	循環器系の先天奇形				16		38					54
Q30-Q34	呼吸器系の先天奇形											
Q35-Q37	唇裂及び口蓋裂											
Q38-Q45	消化器系のその他の先天奇形							8	16			24
Q50-Q56	生殖器の先天奇形			7	3	2				2		14
Q60-Q64	腎尿路系の先天奇形											
Q65-Q79	筋骨格系の先天奇形及び変形		19	11	3							33
Q80-Q89	その他の先天奇形							8				8
Q90-Q99	染色体異常、他に分類されないもの											
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの												280
R00-R09	循環器系及び呼吸器系に関する症状及び徴候									13	22	35
R10-R19	消化器系及び腹部に関する症状及び徴候		2			7	10	7	5	32	3	66
R20-R23	皮膚及び皮下組織に関する症状及び徴候											
R25-R29	神経系及び筋骨格系に関する症状及び徴候							8				8
R30-R39	腎尿路系に関する症状及び徴候											
R40-R46	認識、知覚、情緒状態及び行動に関する症状及び徴候											
R47-R49	言語及び音声に関する症状及び徴候											
R50-R69	全身症状及び徴候	6	28	16	4	3	3		2	43	59	164
R70-R79	血液検査の異常所見、診断名の記載がないもの										4	4
R80-R82	尿検査の異常所見、診断名の記載がないもの											
R83-R89	その他の体液、検体<材料>及び組織の検査の異常所見、診断名の記載がないもの											
R90-R94	画像診断及び機能検査における異常所見、診断名の記載がないもの										3	3
R95-R99	診断名不明確及び原因不明の死亡											
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響												8,238
S00-S09	頭部損傷	3	2		4		32	4	71	50	196	362
S10-S19	頸部損傷				19							19
S20-S29	胸部<郭>損傷				15						50	65
S30-S39	腹部、下背部、腰椎及び骨盤部の損傷				4				11	171	290	476
S40-S49	肩及び上腕の損傷		17	64		5	13	83	111	338	84	715
S50-S59	肘及び前腕の損傷		11	7	9	4	17	13	34	74	109	278
S60-S69	手首及び手の損傷		3	2					22	4		8
S70-S79	股関節部及び大腿の損傷		46				187	90	318	169	1,262	2,072
S80-S89	膝及び下腿の損傷			267	149	151	207	315	81	233	118	1,521
S90-S99	足首及び足の損傷						31			16	84	131
T00-T07	多部位の損傷								28	8	16	52
T08-T14	部位不明の体幹もしくは(四)肢の損傷又は部位不明の損傷						2					2
T15-T19	自然開口部からの異物侵入の作用		4					6		2	14	26
T20-T32	熱傷及び腐食									21		21
T33-T35	凍傷											
T36-T50	薬物、薬剤及び生物学的製剤による中毒								4		3	7
T51-T65	薬用を主としなない物質の毒作用											
T66-T78	外因のその他及び詳細不明の作用			9	2	2				8	42	63
T79	外傷の早期合併症											
T80-T88	外科的及び内科的ケアの合併症、他に分類されないもの	3		17		17	11	66	344	778	1,153	2,389
T90-T98	損傷、中毒及びその他の外因による影響の続発・後遺症											
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健												
Z00-Z13	検査及び診査のための保健サービスの利用者											
Z20-Z29	伝染病に関連する健康障害をきたす恐れのある者											
Z30-Z39	生殖に関連する環境下での保健サービスの利用者											
Z40-Z54	特定の処置及び保健ケアのための保健サービスの利用者											
Z55-Z65	社会経済的環境及び社会心理的環境に関連する健康障害をきたす恐れのある者											
Z70-Z76	その他の環境下での保健サービスの利用者											
Z80-Z99	家族歴、既往歴及び健康状態に影響をおよぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者											
XXII 特殊目的コード												1,048
U00-U49	原因不明の新たな疾患の暫定分類	11		11	79	67	104	50	114	165	447	1,048
合計		1,006	624	1,069	2,556	4,841	4,406	6,762	12,854	21,100	23,521	78,739

■疾病別・年齢階層別・死亡退院患者数【2020年度】

2020年度（死亡）		0~	1~9	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	合計	在院日数
I	感染症及び寄生虫症											9	153
A00-A09	腸管感染症												
A15-A19	結核												
A20-A28	人畜共通細菌性疾患												
A30-A49	その他の細菌性疾患									1	3	5	9
A50-A64	主として性的伝播様式をとる感染症												
A65-A69	その他のスピロヘータ疾患												
A70-A74	クラミジアによるその他の疾患												
A75-A79	リケッチア症												
A80-A89	中枢神経系のウイルス感染症												
A90-A99	節足動物媒介ウイルス熱及びウイルス性出血熱												
B00-B09	皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症												
B15-B19	ウイルス性肝炎												
B20-B24	ヒト免疫不全ウイルス[HIV]病												
B25-B34	その他のウイルス疾患												
B35-B49	真菌症												
B50-B64	原虫疾患												
B65-B83	ぜんく蠕虫症												
B85-B89	シラミ症、ダニ症及びその他の動物寄生症												
B90-B94	感染症及び寄生虫症の続発・後遺症												
B95-B98	細菌、ウイルス及びその他の病原体												
B99	その他の感染症												
II -1	新生物(腫瘍)悪性											95	2,449
C00-C14	口唇、口腔及び咽喉頭の悪性新生物<腫瘍>									1		1	17
C15	食道の悪性新生物									1	1	2	66
C16	胃の悪性新生物									2	3	5	129
C17	小腸の悪性新生物												
C18	結腸の悪性新生物						1	2	2	1	2	8	325
C19-C20	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物								1	1	1	3	226
C21	肛門及び肛門管の悪性新生物												
C22	肝及び肝内胆管の悪性新生物								1	2		3	21
C23-C24	胆のう及びその他の胆道の悪性新生物								1	1	2	4	88
C25	膵の悪性新生物								3	4	5	12	311
C26	その他の部位不明確の消化器の悪性新生物<腫瘍>												
C30-C39	呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物<腫瘍>							1	6	11	12	30	774
C40-C41	骨及び関節軟骨の悪性新生物<腫瘍>												
C43-C44	皮膚の悪性新生物<腫瘍>												
C45-C49	中皮及び軟部組織の悪性新生物<腫瘍>										1	2	54
C50	乳房の悪性新生物<腫瘍>					1	1	1	2	5	1	10	106
C51-C58	女性生殖器の悪性新生物<腫瘍>					1		2	1			5	52
C60-C63	男性生殖器の悪性新生物<腫瘍>										1	1	5
C64-C68	腎尿路の悪性新生物<腫瘍>								2	2	1	5	90
C69-C72	眼、脳及び中枢神経系のその他の部位の悪性新生物<腫瘍>												
C73-C75	甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物<腫瘍>								1			1	70
C76-C80	部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物<腫瘍>									1	2	3	102
C81-C96	原発と記載された又は推定されたリンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物<腫瘍>										1	1	18
C97	独立した(原発性)多部位の悪性新生物<腫瘍>												
D00-D09	上皮内新生物<腫瘍>												
II -2	新生物(腫瘍)良性												
D10-D36	良性新生物<腫瘍>												
D37-D48	性状不詳又は不明の新生物<腫瘍>												
III	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害											1	18
D50-D53	栄養性貧血												
D55-D59	溶血性貧血												
D60-D64	無形成性貧血及びその他の貧血												
D65-D69	凝固障害、紫斑病及びその他の出血性病態										1	1	18
D70-D77	血液及び造血器のその他の疾患												
D80-D89	免疫機構の障害												
IV	内分泌、栄養及び代謝疾患											1	43
E00-E07	甲状腺障害												
E10-E14	糖尿病												
E15-E16	その他のグルコース調節及び膵内分泌障害												
E20-E35	その他の内分泌腺障害												
E40-E46	栄養失調(症)												
E50-E64	その他の栄養欠乏症										1	1	43

2020年度（死亡）		0～	1～9	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	合計	在院日数
E65-E68	肥満(症)及びその他の過栄養<過剰摂食>												
E70-E90	代謝障害												
V 精神及び行動の障害													
F00-F09	症状性を含む器質性精神障害												
F10-F19	精神作用物質使用による精神及び行動の障害												
F20-F29	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害												
F30-F39	気分[感情]障害												
F40-F48	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害												
F50-F59	生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群												
F60-F69	成人の人格及び行動の障害												
F70-F79	知的障害<精神遅滞>												
F80-F89	心理的発達障害												
F90-F98	小児<児童>期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害												
F99	詳細不明の精神障害												
VI 神経系の疾患												3	7
G00-G09	中枢神経系の炎症性疾患												
G10-G14	主に中枢神経系を障害する系統萎縮症												
G20-G26	錐体外路障害及び異常運動												
G30-G32	神経系のその他の変性疾患												
G35-G37	中枢神経系の脱髄疾患												
G40-G47	挿間性及び発作性障害												
G50-G59	神経、神経根及び神経そう<叢>の障害												
G60-G64	多発(性)ニューロパチ<シ>-及びその他の末梢神経系の障害												
G70-G73	神経筋接合部及び筋の疾患												
G80-G83	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群												
G90-G99	神経系のその他の障害									1	2	3	7
VII 眼及び付属器の疾患													
H00-H06	眼瞼、涙器及び眼窩の障害												
H10-H13	結膜の障害												
H15-H22	強膜、角膜、虹彩及び毛様体の障害												
H25-H28	水晶体の障害												
H30-H36	脈絡膜及び網膜の障害												
H40-H42	緑内障												
H43-H45	硝子体及び眼球の障害												
H46-H48	視神経及び視(覚)路の障害												
H49-H52	眼筋、眼球運動、調節及び屈折の障害												
H53-H54	視機能障害及び盲<失明>												
H55-H59	眼及び付属器のその他の障害												
VIII 耳及び乳様突起の疾患													
H60-H62	外耳疾患												
H65-H75	中耳及び乳様突起の疾患												
H80-H83	内耳疾患												
H90-H95	耳のその他の障害												
IX 循環器系の疾患												39	499
I00-I02	急性リウマチ熱												
I05-I09	慢性リウマチ性心疾患												
I10-I15	高血圧性疾患												
I20-I25	虚血性心疾患								1		2	3	26
I26-I28	肺性心疾患及び肺循環疾患								1		2	3	23
I30-I52	その他の型の心疾患								1	5	7	13	203
I60-I69	脳血管疾患							4	1	7	8	20	247
I70-I79	動脈、細動脈及び毛細血管の疾患												
I80-I89	静脈、リンパ管及びリンパ節の疾患、他に分類されないもの												
I95-I99	循環器系のその他及び詳細不明の障害												
X 呼吸器系の疾患												35	710
J00-J06	急性上気道感染症												
J09-J18	インフルエンザ及び肺炎									1	14	15	199
J20-J22	その他の急性下気道感染症												
J30-J39	上気道のその他の疾患												
J40-J47	慢性下気道疾患												
J60-J70	外的因子による肺疾患								1	1	9	11	199
J80-J84	主として間質を障害するその他の呼吸器疾患							1	2	1	2	6	178
J85-J86	下気道の化膿性及びえ<壊>死性病態									1		1	35
J90-J94	胸膜のその他の疾患												
J95-J99	呼吸器系のその他の疾患									2		2	99
XI 消化器系の疾患												12	164
K00-K14	口腔、唾液腺及び顎の疾患												
K20-K31	食道、胃及び十二指腸の疾患												

2020年度（死亡）		0~	1~9	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	合計	在院日数
K35-K38	虫垂の疾患												
K40-K46	ヘルニア												
K50-K52	非感染性腸炎及び非感染性大腸炎												
K55	腸の血行障害						1					1	2
K56	腸閉塞										1	1	25
K57	腸の憩室性疾患										1	1	10
K58-K59	その他の腸の機能障害												
K60-K62	肛門及び直腸の疾患												
K63	結腸のその他の疾患												
K64	痔核												
K65-K67	腹膜の疾患									2		2	16
K70-K77	肝疾患							3	1	2	1	7	111
K80-K87	胆のう<嚢>、胆管及び膵の障害												
K90-K93	消化器系のその他の疾患												
XII 皮膚及び皮下組織の疾患												2	44
L00-L08	皮膚及び皮下組織の感染症										1	1	13
L10-L14	水疱症												
L20-L30	皮膚炎及び湿疹												
L40-L45	丘疹落せつ<屑><くりんせつ<鱗屑>>性障害												
L50-L54	じんま<蕁麻>疹及び紅斑												
L55-L59	皮膚及び皮下組織の放射線(非電離及び電離)に関連する障害												
L60-L75	皮膚付属器の障害												
L80-L99	皮膚及び皮下組織のその他の障害										1	1	31
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患												1	120
M00-M03	感染性関節障害												
M05-M14	炎症性多発性関節障害												
M15-M19	関節症												
M20-M25	その他の関節障害												
M30-M36	全身性結合組織障害										1	1	120
M40-M43	変形性脊柱障害												
M45-M49	脊椎障害												
M50-M54	その他の脊柱障害												
M60-M63	筋障害												
M65-M68	滑膜及び腱の障害												
M70-M79	その他の軟部組織障害												
M80-M85	骨の密度及び構造の障害												
M86-M90	その他の骨障害												
M91-M94	軟骨障害												
M95-M99	筋骨格系及び結合組織のその他の障害												
XIV 腎尿路生殖系系の疾患												10	180
N00-N08	糸球体疾患												
N10-N16	腎尿管間質性疾患												
N17-N19	腎不全								1	2	5	8	126
N20-N23	尿路結石症												
N25-N29	腎及び尿管のその他の障害												
N30-N39	尿路系のその他の障害									1		1	35
N40-N51	男性生殖器の疾患								1			1	19
N60-N64	乳房の障害												
N70-N77	女性骨盤臓器の炎症性疾患												
N80-N98	女性生殖器の非炎症性障害												
N99	腎尿路生殖系系のその他の障害												
XV 妊娠、分娩及び産じょく<褥>													
O00-O08	流産に終わった妊娠												
O10-O16	妊娠、分娩及び産じょく<褥>における浮腫、タンパク<蛋白>尿及び高血圧性障害												
O20-O29	主として妊娠に関連するその他の母体障害												
O30-O48	胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア並びに予想される分娩の諸問題												
O60-O75	分娩の合併症												
O80-O84	分娩												
O85-O92	主として産じょく<褥>に関連する合併症												
O94-O99	その他の産科的病態、他に分類されないもの												
XVI 周産期に発生した病態													
P00-P04	母体側要因並びに妊娠及び分娩の合併症により影響を受けた胎児及び新生児												
P05-P08	妊娠期間及び胎児発育に関連する障害												
P10-P15	出産外傷												
P20-P29	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害												

2020年度（死亡）		0～	1～9	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	合計	在院日数
P35-P39	周産期に特異的な感染症												
P50-P61	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害												
P70-P74	胎児及び新生児に特異的な一過性の内分泌障害及び代謝障害												
P75-P78	胎児及び新生児の消化器系障害												
P80-P83	胎児及び新生児の外皮及び体温調節に関連する病態												
P90-P96	周産期に発生したその他の障害												
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常													
Q00-Q07	神経系の先天奇形												
Q10-Q18	眼、耳、顔面及び頸部の先天奇形												
Q20-Q28	循環器系の先天奇形												
Q30-Q34	呼吸器系の先天奇形												
Q35-Q37	唇裂及び口蓋裂												
Q38-Q45	消化器系のその他の先天奇形												
Q50-Q56	生殖器の先天奇形												
Q60-Q64	腎尿路系の先天奇形												
Q65-Q79	筋骨格系の先天奇形及び変形												
Q80-Q89	その他の先天奇形												
Q90-Q99	染色体異常、他に分類されないもの												
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの												2	3
R00-R09	循環器系及び呼吸器系に関する症状及び徴候												
R10-R19	消化器系及び腹部に関する症状及び徴候												
R20-R23	皮膚及び皮下組織に関する症状及び徴候												
R25-R29	神経系及び筋骨格系に関する症状及び徴候												
R30-R39	腎尿路系に関する症状及び徴候												
R40-R46	認識、知覚、情緒状態及び行動に関する症状及び徴候												
R47-R49	言語及び首声に関する症状及び徴候												
R50-R69	全身症状及び徴候									1	1	2	3
R70-R79	血液検査の異常所見、診断名の記載がないもの												
R80-R82	尿検査の異常所見、診断名の記載がないもの												
R83-R89	その他の体液、検体＜材料＞及び組織の検査の異常所見、診断名の記載がないもの												
R90-R94	画像診断及び機能検査における異常所見、診断名の記載がないもの												
R95-R99	診断名不明確及び原因不明の死亡												
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響												9	128
S00-S09	頭部損傷									1	3	4	37
S10-S19	頸部損傷								1			1	58
S20-S29	胸部＜郭＞損傷												
S30-S39	腹部、下背部、腰椎及び骨盤部の損傷												
S40-S49	肩及び上腕の損傷												
S50-S59	肘及び前腕の損傷												
S60-S69	手首及び手の損傷												
S70-S79	股関節部及び大腿の損傷										2	2	23
S80-S89	膝及び下腿の損傷												
S90-S99	足首及び足の損傷												
T00-T07	多部位の損傷												
T08-T14	部位不明の体幹もしくは(四)肢の損傷又は部位不明の損傷												
T15-T19	自然開口部からの異物侵入の作用												
T20-T32	熱傷及び腐食												
T33-T35	凍傷												
T36-T50	薬物、薬剤及び生物学的製剤による中毒												
T51-T65	薬用を主としなない物質の毒作用												
T66-T78	外因のその他及び詳細不明の作用										1	1	2
T79	外傷の早期合併症												
T80-T88	外科的及び内科的ケアの合併症、他に分類されないもの										1	1	8
T90-T98	損傷、中毒及びその他の外因による影響の続発・後遺症												
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健													
Z00-Z13	検査及び診査のための保健サービスの利用者												
Z20-Z29	伝染病に関連する健康障害をきたす恐れのある者												
Z30-Z39	生殖に関連する環境下での保健サービスの利用者												
Z40-Z54	特定の処置及び保健ケアのための保健サービスの利用者												
Z55-Z65	社会経済的環境及び社会心理的環境に関連する健康障害をきたす恐れのある者												
Z70-Z76	その他の環境下での保健サービスの利用者												
Z80-Z99	家族歴、既往歴及び健康状態に影響をおよぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者												
XXII 特殊目的コード												11	156
U00-U49	原因不明の新たな疾患の暫定分類									1	10	11	156
合計						1	3	15	32	66	113	230	4,674

■がん登録【2019年】

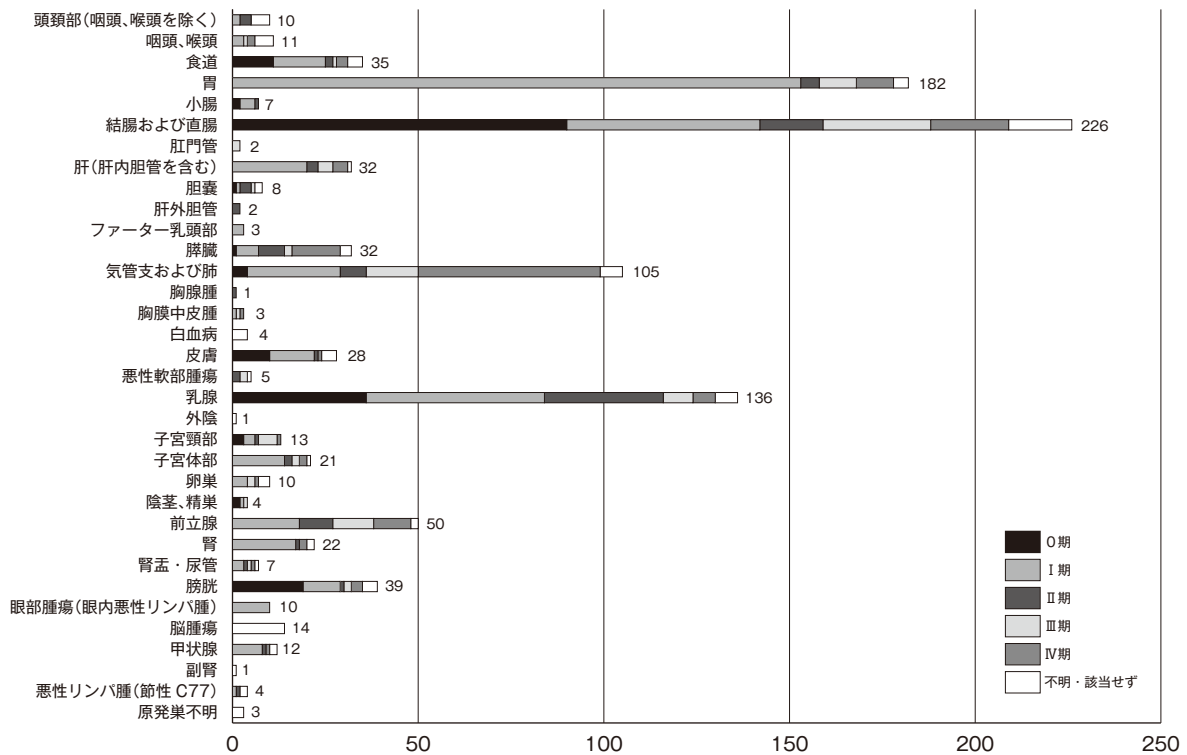
2019年1月1日～2019年12月31日診断 がん登録件数（部位別及びステージ別）

部 位	0期	I期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅳ期	不明・該当せず	合 計
頭頸部(咽頭、喉頭を除く)		2	3			5	10
咽頭、喉頭		3		1	2	5	11
食 道	11	14	2	1	3	4	35
胃		153	5	10	10	4	182
小 腸	2	4	1				7
結腸および直腸	90	52	17	29	21	17	226
肛門管				2			2
肝(肝内胆管を含む)		20	3	4	4	1	32
胆 嚢	1	1	3	1		2	8
肝外胆管			2				2
膵臓		3					3
膵 臓	1	6	7	2	13	3	32
気管支および肺	4	25	7	14	49	6	105
胸腺腫			1				1
胸膜中皮腫		1		1	1		3
白血病						4	4
皮 膚	10	12	1		1	4	28
悪性軟部腫瘍			2	2		1	5
乳 腺	36	48	32	8	6	6	136
外 陰						1	1
子宮頸部	3	3	1	5	1		13
子宮体部		14	2	2	2	1	21
卵 巣		4		2	1	3	10
陰茎、精巣	2	1		1			4
前立腺		18	9	11	10	2	50
腎		17	1		2	2	22
腎盂・尿管		3	1	1	1	1	7
膀 胱	19	10	1	2	3	4	39
眼部腫瘍(眼内悪性リンパ腫)		10					10
脳腫瘍						14	14
甲状腺		8	1		1	2	12
副 腎						1	1
悪性リンパ腫(節性C77)		1	1			2	4
原発巣不明						3	3
合 計	179	433	103	99	131	98	1,043

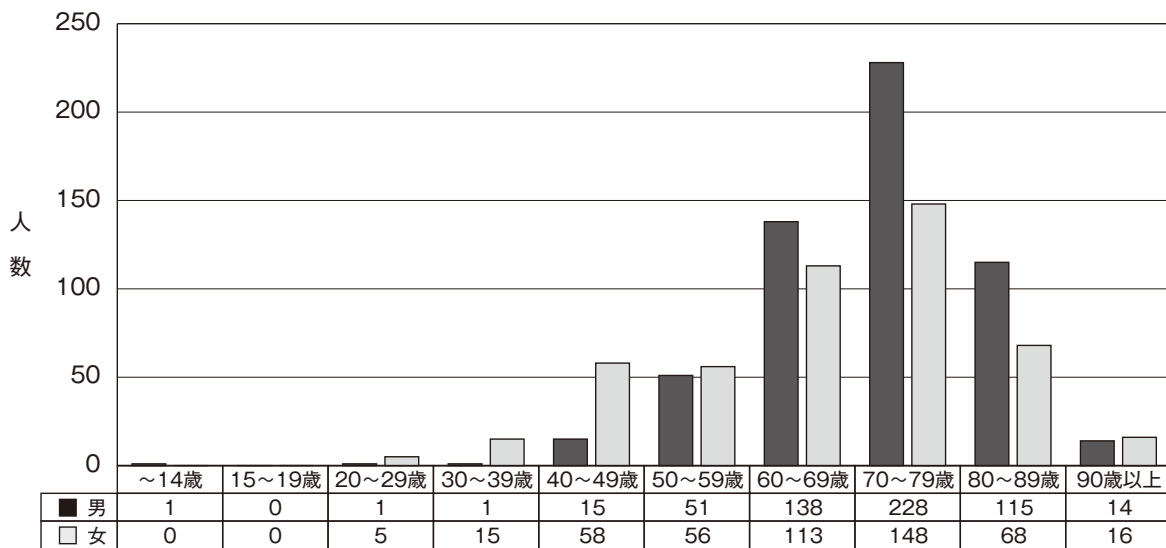
2019年診断	1位	2位	3位	4位	5位
全 体	結腸および直腸	胃	乳 腺	気管支および肺	前立腺
男 性	胃	結腸および直腸	気管支および肺	前立腺	膀 胱
女 性	乳 腺	結腸および直腸	胃	気管支および肺	子宮体部

診断年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
提出件数	687	739	774	870	954	923	1,043

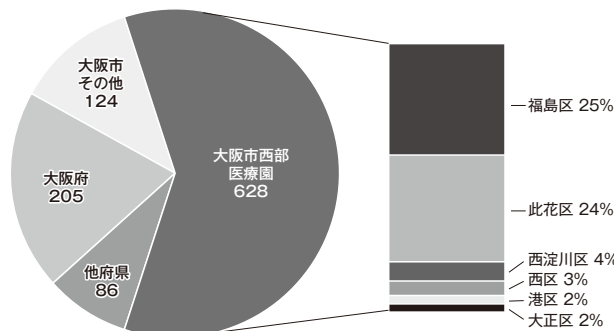
■がん登録 2019年診断 部位別ステージ別



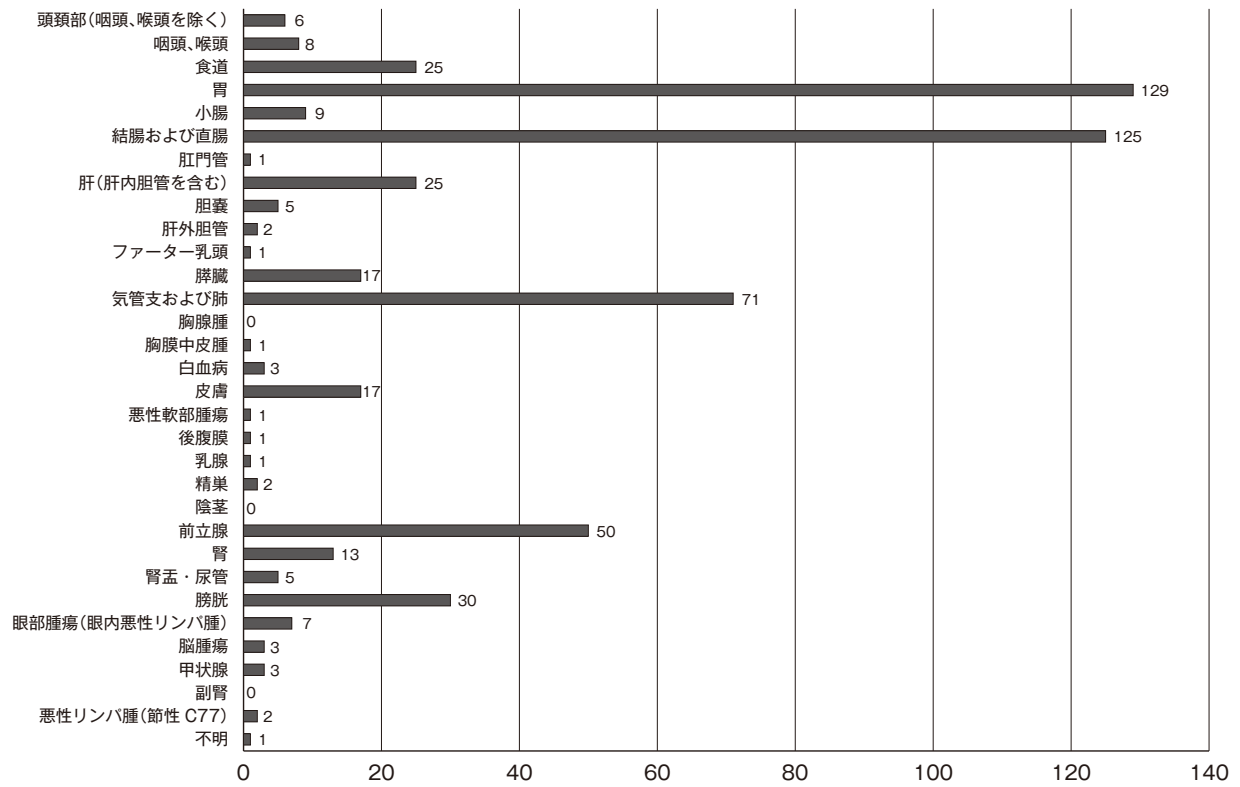
■2019年症例 年齢別 男女別



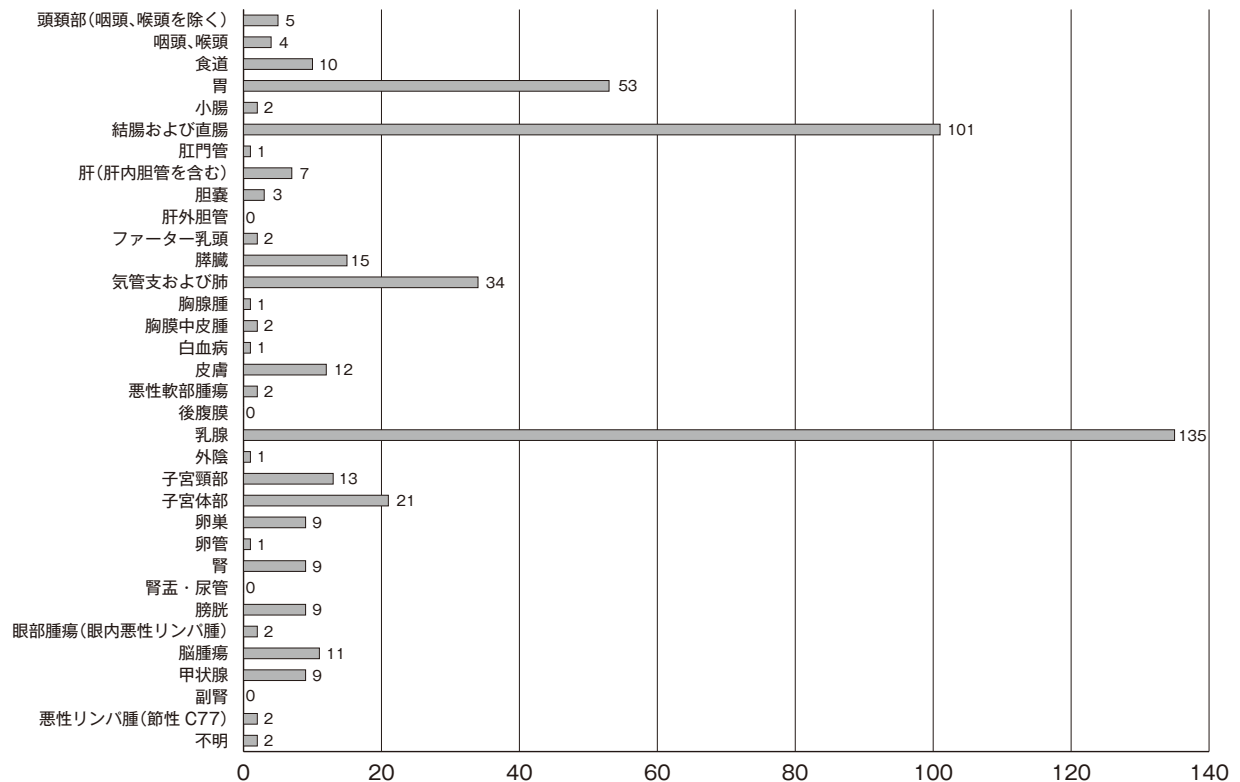
■地区別がん登録患者数



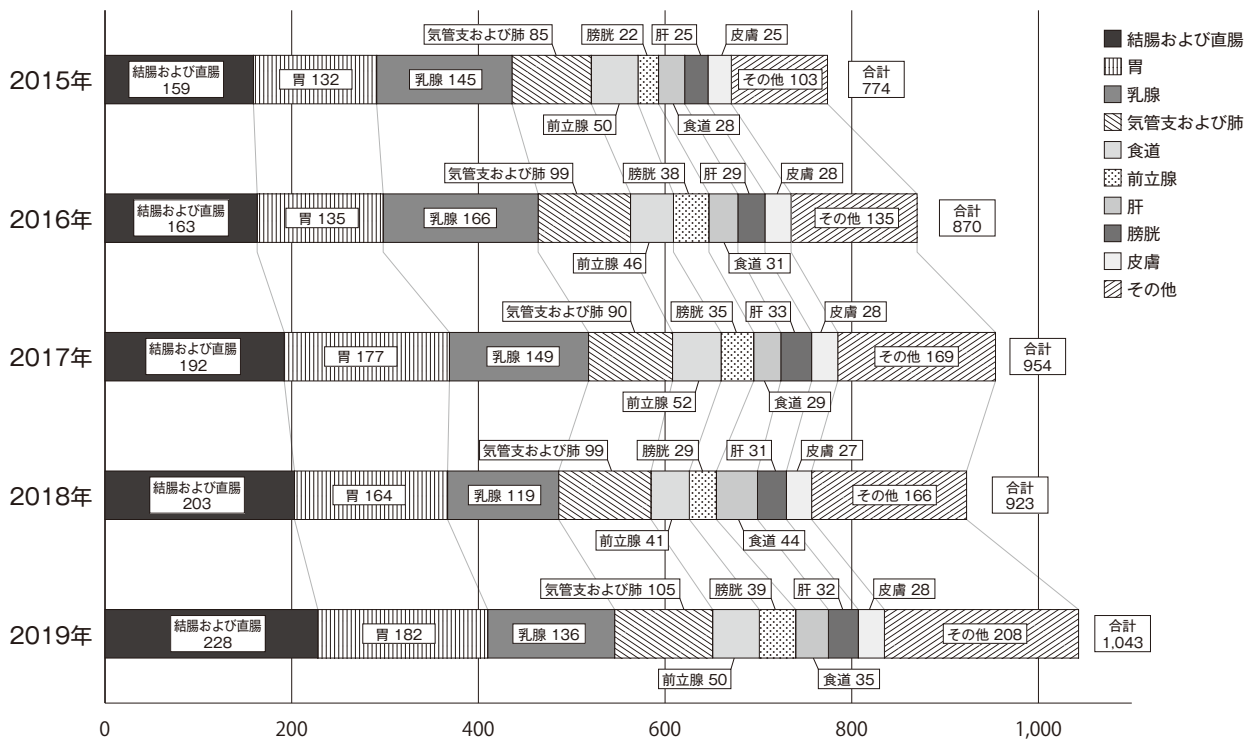
■がん登録 2019年診断 部位別(男)



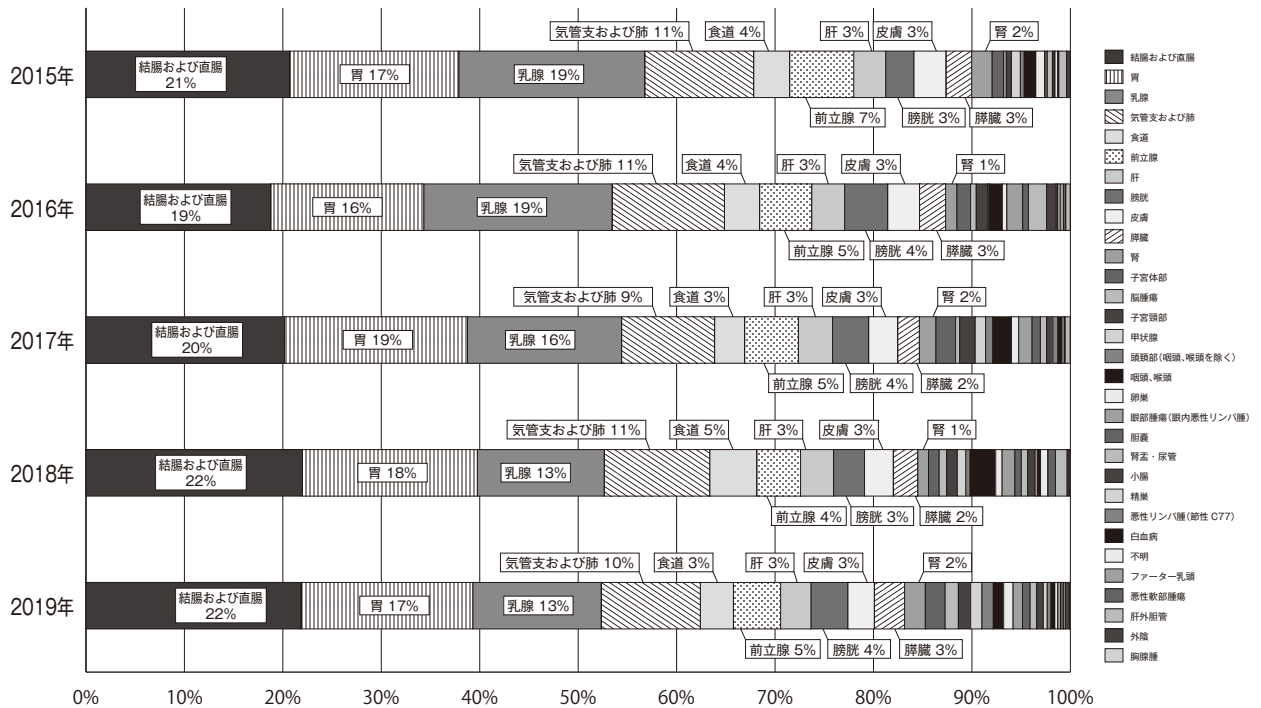
■がん登録 2019年診断 部位別(女)



■2015～2019年経年変化(実数)



■2015～2019年経年変化(割合)



部門概要

◆スタッフ欄は、令和2年3月1日現在の配置を記す。

◆スタッフ（◎部長）

（副院長）大脇 肇、（統括診療部長・主任部長）島田幸造、◎中田活也、◎西川正孝、◎坂浦博伸、◎中谷宏幸、◎北 圭介、◎轉法輪 光、池上大督、西本竜史、岡本恭典、草野雅司、杉浦 剛、中矢亮太、山田修太郎、宮村 聡、宮田佐崇、李 知香、常松俊鷹、ジョンサンヒョン

◆概 要

整形外科は最新、高度な医療を提供すべく、専門分野ごとにセンター化して診療に当たっている。すなわち、脊椎外科センター、人工関節センター、リウマチセンター、手の外科・外傷センター、スポーツ整形センター、である。大脇副院長、島田統括診療部長兼整形外科主任部長の元、大阪大学整形外科の主要関連病院として20名の整形外科医を擁し、個々の得意分野・専門分野に応じて各センターに所属し診療に当たっている。豊富な手術症例をベースにした臨床研究も盛んで国内外の学会発表や論文発表も数多く、日本整形外科学会専門医16名が4名の後期研修（整形外科専攻）医を指導する教育体制も完備している。診療、研究、教育を3つの柱として医療に貢献するのが当院整形外科のポリシーである。

◆実 績

2020年の整形外科手術件数は1,823件で2019年度よりも若干数の減少であった。特に4～5月はCOVID-19による受診抑制、若年層を中心とした外傷やスポーツ障害患者の減少の影響を受けて、例年より入院患者数、手術件数ともに減少し、結果として減益となった。それでも秋以降は予定手術、緊急手術共に増加し、最終的にはその影響は最小限となった。1日平均140人余りの外来患者（うち新患患者約15名）の診療を行い、120床の入院ベッド（11階西、12階東、12階西の3病棟）は常に90%を超える有床率を呈し、年間総入院患者数40,000人を数えている。

ただ、依然収束の兆しを見せないCOVID-19の影響により、全科的な外来患者数の減少の影響は整形外科にも及んでいる。紹介患者数を回復させ、ますます地域に根付いた整形外科診療を、さらにこれまでに築き上げた整形外科診療のブランドを維持し、大阪市内は無論、大阪府下から近畿一円、さらには全国的に高度の整形外科治療を求める患者を開拓し、そのニーズに応じていきたいと考えている。

臨床研究の業績としては、10編の英語論文を含む19編の原著論文、17回の講演を含む51回の国内・外学会発表を行った。各部門長は国内・外から講演依頼を受けるその道のトップランナーであり、今後も診療だけでなく臨床研究の面でも日本をリードするような整形外科であり続けたいと考えている。

当院研修医からは整形外科志望者も徐々に増えつつあり、その結果、当院で研修した若い整形外科医が大学を始め多くの基幹病院で活躍した後、当院の中堅スタッフとしてさらに整形外科の活力を高める、そのような好循環を通して、高度な、かつ元気な整形外科を今後も目指してゆく。

◆スタッフ（◎部長）

（副院長）大脇 肇、◎西川昌孝、◎中谷宏幸、綿谷俊介、江崎明彦、常松俊鷹

◆概 要

2020年度のリウマチセンターは整形外科の3人の常勤医師と後期研修医3人により構成されていた。大脇肇副院長、西川昌孝リウマチ科診療部長、中谷宏幸リウマチ外科担当部長の体制は昨年と同様であった。後期研修医がリウマチ研修を受けるシステムは継続された。年度終わりにリウマチ研修を受けていたのは綿谷俊介、江崎明彦、常松俊鷹であった。

◆実 績

2020年度のカルテベースでの診療患者数は、関節リウマチ（RA）と脊椎関節炎（SpA）の合計数が945人で昨年度より僅か34人増加した。新規紹介患者のうち当センターでの治療を開始した患者数は43人で昨年度の76人よりも減少した。昨年は中谷宏幸リウマチ外科担当部長の当院異動に伴う全員から当院への転院症例が多かったためである。

生物学的製剤別の継続件数は、IFX（レミケード）/ETN（エンブレル）/ADA（ヒュミラ）/GLM（シンボニー）/CZP（シムジア）/TCZ（アクテムラ）/ABT（オレンシア）/SAR（ケブザラ）の順で10/88/16/32/24/101/47/18でありアクテムラが最大の投与数となった。また同じ抗IL-6抗体のケブザラの投与数が増加していた。昨年と比較し抗TNF製剤の中ではレミケード、ヒュミラが減少し、シンボニー、シムジアが同数であった。一方、キナーゼ阻害薬の年度末投与症例数はTOF（ゼルヤンツ）16人、BARI（オルミエント）54人、PEFI（スマイラフ）1人、UPA（リンヴォック）4名となり、生物製剤に比較しキナーゼ阻害薬の増加が目立った。生物学的製剤とキナーゼ阻害薬の合計の投与率は、RAとSpAを合わせて42%であった。

リウマチグループの主たる手術対象は変形性膝関節症に対する人工膝関節置換術であるが、これについては人工関節センターの項を御覧いただきたい。リウマチグループが行っている他の手術として、足関節・足部疾患があるが、これは昨年度37例から2020年度は12例と減少した。

関節リウマチは合併症の多い疾患であり、また治療の主体が免疫抑制療法であるため、呼吸器をはじめ、多くの他科の先生方に迷惑をかけており、この場を借りてお礼を申し上げたい。

◆スタッフ（◎部長）

◎坂浦博伸、池上大督、藤森孝人、杉浦 剛

◆概 要

腰椎変性疾患（腰部脊柱管狭窄症、腰椎変性すべり症、腰椎分離（すべり）症、腰椎椎間板ヘルニアなど）、頸椎変性疾患（頸椎症性脊髄症、頸椎症性神経根症、頸椎後縦靭帯骨化症、頸椎椎間板ヘルニア、環軸椎亜脱臼など）、胸椎変性疾患（胸椎後縦靭帯骨化症、胸椎黄色靭帯骨化症、変形性胸椎症、胸椎椎間板ヘルニアなど）、脊柱変形（思春期特発性側弯症、変性（後）側弯症など）、脊椎外傷（圧迫骨折後偽関節など）、脊椎腫瘍（原発性脊椎腫瘍、転移性脊椎腫瘍）、脊髄腫瘍（髄内腫瘍を除く）、脊椎炎症性疾患（化膿性脊椎炎、リウマチ性脊椎疾患など）、透析性脊椎疾患などほぼすべての脊椎疾患を対象にしている。

治療を担当するのは4名の脊椎外科専門医を中心としたスタッフで、日本整形外科学会専門医の資格に加えて日本脊椎脊髄病学会指導医の資格も有しており、さらにBKP、XLIF、OLIF手術認定医もいる。手術室や病棟のスタッフも脊椎外科の専門的な治療、ケアに習熟しており、内科をはじめとする他科との連携を密にとることで、心臓病や糖尿病、透析等の合併疾患がある方でも安心して手術を受けていただける環境が整っている。

超高齢社会の到来や生活習慣の欧米化にともない、様々な疾患を合併した加齢による脊椎脊髄疾患に苦しまれる患者様は年々増えており、社会における脊椎外科の役割はますます大きくなっているため、脊椎疾患のみでなく患者さん全体やその背景までを含め、総合的に診る姿勢を大切にしながら、Evidence Based Medicineをベースに外科的治療を中心としたテーラーメイドの全人的医療を提供している。

◆実 績

当院脊椎外科センターではまず服薬やコルセットなどを用いた保存療法を試み、どうしても症状の改善しない方には手術治療を適応している。令和2年度の手術件数は397件で、内訳としては腰椎除圧術（従来法部分椎弓切除術、内視鏡視下手術MEL）、腰椎固定術（通常の椎弓根スクリューあるいはCBTスクリュー法による後方進入椎体間固定術、後方固定術、前方後方固定術）、腰椎椎間板摘出術（従来法、内視鏡視下手術MED）、頸椎椎弓形成術（人工骨あるいは金属プレート使用）、頸椎後方固定術（椎弓根スクリューあるいは外側塊スクリュー使用）、頸椎前方固定術（ケージ使用の椎体間固定術、自家骨+プレート使用の亜全摘前方固定術）、後側弯症矯正固定術（前方・後方2期的手術）などを行っている。また、近年低侵襲手術のひとつとして注目されているLIF（側方進入椎体間固定術）を腰椎前方後方固定術や後側弯症矯正固定術において積極的に取り入れている。さらにハイブリッド手術室内に設置されているSIEMENS社のArtis Zeegoを用いることでリアルタイムに術中CT撮影をすることができ、より正確かつ安全な手術を行うことが可能となっている。

◆スタッフ（◎部長）

◎島田幸造、◎北 圭介、◎轉法輪 光、西本竜史、草野雅司、宮村 聡

◆概 要

スポーツ医学センターは整形外科の中の一分野として、特にスポーツ傷害に苦しむアスリートたちをサポートすべく活動している。スポーツ傷害とはスポーツに特有の外傷とともに酷使される部位の慢性機能障害を含み、トッププレーヤーとして復帰させるためには高度に専門化された診療技術や設備、またそれをアシストするリハビリテーション部門が必要となる。さらにスポーツ復帰のためには単に病気や怪我を治すだけでは十分ではなく、「よく治す」ことが必要であり、そのために磨かれた技術や小侵襲手術を可能にする関節鏡などの手術器具は、スポーツ選手の復帰へのサポートだけでなく一般の患者さんの治療にも応用される。怪我をした方の社会復帰、生き活きた生活を送りたいという現代人の健康志向、それらに応え人々の健康維持に寄与するため、スポーツ医学科は日夜励んでいる。

当院スポーツ医学科は身体を支える下半身、中でもスポーツ傷害の頻度の高い膝関節を中心に下肢のスポーツ傷害を担当する「膝関節グループ」、人体中最も大きな可動域を有するため傷害頻度も高い肩関節を担当する「肩関節グループ」、道具として人が最も使うことから力だけでなく繊細な動きも要求される手指や肘関節を担当する「手・肘関節グループ」の3部門でスポーツ傷害の治療に対応している。いずれの分野においても関節鏡視下手術の技術を駆使した小侵襲手術を主体に、アスリートの傷害からの復帰に、ひいては一般の方の健康増進に貢献している。

◆実 績

2020年度手術件数

膝関節グループ：349件

(鏡視下膝十字靭帯再建、その他鏡視下靭帯再建、鏡視下半月板手術、高位脛骨骨切り、その他の関節鏡視下手術など)

肩関節グループ：135件

(鏡視下腱板修復、鏡視下バンカート修復、人工肩関節など)

手・肘関節グループ：424件

(骨折・偽関節手術、神経手術、腱・靭帯手術、離断性骨軟骨炎(肋骨移植を含む)、関節鏡視下手術など)

◆スタッフ（◎部長）

◎島田幸造、◎轉法輪 光、宮村 聡

◆概 要

手外科・外傷センターは整形外科の中の一分野として、手や肘の障害や、労災事故など外傷による上肢機能の改善・再建を主なフィールドとして診療を行っている。

手は人間にとって非常に重要な道具（運動器）であると共に、物を触って判別するセンサー（知覚器）であり、また舞踊の世界などでは指先の繊細な動きで美を表すように、整容面でも重要な役割を担っている。この人間にとって重要な道具を目的に応じて移動させ、標的に合わせる（ターゲッティング）ために、肩や腕、肘の機能もまた重要である。我々はそういった上肢の機能障害を最大限回復させ、人間にとっての大切な道具である手を最大限生かすことを目的に、診療に当たっている。

またそういった道具であるがゆえに、工作中など手は怪我にあう頻度が高いことは否めない。単に怪我や骨折を治すだけではなく、それを動かす筋肉や腱、神経を、手という精巧かつ繊細な運動器治療の専門家である我々が、その知識をフルに動員し、時には手術用顕微鏡を用いたマイクロサージャリーの技術も使って治療に当たっている。その技術は時に手だけではなく全身各所の外傷治療にも応用され、また通常の怪我、救急外傷、スポーツ傷害を含め、多岐にわたる運動器の外傷・傷害治療に専門的に当たっているのが、我々手外科・外傷センター部門である。

◆実 績

2020年度手術件数

手外科・外傷センター：424件

(骨折・偽関節手術、神経手術、腱・靭帯手術、離断性骨軟骨炎(肋骨移植を含む)、関節鏡視下手術)

◆スタッフ（◎部長）

◎中田活也、◎西川昌孝、中谷宏幸、岡本泰典、中矢亮太、（副院長）大脇 肇

◆概 要

2015年4月に当人工関節センターが開設されました。手術室にはクリーンルームが4室設置され、よりスムーズに患者様を受け入れられる体制を構築しています。変性関節疾患のみならず大腿骨頸部骨折や人工関節周囲骨折などの救急患者様も積極的に受け入れております。ご紹介元の医療機関や患者様によりご満足していただけるために、迅速かつ安全で精度の高い治療を施せるよう対応させていただいております。

当センターでは早期社会復帰と動作制限のない人工関節置換術を目指しており、多くの新技術（MIS、3次元手術計画、手術ナビゲーション、3Dプリンター技術、症例個別の実物大骨モデル）を取り入れています。これらの新技術を駆使し、計画・作成・手術まで当センター内で実施できる自己完結型の本格的な人工関節センターです。

◆実 績（2020年度）：計499件

人工股関節置換術：272件

人工膝関節置換術：179件

大腿骨頸部骨折・人工関節周囲骨折：48件

◆スタッフ（◎部長）

◎波多祐紀、北原和子、横井 恵、竹村文吾、榎 由華子、北中涼太郎

◆概 要

形成外科領域専門医資格・皮膚腫瘍外科専門医資格・再建マイクロサージャリー分野指導医資格を含む人員で高度な医療を提供する。また、診療科としては以下の認定を得ている。

- ・形成外科学会認定施設
- ・下肢静脈瘤血管内焼灼術実施認定施設
- ・乳房再建用エキスパンダー及びインプラント実施認定施設

◆実 績

2020年（令和2年）の臨床活動の概要は下表の通りである。

集計期間 2020年1月1日～2020年12月31日

	入 院	外 来	計
全身麻酔での手技数	73		73
腰麻・伝達麻酔での手技数	10	2	12
局所麻酔・その他での手技数	86	140	226

疾患大分類手技数	入 院			外 来			計
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	
外傷	8		2			2	12
先天異常	3		3				6
腫瘍	35	2	39		2	132	210
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	3		2			4	9
難治性潰瘍	19	6	8			1	34
炎症・変性疾患	2	2	12			1	17
美容(手術)	2						2
その他	1		20				21

◆スタッフ (◎部長)

◎二宮晴夫、前田 香、丸本明彬：(技師長) 濱田浩志、他理学療法士26名、作業療法士7名、言語聴覚士1名、義肢装具士2名、健康運動指導士1名、事務員2名

◆概要

リハビリテーション科専任医師3名 [専門医2名 (内、指導医1名)]、理学療法士27名 [内、育児短時間勤務2名、育児休業中1名]、作業療法士7名 [内、育児休業中1名]、言語聴覚士1名、義肢装具士2名、健康運動指導士1名、クラーク2名。

セラピスト：心臓リハビリテーション指導士5名、3学会合同呼吸療法認定士12名、がんのリハビリテーション研修修了27名、サルコペニア・フレイル指導士2名、日本理学療法士協会認定理学療法士18名 (循環4名、運動器8名、脳卒中4名、呼吸1名、管理・運営1名)、日本作業療法士協会認定作業療法士2名。

◆実績

■リハビリテーション科/室

① 新規オーダー件数(件) PT、OT、ST合計

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数	267	242	321	308	290	327	324	332	321	380	317	415	3,844

② 疾患別件数(件) PT、OT、ST合計

疾患別	運動器リハ	脳血管リハ	がんリハ	心大血管リハ	呼吸器リハ	廃用症候群リハ	合計
件数	1,436	942	468	342	125	531	3,844

③ 実施単位数(単位)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
PT	8,185	6,960	8,698	9,059	8,613	8,573	9,107	8,128	8,531	8,228	7,807	10,034	101,983
OT	1,645	1,222	1,735	2,166	2,140	2,108	2,350	2,188	2,396	2,182	2,092	2,735	24,959
ST	173	171	87	235	267	202	110	228	282	199	146	402	2,502

④ 心リハ外来(単位)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
単 位	54	0	104	161	5	104	178	158	156	125	159	207	1,411

⑤ がんリハ(単位数・対象実人数)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
単 位	910	1,039	994	839	824	671	940	1063	1106	643	915	1,197	11,141
実人数	51	55	49	43	40	42	55	66	55	59	62	72	649

⑤ 退院時リハビリテーション指導料(件数)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数	200	188	172	219	187	197	206	209	227	182	196	253	2,436

■義肢装具室

院内依頼総件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数	131	108	160	183	150	162	158	169	133	124	147	185	1,810

■健康運動指導士

運動指導等(延べ総件数)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数	21	23	36	26	30	35	44	44	40	47	52	70	468

◆スタッフ（◎部長）

（院長）西田俊朗、（副院長）畑中信良、◎森本修邦、◎井出義人、◎出村公一、村上剛平、大澤日出樹、大橋朋史、米田和弘、吉田眞之

◆概要・実績

＜消化器外科全般＞

2020年の消化器外科の手術件数は635件、そのうち全身麻酔症例は566件であった。大阪府がん診療拠点病院として、食道癌8、胃癌40、大腸癌124、肝癌21、膵癌14例の手術を施行した。また放射線治療、化学療法、終末期の緩和ケアも多数担っており、消化器癌の治療に関しては、手術だけでなく、早期がんから緩和ケアまで悪性疾患のあらゆる段階での治療に対応した。

また、救急外来に搬送された急性腹症にもオンコール体制で対応し、消化管穿孔、腸管虚血、腸閉塞、急性胆嚢炎、急性虫垂炎などの手術を施行した。良性疾患については虫垂切除術53、腹膜炎手術56、胆嚢摘出術113、ヘルニア85例などを行った。

近年の外科手術のなかで内視鏡手術の占める割合は増加し続けており、当院でも2020年は459件で全身麻酔手術の81%を占めた。今後さらに増加することが予想される。

＜上部消化管＞

食道癌、胃癌、胃GIST（粘膜下腫瘍）、胃十二指腸潰瘍穿孔が主な治療の対象になる。上部消化管は4月にスタッフの交代があり、担当部長；出村公一、医長；村上剛平、の2名のスタッフの担当となった。心肺有合併症例、高齢者の手術が増加するなか、質の高い医療を目指し積極的に診療に臨んだ。

食道癌：本年は8例の手術症例を経験した。うち胸部食道癌に対する根治術は4例であり、全例を腹腔鏡下に行った（一部は大阪大学山崎誠准教授を招聘し、指導を仰いだ）。食道癌は他の消化器癌と異なり、放射線療法、化学療法の効果が期待できるので、手術と組み合わせた集学的治療により、治療成績のさらなる向上を図ることができる。本年も消化器内科、放射線科、などと連携した非切除症例の治療も数多く担当した。

胃 癌：本年度の胃癌手術症例は40例であり、年々減少している。近年、内視鏡治療の適応拡大、HP感染率の減少に伴い、外科手術数は減少しているが、出村部長の赴任により、腹腔鏡下手術率の上昇は顕著であり、2020年は約7割が腹腔鏡下に行われた。腹腔鏡下手術は今後も増加が予想される。当科は大阪大学消化器外科分科会などの治験に多く参加するとともに、大阪大学消化器外科先進化学療法開発部とそれぞれの症例を検討させて頂いている。胃癌、食道癌にたいする新規抗がん剤であるNivolumabは広く用いられるようになったが、進行癌においては術前後の化学療法と手術の組み合わせが必須であり、今後の課題でもある。

＜下部消化管＞

大腸癌、大腸癌イレウス、憩室穿孔腹膜炎、GISTが主たる治療の対象となる。下部消化管は担当部長；井出義人、医長；大澤日出樹の2名が担当した。

大腸癌は本年男女合わせると死亡率は癌の中で一番高く、今後は更に患者数が増加することが予想され

る。当院では腸閉塞を来すような進行癌症例に加え、ESD 後の追加切除も多く行われている。

手術は大部分が腹腔鏡手術で行われ、minimal invasive surgery の典型的なものとなっている。2020年は結腸癌切除65例、そのうち腹腔鏡手術は62例（腹腔鏡手術割合91%）、直腸癌手術19例、そのうち腹腔鏡手術は18例（腹腔鏡手術割合95%）であった。上部消化管と比較すると腹腔鏡手術の割合は高かった。また、虫垂炎手術は全例腹腔鏡下に行われた。

術後補助化学療法は、UFT/LV、Xelodaといった経口抗がん剤とともにmFOLFOXを選択してきたが、最近はより簡便なXeloxに移行している。Stage IV症例を含めた進行再発大腸癌に対してはmFOLFOX、XELOX、FOLFIRI、IRISに、分子標的薬アバスチン、アービタックス、ベクティビックスを併用した、多剤併用療法を行っている。

<肝胆膵外科>

2020年4月に森本修邦担当部長が着任し、大橋医長と2名で担当した。

胆石症、胆嚢炎、肝嚢胞、膵嚢胞、脾腫などの良性疾患から肝臓癌、胆道癌、膵臓癌などの悪性疾患までさまざまな疾患に対応して診療を行った。診断、治療方針の決定については消化器内科、放射線診断科と定期的に症例検討会を行い、密に連携をとることにより安全かつ良質な医療を提供することを心掛けた。

悪性疾患に関しては癌の進行度と患者様の耐術能を総合的に評価した上で、手術・化学療法（抗がん剤）・放射線治療を組み合わせた集学的治療によって治療成績の向上に努めた。また、他診療科医師、がん看護師、薬剤師、理学療法士、栄養士などの多職種で連携し、患者様にとって常にベストの医療を選択出来るように心掛けた。手術方法に関しては根治を目指した拡大手術から、安全性、根治性を検討しながら腹腔鏡下肝切除・膵切除などの低侵襲手術までさまざまな手術が行われた。

良性疾患に関しては、低侵襲で整容性に優れた腹腔鏡手術を積極的に行った。特に急性胆嚢炎にする治療方針は「急性胆管炎、胆嚢炎診療ガイドライン（Tokyo Guideline 2018（TG18）」に準じて早期手術を行う方針を遵守した。

肝胆膵外科の2020年の手術実績は以下のとおり。

悪性疾患：61例（高難度手術症例：27例）

肝 癌：21例（高難度手術：5例、腹腔鏡下手術：16例）、区域切除以上：5例、部分切除：14例

膵 癌：14例（高難度手術：10例）膵頭十二指腸切除術：6例、体尾部切除術：4例など

胆 道 癌：6例（高難度手術：2例）膵頭十二指腸切除術：1例、腹腔鏡下胆摘：4例

良性疾患：113例（腹腔鏡下胆摘：111例、開腹胆摘：2例など）

<一般外科、その他>

そのほかにヘルニア手術を85例（うち腹腔鏡手術74例）、婦人科を中心に他科応援手術を多数行った。

◆スタッフ（◎部長）

◎岩崎輝夫：（外科レジデント）米田和弘、吉田眞之

◆概 要

外科チームの一つとして、呼吸器（肺・縦隔）領域の外科疾患に対して手術治療を中心に診療を行っている。毎週、呼吸器内科と合同で呼吸器合同カンファレンスを開催している。多彩な呼吸器疾患に対して、診断や治療方針などを検討している。特に、肺がんに関しては治療方針の決定と共に、術前治療や術後補助化学療法、更に再発症例に対する化学療法（分子標的治療を含む）や放射線治療に関しても検討しており、集学的治療が円滑に行われるように努めている。個々の肺がん患者さんに関して診断から治療、そして再発時に至るまで外科と内科で情報共有できる体制をとっている。

原発性肺がんに対する手術は胸腔鏡補助（併用）下手術を基本としている。外科専門医を目指す後期研修医には、気胸、転移性肺腫瘍や一部の縦隔腫瘍に対する手術の術者が経験できるように指導している。

大阪大学呼吸器外科診療連携施設の一つとして多施設共同臨床研究にも積極的に参加している。

◆実 績

2020年全身麻酔下手術総数は40例で内訳は以下の通りである。

原発性悪性肺腫瘍：25例（部分切除 6例、葉切除 18例、試験開胸 1例）

気胸：6例（原発性 4例、続発性 2例）

転移性肺腫瘍：1例（大腸 1例）

縦隔腫瘍：2例（先天性嚢胞 1例、転移性縦隔腫瘍 1例）

その他の全身麻酔下手術 4例、全身麻酔下生検 2例

手術死亡および在院死亡は無かった。

◆スタッフ（◎部長）

◎塚本文音、岡田公美子、北原友梨、南 有紀

◆概 要

スタッフの体制は部長1名、医長1名、専攻医2名。診療内容は乳腺・甲状腺疾患の診断、手術、薬物療法。終末期医療にも対応。がん救急においても、内科、循環器科、整形外科、脳神経外科等との連携により迅速な対応が可能。Weekdayはすべての曜日で当科医師による初診と再診の外来を行っている。また、初診は予約枠を設けているが、他医療機関からの紹介がない場合も受け入れている。

確定診断が難しい微小乳癌や非触知乳癌が、当科では乳房専用の吸引式組織生検システムにより診断可能。

乳房再建用エキスパンダー/インプラント実施施設認定であり、乳癌の手術と同時に人工物あるいは自家組織による一期的乳房再建が可能。

遺伝性乳癌卵巣癌症候群（HBOC）の診療：BRCA病的バリエーションを保持する原発性乳がん患者に対するカウンセリングやリスク低減手術に対応。

がん患者さんに対するアピアランスケア：乳がん患者生活コーディネーター（抗がん剤、放射線治療の経験者）による、抗がん剤、ホルモン剤、放射線療法などの治療を行う際のメイク、下着、かつらや、その他生活全般に関する疑問、悩みに関する相談をお受けする場を設けています。

将来の出産を希望されている患者さんには、当院の産婦人科の「生殖医療の専門医」を紹介するサポート体制あり。

◆実 績

乳癌手術	109例
乳腺良性病変に対する手術	16例
甲状腺癌に対する手術	4例
甲状腺良性病変に対する手術	5例
その他	16例

◆スタッフ（◎部長）

◎北林克清、◎丸本明彬、田中健史

◆概 要

JCHO大阪病院心臓血管外科では、2015年の新病院移転時に開設されたハイブリッド手術室の機能を活かし、大動脈疾患に対するステントグラフト内挿術などの低侵襲手術を積極的に行って来ました。これに加えて2019年4月より大阪市西部地区では唯一の経カテーテル的大動脈弁置換術の実施施設認定を取得しました。ハートチームとして循環器内科との連携が継続されており、コロナ禍で外来患者数、他院からの紹介患者数が減少する中、引き続き開心術症例数が増加しています。

その他の弁膜症や冠動脈疾患についても、低侵襲心臓手術（MICS）を積極的に取り入れるなど、今後ともそれぞれの患者様に最適な治療を行えるよう、また安定した手術成績を残せるよう引き続き努力を続けていきたいと考えております。

◆実 績

2020年（1月1日～12月31日）

手術総数 142例

開心術数 85例（冠動脈 13例、弁膜症 44例、胸部大動脈 25例、その他 3例、重複なし）

◆スタッフ（◎部長）

◎岩本文徳、◎山際啓典、呉村有紀

◆概要

当科は昭和43年5月に開設された伝統ある科です。開設以来、市内はもとより近隣市より患者さんを紹介していただき、治療に携わってきました。通常の脳神経外科診療以外に、脳疾患救急・脳卒中センター・脳ドックを担当しています。3人のスタッフで診療指針を尊重し治療をおこなっています。脳卒中センターは24時間365日体制で神経内科と協力して運営しています。

当科では低侵襲手術をモットーに治療法を選択しています。

医療技術の進歩も積極的に取り入れ、開頭手術だけでなく、内視鏡手術や定位放射線治療、血管内治療（カテーテルによる治療）にも積極的に取り組んでおり、患者さんの立場に立った医療を心掛けています。脳血管内治療では、脳動脈瘤に対してのコイル塞栓術、脳動静脈奇形や硬膜動静脈瘻に対しての塞栓術、内頸動脈狭窄症に対してのステント留置術など幅広く行っています。

超急性期脳卒中においてはtPA治療は当然のこととして、経皮的血栓除去術に力を入れており、Penumbra 3MAX、5MAXを始めとした吸引システムを用いた治療法からSolitaire、Trepoなど新しいデバイスの整備を果たし、tPA症例数、経皮的血栓除去術症例数ともに増加しており、去年は経皮的血栓回収術は16例に達しております。手技が確立され、再開通に要する時間が短縮されるに従い、適応血管も拡大し、Golden timeは徐々に延長し、発症後、24時間以内であれば血栓回収の適応を検討しています。対象症例があれば、是非ともご紹介ください。脳腫瘍においてはナビゲーションシステムを用いた精度の高い治療を心掛けており、傍トルコ鞍部腫瘍に対しては内視鏡手術を導入し、専門的スタッフの協力、最新の機器、物品の整備を行い、着実に症例数を増やしつつあります。悪性神経膠腫を始めとした悪性脳腫瘍の治療に関しては、新WHO脳腫瘍分類が改訂され、形態学的な病理診断学に加えて、分子診断がルーチン化される時代の到来が論じられており、当院でも関西中枢神経腫瘍分子診断ネットワークに加わり、グリオーマにおける化学療法感受性の遺伝子指標の検索とそれに基づくテーラーメイド治療法の作成に関する臨床試験に参加し、充実した治療体制を構築しております。更に手術療法、化学療法、放射線療法に次ぐ、新しい治療として交流電場を用いた電場療法を導入しています。

◆実績

入院患者総数 延べ約9,622名（令和2年4月1日～令和3年3月31日）

【脳腫瘍・脊髄腫瘍】

転移性脳腫瘍、神経膠腫、髄膜腫、下垂体腺腫、悪性リンパ腫、神経鞘腫、脊髄髄膜腫

【脳血管障害】

高血圧性脳内出血、くも膜下出血、脳動脈瘤破裂・未破裂脳動脈瘤（クリッピング術、コイル塞栓術）、脳動静脈奇形、硬膜動静脈瘻、もやもや病、脳梗塞（tPA静注療法、機械的血栓回収療法）、頸動脈狭窄症（CEA、ステント留置術）、バイパス術

【頭部外傷】

急性硬膜下血腫、急性硬膜外出血、外傷性脳内出血、外傷性くも膜下出血、慢性硬膜下血腫

【水頭症】

二次性水頭症、特発性水頭症

【感染症・その他】

脳膿瘍、シャント感染、術後頭蓋骨欠損

令和2年度手術件数：167例

◆スタッフ（◎部長）

◎畑崎聖弘、三田 梓、外川有里、中嶋玲那、是松望美、上田彩加、梶本侑希

◆概要

当科では糖尿病を代表とする代謝疾患、ならびに、内分泌疾患の診断と治療を行います。

近年、ホルモン測定法と画像診断の進歩により、内分泌疾患の診療は、より正確で負担が少ないものへと発展してきました。当科では、ホルモンの過不足を評価して適切な治療法を選択し、患者さんの生活の質を高めることを目指しています。

一方、糖尿病治療では、UKPDSなどの大規模臨床試験の結果からLegacy effect（遺産効果）と言われるように、糖尿病に合併する冠動脈疾患などの進展抑制に対して糖尿病発症早期からの血糖コントロールの重要性が指摘されております。当院では強化インスリン療法による糖毒性の解除を積極的に行っており、入院中に一時的にインスリン治療を行ったのち患者さん個々にとってベストな治療を模索し、外来で良好なコントロールを維持するよう努力しております。

さらに、1型糖尿病の患者さんを対象に最新のインスリンポンプを用いたCSⅡを行っており、幅広い患者さんに対応しております。また、持続血糖モニターシステム（CGM）を導入し、患者さんのよりよい血糖コントロールに役立っています。外来でのCGM検査も行っております。

昨年度は、コロナウィルスの感染拡大により、以前から行っていた外来糖尿病教室ができなくなったため、ZOOMによる、外来糖尿病教室を開始いたしました。

◆実績

主要内分泌疾患患者実数（令和2年4月1日～令和3年3月31日）

【甲状腺】

バセドウ病：198、橋本病（慢性甲状腺炎）：263、甲状腺クリーゼ：3

【副甲状腺】

副甲状腺機能亢進症：230、原発性副甲状腺機能低下症：1

【下垂体】

汎下垂体機能低下症：17、リンパ球性下垂体炎：2、成長ホルモン分泌不全症：7、尿崩症：11

【副腎】

原発性アルドステロン症：63、クッシング症候群：13、褐色細胞腫：16、副腎クリーゼ：4

【性腺】

性腺機能低下症：10、ターナー症候群：3

【糖尿病】

1型糖尿病：136、2型糖尿病：2,862

◆学会発表等

第63回日本糖尿病学会年次学術集会 2020年10月5日から10月16日 web

1. インスリン感受性低下を呈した無セルロプラスミン血症に伴う糖尿病の一例

上田彩加（独立行政法人地域医療推進機構大阪病院 内科）、中嶋玲那、是松望美、白木 梓、出口有近、畑崎聖弘、貫野知代、巽 信之、伊藤 敏文

第57回糖尿病学会近畿地方会 2020年10月17日から10月31日 web

2. インスリン感受性低下を呈した無セルロプラスミン血症に伴う糖尿病の一例

上田彩加（地域医療機能推進機構大阪病院 内科）、中嶋玲那、梶本侑希、是松望美、外川有里、三田 梓、出口有近、畑崎聖弘

3. 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行により血糖コントロール悪化を認めた一例

大萩麻衣（地域医療機能推進機構 内科）、三田 梓、上田彩加、梶本侑希、是松望美、中嶋玲那、外川有里、畑崎聖弘

◆スタッフ（◎部長）

◎鈴木 朗、青木克憲、岩橋恵理子、山口 慧、後期研修医：宮川博光、川野祐暉、西垣内俊也、玉井那実

◆概 要

検尿異常、ネフローゼ症候群、あるいは急激な腎機能低下で発見される腎疾患について、腎生検にて診断し治療を行っております。小児期発症のネフローゼ症候群に対しては積極的にリツキシマブを使用し、ステロイドを減量し副作用を抑えつつ良好な治療成績をあげております。慢性腎臓病については、透析導入回避を目指して、最新の知見に基づいた薬物療法、食事療法を実践しております。末期腎不全に至った例は、療法選択外来を受けていただき各人の生活スタイルに合わせた最適な腎代替療法を提案させていただきます。維持血液透析、維持腹膜透析例も管理しており、総合病院であるメリットを生かし合併症を早期に発見することにより透析患者さんの生命予後改善を目指しております。血液透析患者の内シャント狭窄に対するPTAや、ブラッドアクセス作成困難例に対するパーマネントカテーテル留置も行っております。

◆実 績

1) 外来診療

2020年に診療した患者数はのべ8,834例でした。（2019年 8,458例、2018年 8,316例）

2) 入院診療

新型コロナウイルス感染症の影響を受けて入院症例数は概ね減少しました。2020年の入院患者数は383例（2019年 395例、2018年 385例）であり、腎生検22例（2019年 32例、2018年 40例）、血液透析導入37例（2019年 39例、2018年 39例）でした。腎生検診断の内訳は下記の通りでした。

lgA腎症	8
間質性腎炎	5
膜性増殖性糸球体腎炎	2
微小変化型ネフローゼ症候群	2
ANCA関連血管炎	1
糖尿病性腎症	1
溶連菌感染後急性腎炎	1
アミロイドーシス	1
良性腎硬化症	1

3) 血液浄化センター

当院は血液透析導入を主たる機能とする急性期病院ですが、維持血液透析患者13名、腹膜透析患者3名も管理されています。2020年の各療法実施件数は以下の通りでした。

HD	2991	▲229
online HDF	2032	▲234
PE(血漿交換)	6	▲35
DFPP	0	▲3
LDLアフェレーシス	8	▲17
GCAP(顆粒球吸着)	20	△5
ICUにおける血液浄化	87	▲83

◆スタッフ（◎部長）

◎田中陽子、田子謙太郎、馬場希一郎

◆概要

現在スタッフ3名（男性2名、女性1名）。11階東病棟。前年度に比べ2名減となり、業務を一部縮小させていただきました。

対応可能疾患：

肺癌、気管支喘息、COPD、肺炎・胸膜炎、肺結核（外来対応のみ）、非結核性肺抗酸菌症、自然気胸、胸水、各種間質性肺疾患、サルコイドーシス、睡眠時無呼吸症候群、在宅酸素導入、ARDSなど。

実施可能な検査：

気管支鏡（超音波気管支鏡を含む）、CTガイド下生検、エコーガイド下生検、局所麻酔下胸腔鏡、肺機能検査、呼吸抵抗検査、呼気NO検査、PSG検査。

◆実績

主な入院：2020年度合計：498例

肺癌：250例

肺炎：50例

間質性肺炎：37例

気胸：19例

呼吸不全（含COPD急性増悪）：23例

コロナ後呼吸不全：8例

中皮腫：2例

気管支鏡検査：110件

うちEBUS-TBNA：11件

気管支内異物除去：1件

局所麻酔下胸腔鏡検査：7件

CTガイド下肺生検：3件

◆スタッフ（◎部長）

◎長田 学

◆概 要

感染症はどの臓器にも発生する疾患なので、臓器に関係なく、横断的に各診療科と連携を取りながら診療している。院内では各診療科からコンサルテーションを受けて主治医の先生と共に感染症患者の診療に当たっている。血液培養陽性例のチェック、特定抗菌薬（広域抗菌薬、抗MRSA薬、抗真菌薬）の管理も行っている。

また院内感染予防対策委員、ICT（感染対策チーム）の委員長として、看護師、検査技師、薬剤師、事務職員と共に、院内の耐性菌の発生・伝播の抑制、医療関連感染症（院内感染）の抑制、予防接種などの業務も行っている。

研修医に対する感染症教育（レクチャー、グラム染色の実習など）にも力を入れている。

◆実 績

1. 院内コンサルテーション

2020年度は各診療科から診断、抗菌薬の選択、培養結果の解釈、治療期間等について、延べ496件のコンサルテーションを受けて対応した。新型コロナウイルス感染症の流行で全体の入院・外来患者数は減少したが、新型コロナウイルス感染症に対する診断・隔離・感染対策絡みの相談の増加により、昨年度より件数は微増している。

2. 血液培養陽性例への介入

血液培養が陽性になったら、細菌検査室より電話で連絡を受け、カルテの内容、検査、画像等から問題があると判断した時は主治医または担当医に連絡し、治療方針について協議し、重要症例については主治医の許可を得て診察をし、必要があればその後も定期的にフォローした。632件の陽性例があり、その1/3程度について介入を行った。

3. 特定抗菌薬許可制

2002年（平成14年）3月より導入された制度で、広域抗菌薬、抗MRSA薬、抗真菌薬のような特殊な耐性菌や真菌に有効な抗菌薬を使用する時は事前に許可が必要である。担当医からの情報で適応の有無を判断し、許可する。その後の臨床経過、培養結果を参考にして、狭域抗菌薬への変更（De-escalation）が可能であれば、担当医と協議する。2020年度は938件の使用許可の申請があった。

◆スタッフ（◎部長）

◎（副院長）伊藤敏文、◎巽 信之、◎山本克己、日山智史、石見亜矢、武田梨里、徳田有記、澤村真理子、中村弘樹、三浦勇人、岡部 悟、山崎春香、杉丘裕基、上蘭康平

◆概要

- 消化器内科領域の指導医・専門医としての、診療活動と診療指導を行い、外来・病棟・内視鏡センター・超音波検査・手術・処置、周術期管理を含めた診療や医療行為の安全かつ、円滑な運営を図るよう努めている。
- 肝疾患領域では、今後も抗ウイルス療法の導入を行い、ウイルス性慢性肝疾患の治療の必要性の周知を医療関係者を含めた衆人への周知・徹底に努め、院内におけるウイルス性肝疾患の見落としを未然に防止する方策の取組を続けている。また、非ウイルス性肝疾患の診断と治療も行い、栄養管理も含めた慢性肝疾患の診断・治療を行っている。
- 膵疾患領域においては、近隣に専門医が少なく、紹介患者数も多く、慢性膵疾患の症例集積がさらに増加し、急性膵炎の紹介を含む受診者も増加している。
- 消化管疾患においては、食道胃酸逆流症や機能性胃腸症、ヘリコバクターピロリ感染症についても地域への情報発信を行っている。加えて、ダブルバルーン内視鏡検査やカプセル内視鏡検査も導入し、小腸領域を含めた潰瘍性大腸炎やクローン病等の炎症性腸疾患の適切な診療・治療（新規薬剤の開発治験の参加も有り）に積極的に取り組んでいる。
- 癌診療領域においても、肝胆膵系と消化管系の癌に対して、早期診断と治療に取り組み、積極的に内視鏡治療や超音波器機を用いた低侵襲癌治療を推進している。また、緩和医療も考慮した終末期医療についても取り組み、また、癌登録も的確に行っている。院内のキャンサーボードとして、消化管・肝・胆膵のカンファレンスを定期開催し、消化器内科・外科・放射線診断科・病理科等が協力し適切な治療計画の立案と実行、加えて治療後の評価を行っている。
- 病診・病病連携を深めるため、積極的に院内外で講演活動を行い、新規患者の紹介数の増加に取り組んでいる。
- 地域連携を推進するために、本院主催での研究会を行っている。加えて、地域医師会や医療機関と協力し、地域連携を目的とした研究会を開催し、よりよい情報提供を企画し、地域医療機関との連携を更に深めるため、本院からの情報発信に取り組み、地域医療機関向けの研究会を立ち上げ、開催し、今後の企画を進めている。
- 患者教育・疾患啓発のために、消化器病懇話会の定期的な開催を継続的に行うとともに、地域医師会と医療機関と連携して市民公開講座を定期的に行っている（ただし、現在COVID-19の為、やむなく開催を見送り、再開の機会をはかっている）。
- 臨床医としての基盤の形成に努め、良質な臨床研究を行い、医療の倫理を自覚すると共に、医療の質の向上を担保した病院としての立ち位置を地域に発信していきたい。常に、臨床研究的な視点を持つことにより、医療の質とその安全性を意識し、各職種との協力により、患者さん中心の診療となるよう努力し教育したい。このことは、医師としての全人教育を行うことになると考えている。
- 消化器内科として、診療の質向上に努め、病院運営に貢献できるように努めている。適切な教育・指導により人材確保と養成を行いたく考えている。この点を円滑に行うために、大阪大学との協力関係を維持し、良好な関係の構築の維持に努めると共に、地域医療機関と協力し、地域としての医療向上を目指し、また、地域住民への医療の啓蒙を行い、診断治療のみならず、一歩進んだ予防医療の構築に貢献出来るように心がけている。

◆実績

- 消化器内科領域の指導医・専門医としての、診療活動と診療指導を行い、消化器内科医師及び各スタッフの協力により、近隣から救急搬送を含む依頼を断ること無く対応し、緊急入院の600有余名を含む、昨年度は新入院患者総数約2,300名の入院を担当している。また、内視鏡センターにおける内視鏡検査と手術件数は、昨年度はコロナパンデミックの影響も有り、やや件数は減少したものの、軽微な減少にとどめることができた。
- 内科系各診療科と協力し、内科系の医療の質向上にも努めている。
- 各職種と連携して、医療・看護教育活動も定期的に開催し、また、他職種に対する薬剤情報の広報にも努めている。
- 診療実績の維持を図りつつも、男女雇用機会均等を意識し、勤務体制・環境の適正化に努めている。

◆スタッフ（◎部長）

◎長谷川新治、◎小笠原延行、◎岡田昌子、◎三好美和、佐伯 一、有田 陽、藏本見帆、飯田吉則、福井智大、山本将平、七條加奈、末谷悠人、廣瀬江祐

◆概 要

冠動脈疾患・末梢動脈疾患・心不全・弁膜症・心筋疾患・不整脈・成人先天性心疾患・静脈血栓塞栓症・睡眠時無呼吸症候群など、各種循環器疾患の診断・治療を行っている。心臓カテーテル検査・心臓超音波検査・心臓核医学検査・冠動脈CT・心臓MRIなど循環器系の専門検査が可能であり、幅広い領域での臨床・研究を行っている。心不全に関しての患者教育・指導に力を入れており、心不全教室による患者教育、病診連携による治療管理体制を進め、心臓リハビリテーションとして、入院から外来への患者指導、運動療法を行っている。

虚血性心疾患の治療に関しては、急性心筋梗塞（急性冠症候群）に対して、24時間体制で、冠動脈再灌流治療を行っている。慢性冠動脈疾患に関しては、運動負荷試験、心筋シンチ、FFR などを用いて、虚血の評価を行い、血行再建の適応を厳密に行ったうえで、症例ごとに最適な治療を行っている。ロータブレードによる石灰化病変へのインターベンションや慢性閉塞性病変への血行再建も可能である。ステント留置のみならず、薬剤溶出性バルーンを用い、ステントレスのインターベンションも試みるようにしている。

不整脈に関しては心房細動や心室頻拍など、各種不整脈に対するカテーテルアブレーションを積極的にしており、予後に対する成績評価・有効性を検討している。また、発作性心房細動に対するクライオバルーンは通常に施行可能であり、ホットバルーンやレーザーバルーンなど新しい技術も導入し幅広いアブレーションが可能となった。徐脈性不整脈に対するペースメーカー治療をはじめ、致死性不整脈に対する植込み型除細動器治療や心不全に対する心臓再同期療法も適応を検討しながら行っている。植込み型除細動器に関しては、感染のリスクが少ない皮下植込み型除細動器を用いるケースも増えている。また、通常のペースメーカー植込みが困難な場合には、リードレスペースメーカーをカテーテル的に挿入している。生理的なペーシングを目指して中隔ペーシング、ヒス束ペーシングも行っている。

透析患者や糖尿病患者も多く、重症下肢動脈虚血の症例に対して、皮膚科・形成外科・心臓血管外科・糖尿病内科・腎臓内科で協力して、フットケアチームとして治療にあたっている。

静脈血栓塞栓症は、外科手術や悪性疾患と密接に関係しているため、迅速な診断・治療を心掛け、カテーテル的血栓溶解療法も行っている。抗凝固療法の困難な症例には、肺塞栓予防のため、下大静脈フィルター留置も可能である。

睡眠時無呼吸外来を週1回行っており、ポリソノグラフィーによる検査入院にて、治療の適応を決めている。

心臓血管外科との連携も密接にとっており、冠動脈バイパスや弁膜症の手術も迅速に対応してもらっている。ハイブリッド手術室の導入により、大動脈疾患・末梢動脈疾患の治療が大幅に改善された。急性大動脈解離に関しては循環器内科にて初期対応・診断を行い、迅速に心臓血管外科にて手術・ステント治療の対応が可能となった。また、2019年度より経皮的カテーテル的大動脈弁留置術（TAVI）実施施設としての認定もされ、実際に治療を開始している。

救急医療には積極的に対応しており、ホットラインも駆使し、24時間体制で、救急隊や地域医療施設からの救急患者を受け入れている。

◆実 績

年間の治療件数

冠動脈インターベンション：136件（急性心筋梗塞 61件）	経食道心臓超音波検査：130件
末梢動脈疾患インターベンション：52件	心臓核医学検査：450件
カテーテルアブレーション：143件	冠動脈CT：406件
新規ペースメーカー植込み：43件（そのうちICD 3件）	心臓MRI：25件
経胸壁心臓超音波検査：約3,960件	TAVI：14件

◆スタッフ（◎部長）

◎竹原友貴、今中洋子、江田友香

◆概 要

地域医療支援病院として近隣の施設からご紹介いただいた皮膚疾患全般を中心に診療しています。

乾癬においては日本皮膚科学会の生物学的製剤承認施設です。またナローバンドUVB、エキシマライトなどの治療も行っています。

難治性の慢性蕁麻疹やアトピー性皮膚炎に対する新規治療薬による治療も行っています。

糖尿病性足潰瘍をはじめとする難治性皮膚潰瘍では、原因・病態に即した治療を行い、必要時にはフットケアチームとしてチーム医療を行っています。

皮膚腫瘍ではダーモスコピー、表在エコー、皮膚生検による診断や摘出術を行っています。陥入爪・巻き爪では爪を極力温存する方針で治療しています（一部自費診療）。

そのほか、液体窒素凍結療法、局所免疫療法（SADBE）、パッチテスト（パッチテストパネルS、金属アレルギー）、光線テストに対応しています。

◆実 績

（令和2年4月～令和3年3月31日）

【診療実績】

外来患者数：10,651人

入院患者数：1,971人

手術件数：155件

生検件数：388件

陥入爪・巻き爪（自費診療）の治療件数：13件

【業 績】

論文・著書 和文：1編

学会・研究会発表：4演題

◆スタッフ（◎部長）

◎藤本宜正、山口唯一郎、伊藤拓也

◆概要

2020年は常勤医3名、非常勤医（外来のみ）2名の構成で、1月～12月の診療実績は外来延患者数10,424人、新患者数（初診）271人、外来1日平均患者数42.9人、入院延患者数4,530人、新入院患者数441人でした。

泌尿器科外来では透視下の処置・手術も行っており、2020年は尿管ステント留置術198件、尿管ステント抜去術64件、経皮的腎瘻造設術6件、前立腺生検75件でした。

手術室での手術件数は下記のとおりで、全件数は前年から46件増加しました。経尿道的尿管碎石術が28件から43件に増加しました。腹腔鏡手術は前年から5件減少しました。

尿路結石症の碎石に用いるレーザー装置は2020年まではレンタルで使用の度に搬入していましたが、2021年からは最新の装置（Sphinx jr.）が常設となり、いつでも手術を行えるようになりました。

◆実績

泌尿器科年間手術件数（2020年1月～12月）

年間手術件数（ESWL以外 245件）

開放手術 49件		腹腔鏡手術 17件	
副甲状腺摘除	2件	副腎摘除	1件
腎(尿管)摘除	2件	腎(尿管)摘除	13件
腎部分切除	1件	腎部分切除	2件
膀胱摘除	2件	膀胱摘除	1件
膀胱部分切除	1件		
膀胱尿管新吻合	1件	内視鏡手術 179件	
尿管尿管吻合	1件	経尿道的尿管碎石	43件
尿管皮膚瘻	1件	経尿道的膀胱腫瘍切除	78件
回腸導管造設	4件	経尿道的前立腺切除	13件
骨盤内リンパ節郭清	1件	経尿道的膀胱碎石	7件
陰嚢内容手術	11件	経尿道的止血	5件
尿道手術	1件	直視下内尿道切開	12件
陰茎手術	5件	経尿道的検査	6件
その他	16件	その他	15件

年間ESWL件数 21件(19人・44回)

◆スタッフ（◎部長）

◎筒井建紀、◎大八木知史、清原裕美子、繁田直哉、中尾恵津子、田中稔恵、小林まりや、須賀清夏、松村有起

◆概要

9名のスタッフで、外来診療・病棟診療・分娩・手術を行っています。

◆実績

令和2年度は、分娩数458件（うち帝王切開術80件、吸引分娩27件、鉗子分娩3件）、婦人科手術数298件（うち悪性腫瘍手術27件）を取り扱いました。

産科診療では、なるべく医療介入の少ない自然なお産を基本的な姿勢としています。しかし症例により、必要に応じて分娩誘発や吸引・鉗子分娩、帝王切開術などを適宜行っています。妊娠35週以降の分娩症例を取り扱いますので、妊娠34週未満の早産症例については、近隣の適切な分娩施設をご紹介します。また、医学的に必要な症例に限定して無痛・和痛分娩を実施しています。

婦人科診療では、良性腫瘍・悪性腫瘍に対する手術療法や薬物療法、骨盤性器脱、性器形態異常などに対し、開腹手術・内視鏡手術（腹腔鏡下手術・子宮鏡下手術）・腔式手術を行っています。また、月経異常・更年期障害など、卵巣機能に関わる女性特有の症状に対して、ホルモン治療・漢方薬治療など、それぞれの患者さんに適した治療法をご提案します。

現在、多くの医療情報はインターネットなどを介して得ることができます。しかし、エビデンスに基づく医療と紹介されている情報は、それぞれの患者さんにとって必ずしも最適な治療とは限りません。同じ疾患でも、患者さんによって最適な治療法は異なります。私たちは患者さんと向き合い、話し合いながら、何が最適な治療なのかを常に考え、最適な治療法を提供できるよう、またあらゆる産婦人科疾患に対応できるよう、日々努力をしています。

なお、当院は、

- ・日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
- ・日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設
- ・日本周産期・新生児医学会周産期専門医（母体・胎児）暫定認定施設（補完認定施設）
- ・日本生殖医学会生殖医療専門医制度認定研修施設
- ・日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設
- ・日本女性医学学会専門医制度認定研修施設

に認定されています。

◆スタッフ（◎部長）

◎大黒伸行、◎眞下 永、南 高正、春田真実、梅本弓夏、祖父江 茜、濱野結貴：視能訓練士6名

◆概 要

常勤医師7名（専門医4名）、非常勤医師3名（全て専門医）で診療を行っており、眼科診療の各分野において専門とする医師を配置しております。特に、眼炎症、緑内障、網膜硝子体を得意分野としております。斜視弱視の専門外来は火曜日午後のみとなり、また手術には対応できなくなっております。白内障手術では日帰り手術・入院手術いずれにも患者様のご要望にお応えできるようになっております。

◆実 績

令和元年1月から令和元年12月において、白内障手術728件、網膜硝子体手術108件、緑内障手術51件、を行っております。バークェット病に対するレミケード治療を受けている方は39名、難治性ぶどう膜炎に対するヒュミラ治療53名、眼内悪性リンパ腫の治療・経過観察を受けている方は57名と難治性ぶどう膜炎に対する治療を積極的に行っております。

◆スタッフ（◎部長）

◎小川 真、増村千佐子、坂田正行、天野雄太、福田雅俊

◆概 要

耳鼻いんこう科は、その名が示す通り、耳・鼻副鼻腔・咽頭・喉頭の領域を専門とする診療科ですが、口腔・頸部の領域も含まれます。また脳神経が関与する聴覚・平衡覚・嗅覚・味覚などの感覚の障害、および、摂食嚥下・音声言語などの口腔・咽喉運動の障害も取り扱います。

私たちの病院では、「声がれ」などの音声障害、「むせ」「誤嚥」などの嚥下障害、「睡眠時無呼吸」などの気道の障害に加え、「鼻漏」「鼻閉」「口呼吸」などを伴う鼻副鼻腔疾患の治療を専門としております。特に音声障害・摂食嚥下障害については、専任の言語聴覚士によるリハビリテーションを受けることが可能です。

その他、突発性難聴・めまい・顔面神経麻痺などの耳の疾患や、耳鼻咽喉・頸部領域の感染症まで、一般的な耳鼻いんこう科疾患を対象に治療をおこなっております。また当院での治療が難しい悪性腫瘍などの疾患であっても、大阪国際がんセンターや大学病院などの各専門病院へ適宜紹介を行っております。以上、広い範囲の耳鼻咽喉・頸部領域の症状に対応させていただいておりますので、お気軽にご相談ください。

日本耳鼻咽喉科学会認定研修施設

日本気管食道科学会認定研修施設

◆診療内容

声帯腫瘍(ポリープ・嚢胞・結節など)	顕微鏡下喉頭微細手術・薬物治療など
声帯麻痺	披裂軟骨内転術・甲状軟骨形成術 声帯内脂肪またはコラーゲン注入術など
機能性音声障害	言語聴覚士による音声治療など
摂食嚥下障害	嚥下機能改善手術・誤嚥防止手術、嚥下訓練指導など
閉塞型睡眠時無呼吸症候群	CPAP 治療・鼻腔形態改善手術・咽頭形成術など
上気道狭窄・閉塞	気管切開術・声門開大術など
慢性扁桃炎・扁桃肥大・アデノイド増殖症	口蓋扁桃摘出術・アデノイド切除術など
慢性副鼻腔炎・鼻中隔彎曲症	内視鏡下鼻副鼻腔手術など
突発性難聴・顔面神経麻痺	ステロイド点滴・デフィブラーゼ点滴治療 (デフィブラーゼは突発性難聴のみ)
唾液腺腫瘍	唾液腺腫瘍摘出術など

◆実 績

手術件数（2020年）

喉頭微細手術	40	頸部良性腫瘍・腫瘍手術	8
喉頭形成手術	4	頭頸部悪性腫瘍手術(頸部郭清術含)	1
声帯内注入術	8	気管切開術	10
嚥下関連手術	2	鼓膜形成術・鼓膜チューブ留置術	13
口蓋・咽頭扁桃摘出術	106	その他	15
内視鏡下鼻・副鼻腔手術	101	合 計	308

◆スタッフ（◎部長）

◎山田寛之、◎石浦嘉人、◎柏木博子、長松有衣子、泉井雅史、岸本加奈子、原田大輔、近藤可愛、阪本夏子、折山恭子、上山 薫、埴岡由樹

◆概 要

令和2年度は小児科医12名（指導医5名、専門医10名、専攻医1名、産休・育休1名）が、小児科に在籍した。また、アレルギー、小児精神、内分泌専門外来に応援医師3名と一般外来に応援医師1名の派遣を受けた。

当院小児科は新生児から成人後の移行期まで対応可能な総合小児科であり、大阪市西部地域小児医療の基幹病院として、小児一般診療、専門外来、小児救急医療、周産期医療を提供している。

外来は、午前中は一般外来中心、午後からは予防接種、乳児健診とともに、予約制専門外来を行っている。内分泌・骨代謝・骨系統疾患、小児神経・重症心身障がい児（者）、循環器、アレルギー、小児精神、心理相談に加え、新たに遺伝相談の専門外来を開設している。しかし、令和3年4月から小児精神、心理相談は閉設となる。専門外来では特に、成長ホルモン補充療法、性腺抑制療法、骨系統疾患に対する酵素補充療法やビスホスホネート療法、重症心身障がい児（者）に対するオーダーメイド治療、川崎病患者長期フォローアップや学校心臓検診の要精査者の精密検査などに力を入れている。また、新型コロナウイルス感染症の対応として、小児発熱外来を設置し、小児発熱患者診療を行っている。

病棟は、一般小児病床22床、NICU6床に加えて、プレイルームと病児保育室を備える。急性疾患・新生児疾患に加え、内分泌負荷試験、鎮静下MRI、鎮静下小児消化器内視鏡などの検査入院や難治性疾患、慢性疾患の入院診療にも対応している。また、大阪市中央急病診療所の後送病院業務も担っている。

◆実 績

(人)

新規小児入院患者数	603
新生児入院患者数	332
外来患者数	7,438
救急外来患者数	613

◆スタッフ（◎部長）

◎山森英長、片上茂樹、大西陽之、精神保健福祉士1名、非常勤心理療法士5名

◆概 要

当科外来では地域の皆様に貢献できるよう、精神疾患全般の診療を行っております。

認知症の診断・治療の導入・周辺症状への対応、ストレス関連障害、不安障害、気分障害、統合失調症の治療、診断の難しい精神疾患の診断、また、思春期・青年期（高校生以上）の精神疾患の診断・治療等、多岐にわたり対応が可能です。

外来以外では「総合病院の神経精神科」として、他科との連携を重視し、身体疾患により当院他科へ入院中の患者さんに生じた、せん妄、不眠、抑うつ、不安等への診療（リエゾン精神医学）が重要な役割と考え、診療にあたっております。さらに、チーム医療にも積極的に関わっており、緩和ケアチームのメンバーとして精神科医の視点から、がん患者さんの症状緩和や精神症状への対応を行ったり、また、認知症ケアチームのメンバーとして、認知症の方が身体疾患のため入院された際の、周辺症状への対応、ADLや認知機能の低下が生じないような対応をチームメンバー、病棟看護師とともに行っております。

また教育面では、初期研修医の研修・指導を行っているとともに、日本精神神経学会、日本総合病院精神医学会の専門医研修施設の認定を受けており、精神科専門医、一般病院連携（リエゾン）精神医学専門医の育成にも力を注いでおります。

◆実 績

令和2年度診療実績（令和2年4月～令和3年3月）

		合 計	月平均
外 来	初 診	271	22.6
	再 診	8,194	682.8
リエゾン	初 診	486	40.5
	再 診	2,408	200.6

延べ診察数：11,359

1日当たりの平均診察数：46.1

◆スタッフ（◎部長）

◎上田周一、◎寺川晴彦、山下和哉、明浦公彦

◆概要

当科は平成8年の開設以来、脳卒中を中心とした神経内科疾患の診療に従事し、本年もSCUでの脳卒中を中心とした診療に加えて、てんかん・髄膜炎・ギランバレー症候群などの神経救急疾患も積極的に受け入れている。一方で、地域医療機能推進の一環として、神経難病の患者さんも増加傾向にあり、遺伝子診断やボトックス注射などの特殊治療にも対応している。

◆実績

脳神経外科と連携してのSCU9床の稼働率は例年通り90%以上で推移していた。

本年度は明浦医師が医長に昇任し、4名での病棟運営を継続した。院外からの当直専従医（久保田智哉・杉山慎太郎各医師）の補助もあり、コロナ渦中ではあったが一般病床を含めて、年間約300名の新入院患者を受け入れた。

脳卒中については、t-PAや脳神経外科 山際部長との協力による血管内治療などの超急性期治療実施件数が、年間20例を維持し、学会が求める施設目標を達成した。脳卒中ネットワークを介しての回復期リハビリテーション病院への転院や療養支援も順調である。

その他一般神経疾患についても、神経救急疾患に対するICU管理のほか、免疫性神経疾患に対するステロイドパルスや血漿交換を中心とした免疫修飾療法に従事。神経難病に対する特定疾患申請・在宅支援や脳卒中後遺症患者さんをも含めた身体障害認定継続の他、拘縮四肢に対するボトックス治療なども継続している。欧米にて希少疾病用医療品として指定され本邦でも高額医療品として認可された、ヌシネルセンの脊髄性筋萎縮症に対する髄液内投与治療も開始した。

脳卒中以外の主要神経筋疾患は延べ入院数で、ALS（筋萎縮性側索硬化症）：1例、脊髄性筋萎縮症（SMA）：1例、パーキンソン病：4例、多系統萎縮症：1例、脊髄小脳変性症：2例、多発性硬化症：5例、重症筋無力症：1例、ギランバレー症候群：2例、髄膜炎を含めた神経感染症：9例、てんかん：11例などであった。

日本神経学会の教育病院として、学生実習や初期研修医の受け入れも積極的に行い、初期研修医1年目3名、2年目5名の初期研修医と日生病院からの内科専攻医2名が当科で研修した。

◆スタッフ（◎部長）

◎白杵則朗、北山聡明、大倉隆介、崔 朝理、小林彰太郎

◆概 要

高度医療において不可欠なCT、MRI、RI等の画像診断の大部分を行うとともに、カテーテル技術を駆使する画像下治療（IVR）を行っている。今年2月には、従来機以上に高速に撮影でき、被ばくの少ない80列のCTが新規に導入され、画像のニーズにさらに対応できるようになった。上記画像診断装置に対しては、近隣医療機関からの依頼もうけ、病診連携にも力をいれている。

現在、4人の放射線診断専門医が在籍し、あらゆる臓器の画像診断に迅速、的確に対応できるようにしている。また、当科は日本医学放射線学会より放射線専門医修練機関に認定されるとともに、画像診断認証管理施設として被ばく管理、MRI安全管理の認証もうけ安全管理にも努めている。

なお、7月からは業務内容に即した放射線診断・IVR科と標榜名を変更し、IVRでは外来も行い、今まで以上に多くの症例に対応できるようにし、IVRの認知を高めていく所存である。

◆実 績

モダリティー別レポート数及びIVR件数（ ）内は院外紹介例

CT	18,249 (316)
MRI	9,435 (287)
RI	504 (4)
IVR	97 (9)

◆スタッフ（◎部長）

◎西多俊幸、前角智子

◆概 要

放射線治療科は悪性腫瘍を対象にした放射線治療を専門に行います。放射線治療は体外照射と体内照射に大別され、当科で行うのはリニアックを用いた体外照射のみです。放射線治療は目的によって根治的にも緩和的にも適応できますので、ほとんどの癌がなんらかの放射線治療の対象となりえます。また、放射線治療は集学的治療のひとつとして化学療法や手術と併用されますので、当科では他の臨床各科との連携のもとに各種の悪性腫瘍に対する放射線治療を行っています。

体外照射に用いる治療装置として、汎用リニアックである Elekta 社製 Infinity が設置されており、強度変調照射や体幹部定位照射などの高精度放射線治療にも対応しています。

放射線治療を適切に行うには各分野の専門スタッフの協力が不可欠であり、放射線治療専門医をはじめとして放射線治療専門技師や医学物理士、さらに専従看護師や事務職員などが診療にあたっています。特に高精度放射線治療を安全に施行するには高度な物理学的知識が必要とされるので、医学物理の専門家による支援が不可欠です。また基本的に癌患者が対象であるため、メンタル面でのサポートも含めて看護師の役割が重要であるのも当科の特徴といえます。

放射線治療は根治目的にも緩和目的にも用いることができます。高精度照射に代表される根治照射が注目されますが、癌患者の多くは術後補助療法や緩和医療としての放射線治療を必要としています。当科ではこれら通常照射の重要性をふまえた上で、限られたスタッフで可能な限り高精度照射も提供できるように努めています。

高精度照射としては体内の多くの部への強度変調照射を保険診療の範囲内で実施しています。体幹部定位照射は現在のところ肺と肝臓を対象に施行しており、保険適応の拡大にともなって適応疾患を広げていく予定です。

◆実 績

高精度放射線治療としては強度変調放射線治療と体幹部定位照射を行っています。

体幹部定位照射の対象は現在のところ肺と肝臓です。

2020年(1月～12月)

のべ照射件数	3,106件
治療計画数	225件（1門・対向2門：32、非対向・3門：40、4門以上：124、強度変調照射：21、体幹部定位照射：8）
総照射部位数	181部位（乳房：53、骨：47、肺：31、前立腺：6、脳：12など）
全治療患者数	177人（原発巣別 乳腺：65、肺：59、泌尿器：14など）

◆スタッフ（◎部長）

◎中谷桂治、◎佐藤善一、◎八木真実、山間義弘、濱田 拓、村田久仁子、佐藤八江、西田宙夢、福岡功士、今村圭祐

◆概 要

現在スタッフは10名（麻酔科部長2名、集中治療部部長1名、医長4名、医員3名）で、それ以外に非常勤医師に応援に来てもらっています。大阪大学歯学部と大阪歯科大学の歯科麻酔科から医科麻酔の研修として1年間、研修をうけいれております。初期臨床研修医は1年目に全員、麻酔科での研修が必須とされており、2か月間、麻酔の基本を中心に研修してもらっています。

手術室は12室ありますが、麻酔科の管理枠としては最大7列としております。

ICUは佐藤部長を中心に日勤帯は専従医として各科医師と協力しながら患者管理を行い、当直業務は麻酔科と心臓血管外科で行っています。

本院の麻酔科の基礎を築かれた久保田行男先生、その教えを忠実に守られた豊田芳郎先生らの時代は何よりも患者さんの「安全」を最優先に考えておられました。麻酔科管理症例のほぼ全例に病棟での胃管挿入、経鼻挿管時の意識下挿管、小児の意識下での静脈路確保、麻酔導入前のAライン挿入など、時として患者さんの苦痛を伴う処置であったことも否定はできませんが、安全重視という理念はこれからも受け継ぎ、手術室での医療事故がないように努めていきたいと思っております。

ただ時代の流れとともに管理方法も少しずつ変遷し、気管挿管の器具においては、以前はマッキントッシュ型喉頭鏡だけでしたが、今ではマックグラスというビデオ喉頭鏡を用いることで、挿管困難症例でも容易に挿管できるようになりました。また中心静脈カテーテル挿入に関しては、エコーを用いることで手技を安全かつ容易に行うことができるようになりました。

新病院からは手術室部門システムを導入し、麻酔記録が電子化されバイタルの記録が自動化されました。これにより患者さんの急変時にも正確な記録が残ると同時に、記録業務が省けることで、迅速な対応に専念できるようになりました。

今後、ますます手術件数の増加が予想されますが、どのような場合でも基本である患者さんの安全を忘れることなく、術中管理は言うに及ばず術後の回復も考慮した麻酔を心掛けていきたいと思っております。

◆実 績

2020年度の手術症例数は4,871例で、そのうち麻酔科管理症例は3,086例（全身麻酔2,653例、脊椎麻酔425例）でした。

◆スタッフ（◎部長）

◎藤本佳之、矢野将吾：歯科衛生士3名

◆概要

部長および医員は大阪大学歯学部第一口腔外科の出身であり、同科の関連病院として動いています。治療対象疾患は口腔外科疾患全般です。ただし、悪性腫瘍については関連病院に紹介しています。一般歯科診療は原則行わず、他科入院患者の入院中の応急的な歯科処置のみ行っています。診療は外来での口腔外科処置を主に行っており、入院全麻症例の手術は奇数週の金曜日のみ行っています。周術期口腔機能管理については、これまで心臓血管外科手術や整形外科人工関節手術などに限定して行ってきましたが、対象を全科に広げて対応するようにしています。

◆実績

2020年は新型コロナウイルス感染が起これ、歯科はクラスターを発生させるリスクが他科よりも明らかに高いと判断し、4月、5月は外来手術および入院手術を全て中止しました。既に予定されていた手術をすべて延期とし、6月以降、徐々に手術を再開していきましたが、主に近隣歯科医院からの紹介も大きく落ち込んだ関係から2020年の初診患者数は1,414人と前年の27%減となりました。外来手術で最も件数の多い抜歯は631件（うち埋伏抜歯は235件）で、入院全麻手術は13件と、どちらも前年に比べ大きく落ち込みました。

2020年は当院での周術期口腔機能管理を充実させるべく看護部と協力して受け入れを拡大させ始めた矢先の新型コロナウイルス感染拡大であったので、歯科経由での手術場への感染波及を危惧し、周術期口腔機能管理受け入れを一旦中止しました。そのため、2020年の周術期口腔機能管理患者は年間で126人に留まりました。

全国的に歯科施設での新型コロナウイルス感染のクラスター発生がみられないことから、2021年からは感染予防管理対策を厳重に行いながら、地域医療および院内の周術期口腔機能管理を元通り再開させています。

◆スタッフ（◎部長）

◎吉田康之、中井千晶、緒方正史

◆概 要

病院における病理科、「びょうり」部門とは患者さんの病巣組織の一部を採取し顕微鏡で観察、癌かあるいは他の疾患かを診断する部門であります。

胃カメラや大腸内視鏡検査で消化管粘膜面を観察しながら異常部分の粘膜組織片を採取し（生検）、そのパラフィン切片にH-E染色を施した組織標本を作製し、これを顕微鏡下に観察して胃癌や大腸癌があるのか、又は、潰瘍や炎症やポリープだけなのか？を判定し診断する。病理科とはこのような診断業務を司る部門であり、病院にとって重要な役割を担っております。

そして、喀痰、尿、胸腹水、子宮頸管や内膜からの擦過材料、乳腺・甲状腺・リンパ節などの穿刺材料をスライドガラスに塗布してパパニコロー染色を行い、やはり光学顕微鏡にて癌細胞の有無を見分ける細胞診も病理科の主たる業務の一つであります（細胞診）。

さらに、手術で摘出された臓器あるいはその一部を肉眼的に十分に観察してそれから病理組織標本を作製し、癌であるならば、取り残しなく完全に摘出されているかどうか、周辺リンパ節転移の有無についても詳しく検索します（手術材料検索）。

手術中でも癌が完全に切除できているかどうか、切除断端組織を -30°C で迅速に凍結して染色し、その凍結切片を顕微鏡下に即座に診断し、その結果を手術中の執刀医に連絡し癌がまだ取り残されているならば追加切除するように指摘します。術中迅速凍結切片診断は時にその手術の成否にかかわる決定的な鍵を握る事が多く、我国でも大手術を行う場合には病理部門の整備充実が必須の条件と言われてきています。

極めて難解な疾患で種々の治療の甲斐もなく又は予期せぬ経過で死亡した場合には、患者さん本人の遺志や遺族の了解の下で病理解剖を行い臨床病理検討会において疾患の本態の解明や診断の的確さや治療効果が討議されます。

◆実 績

生検・手術材料：約7,000件（内術中迅速診断：約400件）

細胞診：約9,000件

◎小笠原延行、◎荒川裕昭、◎五十嵐 渉

臨床研修医（2年）：石川達也、片山由璃子、高井勝代、中本蓮之助、福田優人、藤井莉菜、食野真美、山田慶貴、山本まるみ

臨床研修医（1年）：伊藤悠記、北川由華、小畑理沙子、島 佳弘、中村有希、増田一輝、松本涼聖、光田 紬、山本大貴、大萩麻衣、花澤綾香、宮本 遥、海野美幸、小谷賢太郎

◆概要

救急・プライマリケア診療部は、救急患者の受け入れと初期診療を行い、また救急診療を通じて初期臨床研修医の教育・研修を行うことを目的とした部署である。

救急部としては、年間約8,622人の患者の受け入れを行っており（うち救急搬送が3,028人）、その30%強にあたる約2,796人が入院となっている。謝絶率が20%程度とやや高い傾向だが、当院の診療限界を超える病態の依頼を除き「担当科処置中」「ICU満床」等の理由による謝絶率は12%程度である。近隣の開業医からの緊急紹介患者については、担当科が不明な場合には直接救急が対応することで、より円滑な受け入れが可能になった。

初期研修については、1年目研修医は、1ヶ月の救急ローテーション期間を通して指導医とともに平日日勤帯の救急搬送患者の初期対応にあたる。この間に、問診や身体所見の取り方、カルテの書き方、common diseaseの疾患概念、診断に至るまでの思考プロセスなどの医師として必要な知識や技術はもちろん、患者への接し方や言葉遣い、仕事への責任感、モラルなどの人間性に関わるようなことも学んでいく。6月からは2年目研修医の夜間休日の救急当直に23時まで一緒に入り、ウォークインも含めた比較的軽症の患者の対応についても経験する。

2年目研修医は、夜間休日の救急当直に入り、ある程度自分の判断で救急患者の初期対応を行っていく。当院には、研修医を直接補佐する救急A当直を始め、内科、循環器科、外科、整形外科、脳卒中、小児科、産婦人科、ICUなどの各科医師も当直に入っており、幅広いコンサルトが可能な環境が整っている。また、当直翌朝には救急で診療した症例について、救急、整形外科、循環器科の部長と検討会を行うことで、経験した症例に関してフィードバックすることができる。平成31年度からは2年目研修医も1ヶ月の救急ローテーションが必須となり、2年間に計2ヶ月の研修期間で十分な知識や技術の習得を目指す。

研修医向けの勉強会については採用当初に各科指導医によるクルズス、その後、院内では週1回の症例検討会とMGHケースカンファレンス発表会、月1回の内科症例発表会、放射線技師や薬剤師との合同勉強会を行い、また年2回程度院外から有名講師を招聘し研修医向けに講義を開催している。さらに月1回音羽病院でのGIMカンファレンス、2ヶ月に1回の西の方GIMカンファレンスに参加するなど、勉強することに対する意識を高く保てるような環境作りを心がけている。

働き方改革の影響もあり慢性的なマンパワーの不足が懸念される状況ではあるが、各科の医師の協力も得てその影響を最小限に抑えるよう努力している。今後も各科の医師と連携し、救急患者の受け入れを行っていくとともに、研修医教育にも力を入れていきたいと考えている。

2020年度は新型コロナウイルス蔓延の影響を救急部が大いに影響を受けた一年でもあり特に発熱患者に対する対応が陰圧室の問題もあり受け入れを断らざるを得ない状況に追い込まれ、近隣の救急隊、地域住民にご迷惑をおかけしたこともありました。一刻も早い感染の収束とともに通常の救急診療が可能になることが望まれます。

◆実績

2020年度

1年目研修医 14名 2年目研修医 9名

救急外来受診患者数	9,077
救急搬送受け入れ患者数	3,842
救急外来からの入院患者数	3,116

◆センター長

鈴木 朗

◆概 要

末期腎不全に至った症例について、血液透析、腹膜透析などの腎代替療法を導入し、また、維持血液透析患者の入院中の管理を行っています。腎代替療法導入に際しては、同センター看護師が担当する療養選択外来を受診していただき、各療法の特徴につき十分理解していただいた上で、患者さん自身に選択していただいております。自己免疫疾患や肝不全に対する血漿交換療法、炎症性腸疾患に対する白血球除去療法、家族性高コレステロール、巣状糸球体硬化症、ASOに対するLDLアフェレーシス療法、難治性腹水に対する腹水濾過濃縮療法なども積極的に行っております。ICUにおける血液浄化療法についても、オンコール体制を敷き24時間体制で対応しております。維持血液透析、維持腹膜透析例も管理しており、総合病院であるメリットを生かし合併症を早期に発見することにより透析患者さんの生命予後改善を目指しております。

◆実 績

維持血液透析を37例導入しました。

維持血液透析患者13名、腹膜透析患者4名も管理されています。

2020年の各療法実施件数は以下の通りです。

HD	2,991	▲229
online HDF	2,032	▲234
PE(血漿交換)	6	▲35
DFPP	0	▲3
LDLアフェレーシス	8	▲17
GCAP(顆粒球吸着)	20	△5
ICUにおける血液浄化	87	▲83

◆ひとこと

当センターは夜間、休日にも各種血液浄化療法が施行可能であり、大阪市西部地域における中心的な血液浄化センターです。患者教育も積極的に行っており保存期慢性腎臓病患者を対象に、栄養部、薬剤部、看護部にご協力いただき、毎月「腎臓病教室」を開催しております。(現在、新型コロナウイルス感染のため休止しております)

◆センター長

山本克己

◆概 要

上部消化管内視鏡、下部消化管内視鏡、胆膵内視鏡、超音波内視鏡（EUS）、カプセル内視鏡検査、ダブルバルーン小腸内視鏡検査、気管支鏡、胸腔鏡、超音波気管支鏡などの検査手技だけでなく、内視鏡的粘膜切除術（EMR）、内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）、総胆管結石破碎術・乳頭切開術、消化管止血術、食道静脈瘤結紮術・硬化療法、胃瘻増設術、消化管狭窄バルーン拡張術・ステント留置術、EUS下ドレナージ術などの内視鏡治療など、内視鏡を用いた検査・治療の幅広い領域を扱っています。新病院に移った後はリカバリームを増設しており、近年の社会的ニーズに応えるべく、安楽な内視鏡検査を行うため、消化器内視鏡検査では、鎮静剤を積極的に導入しています。呼吸器領域においては、局所麻酔下胸腔鏡、超音波気管支鏡といった最新の検査も行っています。治療については、特に、高度な技術を要する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）件数が多いのが特徴で、早期胃癌だけでなく、早期の大腸癌、食道、十二指腸、咽頭癌など幅広い領域の表在癌の治療にあたっており、困難症例を含め、大阪府下だけでなく、他府県からもご紹介いただいています。検査・治療に際しては、合同カンファレンスを定期的で開催し、消化器内科、外科、病理科が密接にコミュニケーションを取りながら診療を行っています。最近では、外科、消化器内科が協力して、腹腔鏡内視鏡合同手術（LECS）も施行しており、咽頭癌に対するESDは消化器内科と耳鼻科が協力して行っており、先進的な医療も積極的に施行しています。

また、吐下血などの消化管出血や胆管炎などの救急疾患にもオンコール体制を敷いて対応しており、地域医療に貢献しています。

◆実 績

2020年度は、内視鏡総件数が9,212件、上部消化管内視鏡検査が6,043件、下部消化管内視鏡検査が2,808件、ESD件数が201件、EMR件数が951件、ERCP件数が226件、気管支鏡件数が107件となっています。

鎮静剤使用割合が増加しており、2020年度は71.4%と、2013年の14.2%に比較し、年々増加しています。

◆センター長

上田周一、岩本文徳、(SCU 責任医師)

◆概 要

【2020年度人員】

脳神経内科 4 名、脳神経外科 3 名、プライマリーケア診療部 2～3 名、看護師 19 名、専任 PT 1 名、病棟薬剤師 1 名、医療福祉相談室 7 名

脳神経内科・脳神経外科が協力し、24時間対応した脳卒中治療を行っている。

超急性期血栓溶解療法、緊急手術、超急性期血管内治療（血行再建術、コイル塞栓術）にも対応している。

リハビリテーション科と連携して、早期からのリハビリテーション開始・早期離床を行っている。大阪脳卒中医療連携ネットワークに計画管理病院として参加。医療福祉相談室と連携し、回復期リハビリテーション病院への転院を積極的に行い、自宅復帰・社会復帰を目指している。

◆実 績

SCU平均在室日数	7.6日
SCU入室患者数	281名
内訳	
脳梗塞	202名
脳出血	53名
くも膜下出血	3名
一過性脳虚血発作	12名
その他	11名
脳梗塞超急性期血栓溶解療法	12名
脳梗塞超急性期血管内治療	14名
両者併用	6名
脳出血開頭血腫除去術	6名
脳動脈瘤緊急クリッピング術	7名
脳動脈瘤緊急コイル塞栓術	17名
脳梗塞開頭減圧術	5名
脳動静脈奇形塞栓術	2名
脳室ドレナージ術	12名

◆センター長

塚本文音

◆概 要

外来治療センターでは、通院での抗悪性腫瘍剤や関節リウマチなどに対する生物学的製剤等の投与を行っている。また、曜日と時間帯を限定して自己血貯血に対応している。

電動ベッド7台、リクライニングチェア13台が稼働。看護師4名以上が常駐し、薬剤投与中の観察のみならず、帰宅後の有害事象の予防、軽減のための援助を行っている。

◆実 績

令和2年度は、内科、消化器内科、外科、乳腺・内分泌外科、整形外科、泌尿器科、眼科、産婦人科、脳神経外科、脳神経内科、耳鼻いんこう科、皮膚科が当センターを利用、1月当たりの利用件数は270～290件。このうち、通常の点滴注射ではなく皮下埋め込み式ポートを用いた薬剤投与が月70件前後ある。

◆センター長

筒井建紀

◆概 要

大阪市西部基本保健医療圏の周産期医療を担う拠点病院として、産科、小児科（認可新生児集中治療室：NICU）で連携して母子医療センターを設置しています。

産科は一次救急を扱っており、大阪府における産婦人科診療相互援助システム（OGCS）にも参加し、母体搬送を受け入れています。また、地域の産婦人科の先生方に妊婦検診をお願いし、分娩は当院で行う産科オープンシステムを取り入れています。合併症のある妊婦さんに対しては、内科・外科・精神科など他診療科と連携して対応しており、医学的な適応があれば無痛分娩・和痛分娩も行っています。

産科外来では、医師による外来の他に、助産師外来も併設しており、妊娠経過が安定している妊婦さんに利用していただいています。助産師外来は、妊婦さんのマイナートラブルなど、妊娠中の様々なご相談にきめ細やかに対応しています。

入院中の食事メニューは量・質ともに満足していただけるものとなっています。また、入院時のアメニティーも充実しています。

小児科は、院内出生を中心にNICU 6床を確保し、新生児診療を24時間体制で行っています。大阪府新生児診療相互援助システム（NMCS）にも参加しており、大阪の周産期地域医療システムの一翼を担っています。産科と緊密に連絡をとり、看護師・助産師のスタッフとともに、一人ひとりの赤ちゃんに対する最適の治療、退院後のフォローアップ、さらには家族全体のトータルな支援を心がけています。

◆実 績

2020年度の分娩件数は458件で、このうち地域の医院と連携したオープンシステムによる分娩は126件でした。また、NICUの入院延患者数は960人、新入院数は153人でした。

◆部 長

佐藤善一

◆概 要

当院のICUは平成9年に循環器科が創設されると同時に発足した。呼吸器外科担当部長大野喜代志先生、中村康子婦長のもとで開設されたICUは平成20年（2008年）4月からは10床に増床され、平成27年新病院開院とともに12床に増床された。現在、麻酔科より2名の集中治療専門医がICU日勤を担当し、26名のICU看護師（うち集中ケア認定看護師1名）とともに診療にあたっている。

毎朝、主治医、麻酔科ICU担当医、看護師でウォーキングカンファレンスを行い、治療方針の確認を行っている。また、リハビリテーション部、ICT（院内感染コントロールチーム）、NST（栄養サポートチーム）などと緊密な連携を保ち、治療を行っている。高度医療機器は臨床工学技士の管理により安全に使用できている。

◆実 績（2020年度）

入室患者数	715例（男412例、女303例）
平均年齢	70.5歳
平均在室日数	4.1日

<診療科内訳>

心臓血管外科	105例	循環器内科	149例
外科(胸部含む)	458例	(一般)内科	40例
脳神経外科	73例	消化器内科	9例
整形外科	76例	神経内科	9例
泌尿器科	22例		
産婦人科	22例		
形成外科	2例		
耳鼻科	5例		

◆スタッフ（◎部長）

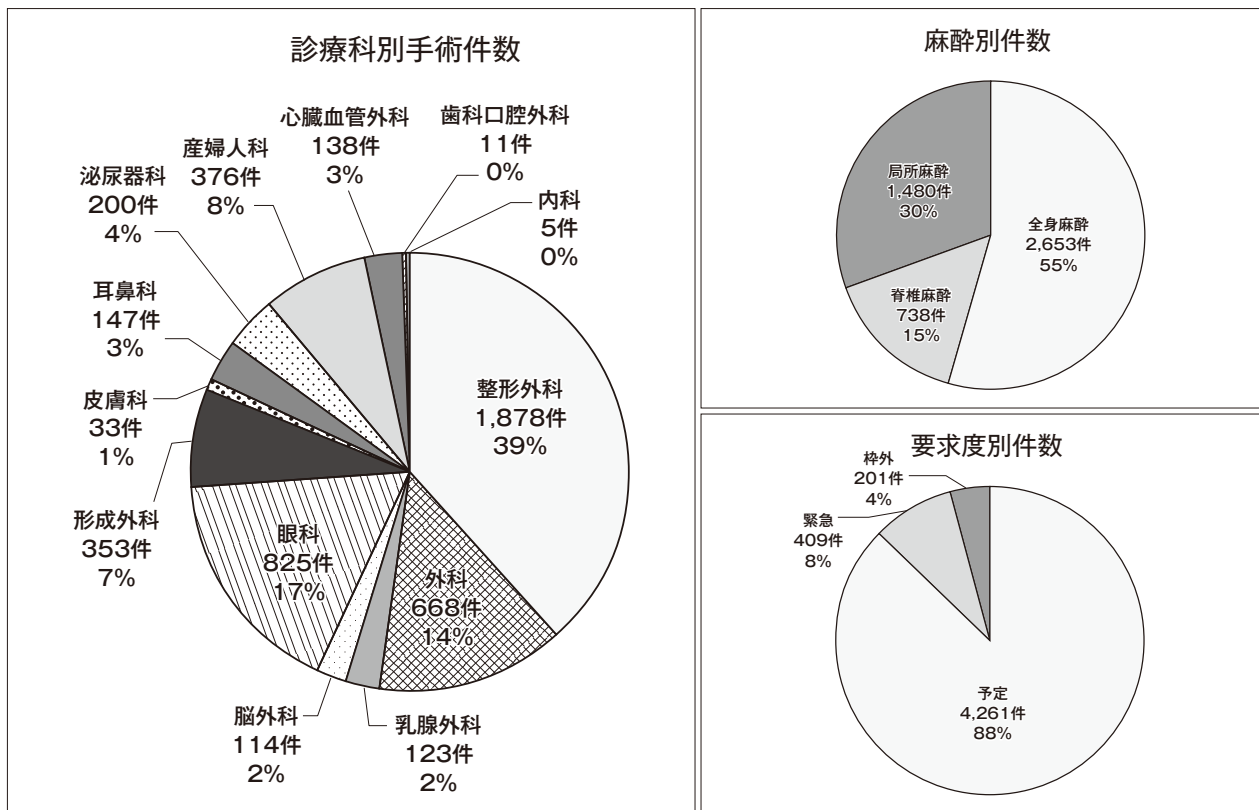
◎中谷桂治、麻酔科医師11名、（看護師長）藤原千佳、看護師35名

◆概 要

手術室は12室あり、うち4室がバイオクリーンルーム、1室はハイブリット手術室である。入院・外来患者すべての手術を手術室で行っている。

◆実 績

2020年度総手術件数は4,871件で、整形外科が全体の39%を占め、次いで眼科17%、外科14%であった。麻酔は全身麻酔が年々増加し全体の5割を超えた。予定手術以外の枠外・緊急手術は総手術件数の12%を占め増加傾向にある。



◆スタッフ (◎部長)

◎老田 章、他薬剤師29名、薬剤助手 4名

◆概要

2021年3月現在、薬剤師30名 (定数30名)

薬剤部長：老田 章、副薬剤部長：中城宏子、主任：田中早紀・井上敬之・岡田理恵子・木村 仁

一般薬剤師24名 (男6名・女18名、内産前・産後休暇1名・育児休業2名)

薬剤助手4名、事務1名、SMO3名

施設基準等

病棟薬剤業務実施加算1 …… 11病棟

病棟薬剤業務実施加算2 …… SCU・ICU

薬剤管理指導料、外来化学療法加算1、無菌製剤処理料、がん患者指導管理料 (ハ)

チーム医療：ICT・AST・NST・緩和ケア・褥瘡ケア・認知症ケア・せん妄ケア

学生実務実習受入施設

日本病院薬剤師会	感染制御専門薬剤師	1名
	病院薬学認定薬剤師	7名
	生涯研修認定薬剤師	5名
	認定指導薬剤師	2名
日本薬剤師研修センター	認定薬剤師	1名
	認定実務実習指導薬剤師	7名
日本医療薬学会	医療薬学専門薬剤師	1名
日本医療情報学会	医療情報技師	1名
日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士	1名
日本腎臓病薬物療法学会	腎臓病薬物療法認定薬剤師	1名
日本高血圧学会 日本循環器病予防学会	高血圧・循環器病予防療養指導士	1名
日本ACLS協会	BLS Provider	1名
日本・アンチドーピング機構	公認スポーツファーマシスト	1名
日本臨床主要薬学会	外来がん治療認定薬剤師	1名
日本臨床栄養代謝学会	栄養サポートチーム専門療法士	2名

◆実績

外来一般処方箋(枚)	4,983	薬剤管理指導 患者数(人)	18,453	TDM算定件数	1,431
外来注射処方箋(枚)	26,271	指導回数	20,292	採用薬品数	1,276
院外処方箋(枚)	104,980	算定件数	18,905	新規レジメン登録(件)	50
(発行率 %)	97.4	麻薬管理指導加算(件)	1,040	後発薬品置換率(%)	88.23
入院一般処方箋(枚)	168,250	退院時薬剤情報(件)	2,336	年間治験実施本数	18
入院注射処方箋(枚)	143,368	持参薬調査件数	8,446	新規治験契約件数	6
入院麻薬一般処方箋(枚)	1,540	持参薬調査剤数	57,591	薬剤情報提供料(件)	2,556
入院麻薬注射処方箋(枚)	7,989			疑義照会件数 (調剤室)	5,962
				(注射室)	181
院内製剤件数		無菌製剤処理算定件数	3,953	病棟薬剤業務実施加算(件)	
(一般)	87	(抗がん剤・TPN)		(一般病棟11)	22,698
(無菌製剤)	52			(SCU・ICU)	4,977
注射混合調製分取総件数	13,098	処置薬剤払出件数	9,825	医薬品安全研修(回)	5

◆スタッフ

(技師長) 高橋博史、他放射線技師32名

◆概要

現在、診療放射線技師33名（非常勤1名・任期付1名含む）、事務スタッフ7名で放射線室を運営しています。放射線室は2階に一般撮影、CT、MRIなどの診断部門、地下1階に核医学検査と放射線治療、5階に血管撮影室を配置し、1階には救急専用の撮影室があります。

我々放射線室スタッフは常に放射線診断、治療の各分野で知識と技術の向上を図り専門性を高めています。また高度な放射線機器を操作し、画像や被ばく線量の管理を適切に行って、中央部門として高い診療機能を維持しております。さらに当施設は「医療被ばく低減施設」の認定も取得しており日々患者様の医療被曝を少しでも低減できるよう努めています。

装置一覧

装置	台数	スペック等	装置	台数	スペック等
CT	2台	64列 80列	MRI	2台	1.5T、3.0T
血管撮影装置	2台	Single、Biplane	核医学検査装置	2台	SPECT、SPECT-CT
放射線治療装置	1台	定位照射、IMRT	X線TV装置	3台	FPD
Hybrid-Angio	1台	ハイブリッド手術室	一般撮影装置	5台	FPD、CR
その他	マンモグラフィ装置、マンモトーム装置、骨密度測定装置、ポータブル装置、外科用イメージ				
情報システム	放射線部門システム、放射線画像管理システム、放射線読影レポートシステム				

2020年度に整備した放射線機器

- ① CT：キヤノン Aquilion Prime SP 80列
- ② ポーブル：日立 Sirius Starmobile tiara K
- ③ 手術室外科用イメージ：SIEMENS Cios Select FD

◆実績

	2018年度	2019年度	2020年度
一般撮影	142,693	132,163	119,528
乳房撮影	2,892	2,746	2,453
骨密度測定	1,730	1,745	1,731
病棟撮影	17,790	15,573	15,864
X線TV	2,168	1,730	1,662
CT	23,010	21,869	21,695
MRI	9,901	10,374	9,948
血管撮影・心カテ	1,023	1,036	867
RI	1,406	1,339	1,223
放射線治療	3,727	3,366	3,030

(件数)

◆スタッフ（◎部長）

◎岡田昌子：（技師長） 竹村真俊、他臨床検査技師36名、事務員 1名

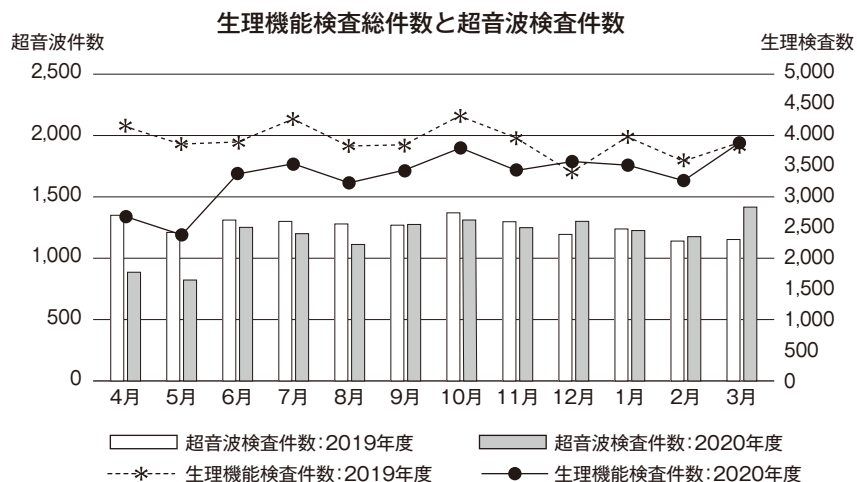
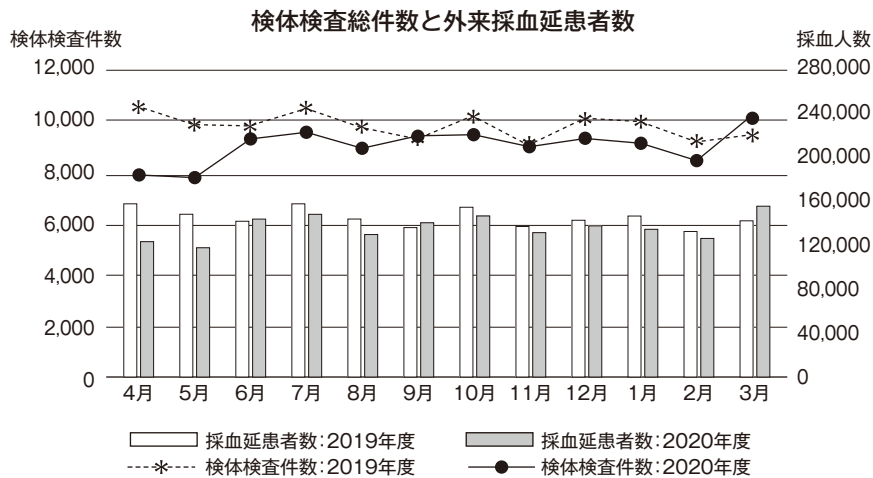
◆概要

中央検査室は医師である臨床検査科部長 1名、臨床検査技師37名（非常勤 3名含む）、事務員 1名、検査助手 3名のスタッフで構成されており、外来患者採血、血液、生化学、免疫化学、輸血管理、微生物、病理の各種検体検査および生理機能検査を行っております。

救急医療への貢献として24時間対応の緊急検査体制と、重症感染症の早期診断、医療関連感染の迅速キャッチを目的とした365日微生物検査日勤体制が確立しています。さらに輸血部門においては、認定輸血検査技師を複数名配置させ、輸血療法にかかわるすべての業務の一元管理が定着しています。一方、生理機能検査においては、超音波検査の拡充を目標に掲げ、超音波検査士育成をはじめとする質的向上を図っており、現在、消化器や循環器をはじめとする延べ15領域 7名の超音波検査士が主に検査を担当しております。

◆実績

2020年度の月別検体検査総件数と外来採血延患者数、ならびに生理機能検査総件数と超音波検査件数について、前年度と比較し下図に示しました。



◆スタッフ

管理栄養士 6名

◆概要

2021年3月現在、病院管理栄養士 6名

患者給食部門は全面委託であり、38名の委託スタッフと協力し、患者給食の運用を行っています。

患者給食は委託であるため、管理栄養士は、栄養指導、栄養管理をメインに行っており、栄養管理並びに指導業務に力を入れています。

外来・入院の栄養指導の他、コロナ禍で集団栄養指導の実施は一部制限をしながらも、心不全教室や透析予防外来での指導を実施しています。

糖尿病教室、消化器病懇話会、腎臓病教室の集団指導にも参加しています。

チーム医療では、NST（栄養サポートチーム）、褥瘡対策チーム、緩和ケアチームにも参加し活動領域を広げています。

- ・糖尿病療養指導士：3名
- ・NST専門療法士：2名
- ・がん病態栄養専門管理栄養士：1名
- ・病態栄養専門（認定）管理栄養士：1名

◆実績

コロナの影響もあり4・5月の指導件数実績は低迷したが、以降は診療部門の協力を得ることができ、2019年度実績より入院指導総件数は約2倍、外来指導総件数は約1.5倍と増加した。

2020年4月～2021年3月入院・外来栄養指導食種別算定実績件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
入院栄養指導	46	43	95	124	84	97	115	120	129	94	89	133	1,075
外来栄養指導	33	34	51	68	53	62	78	57	73	76	67	84	736
集団栄養指導	7	7	6	3	2	3	6	7	8	10	9	5	73
NST加算	50	37	34	48	36	39	58	40	38	46	29	26	521
糖尿病透析予防指導	0	0	0	0	1	1	1	0	2	0	0	2	7

◆スタッフ

(技士長) 勝賀瀬 朗、他臨床工学技士10名

◆概要

当院の臨床工学室は、11名の臨床工学技士で組織されています(2021年3月1日現在)。医療機器管理、血液浄化、心臓カテーテル検査・治療、心臓電気生理学的検査・アブレーション、人工心肺、手術室、集中治療室、呼吸療法、心臓植込み型電気的デバイス関連、睡眠時無呼吸症候群検査、24時間自由行動下血圧測定など、各部門において関連業務に携わっています。その他、各種委員会活動や、医療機器の取り扱いに関する研修を行っています。また、休日や夜間の緊急カテ、緊急手術、医療機器のトラブル等に対応するため、緊急呼び出しにも対応しています。

2008年の「医療機関等における医療機器の立会いに関する規準」(いわゆる立会い規制)の実施により、当院の臨床工学技士の業務は大きく変わりました。医療機器事業者の立ち会いがあった分野については、臨床工学技士が業務として取り入れ、現在は技士主体ですべての業務を行っています。日々複雑多様化する臨床技術に対応し、患者様をはじめ医師やスタッフに高度な臨床技術を提供できるよう努めています。

◆実績

2020年度

業務	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
ICU HD/HDF/ECUM	件	2	1	1	2	3	7	2	0	2	3	8	11	42
特殊血液浄化	件	3	1	3	8	8	12	13	7	11	4	10	4	84
(PE)	件	0	0	0	5	0	0	7	0	0	0	0	2	14
(DFPP)	件	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(エンドトキシン吸着)	件	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
(LDL)	件	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(DFT)	件	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(LCAP)	件	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(GCAP)	件	0	0	0	0	4	6	0	3	7	1	8	1	30
(CART)	件	2	1	2	3	4	6	6	4	4	3	2	1	38
IABP	件	0	3	1	1	2	1	1	3	3	2	2	1	20
PCPS	件	0	0	2	1	0	1	1	2	2	0	2	0	11
人工心肺	件	6	4	2	4	5	4	5	2	8	9	3	4	56
術中自己血回収術(整形外科)	件	43	26	37	38	39	27	45	42	35	37	38	40	447
アンギオ室業務	件	56	37	71	85	65	50	93	88	66	79	96	73	859
(CAG)	件	25	15	24	34	23	16	32	36	30	29	32	29	325
(PCI)	件	13	4	8	17	8	6	14	17	8	14	21	13	143
(AoG)	件	2	7	5	1	4	3	6	4	3	5	6	7	53
(PPI)	件	1	7	4	1	5	2	5	3	3	8	2	6	47
(EPS)	件	8	2	15	16	13	12	18	14	12	12	12	9	143
(ABL)	件	7	2	15	16	12	11	18	14	10	11	23	9	148
CIEDs業務	件	50	51	50	58	24	30	82	53	55	47	46	67	613
植込み	件	4	3	5	14	3	2	7	8	8	3	7	10	74
(IPG/CRT-P)	件	3	3	3	10	2	1	6	7	6	2	6	8	57
(ICD/CRT-D)	件	0	0	2	2	1	0	1	0	1	0	0	2	9
(ILR)	件	1	0	0	2	0	1	0	1	1	1	1	0	8
外来患者	件	37	44	38	38	15	22	64	37	28	33	26	44	426
緊急等対応	件	2	3	5	2	0	3	5	1	3	4	4	1	33
MRI撮像	件	0	0	2	3	1	1	2	2	3	2	2	6	24
OP設定変更	件	0	0	0	0	2	1	1	0	9	0	2	1	16
病棟チェック	件	7	1	0	1	3	1	3	5	4	5	5	5	40
SAS検査	件	3	5	10	12	12	17	19	11	14	13	20	17	153
(SpO2のみ)	件	0	0	1	1	2	3	3	0	2	1	1	1	15
(WatchPAT)	件	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
(簡易型PSG)	件	3	4	9	10	7	12	14	10	10	11	18	15	123
(フルPSG)	件	0	1	0	1	3	2	1	1	2	1	1	1	14
在宅呼吸治療器データ管理	件	101	102	104	103	106	112	118	112	111	113	111	115	1,308
(CPAP) フィリップス	件	62	66	66	65	66	70	76	68	67	69	66	69	810
(CPAP) 帝人	件	30	27	29	29	31	33	34	35	35	35	36	37	391
(ASV) フィリップス	件	8	8	8	8	8	8	7	8	8	8	8	8	95
(ASV) 帝人	件	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
心拍出量測定(エスクロン)	件	2	0	0	1	1	4	6	4	8	3	2	0	31
ABPM	件	0	0	1	0	0	0	3	3	3	3	3	5	21
間接熱量計	件	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
医療機器 点検総数	件	715	617	747	1038	790	719	741	678	827	786	618	833	9,109
(定期点検)	件	81	56	51	340	147	37	58	33	100	46	42	44	1,035
(始業点検、回路接続確認等)	件	634	561	696	698	643	682	683	645	727	740	576	789	8,074
医療機器 修理対応総数	件	46	39	41	44	26	38	37	44	44	50	37	53	499
(院内修理/対応)	件	42	37	33	33	21	32	33	34	30	39	31	43	408
(メーカー修理依頼)	件	4	2	8	11	5	6	4	10	14	11	6	10	91

◆スタッフ

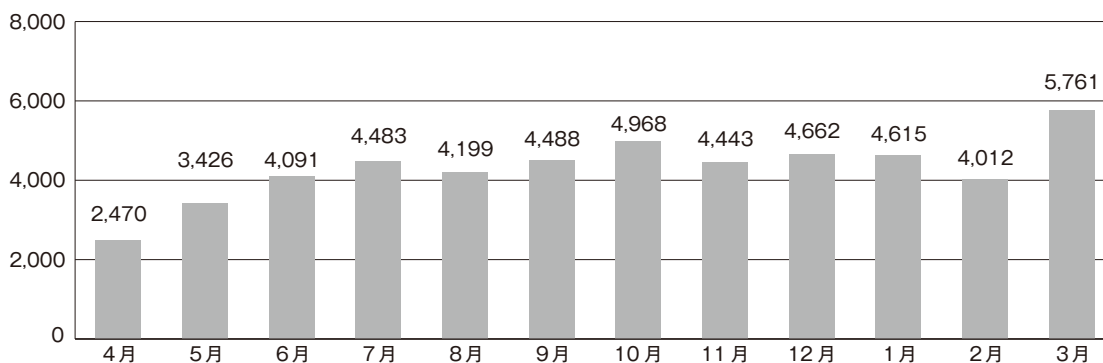
(看護師長) 藤原千佳

◆概要

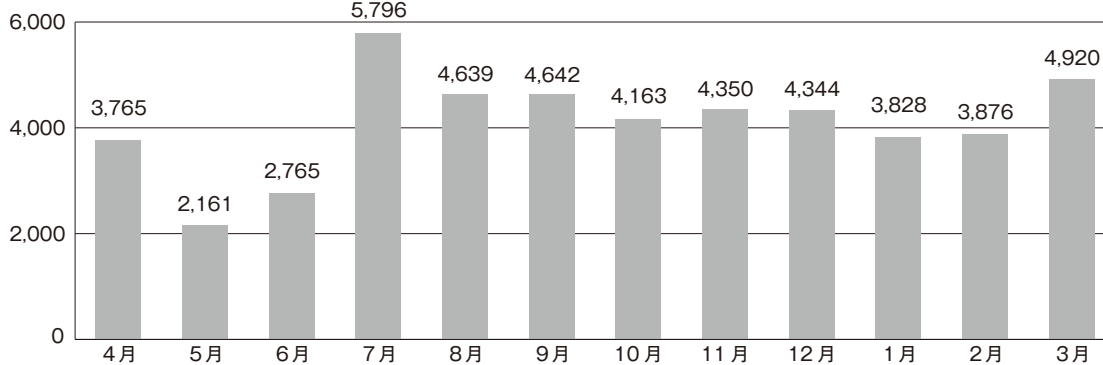
中央材料室は洗浄室と組立室、既滅菌室から成り立っており、医療器械の洗浄から滅菌に至る業務を一括して行っている。

◆実績

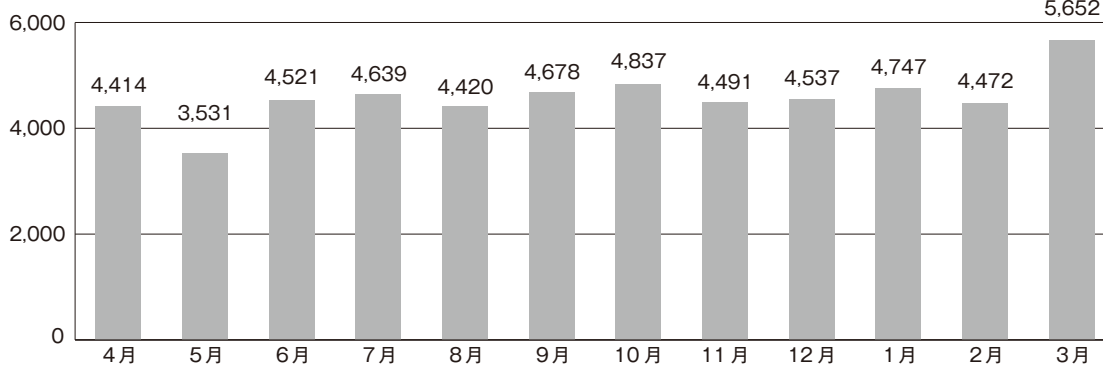
手術室への滅菌物払出数



病棟への滅菌物払出数



外来への滅菌物払出数



◆スタッフ

(部長) 畑中信良、(室長) 三村麻紀子、他看護師11名、医療社会福祉士5名、事務6名

◆地域連携室

地域医療支援病院に必要な前方支援を担当する地域連携室の主な業務は、救急紹介患者の診療支援、紹介患者の予約診療支援、開放型病床・産科オープンシステムの支援、特殊検査の予約管理、地域連携パスの管理、広報活動などをおこなっている。

その他、大阪府がん診療拠点病院として、がん診療地域連携パスを採用、また脳卒中、大腿骨頸部骨折の地域連携パスも採用している。普及、利用拡大に向け努力し、地域医療機関の先生方と情報共有をおこない、協力して患者さんの治療にあたっている。

今年度は、COVID-19の流行にともない、通常診療・検査の予約に関しては減少した時期もあったが、発熱を含めた救急紹介患者は増加し、その受入れには看護師、MSWを配置、各診療科、救急部と密に連携を図り、スムーズな受入れに努めた。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	2020年度
診療予約受付件数	490	530	869	869	806	922	983	1,050	908	974	1,006	1,299	10,706	10,726
救急紹介受付件数	59	50	53	60	96	103	99	105	113	107	88	115	1,048	—
検査申込受付件数	107	90	98	95	74	75	85	53	53	69	72	71	764	942

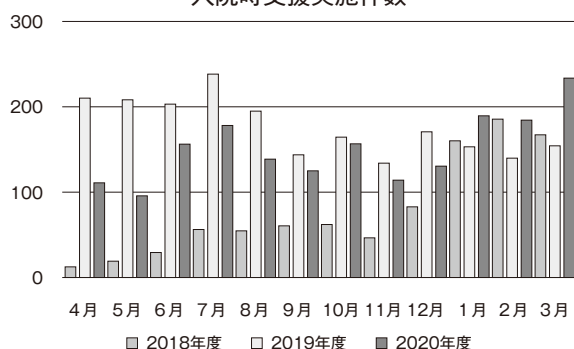
◆医療福祉相談室

医療福祉相談室は、看護師とMSWが、それぞれの専門知識を活かし、患者さん・ご家族が、住み慣れた地域で自分らしく生活し続けられるよう、院内多職種や地域関係職種と協働して入退院を支援、また医療福祉相談などに対応している。

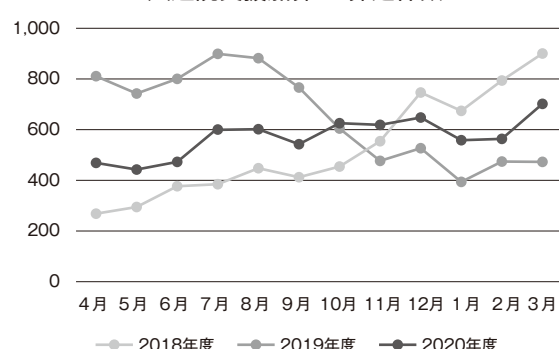
入院が予定された患者さんに対し、入院生活の説明や治療経過の説明等を行い、患者さん・ご家族が、安心して入院医療を受けられるよう入院時支援を実施、対象者拡大に向け努めている。退院支援では、入院後早期から病棟スタッフ等と協力しながらスムーズな退院を目指している。入退院支援加算算定件数、退院調整件数も年々増加し、回復期病院や在宅医療・介護職種との連携強化を図っている。医療福祉相談では、入院中・外来通院中の患者さんやご家族の、在宅療養に関する不安、社会福祉制度の申請やサービスに関する情報提供等を行っている。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	2020年度
入院時支援件数	112	95	157	180	140	127	157	114	131	191	186	234	1,824	2,129
退院調整件数	66	64	47	62	72	87	77	79	85	72	88	77	876	815
医療福祉相談件数	126	115	141	112	92	89	122	101	89	120	99	59	1,265	2,167
入院時支援加算算定件数	114	126	120	157	154	118	138	146	142	127	156	229	1,727	1,812
入退院支援加算算定件数	470	439	472	604	601	541	624	621	651	561	563	705	6,852	7,857

入院時支援実施件数



入退院支援加算1 算定件数



◆スタッフ

看護部長：谷岡美佐枝 副看護部長：猪子弘美・中野美佳・村上博美 他部署配置表の通り

◆看護部の理念

《看護部の理念》

地域住民の健康で幸福な生活を支える看護

◆2020年度 看護部重点目標及び評価

目標1. 地域医療支援病院・大阪府がん診療拠点病院として、効果的な病床運営を行う

➡経常収支は、COVID-19空床補助により黒字（約5億円）で計上できたが、COVID-19の影響は大打撃であった。救急受け入れのシステム改善から受け入れ患者数の増加、応需率向上ができ、入院患者増にもつながった。これにより、入院単価が過去最高を呈した（約7,500点）地域連携においてはPFM拡充の基盤は作ることができた。医師を含めた他職種との交渉に難渋したが、幹部からの周知により、次年度更なる拡充が期待できる。大阪府がん拠点病院としての体制再構築については、拠点病院の要件一つひとつについて体制を構築する。

目標2. 学び・育て合う教育体制を再認識し、自律した看護を実践できる人材を育成する

- 1) 教育方針・クリニカルラダーを基にe-learningを活用しOJTへと連動できる教育計画を再構築する（教育委員・臨床現場・附属看護専門学校教員共に）

➡教育計画の再構築には至っておらず、まずは教育体制から再検討を行っている。e-learningの活用に関しては、研修の事前課題としての活用はできているが、自己学習については利用が少ない。
- 2) マネジメントラダーを基に看護管理職を育成するための教育計画の実施と評価を行う

➡マネジメントラダーに関しては、昨年度より導入は行ったが、十分に活用ができていない。
今年度副看護師長登用試験に5名受験し、2名が合格した。
- 3) チーム医療の要となるCNS/CNの看護実践能力向上に向けた取り組みと次なるスペシャリストの育成

➡CNS/CNの看護実践能力向上に向けた取り組みの実際が明確でなく評価困難。次なるスペシャリストの育成は、次年度2名が認定看護師研修に臨む。
- 4) 特定行為研修修了者を活かす取り組みと次なる研修修了者の育成

➡他施設の研修生を受け入れながら、特定看護師が研修指導を実施しており、特定看護師育成に取り組めたが、どのように活かすかについてはまだ模索中である。臨床推論をできる人材を育成するためにも、今後特定行為研修の情報発信の在り方、実践できる体制の整備が課題である。また、医師の働き方改革で、特定看護師の役割も明記されており今後検討が必要である。
- 5) 看護研究の支援と取り組みを継続する

➡看護研究支援は個別に数件のみ実施された。主体的に参加する者が少ない。継続して看護研究に臨む土壌が課題である。
- 6) 患者の立場に立ってケアを提供できる人材を育成するために、接遇と倫理教育を継続する

➡入職時の接遇研修および接遇チームによるラウンド、毎月のキャッチフレーズの掲示・唱和の継続

は実施できている。倫理教育に関しては、外来での患者の思いをどう病棟や地域につなぐか、患者の思いをつなぐACPを含め看護部全体として計画的に取り組む必要がある。

7) がん看護の実践力向上に向けて教育体制を整備する

➡がん看護に関するラダー別教育を開始できた。教育体制を整備するには至っていない。

8) 看護補助者における新たな教育体制の展開

➡補助者ラダーの導入は行ったが、新たな教育体制の構築には至っていない。また、男性チームを結成し、業務の見直しも施行。

目標3. 患者の安心・安全のために看護の質向上に関する取り組みを行う

1) 看護の質評価方法の探究

➡看護の質評価委員会により構造評価の各項目を質評価として実施するための取り組みを実施。それをもとに今年度は構造評価を質評価として実施できたが、構築までには至っていない。

2) 看護の質と診療報酬の連動を検討し活用する

➡看護師長会でデータの共有は行ったが、看護の質と診療報酬の連動の検討には至らなかった。

3) 看護外来の開設に向けて取り組む

➡各看護外来の開設は行えた。しかし、結果としての共有ができなかった。

4) 安全対策立案・業務改善に取り組むために、障害レベル0のインシデント報告の増加を図る

➡1月の時点で障害レベル0報告件数：612件、障害レベル1報告件数：975件（計：1,591件）と大幅にアップ。ヒヤリハット報告（障害レベル0・1）が総報告件数（2,411件）のうち6%を占めた。リーダー層からの報告が多く、本来あるべき姿勢・看護で日々の業務・看護を行う姿勢を見せてくれたと感じる。若いスタッフへ、その姿勢を見せつつ、現場での教育に結び付けていく必要があると考える。インシデントの系統的な分析結果を安全対策・業務改善に活用し評価することが課題。

目標4. 職員一人ひとりが健康で働きやすい職場づくりを行う

1) 安全で効率的な働き方を構築するために業務改善を行う

➡超過勤務は、平均6.7時間以下/月/人（各部署で目標設定）でほぼ達成。

2) 有給休暇・時間外勤務の適正管理

➡有給休暇取得5日は達成。（10日以上は未達成）計画的な取得は課題となった。

3) WLBに応じた多様な勤務体制・業務内容の採用

➡副看護師長会で多様な働き方のシフトの案が出来上がった。

4) 部署を越えた応援態勢の再構築

➡COVID-19感染対応、ICU稼働病床・OP件数の増加に伴う応援態勢を強化したが、今後は根本的な働き方改革が必要。

目標5. 地域支援病院として保健医療福祉活動を拡充する

➡オープンキャンパス4回開催し、COVID-19感染症の影響により、Zoomによる研修に順次切り替えて実施したが、新たな取り組みを実施することができなかった。

◆各部署の責任者

看護部長	谷岡 美佐枝		
副看護部長	猪子 弘美	村上 博美	中野 美佳
所属	看護師長	所属	看護師長
教育担当	谷口 智子	10階西病棟	狩野 智恵
がん担当	土岐 昌世	11階東病棟	遠藤 聖美
看護外来担当	清水 加世子	11階西病棟	長辻 玲子
看護ケア推進室	柴谷 涼子	12階東病棟	杉 佳子
ICU	中村 明美	12階西病棟	北 由美
8階東病棟	浦上 友江	13階東病棟	玉置 ひろみ
NICU	浦上 友江(兼)	13階西病棟	玉置 ひろみ(兼)
8階西病棟	中筋 葉子	外来(一般診療)	鈴木 志帆
8階南病棟	今井 康乃	外来(治療検査)	福永 花子
9階東病棟	田中 真由美	手術室	藤原 千佳
SCU	森本 結美	血液浄化センター	酒井 圭子
9階西病棟	草場 奈緒	医療安全管理室	堀 美和子
10階東病棟	東城 夏恵	医療福祉相談室	三村 麻紀子

◆看護部の委員会の活動状況

各種会議・委員会名	委員長	各種会議・委員会名	委員長
看護師長会	谷岡 美佐枝	業務委員会	狩野 智恵
副看護師長会Ⅰ・Ⅱ	谷岡 美佐枝	安全管理委員会	田中 真由美
看護ケア推進会議	柴谷 涼子	看護部倫理委員会	東城 夏恵
看護の質評価委員会	中野 美佳	看護研究推進委員会	中野 美佳
教育委員会	谷口 智子	地域連携企画委員会	村上 博美
新人研修委員会	谷口 智子	がん看護運営委員会	土岐 昌世
記録委員会	遠藤 聖美		

1. 看護師長会

看護部の最高決定機関として位置付けている。今年度は、特にCOVID-19感染対応に関することに時間を費やした。また、その影響による経営面の低迷が問題となり、看護部としての取り組みと対応について検討を重ね、アウトカムにつながるようPDCAを廻した。

2. 副看護師長会

生き活きと働き続けることができる職場づくりを継承するために、日本看護協会が提唱しているHealthyWork Placeに参画し、4つのWG(①勤務体制 ②魅力ある職場 ③若手看護師の対応 ④業務改善)を設立、それぞれが自律的に課題に取り組み、第1報を医療マネジメント学会にて発表した。次年度も活動を継続し、第2報を報告する予定である。

3. 看護ケア推進会議

院内教育をする立場としてジェネラリスト看護師の看護力アセスメントと課題の明確化および課題解決のための方策について検討した。また、各専門分野のスペシャリストが中心にオープンキャンパスに取り組み、疾患や治療について、健康増進について広報活動を行った。

4. 看護の質評価委員会

看護の質評価方法を探求し、一連の構造・過程・結果評価について構築することを目的に活動を行った。今年度の特徴は、構造評価についてBasicに焦点をあて、「構造」「過程」「評価」を連動するプロセスとして評価を試みたことである。また、Basic、Safety、Nursing、Educationにもすべてにつながりがあることを再認識した。これらの評価を“看護の質評価”としてさらに探求することが課題である。

5. 教育委員会

今年度、①OJTへの連動・評価方法を検討・実施する②e-learningの効果的な活用方法を検討・実施する、について重点的に取り組んだ。①研修受講後は、課題を持ち継続的に取り組む意識は向上したが、事後課題になっているものが多く、OJTの位置づけとしての企画・実施にはなっていなかった。OJTの在り方の検討と周知が課題である。②e-learningの導入については、コロナ禍で時間短縮しながらの研修開催や部署内教育への活用など新たな教育ツールとして使用できた。今後は、全体の視聴率向上とより効果的な活用が課題である。

6. 新人研修委員会

今年度、コロナ禍の状況の中、感染対策を遵守しながら可能な限り研修を開催した。新人看護師が目指す姿や目標を共有し、1年後に目指す姿に到達できるようポートフォリオの一環としてゴールシートを導入した。これにより、目標の共有や対話を通し新人看護師の思考の可視化に繋がった。また、新たな試みとして、看護業務を経験学習できる配属部署研修を導入した。新人看護師にとっては、看護を考えて実践し、省察を繰り返しながら課題を見出せる機会となった。

7. 記録委員会

電子カルテの看護支援システムの定型文・テンプレートの周知と活用ができてきていなかったことから、グループワークで、効果的に利用できるように見直しと作成を行い、看護記録の標準化と記録時間の短縮に向けた取り組みを行った。外来・地域との連携強化のため、看護情報提供書の改訂を行った。看護過程監査を行い、課題の抽出と対策の立案を行った。

8. 業務委員会

各部署ごとに患者の療養環境の改善のための計画を立案し、活動した。療養環境だけでなく、看護の効率化についても取り組んだ。看護手順・補助者手順を改訂し、委員会師長がラウンドを行い、手順の周知に取り組んだ。

9. 安全管理委員会

薬剤関連のインシデント減少、各部署の安全に関する問題解決、マニュアル厳守に向けた取り組みを実施したが、薬剤関連インシデントは増加した。

インシデント報告の傾向や看護の質向上に繋がるような安全に関する研修を企画・実施し、いずれも楽しく学べ、実践に活かすことができている。

10. 看護部倫理委員会

委員会内で実施された倫理検討は6事例であった。部署におけるケアカンファレンスの実施は100件を超え（2019年度84件）、ケアカンファレンスの場で倫理問題を検討することが定着傾向にあると推察された。また、倫理検討支援グループが各部署のケアカンファレンスに参加する機会も設け、ファシリテーション技術の向上にも寄与した。より一層、日常的にケアカンファレンスの場で倫理的側面も検討

できるようになることが課題である。

11. 地域連携企画委員会

地域のニーズを把握し、地域住民・医療従事者・外来患者を対象に健康教育・介護予防のための企画・運営を行った。2階のラウンジを利用してオープンキャンパスとして「感染予防」「糖尿病」「がん」「褥瘡予防」「人間ドッグの勧め」を開催した。地域の医療従事者対象には、コロナ禍のためZoomを利用した講演会を3回実施した。

12. がん看護運営委員会

質の高いがん看護サービスの提供を目的に2020年度設置された。まずは、大阪府がん診療拠点病院指定要件を参考にがん看護サービス提供体制の現状把握を行った。「がん看護サービスにおいて優先度が高く、実現可能な活動の実施」を重点目標とし、「がんオープンキャンパス」イベントを開催し、患者への情報提供活動を行った結果、参加者多数で好評であった。次年度は年間計画を提示し、さらに地域住民のニーズを考慮した活動を実施していく。

◆ワーキンググループの活動状況

各種会議・委員会名	委員長	各種会議・委員会名	委員長
感染予防実行委員会	小井里香	栄養管理実行委員会	長辻玲子
褥瘡対策実行委員会	清水加世子	緩和ケア実行委員会	志方優子
入退院支援実行委員会	三村麻紀子	認知症ケア実行委員会	杉佳子

1. 感染予防実行委員会

清潔で快適な療養環境の提供を目的とし、環境整備マニュアルの改訂に取り組んだ。環境整備マニュアル自体が活用されていない現状があったため、文献を参考にチェックリスト形式にして作成。誰でも同じ視点で環境整備が行えるか確認するために、リンクナースがグループに分かれてラウンドを行った。ラウンドを繰り返し、チェックリストの不具合や漏れがないか検証し、完成できた。現場での活用方法については、常日頃から快適な療養環境の提供ができるよう、引き続き活動を実施していきたい。

2. 褥瘡対策実行委員会

各部署の特殊性を踏まえて褥瘡予防対策を立案し実施した。基本のポジショニングについてのビデオを作成して各部署でスタッフ教育に活用した。褥瘡発生時には発生状況と対策を共有し、それぞれの部署でスタッフに伝えることで褥瘡対策につなげることができた。また、医療関連機器圧迫創傷（MDRPU）、スキントアの発生状況を把握し、リスクの高い患者や医療機器に着目して予防・ケア実践ができるように取り組んだ。

3. 入退院支援実行委員会

患者・家族が安心して療養生活を送ることができるよう、入退院支援、在宅療養支援、地域連携の質向上を図ることを目的に活動した。事例を交えて入院前から退院後までの継続的な看護や意思決定支援などについて学習・検討することで、部署の入退院の特徴に応じた支援と課題解決にむけて取り組んだ。

4. 栄養管理実行委員会

1. 栄養管理におけるアセスメント力の向上が図れるよう委員会内で症例検討を6症例実施した。
2. 患者の全体像を捉え、栄養介入が必要な患者に対し、早期から看護ケアを提供できるよう各部署、

年間目標を立案し取り組みを行った。

3. 摂食嚥下機能療法のケアの向上のためフローの理解と周知を行った。各委員が部署内で勉強会を行い、フローの周知徹底をはかるよう工夫した。また、算定件数を毎月確認した。

5. 緩和ケア実行委員会

緩和ケアの普及のために各部署のリンクナースへ症状アセスメント、倫理的な問題への気づきなどのミニレクチャーを行い、それをもとに提供事例と各リンクナースが看護実践を行った事例で事例検討会を実施した。年度初めと終わりに緩和ケアの実践・困難感を問う調査を行い、ほとんどの項目で改善されていた。

6. 認知症ケア実行委員会

「認知症や認知機能低下のある患者に対する看護が実践できる」「事例検討を通して、日々の業務へ活用できる」を目標に活動した。認知症、せん妄患者に対してのケアについての意識は向上した。アセスメントも向上し、認知症ケアチームにつなぐことができるようになった。せん妄予防ケアおよびせん妄改善のためのケアの取り組みについても入院時から積極的に取り組んでおり、また事例検討を通して学びを深め、看護実践に活かせることができていた。

◆大阪病院における看護評価

	全項目			基本に関する事項			安全に関する事項			看護ケアに関する事項			教育、研修に関する事項		
	出来ている	出来ていない	該当なし	出来ている	出来ていない	該当なし	出来ている	出来ていない	該当なし	出来ている	出来ていない	該当なし	出来ている	出来ていない	該当なし
看護部															
病棟平均	73	25	2	52	48	0	76	21	3	76	21	3	61	38	0
外来一般診療	81	17	2	58	42	0	90	6	4	77	23	0	71	29	0
外来治療検査	61	39	1	42	58	0	68	30	1	66	34	0	33	67	0
救急室	71	25	4	42	50	8	81	16	3	64	30	6	71	29	0
手術室	85	14	1	73	20	7	87	11	1	85	15	0	86	14	0
BPC	85	14	1	42	58	0	86	12	3	92	8	0	86	14	0
在宅	43	33	25	36	29	36	50	9	41	50	50	0	38	57	5
全部署平均	71	24	5	49	44	7	77	15	8	73	26	1	64	35	1

◆看護師現員数

看護部長	谷岡美佐枝						
副看護部長	猪子弘美		村上博美		中野美佳		
所属	看護師長	看護師数	看護補助者数	所属	看護師長	看護師数	看護補助者数
ICU	中村明美	27	0	12階西病棟	北由美	22	4
8階東病棟	浦上友江	28	2	13階東病棟	玉置ひろみ	26	5.8
NICU	浦上友江	13	0	13階西病棟	玉置ひろみ	10	0
8階西病棟	中筋葉子	16	2	手術室	藤原千佳	36	1
8階南病棟	今井康乃	24	3	血液浄化センター	酒井圭子	7	0
9階東病棟	田中真由美	29	3	外来(一般診療)	鈴木志帆	29.9	19.1
SCU	森本結美	20	0	外来(治療検査)	福永花子	21	3
9階西病棟	草場奈緒	30	5	救急	松山佳子	12	1
10階東病棟	東城夏恵	24	5	看護部長室	土岐昌世 清水加世子 谷口智子	8+	2
10階西病棟	狩野智恵	26	5	看護ケア推進室	柴谷涼子	3	0
11階東病棟	遠藤聖美	26	4	医療安全管理室	堀美和子	2	0
11階西病棟	長辻玲子	26	4	医療福祉相談室	三村麻紀子	9.2	0
12階東病棟	杉佳子	24	8	合計		499.1	76.9

◆職員の動向

<看護職員数>

2020年度			
看護職員数	522.2	全体離職率(%)	11.8
産休・育児休暇者	35	新人看護師退職率(%)	7.6
新採用者数	52	在籍者平均年齢	32.7
中途採用者数	15	平均経験年数(年)	10.3
退職者数	59	既婚率(%)	30.0

<看護師背景>

1) クリニカルラダー別割合

ラダー	2020年度
I	11%
II	32%
III	34%
IV	19%
V	4%

2) 学歴

学歴	2020年度
看護専門学校卒	60%
短期大学卒	4%
看護大学卒	26%
看護系大学院卒	2%

<資格取得者・長期研修修了者数>

2021年度3月末現在

専門看護師	1	認定看護管理者	2
認定看護師	15	サードレベル修了者	1
診療看護師	1	セカンドレベル修了者	16
特定行為研修修了者	6	ファーストレベル修了者	28

◆看護学校など実習受け入れ状況 2020年度

学校名	実習科目	延べ人数(人)
JCHO大阪病院附属看護専門学校	基礎・成人・老年・母性・小児・統合	7期生 1,396
		8期生 520
		9期生 280
兵庫医療大学	統合	10
大阪医療保険福祉専門学校	母性・小児	24
甲南女子大学	基盤 I 母性(リモートのみ)	16
武庫川女子大学	母性	55

◆教育全般

<院外研修>

	研修名	受講者
1	認定看護管理者教育課程研修 サードレベル	1
2	認定看護管理者教育課程研修 セカンドレベル	2
3	認定看護管理者教育課程研修 ファーストレベル	5
4	保健師助産師看護師実習指導者講習会	0
5	大阪府看護協会短期研修	121
6	JCHO 特定行為研修	7

<院内研修>

新採用者研修プログラム

今年度、4月の新人は52名であった。新人看護職員研修として、以下14研修、コアレクチャーとして12研修を計画実施した。また、今年度の新たな試みとして看護業務を経験学習できる配属部署研修を導入した。新人看護師にとっては、看護を考えて実践し、省察を繰り返しながら課題を見出せる機会となった。

今年度の離職率は7.6%であった。途中休職する新人看護師もあり、コロナ渦であることも踏まえ職場適応やメンタルサポートへの継続的な関りが必要である。

研 修 名		研 修 名	
新採用時研修		看護倫理Ⅰ	
3ヶ月研修		看護過程Ⅰ	
6ヶ月研修		看護記録	
9か月研修		フィジカルアセスメントⅠ	
1年目研修		救急看護Ⅰ	
ローテーション研修		コミュニケーションスキルⅠ	
配属部署研修		重症度、医療・看護必要度研修	
コアレクチャー前期	呼吸状態の観察	コアレクチャー後期	摂食・嚥下障害看護
	心臓の解剖・生理と心電図		在宅療養支援
	循環動態の観察		認知症・高齢者看護
	周手術期アセスメント・観察		がん看護
	意識レベル・麻痺状態の観察		褥瘡予防対策
	糖尿病と血糖コントロール		感染管理
新人看護師ひとりあたりの研修合計時間 330時間 50名が受講を修了した			

■クリニカルラダー別教育計画

研 修 名	受講者数	研 修 名	受講者数
看護倫理Ⅱ	25	新人看護職員実地指導者研修PartⅠ	13
看護倫理Ⅲ	12	新人看護職員実地指導者研修PartⅡ	12
看護過程Ⅱ	40	新人看護職員教育担当者研修PartⅠ	6
リーダーシップⅡ	35	新人看護職員教育担当者研修PartⅡ	5
リーダーシップⅢ	21	臨床指導者研修PartⅠ	17
フィジカルアセスメントⅡ	29	臨床指導者研修PartⅡ	12
救急看護Ⅱ	31	看護研究Ⅱ	7
救急看護Ⅲ	14	看護研究Ⅲ StepⅠ・StepⅡ	7
在宅療養支援Ⅱ	24	感染管理Ⅱ	22
在宅療養支援Ⅲ(講義編)	11	感染管理Ⅲ	11
2年目看護師研修	44	スキンケアⅡ	18
プリセプターシップ	39	スキンケアⅢ	5
プリセプター交流会Part1	32	がん看護Ⅱ	69
プリセプター交流会Part2	29	臨床推論	10

(看護師長) 志方優子、看護師 1 名

◆重点目標

1. 病院経営を意識した活動を推進する

- 1) がん患者指導管理料、緩和ケア診療加算などがん医療関連の診療報酬算定方法の再検討
- 2) 抗菌薬適正使用支援加算要件見直しに伴う体制を整備

2. 患者の安心・安全のために看護の質向上に関する取り組みを行う

- 1) 継続的な患者サポート体制の検討

◆実績

看護外来、同行訪問を実施するなかで入院、外来、地域での看護の継続性が出来てきた。その影響で緩和ケア診療加算・がん患者指導管理料イ・ロの件数は増加。新たに在宅患者訪問看護指導料の算定も加わった。また、外来における特定抗菌薬使用状況把握について、必要なデータ抽出できる体制を整えた。

(看護師長) 中村明美、看護師27名 12床

◆重点目標と実績

ICUは全室個室12床を有しており、循環器疾患や心臓血管外科・外科・脳神経外科などの大手術後、合併症を有する患者の術後、病棟での急変などの患者に対して高度で安全な医療・看護の提供を行っている。

今年度は、効果的な病床運営のため、手術室および各科医師と協力しスムーズなりカバリー入室の実施に向けた取り組みを行い、効果的な病床運営を行った。2019年度は8床で運用していたが、地域住民のニーズに応えられるよう2020年12月からは10床での運用とした。またICU 端末OFF時間の短縮に向けた取り組みを行い、救急患者の円滑な受け入れに努めた。

(看護師長) 浦上友江、助産師31名、看護師10名 産婦人科：20床 小児科：6床

◆重点目標と実績

8階東病棟とNICUは“母子医療センター”として産科医、小児科医、助産師、看護師が常に連携・協働し、安全な周産期管理を目標に、正常分娩だけでなくハイリスク分娩や新生児管理を行っている。

分娩件数は、平均38件/月、458件/年であり、前年度と比較して約100件の減少となった。COVID-19による病棟閉鎖等の影響もあったが、今後は平均50件/月の分娩数確保を目指して取り組んでいくことが課題である。分娩件数の減少に加えて、NICUの定床を9床から6床へと減らしたことにより、NICUのべ入院患者数は960名と、前年度より約300名減少した。2,000g未満の低出生体重児や34週台の早産児などの受け入れを積極的に行っていくことが今後の課題である。

(看護師長) 中筋葉子、看護師16名 小児科：22床

◆重点目標と実績

8階西病棟は小児科病棟であり、小児入院医療管理料2を取得している。15歳未満の小児患者を24時間受け入れることが出来るよう体制を整え、病床運営を行った。小児科特有の急性感染症(呼吸器感染症、胃腸炎など)の患者が約半数を占めており、内分泌・骨代謝疾患の他、整形外科疾患、耳鼻科疾患など多岐にわたっていた。今年度はCOVID-19感染拡大により面会制限が実施されたが、当病棟では12歳未満の患児に限定して育児や精神的安寧のために、感染予防対策を徹底したうえで付き添いを可能とした。

COVID-19感染拡大状況下において病床稼働率の低下もあり、成人患者も積極的に受け入れた。また、部署内のみでなく、多忙な部署等に応援勤務として貢献できるよう看護師間での協力・調整を行った。

8階南病棟

(看護師長) 今井康乃、看護師24名 産婦人科・乳腺内分泌外科：42床

◆重点目標と実績

当病棟は産婦人科、乳腺内分泌外科を中心とした女性病棟である。診療科別入院患者割合は、産婦人科32%、乳腺外科27%、消化器内科12%、内科11%、その他診療科18%であった。緊急入院も多く、月平均の新入院患者113.6名の32%、また病院全体の9%を占め、様々な診療科の女性患者が安心して入院できるよう体制を整えている。治療別では手術45%、化学療法26%、内視鏡治療（消化管）19%、放射線治療9%、その他1%であった。がん関連の積極的治療や終末期に対する看護を実践しながら、院内外が多職種と連携をはかり、患者や家族の希望に沿った看護の提供に努めている。

9階東病棟

(看護師長) 田中真由美、看護師24名 脳神経外科・脳神経内科・消化器内科：39床

◆重点目標と実績

9階東病棟は、脳神経外科、脳神経内科、消化器内科の混合病棟である。入院患者の半数以上は脳卒中の患者でSCUでの急性期治療を受けた後の転入となっている。様々な入院目的の患者に対し、安心、安全な医療・看護が提供できるよう多職種で連携しながら介入を行った。また、脳神経疾患の専門病棟として、様々な機能障害を発症した患者に生活の再構築を見据えた機能回復への援助や家族を含めた再発予防に対する指導の充実に努めた。

1. 地域医療支援病院として、効果的な病床運営を行う

SCUをはじめ関連部署との連携をはかり転入患者の計画的な受け入れや、直入患者の積極的な受け入れを行ったが、入院患者1日平均34人、病床稼働率87.3%と目標には達しなかった。

SCU(脳卒中ケアユニット)

(看護師長) 森本結美、看護師20名 脳神経外科・脳神経内科：9病床

◆重点目標と実績

脳卒中ケアユニットでは全室個室9床での運営で急性期の脳卒中（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血）患者を対象としている。脳卒中発症早期から医師、看護師、多職種と協働し、脳卒中急性期患者の回復促進を図っている。今年度疾患割合は脳梗塞73%、脳出血19%、くも膜下出血3%、その他5%であった。

1. 地域医療支援病院として、患者のスムーズな受け入れと効果的な病床運営を行う

2020年から脳卒中ホットラインの開始に伴い、9階東病棟、医師と共に効果的でスムーズな受け入れができるようにベッドコントロールの強化を行った。2019年度の直入患者310名であったが、2020年度は368名と増加した。

9階西病棟

(看護師長) 草場奈緒、看護師27名 循環器内科・心臓血管外科・消化器内科：45床

◆重点目標と実績

1. 1日平均入院患者37名、病床稼働率83%以上を維持する

4月～6月の患者数減少により1日平均入院患者36.9名、病床稼働率81%と目標達成には至らず。緊急入院の受け入れ強化や、医師との情報共有等により7月以降は80%以上を維持。

2. 循環器疾患・心臓血管外科疾患患者に関する看護実践力の育成にむけ、OJTと連動した勉強会の実施

医師と勉強会の内容を再検討し、実践に基づいたものに変更。スタッフの理解や実践への応用に繋がり、若手～中堅層の育成に至った。

3. 心不全指導の質向上のために院内多職種・外来と連携し、心不全教室を継続する

参加人数の縮小など密な状況を避けて開催を継続した。外来との連携強化に向けた取り組みを継続。

(看護師長) 東城夏恵、看護師24名 消化器内科：45病床

◆重点目標と実績

10階東病棟は消化器内科単科の病棟で、内視鏡等検査および治療・処置を目的とした短期入院患者、悪性・慢性疾患に対し繰り返し治療を継続する患者、消化器疾患が急性増悪する患者、消化器疾患を抱えた状態で療養生活に臨む患者、急性期から慢性期を経て終末期に移行していく患者が入院している。2020年度は消化器内科の専門的な治療を受ける患者の入院を受け入れられるようにベッドコントロールを実施し、稼働率を上昇させることができた。また、消化器内科の専門的な治療を安全安楽に受けることができるように、部署内教育計画を見直し、看護実践力の向上に努めた。

(看護師長) 狩野智恵、看護師26名 消化器内科：45病床

◆重点目標と実績

1. 地域医療支援病院・大阪府がん診療拠点病院として、効果的な病床運営を行い病床稼働率90%達成する
COVID-19受け入れの影響で病院全体の稼働率が低下したが、悪性疾患の患者を対象とする当病棟は入院患者の減少はなかった。他科の患者受け入れ、緊急入院などで病床稼働率は86%（前年82.4%）と前年度より上昇した。手術件数も621件（前年507件）と増加。
2. がん看護・消化器外科看護の実践力の向上及び、リーダーシップを発揮できる中堅看護師の育成
医師と看護師とともに勉強会を実施、がん看護研修に7名参加
他、大阪府看護協会短期研修1名参加、がんリハビリテーション研修終了1名
3. 患者の安心・安全に向けた取り組みを継続する
麻薬の事故に対して、振り返りとともに教育・部署内での取り決めを決定。医師・がん看護CNSとともに麻薬リーダーのテンプレートの定着に努めた。

(看護師長) 遠藤聖美、看護師26名 糖尿病内分泌内科・呼吸器内科・呼吸器外科：45病床

◆重点目標と実績

1. 予定入院患者、救急患者をスムーズに受け入れ効果的な病床運営を行う
1日平均入院患者数36名、病床稼働率は79%だった。糖尿病内科は緊急入院や、予定入院の追加が多く呼吸器内科は転院調整に期間を要した。また、COVID-19とVREの影響で病床運営が安定しなかった。
2. 呼吸器疾患・がん看護、糖尿病看護の専門性を高め、看護実践力を発揮できる人材を育成する
がん看護、人工呼吸器看護はCNS、認定看護師に勉強会を依頼して実施し、がん看護Ⅱの研修にラダーⅠ以外の看護師は全員参加した。糖尿病看護については、糖尿病認定看護師による勉強会を開催しOJTを実践した。関連する診療報酬の算定もシステムに取り入れることで取り漏れが減少した。

(看護師長) 長辻玲子、看護師26名 整形外科・泌尿器科：45病床

◆重点目標と実績

1. 地域医療支援病院・大阪府がん診療拠点病院として、効果的な病床運営を行う
 - 1) 入院患者1日平均41名、病床稼働率90%を維持する。
 - 2) 救急患者受け入れられるようベッドコントロールを行う。
 - 3) 入退院支援職員と連携し予定通りに退院できるよう入退院支援をする。
 - COVID-19の影響もあり稼働率は目標値に達することができなかったが、担当医と情報交換を行い、ベッドコントロールを行った結果、新入院数は2019年度66.06人より78.17人、緊急入院数は11.67人より20.17人へと増加することができた。
 - 予定通りに退院できるよう、受け持ち看護師がコメディカルと情報共有し目標達成できるよう取り組んだ。

(看護師長) 杉 佳子、看護師22名 整形外科：45床

◆重点目標と実績

1. 整形外科、救急患者を受け入れ、効果的な病床運営を行う

1日平均入院患者38.3名、病床稼働率85.2%、直入患者割合20.2%、重症度、医療・看護必要度（Ⅱ）では、40.7%であった。病床稼働率の目標を90%としていたが、達成することはできなかった。今年度、スタッフや患者からCOVID-19が発生し、入院制限を行ったことが原因の一因である。目標達成するために緊急入院を積極的に受け入れた。また救急患者を円滑に受け入れるための業務改善を行った。

そして、入院時から早期退院を見据えた支援を行うため、医療福祉相談室と連携し、密な情報交換を行い対象患者にアプローチを行った。平均在院日数は22.5日から19.2日と減少はした。

(看護師長) 北 由美、看護師22名 整形外科：45床

◆重点目標と実績

1. 整形外科の予定入院患者、救急患者を受け入れ、効率的な病床運営を行う

COVID-19の影響から一部疾患で手術件数が減少し、病床稼働率は平均85.4%と目標の90%以上は達成できなかった。しかし、整形外科3病棟で入院患者数をコントロールし、稼働率に偏りが無いよう調整できた。重症度、医療・看護必要度の平均は、40.1%と目標達成した。

入退院支援加算は、退院患者の平均88.6%の算定であった。入院後7日以内の入退院支援カンファレンス実施後に患者へ計画書を開示し、入院時から患者と退院目標を共有し、安心・安全に退院後の生活を過ごしてもらえるよう看護介入できた。

(看護師長) 玉置ひろみ、看護師33名 眼科・耳鼻咽喉科・皮膚科・形成外科・内科：45病床
COVID-19対応病床：15病床

◆重点目標と実績

1. COVID-19疑いまたは陽性患者の受け入れ体制を整え、地域医療に貢献する

2020年4月より大阪府の要請を受けCOVID-19罹患患者受け入れを開始。その後、大阪府下の感染状況に応じて病棟編成を組み替え柔軟に対応した。フォローアップセンターや外来・病棟と連携し、受け入れ病床を確保し疑義症も含め365名/年の患者を受け入れた。

依然、感染拡大は続いており、継続して地域医療貢献に取り組む。

2. 患者の立場に立ってケアを提供できる人材育成に取り組む

倫理的視点を養うために積極的に倫理検討を行うよう取り組み、12件/年実施した。

看取りの場の検討・栄養経路の検討・身体抑制など実施。今後も倫理的な気付きを話し合える環境づくりに取り組む。

(看護師長) 鈴木志帆、看護師30名

◆重点目標と実績

1. 急性期病院、地域医療支援病院として、スムーズに在宅と病院が繋がるように関連部署との連携体制を強化し、一般診療外来看護師に必要な看護実践能力を発揮できる人材を育成する

一般診療外来は、18診療科で運営しており、2020年度外来患者総数は243,359名、1日平均外来患者数は1,034名、地域からの紹介患者総数は8,611名であった。コロナ禍の影響もあり昨年度と比較して患者数は減少した。

早期から退院後に向けた支援を行うために、入院支援室や他職種と連携している。また、外来看護師に必要な地域包括ケア促進に向けた外来教育計画と各チーム会の活動計画の立案・実施・評価を行った。外来での意思決定場面も増え、外来看護師の診察同席件数は大きく増加しており、ケアカンファレンスや看護の振り返りを行い、倫理的視点を養い意思決定支援に活かしている。

(看護師長) 福永花子、看護師21名

◆重点目標と実績

外来(治療検査部門)は、内視鏡センター、放射線科、外来治療センターの3つのユニットを一つの部署としている。今年度は以下の目標に対してスタッフとともに努力した。

1. 地域医療支援病院・がん診療拠点病院として効果的に治療検査室を運営する

内視鏡年間総数は9,211件、うちESD 201件・EMR 951件・ERCP 226件であった。COVID-19の感染対策を行い緊急検査・治療に速やかに対応できるよう努めた。アンギオ年間総数は844件であった。日帰りのCVポート挿入を開始し、効果的にアンギオ室を運用できるよう取り組んだ。リニアックの年間治療延べ照射件数は3,037件であった。外来治療センターにおける化学療法年間実施件数は3,339件であった。乳腺外科および外科患者が増加した。

(看護師長) 松山佳子、看護師12名

◆重点目標と実績

1. 地域医療支援病院として、円滑な救急患者の受け入れ体制の整備を行う

地域の救急患者を早急に受け入れるため、救急体制を変更するとともに、救急隊との情報交換を密に行った。また、医師及び多職種との協働や一般外来及び地域連携室との連携強化を行った。さらにCOVID-19疑似症患者の対応含め重症患者にも安全で安心な看護が提供できるように感染対策の徹底、院内トリアージ技術を含めた知識・技術の向上や倫理的配慮、家族へのケアなどの教育にも力を入れ、強化を図った。結果、救急搬送台数は目標の3,500件を超えることができた。

救急患者総数(救急搬送台数)	9,077人(3,842台)
院内トリアージ アンダートリアージ率	0.574%

◆スタッフ

(課長) 藤宮仁郎、他事務職員10名、技能職員3.8名、非常勤職員4.6名

◆概要

総務企画課は、総務係・給与係・職員係・厚生係の4つの係で構成されています。

主な業務として、総務係は関係官公庁への許認可申請、届出および連絡調整、会議および諸行事に係る事務、行政対応、情報開示、施設管理、患者搬送、自動車運転、投書クレーム対応、電話交換業務、図書、医局など各部署の業務が円滑に遂行できるよう広範囲の業務を受け持っています。

また、給与係は人事・給与事務や賞罰に関する業務を、職員係は臨床研修医の業務全般、職員の労働条件や研修に関する業務を、厚生係は職員の健康管理や福利厚生に関する業務などを中心に職員に直接関係する業務を受け持っています。これら業務の遂行にあたり、事務系業務を行うスタッフは正規職員11名、再雇用職員1.3名、非常勤職員3.3名、派遣職員1名の計16.6名で、技能系業務を行うスタッフは職員2名、任期付職員1名、再雇用職員0.8名の計3.8名で構成され、総務企画課を運営しています。

◆実績(主な課目標)

●増収ならびに費用節減対策

COVID-19(厚生労働省、大阪府、大阪市)の補助金等の申請。

施設管理の徹底による営繕費用の削減。

光熱水料等費用削減。

●人員管理

事務分掌整理による派遣職員の削減。

病院運営に必要な人員確保、適正配置。

次年度に向けた人員配置計画の作成。

法令等諸規程に基づく委託及び派遣関係の調整。

●働き方改革を見据えた勤務時間の適正管理

弁護士・社労士による勤務時間管理の研修会。

出退勤管理業務の実施、時間外勤務の適正管理、年次有給休暇の取得促進。

同一労働同一賃金への対応。

医師当直業務の勤務化。

●課内業務管理

全委員会の見直し。

職員健診の業者の見直し(JCHO神戸中央病院)。

課内業務の効率化、省力化の推進による負担軽減。

将来を見据えた人材育成。

業績評価制度の適正運用。

●その他

職員の健康管理への対応(過重労働の軽減、健康診断受診率の向上)。

障がい者雇用(法定雇用率を満たす人員確保)。

新人事給与システムへの円滑移行。

個人情報、コンプライアンスの適切運用。

各種監査での指摘事項に対する適切な対応。

病院機能評価受審への適切な対応。

◆スタッフ

(課長) 福田 勢、他事務員7名、非常勤事務員0.8名

◆概要

経理課は、経理係と契約係の2部門で構成されています。

経理係は、日々の売上げから病院全体の決算業務、経営分析、各種統計資料の作成、予算策定などお金の係わる様々な事務処理を担当しています。また、独立行政法人としての透明性と説明責任を確保しつつ、JCHO大阪病院の財政状況及び運営状況を決算書に表現するという繊細な業務を行っています。

契約係は、病院運営上、無くてはならない医療機器や診療材料、各種消耗品等の調達並びに修繕などに関し、常に各部門の様々な要望に迅速に対応し、さらなるコスト削減を目指して、次のような取り組みを行っています。

- ①SPDシステムによる院内材料のスリム化を実現したデータベース管理により、診療材料委員会における通減化対策、及び定期的な価格交渉を推進しています。
- ②医療機器等の購入に関しては、職員一人一人のコスト意識を高め、費用対効果の実践に努めています。
- ③業務委託について、原則、一般競争入札を実施することにより、契約価格の減少を目指して交渉にあっています。

経理課は、病院スタッフとのコミュニケーションを大切にしつつ、適正な会計処理を遵守することに努めています。

年度計画を達成するため、投資の基準に従い、迅速に、適正なタイミングを図り、病院機能が十分に発揮できるよう日々研鑽して業務遂行しています。

【決算概要】

(単位：千円)

科目	28年度	29年度	30年度	31年度	令和2年度
診療業務収益	16,312,547	16,431,018	16,776,612	16,503,901	17,279,342
入院診療収益	10,821,767	10,925,876	11,129,557	10,849,261	10,730,911
(平均点数)	(6,387.5)	(6,448.2)	(6,539.2)	(6,732.2)	(7,192.3)
(平均患者数)	(464.2)	(464.2)	(466.3)	(440.3)	(408.8)
外来診療収益	4,633,394	4,711,020	4,799,007	4,879,299	4,635,389
(平均点数)	(1,601.8)	(1,627.7)	(1,678.6)	(1,784.0)	(1,845.2)
(平均患者数)	(1,190.4)	(1,186.1)	(1,171.7)	(1,130.2)	(1,033.8)
【経常収益】	16,538,539	16,654,652	16,960,749	16,654,714	17,441,448
診療業務費	16,326,785	16,458,472	16,776,989	16,583,814	16,743,526
給与費	7,822,828	7,626,845	7,878,510	7,682,935	8,010,719
材料費	5,022,054	5,206,501	5,234,125	5,336,427	5,136,734
設備関係費	1,811,166	1,782,294	1,775,328	1,676,217	1,581,821
(減価償却費)	1,386,073	1,382,821	1,325,015	1,201,146	1,009,349
経費	712,587	736,789	757,390	743,260	722,771
【経常費用】	16,529,844	16,652,985	16,941,590	16,735,485	16,910,590
【経常収益】	8,696	1,666	19,159	△80,771	530,858

◆スタッフ

(課長) 山盛武彦、他事務員11名、非常勤事務員5.5名

◆概要

医事課は、病院の窓口として医療事務全般に関わる業務を担当しています。

【外来部門】(委託)

- 初診受付
- 再診受付 (自動再診受付機)
- 保険確認
- 外来計算
- 支払窓口 (自動精算機)
- 救急受付
- 外来レセプト (外来レセプトの作成・点検、査定対応)

【入院部門・その他】

- 入院計算 (入院診療費の計算、請求書の発行、入院レセプトの作成・点検、査定対応) DPC制度に基づき入院患者の医療事務全般を担っています。(DPC請求・平成18年4月～)
- 入院センター (入院申込手続き、入院当日受付)
- 統計、システム対応 (レセプト電算処理、諸統計作成、システムメンテナンス)
- 公費医療 (労災・生保等のレセプト請求、諸法手続き、自賠責)
- 未収金処理 (未収金の督促・管理)(未収金回収プロジェクト委員会の開催・平成17年9月～)
- 検診 (人間ドック、乳がん・女性がん検診の受付・請求)
- 文書 (介護保険主治医意見書・生命保険診断書等作成の医師依頼及び調整)
- 各診療科外来にて医師の事務作業補助業務を行う医師事務作業補助者 (MA)

◆実績

医事課では、安心安全な医療提供の一翼を担うため、待ち時間の短縮や患者サービスの向上などを目的として、毎月1回勉強会を開催しています。その中で、保険請求や接遇について、さらなるレベルアップを目指して努力しています。

また、診療報酬算定漏れの減少や算定アップに向けた取り組みを行っています。

経営マネジメントの役割を担い、さらにチーム医療の一員として、事務的業務において医療サービスを側面的にサポートしていきたいと思っております。

医療安全管理室

◆スタッフ

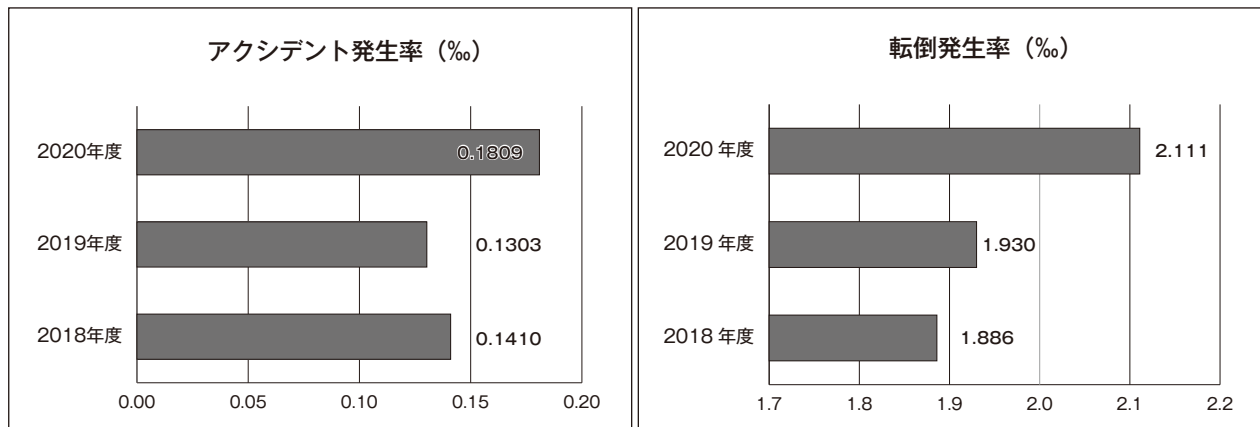
(部長) 大脇 肇、(室長) 堀 美和子、他看護師2名、薬剤師1名、臨床工学技士1名、事務員1名、放射線科部長1名、放射線技師1名 計9名

◆概要

患者・家族が安心して安全な医療を受けられる体制を構築し、かつ職員が安心して安全な医療が提供できる環境を整えることを目標として活動を行っている。医療の安全と信頼、患者への医療サービスの改善・向上、医療事故防止を目指して今後も医療安全管理室メンバーが中心となり活動を行っています。

当院の医療事故の要因の70%がノンテクニカルスキルによって発生しているため、2019年度より、看護部及びメディカルスタッフ向けにノンテクニカルスキル研修やTeamSTEPS研修の導入を始めました。より良いチーム医療でのパフォーマンスを上げていけるように取り組んでいます。

◆実績



※診療部へ医療安全情報として回覧板を配布

※他施設で起こった事故や院内で発生した事象で看護部全体に緊急でお知らせを行う緊急警告の配布

※RCA分析：看護部主体で2007年度より導入開始（10～15事例/年実施）

※院内リスクパトロール（1回/月、多職種合同でテーマを決めて）

※医療安全教育：2回/年の講演会と各職種に対して多様に研修を開催



◆スタッフ

(部長) 伊藤敏文、長谷川健、岡田聡史

◆概要

医療情報室は1989年6月、医療情報課として病院のIT化を担うため設置されました。当初は医事会計システム中心でしたが、時代とともにオーダーリング、電子カルテシステムと拡張して参りました。現在では全ての部署に電子カルテが浸透し、また部門ごとに専用システムを導入、ITインフラ整備は一通り完了いたしました。院内のシステム・インフラの維持には、更新・メンテナンスなど業務は多岐に及び、端末も1,000台を超える大規模なものへと成長いたしました。また、個人情報保護の観点からセキュリティの強化に奔走、現在は新型コロナウイルス感染症対策にWEB会議・オンライン診療等の充実のためネットワークの拡張に四苦八苦しております。2022年にはシステム・インフラの更新時期を迎え、何かと忙しい日々が続きそうです。

◆実績

1988(昭和63)/12	医事会計システム導入
1994(平成6)/3	医事会計システム更新
2004(平成16)/3	オーダーリングシステム (NEC Ordering system) 導入
2008(平成20)/5	電子カルテシステム (NEC MegaOakHR2.5) 導入
2015(平成27)/5	新病院への移転に合わせ、電子カルテシステム (NEC MegaOakHR R9.0.1) 更新
2022(令和4)/5	電子カルテシステム等の更新予定



◆スタッフ

(部長) 伊藤敏文、診療情報管理士5名、事務員2名

◆概要

診療情報管理室は、診療情報部門とカルテ部門との2部門で構成されています。

【診療情報管理】

①入退院患者における統計業務(病歴統計)

- 月次統計(退院患者統計:退院サマリ完成率・クリティカルパス使用率・死亡退院リスト・剖検率・部位別がん登録患者数・分娩新生児情報集計等)
- 年次統計(国際疾病分類別・手術件数・合併症件数・麻酔件数・分娩件数・退院患者数等)
- 診療情報管理システムメンテナンス
- 患者情報抽出(手術別・病名別等)

②がん登録

- がん登録(内容登録・督促・府および国への提出・分析・予後調査参加・QI研究参加)

③入院患者情報入力および質的点検

- 診療情報管理システム(メディバンク)への入院患者情報入力

電子カルテ・退院サマリを点検し、病名コードICD-10・手術及び処置ICD-9-CM・患者情報等の登録

- 院外死亡登録
- 退院時サマリ(未サマリの記入依頼・サマリ達成率等)

④DPC請求の病名確認

- 退院患者及びDPC包括期間終了間近の入院患者のDPC病名「ICDコード」の確認
- DPC基礎調査 付加コード・OP初再回・がん登録のチェック

⑤カルテ開示

⑥電子カルテ監査

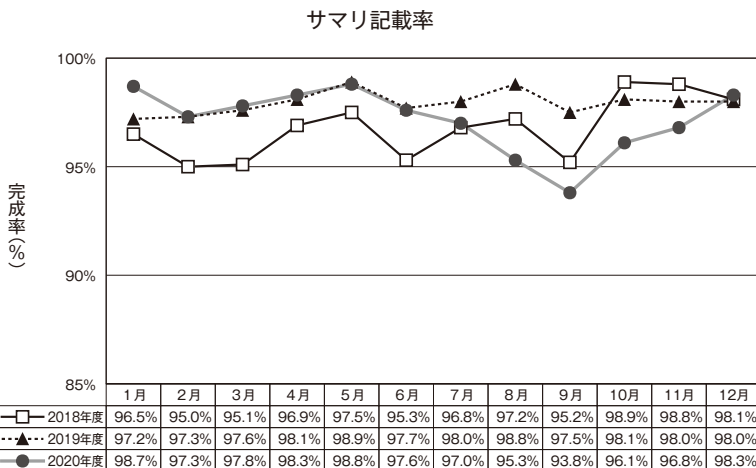
⑦電子カルテへの文書・新規スキャンの管理

【カルテ管理】

- ①書類のスキャン取込
- ②カルテ庫へID別の患者ファイル書類保管
- ③患者ファイル管理
- ④紙カルテ管理
- ⑤保存期間超えの紙カルテ・患者ファイル管理(永久保存管理・廃棄)

◆実績

【サマリ記載率の推移】

サマリ記載率(科別)
(2020/01/01~2020/12/31 退院分)

診療科	総数	退院後14日以内	
		作成数	作成率(%)
整形外科	1,818	1,765	97.1%
外科	1,181	1,170	99.1%
脳神経外科	416	415	99.8%
内科	1,393	1,370	98.3%
皮膚科	129	126	97.7%
泌尿器科	450	450	100.0%
産婦人科	1,157	1,093	94.5%
眼科	870	858	98.6%
耳鼻咽喉科	209	209	100.0%
小児科	606	598	98.7%
歯科・歯科口腔外科	29	29	100.0%
形成外科	178	177	99.4%
脳神経内科	283	282	99.6%
循環器科	885	804	90.8%
消化器内科	2,162	2,074	95.9%
乳腺内分泌外科	274	272	99.3%
心臓血管外科	157	151	96.2%
総数	12,197	11,843	97.1%

健康管理センター

◆スタッフ

(センター長) 伊藤敏文、看護師(保健師) 1名、臨床検査技師 1名、スタッフ 2名

◆概要

当健康管理センターは1959年(旧大阪厚生年金病院時代)に創設され、病院併設の人間ドックとしてこれまで多くの皆様にご利用いただけてきました。

二日ドック、一日ドックの基本コースには、人間ドック学会で推奨されている健診項目に準じた検査項目が含まれます。二日ドックには糖負荷試験に加え、甲状腺超音波検査、ロコモ度テスト(体力測定)が基本項目に含まれています。二日ドックは宿泊なしで受診することもできます。いずれの基本コースでも、経口胃カメラ・経鼻胃カメラ・胃透視は差額なしで選択可能です。

オプション項目には、脳ドック、肺がんドック、骨ドック、腫瘍マーカー(CEA・CA19-9)、ピロリ抗体他、2016年度から大腸CT、大腸カメラが追加されました。2019年度からは女性がん検診、喀痰細胞診がオプション項目に加わりました。マンモグラフィーはこれまでの1方向撮影から2方向撮影となり、より精密な検査になりました。

2020年3月に、「人間ドック健診施設機能評価」の認定を取得しました。

～病院併設の健康管理センターならではの丁寧な対応～

1. 検査結果は当院各診療科の医師による専門的な判定
2. 人間ドックで要精査判定があった場合は、当センターから当該科へ院内紹介
3. 至急受診が必要な場合は、健診受診当日に外来へ案内

質の高い検査と判定を提供し、生活習慣病を含む各種疾患の早期発見・早期治療によって、地域の方々の健康維持と健康寿命の延長のお手伝いをさせていただきたいと考えています。

○センター内：保健師による問診・保健指導、医師による診察・面談、健康運動指導士による体力測定・運動指導

○主な検査：各診療部門で実施

- 当センターでは白を基調とした、清潔でゆったりとした休憩室や個室ロッカーを備え、受診者の快適性・利便性を高める努力をしています。

◆実績

2020年度(2020年4月1日～2021年3月31日)利用者

【基本ドック】		【オプション項目】			
一日ドック	734名	脳ドック	87名	骨ドック	34名
二日ドック	53名	肺がんドック	145名	女性検診セット	190名
シルバー半日ドック	5名	大腸CT	53名	婦人科健診	64名
脳ドック(単独)	9名	大腸カメラ	38名	乳腺超音波	44名
		腫瘍マーカー	346名	マンモグラフィー	51名
		ピロリ抗体検査	81名	喀痰細胞診	80名

大阪病院附属看護専門学校

◆スタッフ

(学校長) 西田俊朗、(副学校長) 谷岡美佐枝、(教務主任) 坂井直美、専任教員7名、事務員1名

◆概要

平成26年にJCHOへ移行し「大阪病院附属看護専門学校」となる。平成31年に大阪病院と附属看護専門学校の共通のコンセプトを「Autonomy：自律」とし、「看護師として、必要な専門的知識と技術を習得し、同時に豊かな人間性を養い、社会の保健医療福祉の向上に寄与しうる自律した人物を育成する」ことを目的とした。

看護学校を取り巻く状況として、大学志向や18歳人口の減少などにより受験者数が減少し、延いては入学倍率の低下により、入学生の質の低下、言い換えれば学習到達度の低下や入学後に学習困難となる学生が生じてきている。そのため、振り返りを大切にしながら、教員と臨床が連携し、個々の学生に合わせた個別指導を行っている。また、受験生の確保も重要な課題であり、令和3年度の学生募集より推薦入試の科目を3科目から2科目（1科目は選択制）とすることで受験生の負担を軽減しながらも強みを活かせるようにし、また優秀な社会人を早期に獲得できるよう、社会人特別選考を取り入れるなどし、結果、全入試の応募者数が前年度75人から115人（+53%）と増加した。

また、新型コロナウイルス感染症のため、Wi-Fi環境を整えMicrosof teamsを活用しオンライン授業も行った。また、学内実習では事例提示の工夫やロールプレイを活用したりと、状況に柔軟に対応することで学生の学修機会を確保しながら、精神面のフォローも行った。

◆実績

1. 令和2年度学生数（令和2年4月現在）

	1年	2年	3年	計
学生数	41人	41人	37人	119人

2. 令和2年度卒業生の状況（令和3年3月卒業）

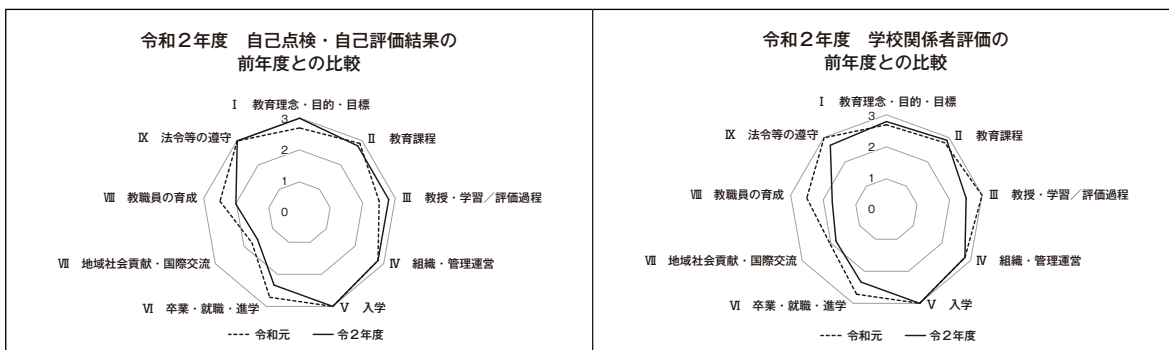
卒業生数	就職者数				その他
	大阪病院	JCHO 関連病院	その他病院	合計	
25人	17人	2人	5人	24人	1人

3. 110回看護師国家試験の合格率：96%（全国合格率：90.4%）

4. 令和3年度入試状況

学年定員数	方法	受験者数	実施日
40人	推薦入試	公募推薦	31人 令和2年10月31日
		社会人特別選考	25人 令和2年10月31日
	一般入試	59人 令和3年1月13日(1次)・14日(2次)	
	計	115人	

5. 令和2年度自己点検・自己評価および学校関係者評価（学校関係者評価 令和3年2月22日実施）



【学校関係者評価総評】

前年度課題とされた項目に積極的に取り組まれていたが、組織図や役制定義書、情報管理など優先順位をつけて取り組んでいただきたい。看護部と共通のコンセプトを掲げることで、より一層協働し「Autonomy」のある看護学生の育成に期待したい。

◆メンバー構成

医師、看護師、臨床検査技師、薬剤師、事務員

◆概要

＜重点目標＞

1. 薬剤耐性グラム陰性菌対策—環境整備の徹底と評価
2. 手指衛生環境の改善
3. 血流感染対策の強化

◆実績

1. ICTラウンドでは、病院全体で取り組むべき環境に係る問題はなかった。
看護部感染予防対策実行委員会においてリンクナースによるラウンドを行い、環境整備マニュアルの作成に至った。
昨年度はVREのアウトブレイクが発生した。幸い感染症の事例はなかったが、環境培養にてトイレからの検出があった。
環境整備マニュアルをもとにICTラウンドを行い、清掃委託業者にも結果をフィードバックし清潔な環境保持に向けて取り組む。
2. 手指衛生に関しては変更した手指消毒剤の使用感が悪く、以前使用していた手指消毒剤を再導入したが、手指衛生回数はむしろ減少した。手指衛生向上の取り組みについて再構築を行い、改善に取り組む。
3. リンクナースと協力し、末梢留置カテーテルの適切な管理として、皮膚消毒、留置中の観察ポイント、感染徴候出現時の記録について動画と管理のポイントについてカードを作成。動画視聴後にカードをスタッフへ配布。
2019年度：CLABSI 10件（内末梢5件）
2020年度：CLABSI 8件（内末梢3件）
血流感染の増加はみられなかった。適切な管理が継続できるよう、管理方法の徹底を継続する。

◆メンバー構成

医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、事務員

◆概要

【目的】褥瘡発生を予防し病院の提供する医療の質向上を目指す。

【活動内容】

- 褥瘡対策委員会 月1回（第2月曜日）開催
- 褥瘡回診・カンファレンス（毎週）
- 褥瘡に関する診療計画書の作成・褥瘡予防治療計画書の作成、褥瘡ハイリスク患者ケア加算算定
- 除圧用具の適正使用、管理
- 褥瘡に関するコスト算定状況の把握
- 褥瘡対策講演会WEB開催 日時：2020年9月18日 参加者：75名
- 看護師対象ラダー別研修実施
- オープンキャンパス開催（患者対象）
- 褥瘡を保有した状態で退院し地域で療養を続ける方や、褥瘡発生リスクの高い方については、在宅でも褥瘡が発生しないように地域の医師や看護師、施設などと連携しています。

◆実績

- 褥瘡発生率（褥瘡発生数/延べ入院患者数×1000）=0.5
- 褥瘡対策に関する診療計画書の作成 3,887件、褥瘡ハイリスク患者ケア加算算定数 2,108件

◆メンバー構成

医師・歯科医師・看護師・管理栄養士・薬剤師・臨床検査技師・言語聴覚士

◆概要

「栄養」とは、全ての治療行為の土台になる重要なものです。NSTは主治医と連携して、患者さんの治療を栄養面から支えます。あらゆる診療科の患者さんに対し、栄養の評価と不足時の栄養管理を行い、手術・薬物治療など各専門科の治療が安全・円滑に進むように支援します。静脈栄養の適切なメニュー作成やカテーテルの選択、経腸栄養のための胃瘻・腸瘻、食道瘻などの経路の提案や造設など、あらゆる方法で適正な栄養管理を継続的に提案・支援していきます。各主治医や他院・在宅診療医の先生方からの依頼で、カテーテル・ポートや胃瘻・腸瘻の造設なども施行し退院後の継続的な栄養状態の維持にも取り組んでいます。

◆実績

日本静脈経腸栄養学会 NST稼働施設認定
日本静脈経腸栄養学会 NST専門療法士認定教育施設
栄養療法推進協議会 NST稼働施設認定

2020年度 NST回診 503症例

◆メンバー構成

医師、看護師、薬剤師、放射線技師、臨床検査技師、理学療法士

◆概要

乳がんの治療には、手術・放射線治療・薬物療法（内分泌療法・化学療法・分子標的治療薬など）があり、これらの治療を単独あるいは複数を組み合わせて行う。がんのサブタイプや病期・年齢・全身状態・合併する他の病気の有無などに加え、患者さんの希望を考慮し、治療法を決定する。また、治療期間は術後の経過観察を含めると10年間と長期に及ぶため、この間、治療を納得して円滑に行うためには、治療に伴う副作用対策や心理・社会的な問題に対するサポート体制が重要となる。患者さんがより良い環境で、標準治療を安心して受けて頂けるよう医療従事者が協力・連携したチーム医療を行っている。乳がんは、早期発見できれば治癒も可能な疾患である。乳がん検診をはじめ、各治療期～終末期まで、多職種医療チーム・患者会やメイクセラピーを提供しているがんサバイバーの方々とも協同しながら、乳がん患者さんとご家族が、その方らしい生活ができるようサポートしている。

◆実績

●患者会・がん体験者のおしゃべりサロン

コロナ禍でありほとんど中止となった。6月と7月のみ「おしゃべりサロン」を開催した。

●ピンクリボンキャンペーン in JCHO 大阪病院（2020年10月1日～31日の1か月間）

J.M.Sプログラムとして、2020年10月18日（日）に乳がん検診を実施。受診者19名。

1ヶ月間は、コロナ禍に対応したキャンペーン活動を行った。

●乳がん検診：2020年度受診者478名

◆メンバー構成

医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、MSW

◆概要

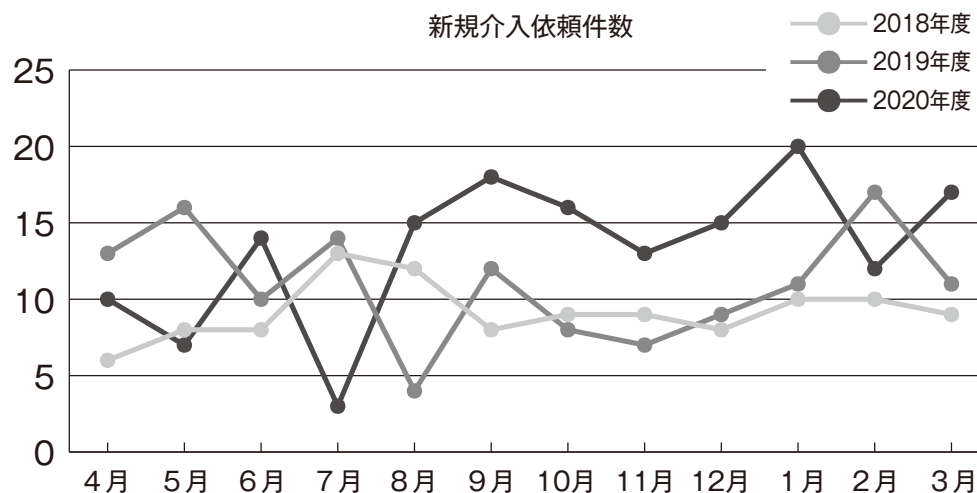
《活動内容》

- 緩和ケアチームラウンド
 - ・適宜、専任看護師がベッドサイドへ訪問し症状評価や面談を行い、薬剤やケアの提案、依頼者と話し合いを行う。
 - ・必要時、他職種連携を行う。
- 緩和ケアチームカンファレンス・チーム回診
 - ・週1回緩和ケアチームメンバー全員にて症例検討、回診を実施している。

◆実績

新規依頼件数合計は160件と前年より増加している。産婦人科、消化器内科からの依頼数が前年に比べて増加した。

COVID-19患者も含めて非がん患者の依頼件数も少し増えた。介入時のPSが良い件数や治療中の患者の件数が増えたことは早期から緩和ケア介入ができていたと考えられる。



◆メンバー構成

医師、看護師、臨床工学技士、理学療法士

◆概要

呼吸ケアチームは、2010年6月より活動を開始しました。一般病棟において48時間以上継続して人工呼吸器を装着し、装着日から1カ月以内の患者さんを対象に、人工呼吸器離脱に向け適切な人工呼吸器の設定や口腔状態の管理などを総合的に行うことを目的に活動しております。

活動内容は、

- ① 抜管に向けた適切な鎮静や呼吸器の設定についての検討
- ② 人工呼吸器の安全管理
- ③ 口腔内の衛生管理
- ④ 廃用予防のケア
- ⑤ 呼吸リハビリテーション
- ⑥ 人工呼吸器関連肺炎予防のケアなどの実施や指導・相談です。

当院では、人工呼吸器離脱を目指した管理は集中治療室で行うことが多いため、呼吸ケアチームの役割は呼吸器からの離脱を目指すというより、安全・安楽な人工呼吸管理を行うことを目的とした活動が多いのが現状です。一般病棟では、経験の少ない人工呼吸器装着患者さんに対して、多方面からの介入を行うことで、安全で質の高い医療・看護の提供ができるように活動を続けていきます。

◆メンバー構成

医師、看護師、義肢装具士

◆概要

糖尿病足潰瘍、重症虚血肢の治療・看護の方針をチームで検討、足病変の早期発見および重症化の予防。

◆実績

1. フットケア外来

- 糖尿病合併症管理料算定件数：564件（2020年1月～12月）

2. 血液浄化センターフットケア回診

- 1) 必要時実施

3. フットケアチームミーティング

定例会（月2回開催）

困難症例について適宜検討会を実施

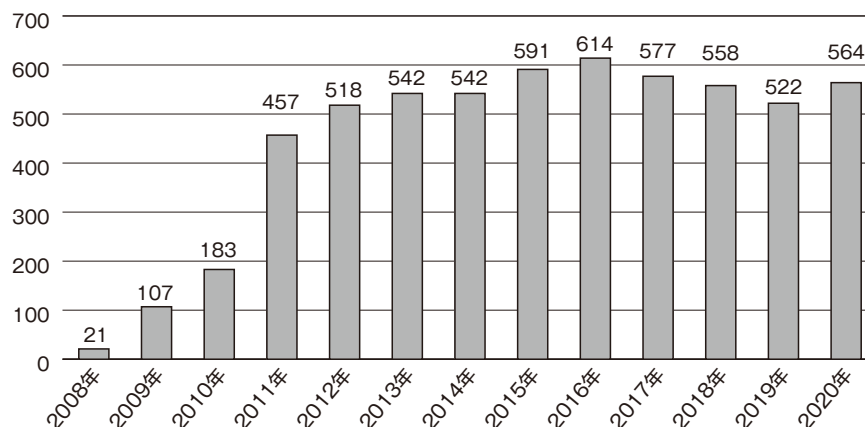
4. フットケア・スキンケア検討会開催：地域対象

- 2020年度は新型コロナウイルス対策にて、講演会は中止
- 広報誌オープンコムに活動を掲載
- 2020年1月25日、26日の2日間、院内2階オープンスペースにて患者向けフットケア・スキンケア・オープンキャンパスを開催

【次年度に向けて】

- 後方支援病院とのネットワークづくり、連携の推進
- 院内チーム活動の連携の強化

糖尿病合併症管理料



◆メンバー構成

医師、看護師、MSW、事務員

◆概要

児童虐待、家庭内暴力、高齢者虐待が急増している現状の中、当院でも虐待対応の体制を整え行政への通報や支援の依頼を行い対応している。患者の権利を守り、患者と家族の健全な家族関係構築を目指して、2012年に虐待対策委員会を発足し、年3回定例会を開催している。委員会メンバーは医師、看護師、MSW、総務企画課と多職種にわたっている。虐待症例発生時の対応を明確化するために、対応マニュアルや対応フローチャートを作成し、病院職員全体で虐待対応に取り組んでいる。

迅速かつ適切な治療や支援を行うために小委員会としてCA（児童虐待）対策チーム、DV（家庭内暴力）対策チーム、EA（高齢者虐待）対策チームを設置しており、各チームは医師、看護師、MSWで構成されている。虐待症例発生時は当該部署と各チームで情報共有を行うとともに必要時はカンファレンスを開催して対応を検討し、積極的に行政など相談窓口との連携も行っている。

◆実績

●2020年度新規虐待対応件数

CA：9件（疑い3件、要フォロー6件）

DV：7件（疑い6件、要フォロー1件）

EA：11件（確定7件、疑い1件、要フォロー3件）

●2020年度新入職員オリエンテーション

「当院における虐待対応について」

臨床研修医：13名

新規採用者：99名

◆メンバー構成

医師、看護師、PSW、作業療法士、薬剤師、事務員

◆概要

超高齢化社会となり、高齢者、特に認知症高齢者の入院がますます多くなることが予想されます。しかし、認知症高齢者が入院するとせん妄の発症をはじめとする行動心理症状の出現やもともとの認知機能の低下のために、身体疾患に対する治療がスムーズに行えない、退院の遅延・自宅での生活が困難となる、認知機能やADLがさらに低下するなどの問題が生じやすいのが現状です。そのため、認知症患者のケアの質の向上を図ることでこのような状況を改善し、認知症の方が安心して入院でき、かかりつけ医の先生方にも信頼してご紹介いただけるような病院となることを目指し、多職種でのチーム活動を行っています。

◆実績

認知症ケアチーム回診新規患者数・回診件数・算定件数

	H30年度	H31年度	R2年度
新規回診患者数	164	342	471
認知症ケア加算Ⅰ算定回数	3,494	4,230	6,753

依頼内容

せん妄・BPSDの症状コントロール	311
せん妄予防	248
ADL改善の方法について	29
コミュニケーション方法について	62
家族支援	14
その他	17

※複数依頼含む

◆メンバー構成

医師、看護師、リハビリテーション技師、SW、薬剤師をはじめとする多職種

◆概要

腫瘍カンファレンスでは、当院のがん患者さんについて複数診療科の医師と看護師、薬剤部、リハビリなど各部門から多職種の参加を得て検討しています。検討内容としては原発・転移巣の評価、治療方針、経済面や家族関係など社会的背景、説明内容、リハビリなど支持療法の適応など多岐にわたります。2015年12月より当初は骨転移にしばって骨転移カンファレンスとして少数のメンバーでスタートしました。

2016年7月からは腫瘍カンファレンスとなり、対象を全がん患者とし、全職員に自由に参加してもらうようになりました。2020年は11回開催し、計28例について検討を行いました。

現在のがん対策推進基本計画においては、がんと診断されたときからの緩和ケア、がん登録、がん患者の就労などの推進に重点が置かれています。これらの事業は院内の全職種および地域の医師、医療者との協働があってはじめて十分なものとなります。したがってこのようなカンファレンスはがんのチーム医療の推進には必須のもので、多くの医療施設で、ツモールボードなどの名称で広く行われています。当院では月1回、第3水曜日の夕方、各種委員会・カンファレンスの多く行われている時間での開催となっており、多くの方に負担をかけながらの開催ですが、今後さらに多くのスタッフの参加を得て、より活発なものとなることが望めます。これまで腫瘍カンファレンスは、がん委員会の主催のもと、症例の選定が行われてきましたが、2021年からはがんを扱う診療科（外科、乳腺外科、消化器内科、泌尿器科、産婦人科、呼吸器内科）の持ち回りによって、運営されるようになりました。がんに係るすべての職員のさらに積極的な参加が期待されます。

【各種委員会】

	委員会名	委員長	主幹課
1	学術セミナー・図書委員会	岩崎輝夫	総務企画課
2	広報・ホームページ委員会	大脇肇	総務企画課
3	研修管理委員会	島田幸造	総務企画課
4	医学倫理委員会	大脇肇	総務企画課
5	院内感染予防対策委員会	長田学	総務企画課
6	医療安全管理（兼事故調査）委員会	院長	医事課/総務企画課
7	医療安全管理対策委員会	島田幸造	総務企画課
8	労働安全衛生委員会	伊藤敏文	総務企画課
9	防災対策委員会	高橋良和	総務企画課
10	医療ガス安全管理委員会	中谷桂治	総務企画課
11	放射線障害予防委員会	西多俊幸	総務企画課
12	病歴文書管理委員会	伊藤敏文	診療情報管理室
13	医療情報運営管理委員会（兼）情報セキュリティ委員会	伊藤敏文	医療情報室
14	診療情報提供委員会	伊藤敏文	総務企画課
15	保険等調整検討委員会（兼）DPCコーディング委員会	筒井建紀	医事課
16	クリティカルパス推進委員会	大脇肇	看護部
17	医療の質の評価委員会	大脇肇	医事課
18	脳死判定委員会	岩本文徳	総務企画課
19	施設整備委員会	伊藤敏文	経理課
20	診療材料委員会	長谷川新治	経理課
21	薬事委員会	畑中信良	薬剤部
22	治験審査委員会	畑中信良	薬剤部
23	委託研究審査委員会	塚本文音	総務企画課
24	輸血療法委員会	中田活也	中央検査室
25	外来治療センター運営委員会	塚本文音	総務企画課
26	栄養管理委員会	畑崎聖弘	栄養管理室
27	プライマリケア・救急医療運営委員会	小笠原延行	総務企画課
28	中央検査室運営委員会	岡田昌子	中央検査室
29	病理科運営委員会	吉田康之	病理科
30	放射線室運営委員会	西多俊幸	放射線室
31	手術室運営委員会	中谷桂治	麻酔科
32	集中治療部運営委員会	佐藤善一	集中治療室
33	リハビリテーション運営委員会	二宮晴夫	総務企画課
34	人間ドック運営管理委員会	伊藤敏文	医事課
35	内視鏡センター運営委員会	山本克己	経理課
36	母子医療センター運営委員会	筒井建紀	総務企画課
37	病床管理運営委員会	谷岡美佐枝	医事課
38	緩和ケアチーム運営委員会	岩崎輝夫	看護部
39	褥瘡対策委員会	竹原友貴	看護部
40	ボランティア活動運営委員会	高橋良和	総務企画課
41	地域医療推進運営委員会	畑中信良	地域連携室
42	業務改善・業務連絡委員会	鈴木朗	看護部
43	ワークライフバランスおよびその整備に関する委員会	伊藤敏文	総務企画課
44	虐待対策委員会	大脇肇	医療福祉相談室
45	院内暴力・セクシャルハラスメント対策委員会	大脇肇	総務企画課
46	契約審査委員会	伊藤敏文	経理課
47	がん診療運営委員会	畑中信良	医事課
48	認知症ケアチーム運営委員会	山森英長	医事課
49	特定行為研修委員会	畑中信良	看護部
50	棚卸実施委員会	院長	経理課



業績

【原著・総説・著書】

1. Shimada K
Osteochondritis Dissecans Open Surgery
Surgical Techniques for Trauma and Sports Related Injuries of the Elbow. Springer, Germany. 2020 ; 699-706
2. Fujimori T
OPLL: Disease Entity, Prevalence, Literature Research, and Growth
OPLL Third edition. 2020 ; 13-21
3. Temporin K, Shimada K, Oura K
Arthroscopic release for the severely stiff elbow
Musculoskelet Surg. 2020 ; 104 : 81-86
4. Sakaura H, Ikegami D, Fujimori T, Sugiura T, Mukai Y, Hosono N, Fuji T
Early cephalad adjacent segment degeneration after posterior lumbar interbody fusion: a comparative study between cortical bone trajectory screw fixation and traditional trajectory screw fixation
J Neurosurg Spine. 2020 ; 32 : 155-159
5. Sugiura T, Okuda S, Takenaka S, Nagamoto Y, Matsumoto T, Takahashi Y, Iwasaki M
Comparing Investigation Between Bilateral Partial Laminectomy and Posterior Lumbar Interbody Fusion for Mild Degenerative Spondylolisthesis
Clin Spine Surg. 2020 ; Online ahead
6. Fujimori T, Sakaura H, Ikegami D, Sugiura T, Mukai Y, Hosono N, Tateishi Y, Fuji T
Two-level Posterior Lumbar Interbody Fusion at the Lumbosacral Segment has a High Risk of Pseudarthrosis and Poor Clinical Outcomes: Comparison Between the Lumbar and Lumbosacral Segments
Clin Spine Surg. 2020 ; 33 : E512-E518
7. Miyamura S, Kuriyama K, Ebina K, Oka K, Kashii M, Shigi A, Tanaka H, Hirao M, Yoshikawa H, Murase T
Utility of Distal Forearm DXA as a Screening Tool for Primary Osteoporotic Fragility Fractures of the Distal Radius: A Case-Control Study
J Bone Joint Surg Open Access. 2020 ; 5 : e0036
8. Miyamura S, Lans J, He JJ, Murase T, Jupiter JB, Chen NC
Bone density measurements from CT scans may predict the healing capacity of scaphoid waist fractures
Bone Joint J. 2020 ; 102b : 1200-1209
9. Miyamura S, Oka K, Lans J, Sakai T, Shiode R, Kazui A, Tanaka H, Shimada S, Murase T
Cartilage and subchondral bone distributions of the distal radius: a 3-dimensional analysis using cadavers
Osteoarthritis Cartilage. 2020 ; 28 : 1572-1580
10. Nakajima N, Maenaka T, Kano H
Postoperative Low Back Pain after Posterior Lumbar Interbody Fusion Surgery Using Cortical Bone Trajectory Screws
Asian Spine Journal. 2000 ; 14 : 655-662
11. 北 圭介
反復性膝蓋骨脱臼に対するMPFL再建術
整形外科SURGICAL TECHNIQUE. 2020 ; 10 : 29-35
12. 北 圭介, 草野雅司
膝蓋骨脱臼・膝蓋骨不安定症の診断と治療
Monthly Book Orthopaedics. 2020 ; 33 : 59-67
13. 藤森孝人
内視鏡下椎間板ヘルニア切除術
整形外科看護. 2020 ; 5 : 60-61

14. 轉法輪光, 大浦圭一郎, 島田幸造
変形性肘関節鏡に対する術前シミュレーションを併用した鏡視下手術
別冊整形外科. 2020 ; 77 : 101-107
15. 北田 誠, 中田活也
大腿骨ステム設置支援患者固有テンプレート(PST)
関節外科 基礎と臨床. 2020 ; 39 : 371-377
16. 西本竜史, 後藤和樹
鏡視下Bankart修復術後における関節窩前縁骨形態変化
肩関節. 2020 ; 44 : 32-38
17. 草野雅司, 鳥塚之嘉
解剖学的ACL再建術後の移植腱と横靭帯間の癒着 —鏡視下癒着剥離による効果—
JOSKAS. 2020 ; 45 : 86-87
18. 中嶋 望, 藤原達司, 新子祐介, 松村宣政
橈骨遠位端骨折に対する掌側ロッキングプレート固定術後の遅発性長母指屈筋腱断裂の検討
骨折. 2020 ; 42 : 311-313
19. 西川昌孝
TKA術後リハビリの変更による術後2年膝機能評価(New Knee Society Score)
日本人工関節学会誌. 2020 ; 50 : 23-24

【学会発表】

20. Miyamura S
Bone Density Measurements from Computed Tomography Scans May Predict Healing of Scaphoid Waist Fractures
75th American Society for Surgery of the Hand. 2020/09, web
21. Miyamura S
Degenerative Changes in the Elbow Joint after Radial Head Excision for Fracture: Quantitative 3-Dimensional Analysis in Bone Density, Stress Distribution and Bone Morphology
75th American Society for Surgery of the Hand. 2020/09, web
22. Miyamura S
A Quantitative Analysis of Subchondral Bone Density around Osteochondritis Dissecans Lesions of the Capitellum
75th American Society for Surgery of the Hand. 2020/09, web
23. 轉法輪光
Terrible triad injuryの治療
第32回日本肘関節学会. 2020/02, 奈良
24. 轉法輪光
肘関節における正中神経、橈骨神経の走行 —関節鏡における危険性の評価—
第63回日本手外科学会. 2020/04, web
25. Shimada K
Arthroscopic Surgery for OCD of the Elbow
第12回JOSKAS. 2020/12, 神戸
26. 西川昌孝
TKA術後リハビリの変更による術後2年膝機能評価
第50回日本人工関節学会. 2020/02, 福岡
27. 寺山弘志
大転子高位股に対するAL-supine THAの経験
第50回日本人工関節学会. 2020/02, 福岡
28. 中矢亮太
THAにおける大腿骨Patient Specific Template作成時間のラーニングカーブ
第50回日本人工関節学会. 2020/02, 福岡

29. 北原貴之
人工股関節全置換術において自己血貯血は有用か？
第33回日本自己血輸血・周術期輸血学会. 2020/08, 広島
30. 中矢亮太
DDHにおける femoral offset の3次元的評価
第47回日本股関節学会学術集会. 2020/10, 三重
31. 中矢亮太
DDHにおける大腿骨頭中心の3次元的評価
第47回日本股関節学会学術集会. 2020/10, 三重
32. 岡本恭典
カーブドショートステムと骨反応 —術後5年以上の臨床成績—
第47回日本股関節学会学術集会. 2020/10, 三重
33. 西川昌孝
TKA 後術後リハビリ変更による術後2年膝機能評価(New Knee Society Score)
第50回日本人工関節学会. 2020/02, 福岡
34. 坂浦博伸
PLIF 後の早期固定上位隣接椎間変性 —CBT 法と従来法スクリュー固定の比較—
第49回日本脊椎脊髄病学会. 2020/09, 神戸
35. 中谷宏幸
関節リウマチ患者における抗TNF製剤及び非抗TNF製剤が腰椎・大腿骨BMD及びhip geometryに及ぼす影響
第64回日本リウマチ学会. 2020/08, web
36. 北 圭介
反復性膝蓋骨脱臼症例の大腿骨滑車および大腿骨前外側関節面の形態
第12回JOSKAS. 2020/02, 大阪
37. 西本竜史
鏡視下腱板断裂手術における縫合糸の細菌汚染と術後成績
日本肩関節学会. 2020/10, 札幌
38. Kusano M
Influence of femoral-tunnel direction on posterior wall breakage in anatomic rectangular tunnel ACL reconstruction using trans-portal drilling technique
第12回JOSKAS. 2020/12, 神戸
39. 藤森孝人
特定疾患医療費補助受給者証所持数に基づいた有症状の後縦靭帯骨化症の有病率
第49回日本脊椎脊髄病学会. 2020/09, 神戸
40. 藤森孝人
腰部脊柱管狭窄症における内視鏡下開窓術の advantage は何か？ Open 開窓術との手術成績比較
第49回日本脊椎脊髄病学会. 2020/09, 神戸
41. 藤森孝人
特定疾患医療費補助受給者証所持数に基づいた有症状の後縦靭帯骨化症の有病率
第93回日本整形外科学会学術集会. 2020/06, 福岡
42. 藤森孝人
腰部脊柱管狭窄症における内視鏡下開窓術の advantage は何か？ Open 開窓術との手術成績比較
第93回日本整形外科学会学術集会. 2020/06, 福岡
43. 坂浦博伸
PLIF 後の早期固定上位隣接椎間変性 —CBT 法と従来法スクリュー固定の比較—
第49回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 2020/09, 神戸
44. 富士武史
高齢社会における脊椎複数回手術 —単一施設10年間の実態—
第49回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 2020/09, 神戸

45. 宮村 聡
骨粗鬆症早期診断における前腕部DXAの有用性について
第93回日本整形外科学会学術集会. 2020/06, web
46. 宮村 聡
臨床用CTを用いた骨密度測定による舟状骨偽関節の予測
第93回日本整形外科学会学術集会. 2020/06, web
47. 宮村 聡
骨粗鬆症早期診断における前腕部DXAの有用性について
第93回日本整形外科学会学術集会. 2020/06, web
48. 江崎明彦
大腿骨転子部骨折後failureにより人工股関節全置換術を施行した症例の検討
第50回日本人工関節学会. 2020/02, 福岡
49. 岡本恭典
人工股関節ステム周囲骨折を機に判明した人工股関節感染の1例
第50回日本人工関節学会. 2020/02, 福岡
50. 北原貴之
人工股関節全置換術において自己血貯血は有用か？
第33回日本自己血輸血・周術期輸血学会. 2020/09/03, 広島
51. 中矢亮太
DDHにおける femoral offset の 3 次元的評価
第47回日本股関節学会学術集会. 2020/10/23-24, 三重
52. 中矢亮太
DDHにおける大腿骨頭中心の3次元的評価
第47回日本股関節学会学術集会. 2020/10/23-24, 三重
53. 岡本恭典
カーブドショートステムと骨反応 —術後5年以上の臨床成績—
第47回日本股関節学会学術集会. 2020/10/23-24, 三重

【学会講演】

54. Shimada K
Arthroscopy-assisted repair/reconstruction of the osteochondral injuries of the pediatric elbow
12th Asian pacific Federation of Societies for surgery of the Hand. 2020/03, Melbourne
55. 島田幸造
肘関節スポーツ傷害における間接鏡視下手術 —技術の進歩が果たした役割と未来像—
第32回日本肘関節学会. 2020/02, 奈良
56. 島田幸造
テニス肘の治療 —新ガイドラインと鏡視下手術—
第12回JOSKAS. 2020/12, 神戸
57. 島田幸造
関節温存を目指した肘関節形成術 —低侵襲デブリードマンと骨軟骨移植—
第48回日本関節病学会. 2020/10, 神戸
58. 中田活也
Fitting First Theory と MiniHip の有用性
HIT 研究会. 2020/02, 福岡
59. 中田活也
ショートステムの現状と今後
第93回日本整形外科学術集会. 2020/05, 福岡
60. 中田活也
THAにおける関節中心・オフセットの3次元的解析
第47回日本股関節学会学術集会. 2020/10, 三重

61. 中田活也
セメントレスシステムの変遷から見たフルHAシステムの意義
Avenir Stem Webinar Round Table Case Discussion. 2020/11, 大阪
62. 中田活也
ALSAスタンダード手技
ALSA Standard Webinar. 2020/12, 東京
63. 西川昌孝
関節リウマチ治療におけるバリシチニブの意義と合併症 ～帯状疱疹～
Lilly RA Web Conference Web Seminar. 2020/09, 大阪
64. 西川昌孝
TNF-アルファ阻害薬使用中の乾癬様皮疹
TNF-inhibitorのBestUseを考える会. 2020/11, 大阪
65. 西川昌孝
骨粗鬆症を伴った重度骨欠損に対する同種骨、骨髄、テリパラチドを用いた骨再建
大阪整形外科RAセミナー ～リウマチ治療と骨マネージメント～. 2021/03/04, 大阪
66. 中谷宏幸
当院での関節リウマチ治療について ～JAK阻害薬を中心に
2020/10/14, 大阪
67. 北 圭介
MPFL Reconstruction —私の拘りコツとピットフォール
第7回Arthrex Japan OrthoPedia WebInHour —膝蓋骨不安定症に対するMPFL修復—. 2020/07, Web
68. 北 圭介
Morphological Abnormalities and Pathophysiology of Unstable Patella
第12回JOSKAS. 2020/12, 神戸
69. 坂浦博伸
腎機能障害・動脈硬化の視点から見た腰椎椎体間固定術の手術成績
対象：医師. 2021/01/27, 大阪
70. 藤森孝人
腰椎手術の費用対効果とEQ5Dについて
第56回大阪脊椎外科フォーラム. 2020/01, 大阪

形成外科

【学会発表】

1. 北中涼太郎
高度肥満患者の尾骨部褥瘡感染に対しNPWTciの工夫により閉鎖を達成した一例
第126回関西形成外科学会学術集会. 2020/11/29, 大阪
2. 榊由華子
ブクラデシンナトリウム外用(アクトシン軟膏®)の長期使用による偽癌性表皮増殖の一例
第126回関西形成外科学会学術集会. 2020/11/29, 大阪

リハビリテーション科・室

【原著・総説・著書】

1. 二宮晴夫
運動器リハビリテーションの必要性 —急性期病院における患者アンケート調査を通しての考察—
日本病院総合診療医学会雑誌. 2020/07; 16(4): 205-210

【学会発表】

2. 松本恵理子
レノックス・ガストー症候群を有する下腿骨折の症例
第57回日本リハビリテーション医学会学術集会. 2020/08/19-22, (オンライン)京都
3. 永富孝幸
リバース型人工肩関節置換術後成績 ～患者立脚評価法～
第57回日本リハビリテーション医学会学術集会. 2020/08/19-22, (オンライン)京都
4. 赤木淳也
記憶障害を呈する脳腫瘍患者のメモリーノートの活用例
第57回日本リハビリテーション医学会学術集会. 2020/08/19-22, (オンライン)京都
5. 吉田はる香
乳がん術後再発により上肢麻痺をきたした1例の作業療法経験
第57回日本リハビリテーション医学会学術集会. 2020/08/19-22, (オンライン)京都
6. 田中健毅
2型糖尿病における自体重を用いた下肢筋力強化運動のエネルギー代謝および血圧・心拍数に及ぼす影響
第39回日本臨床運動療法学会学術集会. 2020/09/05-06, (オンライン)札幌
7. 吉井隼人
被殻梗塞発症後運動学習方法の工夫によりバランス能力改善が認められた一症例
第4回日本リハビリテーション医学会 秋季学術集会. 2020/11/20-22, (オンライン)神戸
8. 木村宏隆
コロナ禍において多職種で退院支援を行い自宅退院獲得できた末期小細胞肺癌の一症例
第4回日本リハビリテーション医学会 秋季学術集会. 2020/11/20-22, (オンライン)神戸
9. 藤村三穂
急性心筋梗塞による低酸素脳症患者に介入し復職した一例 ～高次脳機能障害に着目した作業療法～
第4回日本リハビリテーション医学会 秋季学術集会. 2020/11/20-22, (オンライン)神戸
10. 二宮晴夫
神経因性膀胱から発症し、20年間の経過中に脳卒中並びにてんかんやTIA様発作を繰り返した成人型神経核内封入体病の1例
第68回日本職業・災害医学会学術大会. 2020/12/05, (オンライン)浜松
11. 吉田はる香
肘関節関節形成術に対する術後セラピー
第33回日本肘関節学会学術集会. 2021/02/12-13, (オンライン)大阪

【学会講演】

12. 水田典孝
高齢者指導に役立つエビデンス情報 ～サルコペニアとレジスタンストレーニング～
公益社団法人日本フィットネス協会/健康運動指導士. 2021/01/17, (オンライン)東京

消化器外科

【原著・総説・著書】

1. 大橋朋史
胆石性胆嚢炎を契機に発見され長期生存が得られている胆嚢原発神経内分泌癌の1例
癌と化学療法. 2020; 47: 2272-2274
2. 大澤日出樹
後腹膜平滑筋肉腫に対して腹腔鏡下腫瘍摘出術を施行した1例
癌と化学療法. 2020; 47: 2120-2122
3. 福田優人
診断に苦慮したS状結腸間膜子宮内膜症の1例
日本臨床外科学会雑誌. 2020; 81: 714-718

4. 西田俊朗
特集：がんゲノム医療の新展開
腫瘍内科. 2020；25：15-21
5. 高山慶太
原発性肺癌術後の孤立性脾転移に対し腹腔鏡下脾臓摘出術を施行した1例
日本外科系連合学会誌. 2020；45：275-280
6. 畑中信良
消化管症候群(第3版)Ⅱ 虫垂神経鞘腫
別冊日本臨床. 2020；10：221-224

【学会発表】

7. 大橋朋史
胆石性胆嚢炎を契機に発見され長期生存が得られている胆嚢原発神経内分泌癌の1例
第42回日本癌局所療法研究会. 2020/05/29, 大阪
8. 大澤日出樹
後腹膜平滑筋肉腫に対して腹腔鏡下腫瘍摘出術を施行した1例
第42回日本癌局所療法研究会. 2020/05/29, 大阪
9. 大澤日出樹
当院で経験した門脈ガス血症39例の検討
第75回日本消化器外科学会総会. 2020/12/15-17, 和歌山
10. 米田和弘
当院での正中弓状靭帯症候群による後腹膜出血患者4例の検討
第56回腹部救急医学会総会. 2020/10/08 Web開催, 名古屋
11. 出村公一
肥満症例に対する腹腔鏡下胃切除における視野展開と剥離操作の工夫
第75回日本消化器外科学会総会. 2020/12/15-17, 和歌山
12. 三浦勇人
当院における胃粘膜下腫瘍に対する局所切除の検討
第113回日本消化器病学会近畿支部. 2020/10/03, 大阪
13. 井出義人
直腸癌術後縫合不全リスク因子の検討
第75回日本消化器外科学会総会. 2020/12/15-17, 和歌山
14. 中本蓮之助
胆嚢内腔との交通を有した胆嚢壁内嚢胞の1例
第82回日本臨床外科学会. 2020/10/29-31, web
15. 中本蓮之助
胆嚢内腔との交通を有した胆嚢壁内嚢胞の1例
第633回大阪外科集談会. 2021/01/18, 大阪
16. 中本蓮之助
後腹膜線維症を合併したS状結腸癌に対して腹腔鏡下手術を施行した1例
第634回大阪外科集談会. 2020/11/21, 大阪
17. 西田俊朗
外科医として生きる(5): 未来の外科医に求められる研究
第120回日本外科学会定期学術集会. 2020/08/13-15, 横浜
18. 西田俊朗
希少がん診療の現状と課題
大阪府がん診療連携協議会. 2020/08/31, 大阪
19. 西田俊朗
進行GIST治療の現状と課題
近畿GISTWeb講演会. 2020/10/09, 大阪

20. 西田俊朗

病気になる暮らし ～がんにも、エイズにも、コロナにも
エイズ啓発 大阪ジャズフェスティバル vol.3. 2020/11/22, 大阪

21. 高市翔平

プロペンシテスコア解析を用いた腹腔鏡下肝切除における予防的ドレーン留置の意義の検討
第120回日本外科学会. 2020/08/13-15, 横浜

呼吸器外科

【原著・総説・著書】

1. Kanzaki R, Susaki Y, Takami K, Funakoshi Y, Sakamaki Y, Kodama K, Yokouchi H, Ikeda N, Kadota Y, Iwasaki T, Ose N, Shintani Y
Long-term outcomes of pulmonary metastasectomy for uterine malignancies: a multi-institutional study in the current era
Ann Surg Oncol. 2020 ; 27(10) : 3821-3828
2. Yamamoto Y, Kanzaki R, Ose N, Funakoshi Y, Ikeda N, Takami K, Iwasaki T, Iwazawa T, Yokouchi H, Shiono H, Kodama K, Shintani Y
Lung cancer surgery for patients on hemodialysis: a decade of experience at multicenter institutions
Ann Thorac Surg. 2020 ; 109(5) : 1558-1565
3. Kanzaki R, Okami J, Takami K, Iwasaki T, Ikeda N, Funakoshi Y, Sakamaki Y, Kodama K, Yokouchi H, Kadota Y, Ose N, Shintani Y
Outcomes of surgical resection for pulmonary metastasis from ovarian cancer
J Cardiothorac Surg. 2020 ; 15 : 182. doi: 10.1186/s13019-020-01231-x

乳腺・内分泌外科

【原著・総説・著書】

1. 瀬戸友希子
乳癌術後10年目に肺腫瘍塞栓症の発症を疑った1例
乳癌の臨床. 2020 ; 35(6) : 441-447

【学会発表】

2. 塚本文音
術後に無月経となったタモキシフェン内服中の乳癌患者に対するアロマターゼ阻害薬投与開始時期の検討
第28回日本乳癌学会学術総会. 2020/10, WEB開催
3. 岡田公美子
当院におけるセンチネルリンパ節生検陽性症例の検討
第28回日本乳癌学会学術総会. 2020/10, WEB開催
4. 原 恵梨
当院におけるペグフィルグラスチム使用の検討
第28回日本乳癌学会学術総会. 2020/10, WEB開催
5. 瀬戸友希子
当院におけるエベロリムス+エキセメスタン療法の治療成績
第28回日本乳癌学会学術総会. 2020/10, WEB開催
6. 北原友梨
当院における転移再発乳癌に対するTS1の治療成績
第28回日本乳癌学会学術総会. 2020/10, WEB開催

心臓血管外科

【学会発表】

1. 北林克清
胸骨骨髓内部の大きさによる波型生体内吸収性骨接合材使用の妥当性の検討
第50回日本心臓血管外科学会. 2020/08/17-19, 福島 On line
2. 北林克清
大動脈弁狭窄症を合併した右鎖骨下動脈瘤に対してハイブリッド手術を施行した一例
第48回日本血管外科学会. 2020/11/27-29, 東京 On line
3. 丸本明彬
Mitroflow 生体弁の早期 Structural valve deterioration の 1 例
第63回関西胸部外科学会. 2020/08/03-31, 米子 On line
4. 丸本明彬
重症下肢虚血を呈した重症大動脈弁狭窄症合併 Middle Aortic Syndrome の 1 例
第48回日本血管外科学会. 2020/11/27-29, 東京 On line

脳神経外科

【学会発表】

1. 岩本文徳
突然の出血発症を来した肝細胞癌由来の脳転移の一症例
日本脳神経外科学会第79回学術総会. 2020/10/15-17, 岡山

糖尿病・内分泌内科

【学会発表】

1. 上田彩加
インスリン感受性低下を呈した無セルロプラスミン血症に伴う糖尿病の一例
第63回日本糖尿病学会年次学術集会. 2020/10/05, web
2. 上田彩加
インスリン感受性低下を呈した無セルロプラスミン血症に伴う糖尿病の一例
第57回糖尿病学会近畿地方会. 2020/10/17, web
3. 大萩麻衣
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行により血糖コントロール悪化を認めた一例
第57回糖尿病学会近畿地方会. 2020/10/17, web

腎臓内科

【学会発表】

1. 宮川博光, 森岡史行, 加藤紗香, 松井 翔, 岩橋恵理子, 青木克憲, 鈴木 朗, 上田周一
抗MuSK抗体異常高値を示した重症筋無力症に対して血漿交換で加療した1例
日本透析医学会学術集会. 2020/11/03, WEB開催
2. 山口 慧, 土井洋平, 岡 樹史, 猪阪善隆, 濱野高行, 鈴木 朗
透析導入時の心電図が導入後の心血管病の種類を予測する
日本透析医学会学術集会. 2020/11/02, WEB開催

【学会講演】

3. 鈴木 朗
腎性貧血治療の新展開
福島区医師会学術講演会. 2020/11/17, 大阪

4. 鈴木 朗

腎臓内科の立場からみた糖尿病医療連携
糖尿病連携WEBフォーラム. 2020/12/14, 大阪

感染症内科

【原著・総説・著書】

1. Kentaro Iwata, Asako Doi, Yuichiro Oba, Hiroo Matsuo, Kei Ebisawa, Manabu Nagata, Sho Nishimura, Kenichi Yoshimura, Atsuhiko Masuda, Hideyuki Shiomi and Yuzo Kodama
Shortening antibiotic duration in the treatment of acute cholangitis: rationale and study protocol for an open-label randomized controlled trial
Springer Nature BioMed Central (BMC). Trials volume 21, Article number : 97 (2020)

【学会講演】

2. 長田 学
新型コロナウイルス
大阪市西ブロック大阪市感染対策支援ネットワーク参加医療機関感染対策チーム. 2020/08/25, 大阪

消化器内科

【原著・総説・著書】

1. Katayama K, Hosui A, Sakai Y, Ito M, Matsuzaki Y, Takamori Y, Hosho K, Tsuru T, Takikawa Y, Michitaka K, Ogawa E, Miyoshi Y, Ito T, Ida S, Hamada I, Miyoshi K, Kodama H, Takehara T
Effects of Zinc Acetate on Serum Zinc Concentrations in Chronic Liver Diseases: a Multicenter, Double-Blind, Randomized, Placebo-Controlled Trial and a Dose Adjustment Trial
Biol Trace Elem Res. 2020 May ; 195(1) : 71-81
2. Maesaka K, Sakamori R, Yamada R, Urabe A, Tahata Y, Oshita M, Ohkawa K, Mita E, Hagiwara H, Tamura S, Ito T, Yakushijin T, Iio S, Kodama T, Hikita H, Tatsumi T, Takehara T
Therapeutic efficacy of lenvatinib in hepatocellular carcinoma patients with portal hypertension
Hepatology Research (1386-6346). 2020 Sep ; 50(9) : 1091-1100
3. Shimamoto Y, Ishihara R, Kato Y, Shoji A, Inoue T, Matsueda K, Miyake M, Waki K, Kono M, Fukuda H, Matsuura N, Nagaike K, Aoi K, Yamamoto K, Inoue T, Nakahara M, Nishihara A, Tada T
Real-time assessment of video images for esophageal squamous cell carcinoma invasion depth using artificial intelligence
J Gastroenterol. 2020 Nov ; 55(11) : 1037-1045
4. Tomida H, Yoshio T, Igarashi K, Morita Y, Oda I, Inoue T, Hikichi T, Sumiyoshi T, Doyama H, Tsuji Y, Nishikawa J, Hatta W, Mikami T, Iguchi M, Sumiyama K, Yamamoto K, Kitamura K, Kuribayashi S, Yanagitani A, Uraoka T, Yada T, Hasatani K, Kawaguchi K, Fujita T, Nishida T, Hiasa Y, Fujishiro M; FIGHT-Japan Study Group
Influence of anticoagulants on the risk of delayed bleeding after gastric endoscopic submucosal dissection: a multicenter retrospective study
Gastric Cancer 2021. 2021 Jan ; 24(1) : 179-189
5. Inoue T, Ishihara R, Nishida T, Akasaka T, Hayashi Y, Nakamatsu D, Ogiyama H, Yamaguchi S, Yamamoto K, Mukai A, Kinoshita K, Yakushijin T, Iijima H, Takehara T
Prophylactic clipping not effective in preventing post-polypectomy bleeding for < 20-mm colon polyps: A multicenter, open-label, randomized controlled trial
J Gastroenterol Hepatol. 2021 Feb ; 36(2) : 383-390

6. Araki M, Shinzaki S, Yamada T, Arimitsu S, Komori M, Shibukawa N, Mukai A, Nakajima S, Kinoshita K, Kitamura S, Murayama Y, Ogawa H, Yasunaga Y, Oshita M, Fukui H, Masuda E, Tsujii M, Kawai S, Hiyama S, Inoue T, Tanimukai H, Iijima H, Takehara T
Psychologic stress and disease activity in patients with inflammatory bowel disease: A multicenter cross-sectional study
GastroenaPLoS One. 2020 ; 15(5) : e0233365 .terology

【学会発表】

7. 巽 信之, 高木康広, 奥村りさ, 中村孝彦, 谷口舞子, 西口恭平, 中村弘樹, 澤村真理子, 徳田有記, 大西良輝, 石見亜矢, 貫野知代, 日山智史, 濱野美奈, 千葉三保, 山本克己, 伊藤敏文
ソホスビル/バルバタスビル治療導入を行ったC型肝硬変の3症例の臨床経過
第106回日本消化器病学会総会. 2020/08/11-13
8. 日山智史, 奥村りさ, 高木康宏, 谷口舞子, 中村孝彦, 西口恭平, 中村弘樹, 澤村真理子, 徳田有記, 石見亜矢, 大西良輝, 貫野知代, 千葉三保, 山本克己, 巽 信之, 伊藤敏文
低亜鉛血症を伴う潰瘍性大腸炎患者の臨床的特徴
第106回日本消化器病学会総会. 2020/08/11-13
9. 巽 信之, 奥村りさ, 高木康宏, 谷口舞子, 中村孝彦, 中村弘樹, 徳田有記, 石見亜矢, 大西良輝, 貫野知代, 濱野美奈, 日山智史, 千葉三保, 山本克己, 伊藤敏文
肝細胞癌のソラフェニブによる治療効果に関連する因子の検討
第56回日本肝臓学会総会. 2020/08/28-29
10. 徳田有記, 奥村りさ, 高木康宏, 谷口舞子, 中村孝彦, 中村弘樹, 石見亜矢, 大西良輝, 貫野知代, 濱野美奈, 日山智史, 千葉三保, 山本克己, 巽 信之, 伊藤敏文
当院のB型慢性肝疾患における核酸アナログ製剤(NA)長期投与の生命予後と肝発癌に関する検討
第56回日本肝臓学会総会. 2020/08/28-29
11. 中村弘樹, 奥村りさ, 高木康宏, 谷口舞子, 中村孝彦, 徳田有記, 石見亜矢, 大西良輝, 貫野知代, 日山智史, 千葉三保, 山本克己, 巽 信之, 伊藤敏文
肝性浮腫症例に対してTolvaptan(TVT)投与の長期予後関連因子の検討
第56回日本肝臓学会総会. 2020/08/28-29
12. 奥村りさ, 高木康宏, 西口恭平, 中村孝彦, 谷口舞子, 中村弘樹, 澤村真理子, 徳田有記, 石見亜矢, 大西良輝, 貫野知代, 濱野美奈, 日山智史, 千葉三保, 山本克己, 巽 信之, 伊藤敏文
研修医・専攻医セッション【症例に学ぶ】Clinical Trainee Session【Case Reports】HCC症例-HCC peliotic changeを伴うHCCと診断し得た2例
第56回日本肝臓学会総会. 2020/08/28-29
13. 谷口舞子, 巽 信之, 伊藤敏文
ワークショップ「肝疾患におけるバイオマーカー研究—Biomarker in Liver Diseases」C型慢性肝疾患の生物学的指標としての血漿中アミノ酸濃度の検討
第56回日本肝臓学会総会. 2020/08/28-29
14. 大西良輝, 巽 信之, 伊藤敏文
パネルディスカッション「肝硬変の予後改善を目指した治療戦略—New strategy for the treatment of liver cirrhosis patient to survive more longer time」肝硬変の予後改善を目指した治療戦略 慢性肝疾患患者における亜鉛補充療法の治療効果の検討
第56回日本肝臓学会総会. 2020/08/28-29
15. 中村孝彦, 山本克己, 道田知樹, 高木康宏, 奥村りさ, 谷口舞子, 西口恭平, 中村弘樹, 澤村真理子, 徳田有記, 大西良輝, 石見亜矢, 貫野知代, 日山智史, 濱野美奈, 千葉三保, 巽 信之, 野呂浩史, 伊藤敏文
当院における胃粘膜下腫瘍に対する局所切除術の検討
第99回日本消化器内視鏡学会総会. 2020/09/02-03
16. 貫野知代, 伊藤敏文, 巽 信之, 山本克己, 濱野美奈, 日山智史, 石見亜矢, 大西良輝, 徳田有記, 中村弘樹, 奥村りさ, 高木康宏
肝機能障害をきっかけに診断しあえた、無セルロプラスミン血症の一例
第43回日本肝臓学会東部会. 2020/12/03

17. 巽 信之, 奥村りさ, 高木康宏, 中村弘樹, 徳田有記, 石見亜矢, 大西良輝, 貫野知代, 濱野美奈, 日山智史, 山本克己, 伊藤敏文
自然経過で再活性化を認めたde novo B型肝炎の一例
第43回日本肝臓学会東部会. 2020/12/03
18. 上田彩加, 中嶋玲那, 是松望美, 白木梓, 出口有近, 畑崎聖弘, 貫野知代, 巽 信之, 伊藤敏文
インスリン感受性低下を呈した無セルロプラスミン血症に伴う糖尿病の一例
日本糖尿病学会第63回年次学術集会. 2020/10/05
19. 高木康宏, 山本克己, 奥村りさ, 中村弘樹, 三浦勇人, 澤村真理子, 徳田有記, 石見亜矢, 大西良輝, 貫野知代, 濱野美奈, 日山智史, 巽 信之, 伊藤敏文
Young Endoscopist Sesseion 逆流性食道炎に対し使用されたボノプラザン長期投与中に胃底腺ポリープが増大した1例
第105回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会. 2020/12/19
20. 島 佳弘, 奥村りさ, 高木康宏, 中村弘樹, 三浦勇人, 澤村真理子, 徳田有記, 石見亜矢, 大西良輝, 貫野知代, 濱野美奈, 日山智史, 山本克己, 巽 信之, 伊藤敏文
confluence stoneに対して経口胆道鏡下のEHLにて碎石した一例
第113回日本消化器病学会近畿支部例会. 2020/10/03
21. 松本涼聖, 奥村りさ, 高木康宏, 中村弘樹, 三浦勇人, 澤村真理子, 徳田有記, 石見亜矢, 大西良輝, 貫野知代, 濱野美奈, 日山智史, 山本克己, 巽 信之, 伊藤敏文
EUS-FNAで診断した、腎癌の十二指腸転移の一例
第113回日本消化器病学会近畿支部例会. 2020/10/03
22. 三浦勇人, 山本克己, 出村公一, 伊藤敏文
ワークショップ「消化管腫瘍の診断と治療における工夫」消化管腫瘍の診断と治療における工夫 当院における胃粘膜下腫瘍に対する局所切除術の検討
第113回日本消化器病学会近畿支部例会. 2020/10/03
23. 奥村りさ, 日山智史, 高木康宏, 中村弘樹, 三浦勇人, 澤村真理子, 大西良輝, 石見亜矢, 貫野知代, 濱野美奈, 山本克己, 巽 信之, 伊藤敏文
インフリキシマブ導入にて寛解維持可能となった直腸癌術後のCronkhite-Canada症候群の一例
第114回日本消化器病学会近畿支部例会. 2021/03/27
24. 濱野美奈, 大橋朋史, 酒井健司, 奥村りさ, 高木康宏, 谷口舞子, 中村孝彦, 西口恭平, 中村弘樹, 澤村真理子, 徳田有記, 石見亜矢, 大西良輝, 貫野知代, 日山智史, 千葉三保, 山本克己, 巽 信之, 伊藤敏文
肝細胞癌再発と鑑別が困難であった偽リンパ腫の一例
第56回日本肝臓研究会. 2020/12/22-23

【学会講演】

25. 日山智史
潰瘍性大腸炎の治療戦略と最近のトピックス
消化器疾患地域連携勉強会. 対象：医師・医療関係者. 2020/09/12, 福島区・此花区
26. 日山智史
潰瘍性大腸炎に対する二酸化炭素送気併用大腸内視鏡検査の有用性の検討
Osaka Gut Forum. 対象：医師・医療関係者. 2020/09/25
27. 日山智史
IBD治療を語る会 ～UC編～
対象：医師・医療関係者. 2021/03/08, Web Seminar
28. 奥村りさ
本院における慢性膵炎の臨床的特徴の解析
第8回大阪大学消化器内科レジデント成果発表会. 対象：医師. 2020/10/24
29. 中村弘樹, 巽 信之, 伊藤敏文
当院における肝性浮腫に対するトルバプタン投与の予後因子の検討
肝臓治療フォーラム. 対象：医師・医療関係者. 2020/10/29, WEB開催

30. 奥村りさ, 伊藤敏文
 当院における慢性膵炎の臨床的解析
 第49回消化器系疾患研究会. 対象: 医師・医療関係者. 2020/11/28, Hybrid開催(本院)
31. 三浦勇人, 山本克己, 巽 信之, 伊藤敏文
 当院における胃粘膜下腫瘍に対する診断と治療の現状
 第49回消化器系疾患研究会. 対象: 医師・医療関係者. 2020/11/28, Hybrid開催(本院)
32. 三浦勇人, 山本克己, 巽 信之, 伊藤敏文
 胃粘膜下腫瘍に対する診断と治療の現状
 Nexium Web Seminar in Osaka. 2021/03/18, WEB開催
33. 伊藤敏文
 当院におけるTACE不適の治療戦略
 Intermediate Stage治療を再考する. 対象: 医師・医療関係者. 2020/10/30, WEB開催
34. 伊藤敏文
 「症例提示」レンバチニブの使用経験&ミニレクチャー
 LENVIMA-HCC EXPERT SEMINAR. 対象: 医師・医療関係者. 2020/11/02, WEB開催
35. 伊藤敏文
 自己免疫性肝疾患の最新治療・治験情報について
 神戸市難病団体連協議会・医療講演会. 対象: 一般. 2020/12/06
36. 伊藤敏文
 パンデミック(禍)下におけるボノボラザンの使用状況
 中之島プライマリーケアフォーラム. 対象: 医師・医療関係者. 2020/12/10, WEB開催
37. 伊藤敏文
 パンデミック(禍)下におけるボノボラザンの使用状況
 中之島プライマリーケアフォーラム. 対象: 医師・医療関係者. 2020/12/10, WEB開催
38. 日山智史, 山本克己, 巽 信之, 伊藤敏文
 消化器内科勉強会 食道・胃癌の治療と看護
 対象: 医師・医療関係者. 2020/06/30, 大阪(JCHO大阪病院)
39. 中村弘樹, 山本克己, 巽 信之, 伊藤敏文
 消化器内科勉強会 大腸癌の治療と看護
 対象: 医師・医療関係者. 2020/07/14, 大阪(JCHO大阪病院)
40. 伊藤敏文
 消化器内科勉強会 肝炎の治療と看護
 対象: 医師・医療関係者. 2020/08/11, 大阪(JCHO大阪病院)
41. 三浦勇人, 山本克己, 巽 信之, 伊藤敏文
 消化器内科勉強会 胆道系疾患の治療と看護
 対象: 医師・医療関係者. 2020/09/08, 大阪(JCHO大阪病院)
42. 奥村りさ, 巽 信之, 伊藤敏文
 消化器内科勉強会 膵炎の治療と看護
 対象: 医師・医療関係者. 2020/10/13, 大阪(JCHO大阪病院)
43. 高木康宏, 巽 信之, 伊藤敏文
 消化器内科勉強会 肝硬変の治療と看護
 対象: 医師・医療関係者. 2020/11/10, 大阪(JCHO大阪病院)
44. 巽 信之, 伊藤敏文
 消化器内科勉強会 肝癌の治療と看護
 対象: 医師・医療関係者. 2020/12/08, 大阪(JCHO大阪病院)

【原著・総説・著書】

1. Arita Y, Tanaka K, Kitabayashi K, Hasegawa S
Right-sided Aortic Arch Associated with Congenital Heart Disease
Internal Medicine. 2020 Jul 15 ; 59(14) : 1779-1780
2. Veronese G, Arita Y et al
Viral genome search in myocardium of patients with fulminant myocarditis
Eur J Heart Fail. 2020 Jul ; 22(7) : 1277-1280
3. Arita Y, Nakaoka Y, Eda Y, Kitabayashi K, Hasegawa S
Perioperative Management of Takayasu Arteritis for Cardiac Surgery in a Patient Treated With Tocilizumab
JACC: Case Reports. 2020 Oct 07 ; 710
4. Arita Y, Ogasawara N, Hasegawa S
Correlations between the Ankle-Brachial Index, Percentage of Mean Arterial Pressure, and Upstroke Time for Endovascular Treatment
Cardiology Research. 2020 Dec ; 11(6) : 392-397
5. Yamamoto S, Arita Y, Marumoto A, Okada M, Hasegawa S
Ventricular Septal Rupture with Ventricular Septal Dissection and Coronary Artery Fistula after Acute Myocardial Infarction
Cardiovasc Interv Ther. 2021 Jan 26
6. Suetani Y, Arita Y, Marumoto A, Hasegawa S
Delayed-onset constrictive pericarditis associated with trauma
BMJ Case Reports. 2021 Mar 16 ; 14(3) : e240235
7. 福井智大
Persistent Left Ventricular Wall Thickening after Transcatheter Aortic Valve Replacement: A Hidden Cardiomyopathy
Cardiovascular Imaging Case Reports. Volume 4, Issue 3, June 2020, Pages 175-178
8. 福井智大
Unequal quadricuspid aortic valve stenosis treated with transcatheter aortic valve replacement
European Heart Journal - Case Reports. Volume 4, Issue 5, October 2020, Pages 1-2
9. 福井智大
Complex coronary pulmonary artery fistulae with a large aneurysm: a rare anomaly treated with surgery
European Heart Journal - Case Reports. Volume 4, Issue 5, October 2020, Pages 1-2
10. 福井智大
Rare pulmonary embolism caused by the combination of bilateral popliteal venous aneurysms and antiphospholipid syndrome
BMJ Case Reports. November 2020 - Volume 13 - Issue 11
11. 福井智大
Dynamic kinking of right coronary artery after the button Bentall procedure
BMJ Case Reports. January 2021 - Volume 14 - Issue 1
12. 福井智大
Subepicardial aneurysm with free wall rupture and its successful surgical intervention: a case report
European Heart Journal - Case Reports. Volume 5, Issue 2, February 2021, ytab048
13. 福井智大
Unique autopsy case of primary cardiac lymphoma
BMJ Case Reports. March 2021 - Volume 14 - Issue 3

14. 蔵本見帆
Acute myocardial infarction due to coronary occlusion caused by a metastatic cardiac tumor arising from squamous cell lung cancer: Evaluation with 3-dimensional transthoracic echocardiography
Internal medicine. 2021 Jul 10
15. Y Suetani
Delayed-onset constrictive pericarditis associated with trauma
BMJ Case Rep 2021. March 16 volume 14 Issue 3

【学会発表】

16. 飯田吉則
CRT 植え込み患者に対する心臓リハビリテーションが有効であった 1 例
第26回日本心臓リハビリテーション学会. 2020/07/18, 大阪
17. Yoh Arita
Correlation and Clinical Usefulness between Ankle-Brachial Index, Percentage of Mean Arterial Pressure and Upstroke Time for Peripheral Arterial Intervention
第84回日本循環器学会学術集会. 2020/07/27-08/02, Web 開催
18. 江田優子
この冠動脈疾患症例をどうする? — 1. 左冠動脈主幹部に高度狭窄を認める高安動脈炎の治療戦略
第84回日本循環器学会学術集会. 2020/07/27-08/02, Web 開催
19. 末谷悠人
感染性心内膜炎を疑い手術を施行したが calcified amorphous tumor であった透析患者の一例
第129回日本循環器学会近畿地方会. 2020/09/05, 誌上発表
20. 有田 陽
失神を契機に診断し得た右側大動脈弓、大動脈二尖弁、心室中隔欠損症を合併した成人症例
第129回日本循環器学会近畿地方会. 2020/09/05, 誌上発表
21. Yoh Arita
Clinical Usefulness of the Brachial-ankle Pulse Wave Velocity for Endovascular Treatment
第85回日本循環器学会学術集会. 2021/03/26-28, パシフィコ横浜
22. 福井智大
四尖弁に対する経カテーテル的大動脈弁置換術の一例
第35回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会. 2020/10/10, WEB 開催
23. 佐伯 一
上室性頻拍のエントレインメントについて
第17回関西 EP カンファレンス. 2021/04/03, 大阪
24. 三好美和
新しい心房細動マネジメントについて
西淀川区医師会学術集会. 2019/04/18, 西淀川区公害医療センター
25. 三好美和
当院の心房細動マネジメントについて
此花区医師会. 2019/10/31, 此花会館
26. 三好美和
高齢者化社会における心房細動マネジメント
ベイサイド病診連携学術講演会. 2019/11/27, アートホテル大阪ベイタワー
27. 三好美和
2020年不整脈薬物治療ガイドラインと心房細動アブレーションの取り組みについて
イグザレルト WEB カンファレンス. 2020/11/04, WEB
28. 三好美和
2021年不整脈薬物治療ガイドラインについて
エリキュース WEB 講演会. 2020/10/28, WEB

29. 七條加奈
心嚢内出血による心タンポナーデを契機に診断に至った心臓血管肉腫の一例
第130回日本循環器学会近畿地方会. 2020/11/28, Web開催
30. 山本将平
孤立性上腸間膜動脈解離に腹腔動脈解離を合併した1例
第130回日本循環器学会近畿地方会. 2020/11/28, Web開催
31. 山本将平
急性前壁心筋梗塞後に心室中隔穿孔を合併した1例
第129回日本循環器学会近畿地方会. 2020/06/27, 誌上発表

【学会講演】

32. 飯田吉則
肥大型心筋症患者の診療のポイント
対象：クリニック・診療所医師. 2020/12/10, 大阪
33. 小笠原延行
コレステロールと動脈硬化のお話し
対象：福島区民. 2020/06/02, 福島区
34. 小笠原延行
高齢、低心機能、低血圧患者にイバブラジン投与した一例
対象：循環器内科医師. 2020/09/11, 北区
35. 小笠原延行
プライマリー診療における心不全治療のコツ
対象：医師会所属医師. 2021/01/21, 福島区
36. 小笠原延行
心臓チームで取り組む経皮的動脈弁置換術TAVI
対象：近隣医師. 2021/02/18, 福島区

皮膚科

【原著・総説・著書】

1. 西平守明, 太田朝子, 竹原友貴
膝管内乳頭粘液腫瘍に伴った皮下結節性脂肪壊死症の1例
皮膚の科学. 2020; 18: 349-352

【学会発表】

2. 江田友香
長島型掌蹠角化症の1例
第483回大阪地方会(日本皮膚科学会). 2021/02/06, 大阪
3. 江田友香
脳動脈奇形塞栓術後に皮膚親水性ポリマー塞栓症を発症した1例
第484回大阪地方会(日本皮膚科学会). 2021/03/13, 神戸

泌尿器科

【学会発表】

1. 山口唯一郎, 伊藤拓也, 藤本宜正, 志方優子, 森脇 崇, 山森英長, 岩崎輝夫
尿管管癌の局所再発による骨盤骨破壊に伴う癌性疼痛にメサドン塩酸塩が有効であった1例
第25回日本緩和医療学会学術大会. 2020/08/09-10, WEB

2. 伊藤拓也, 山口唯一郎, 藤本宜正
免疫チェックポイント阻害剤による副腎機能皮質低下症をきたした2例
大阪大学泌尿器科関連病院症例報告会. 2020/10/03, 吹田
3. 伊藤拓也, 山口唯一郎, 藤本宜正, 渡部直史, 石津谷祐, 植村元秀, 野々村祝夫
前立腺癌陽子線治療後のPSA再発の局在診断にPSMA-PETが有用であった一例
第70回日本泌尿器科学会中部総会. 2020/11/12-15, WEB

産婦人科

【講演】

1. 筒井建紀
OO-net活動報告
大阪がん・生殖医療ネットワーク講演会. 2020/11/15, 大阪
2. 大八木知史
小児・AYA世代がん患者における妊孕性温存の現状
一癌サバイバーシップにおける小児・AYA世代の特徴と妊孕性温存について—
がん相談支援センター相談員研修会. 2020/12/19, 大阪
3. 大八木知史
生殖機能温存の基礎から最新情報まで 大阪府下のAYA世代がん患者の妊孕性温存
大阪府がん診療連携協議会小児・AYA部会・大阪国際がんセンターAYA世代サポートチーム共催
WEB講演会. 2021/01/26, 大阪

【学会発表】

4. 田伏真理, 須賀清夏, 永井麻衣, 服部瑞貴, 梅澤奈穂, 尹 純奈, 中尾恵津子, 清原裕美子, 大八木知史, 筒井建紀
妊娠高血圧腎症にて緊急帝王切開後に多臓器不全を来し、集学的治療により救命し得た1例
第72回日本産婦人科学会学術集会. 2020/04/24, 東京
5. 梅澤奈穂, 田伏真理, 須賀清夏, 永井麻衣, 服部瑞貴, 尹 純奈, 中尾恵津子, 清原裕美子, 大八木知史, 筒井建紀
子宮中隔・腔縦中隔を有する双頸子宮に対し、子宮鏡下中隔切除術を行った2例
第72回日本産婦人科学会学術集会. 2020/04/24, 東京
6. 服部瑞貴, 大八木知史, 須賀清夏, 田伏真理, 永井麻衣, 梅澤奈穂, 尹 純奈, 中尾恵津子, 清原裕美子, 筒井建紀
当院におけるRetained Products of Conception (RPOC) に対する治療法の検討
第72回日本産婦人科学会学術集会. 2020/04/25, 東京
7. 須賀清夏, 清原裕美子, 田伏真理, 永井麻衣, 服部瑞貴, 梅澤奈穂, 尹 純奈, 中尾恵津子, 大八木知史, 筒井建紀
胎児共存胞状奇胎との鑑別に苦慮した部分胞状奇胎の一例
第72回日本産婦人科学会学術集会. 2020/04/25, 東京
8. 永井麻衣, 筒井建紀, 須賀清夏, 田伏真理, 服部瑞貴, 梅澤奈穂, 中尾恵津子, 清原裕美子, 大八木知史
悪性腫瘍患者に対し妊孕性温存のため卵巣凍結を行った2症例
第72回日本産婦人科学会学術集会. 2020/04/26, 東京
9. 須賀清夏, 永井麻衣, 田伏真理, 服部瑞貴, 梅澤奈穂, 尹 純奈, 中尾恵津子, 清原裕美子, 大八木知史, 井上朋子, 筒井建紀
若年悪性腫瘍患者に対し妊孕性温存のため卵巣凍結を行った1例
第142回近畿産科婦人科学会学術集会. 2020/06/28, 大阪
10. 梅澤奈穂, 須賀清夏, 田伏真理, 永井麻衣, 服部瑞貴, 尹 純奈, 中尾恵津子, 清原裕美子, 大八木知史, 筒井建紀
妊孕性温存手術後にTC療法を行った2症例の卵巣機能についての検討
第142回近畿産科婦人科学会学術集会. 2020/06/28, 大阪

11. 梅澤奈穂, 大八木知史, 筒井建紀
妊孕性温存手術後にTC療法を行った2症例の卵巣機能についての検討
第65回日本生殖医学会学術講演会. 2020/12/03-23, 東京
12. 筒井建紀, 梅澤奈穂, 須賀清夏, 松村有起, 田中稔恵, 中尾恵津子, 繁田直哉, 若井裕美子, 大八木知史
妊孕性温存手術後にTC療法を実施した2症例の化学療法前後の卵巣機能についての検討
第11回日本がん・生殖医療学会学術集会. 2021/02/12-25, 名古屋

【英論文】

13. Kiyohara Y, Kimura T, Hashimoto N, Ota Y, Kamiura S
Chemotherapy-induced cystoid macular edema in ovarian cancer
Eur J Gynaecol Oncol. 2020 ; 41 (2) : 293-295
14. Shigeta N, Kumasawa K, Tanaka A, Badger Wing J, Nakamura H, Sakaguchi S, Kimura T
Dynamics of effector and naïve regulatory T cells throughout pregnancy
J Reprod Immunol. 2020 Aug ; 140 : 103135. Doi: 10.1016/j.jri.2020.103135. Epub 2020 Apr 19
15. Kajimoto E, Endo M, Fujimoto M, Matsuzaki S, Fujii M, Yagi K, Kakigano A, Mimura K, Tomimatsu T, Serada S, Takeuchi M, Yoshino K, Ueda Y, Kimura T, Naka T
Evaluation of leucine-rich alpha-2 glycoprotein as a biomarker of fetal infection
PLoS One. 2020 Nov 19 ; 15 (11) : e0242076. doi: 10.1371/journal.pone.0242076. eCollection 2020
16. Itoh H, Ishii K, Shigeta N, Itakura A, Hamada H, Nagamatsu T, Ishida T, Bungyoku Y, Falahati A, Tomisaka M, Kitamura M
Efficacy and safety of controlled-release dinoprostone vaginal delivery system (PROPESS) in Japanese pregnant women requiring cervical ripening: Results from a multicenter, randomized, double-blind, placebo-controlled phase III study
J Obstet Gynaecol Res. 2021 Jan ; 47 (1) : 216-225. doi: 10.1111/jog.14472. Epub 2020 Oct 22. PMID: 33094550
17. Sakai K, Ohashi T, Hara S, Osawa H, Ide Y, Noro H, Hirao T, Hatanaka N, Yamasaki Y, Tsutsui T
Laparoscopic Surgery for Synchronous Retroperitoneal Tumor and Ovarian Mature Teratoma-A Case Report
Gan To Kagaku Ryoho. 2020 Dec ; 47 (13) : 2329-2331

【書籍】

18. 筒井建紀
化学療法による卵巣毒性
新版 がん・生殖医療 妊孕性温存の診療. 医歯薬出版株式会社. 2020

眼科

【学会発表】

1. 梅村享平
非典型的な臨床像を呈したサイトメガロウイルス網膜炎の2例
第124回日本眼科学会総会. 2020/04/27-05/18, WEB開催

【学会講演】

2. 大黒伸行
非感染性ぶどう膜炎に対する治療
眼炎症セミナーin浦安. 2020/10/09, Web
3. 大黒伸行
CMVによるぶどう膜炎
新京都アップデートセミナー. 2021/02/21, Web
4. 大黒伸行
ぶどう膜炎診療 unclassified Uveitisを考える
第16回YOKOHAMA病診連携の会. 2021/03/12, Web

5. 眞下 永

視神経網膜炎を呈した感染性ぶどう膜炎の3症例
TNF-inhibitorのBestUseを考える会. 2020/11/12, 新阪急ホテル

耳鼻いんこう科

【原著・総説・著書】

1. Kitayama I, Hosokawa K, Iwahashi T, Iwahashi M, Iwaki S, Kato C, Yoshida M, Umatani M, Matsushiro N, Ogawa M, Inohara H
Inter-text variability of smoothed cepstral peak prominence, methods to control it, and its diagnostic properties
Journal of Voice. 2020 ; 34 : 305-319
2. 小川 真
発声と構音
基礎歯科生理学. 2020 ; 442-462
3. 小川 真, 馬谷昌範, 細川清人, 猪原秀典
大声発声における腹腔・胸腔内圧および声帯接触時間率の連続的評価法の開発
日本気管食道科学会会報. 2020 ; 71 : 208-210
4. 小川 真
声帯ポリープ・声帯結節・慢性声帯炎の局所治療
JOHNS. 2020 ; 36 : 728-732
5. 小川 真
教師の声帯結節への対応はどうしますか？
JOHNS. 2020 ; 36 : 1252-1253
6. 小川 真
機能的発声障害
耳鼻咽喉科・頭頸部外科. 2020 ; 92 : 908-914

【学会発表】

7. 天野雄太, 福田雅俊, 増村千佐子, 小川 真
口蓋扁桃摘出術を契機に判明した血液凝固第XⅢ因子低下症の一例
第356回日耳鼻大阪地方連合会例会. 2021/03/06, 大阪

小児科

【原著・総説・著書】

1. Daisuke Harada, Hiroko Kashiwagi, Kaoru Ueyama, Kyoko Oriyama, Yuki Hanioka, Natsuko Sakamoto, Kawai Kondo, Kanako Kishimoto, Masafumi Izui, Yuiko Nagamatsu, Hiroyuki Yamada, Hiroyuki Tanaka, Noriyuki Namba, Yoshiki Seino
Monthly intravenous alendronate treatment can maintain bone strength in osteogenesis imperfecta patients following cyclical pamidronate treatment
J Pediatr Endocrinol Metab. 2020 ; 33 : 1391-1397
2. 原田大輔, 難波範行, 柏木博子, 上山 薫, 折山恭子, 武鐘真司, 大幡泰久, 石原康貴, 窪田拓生, 清野佳紀
血清ALP 157 IU/Lから低ホスファターゼ症小児型を疑った1例
日本内分泌学会雑誌. 2020 ; 96 Suppl : 71-74

【学会発表】

3. 原田大輔, 柏木博子, 上山 薫, 折山恭子, 難波範行, 清野佳紀
X染色体遺伝性低リン血症性くる病に対するBurosumabの効果 —従来治療との比較—
第93回日本内分泌学会学術集会. 2020/07/20-08/31, Web

4. 上山 薫, 原田大輔, 折山恭子, 柏木博子, 難波範行, 清野佳紀
自己免疫性多内分泌腺症候群3型の14歳女児例
第93回日本内分泌学会学術集会. 2020/07/20-08/31, Web
5. 柏木博子, 原田大輔, 上山 薫, 折山恭子, 長谷川高誠, 清野佳紀
骨幹端軟骨異形成症Schmid型における骨単純X線像の経時的変化
第93回日本内分泌学会学術集会. 2020/07/20-08/31, Web
6. 折山恭子, 原田大輔, 上山 薫, 柏木博子, 難波範行, 清野佳紀
頭蓋骨早期癒合症を合併した周産期重症型低ホスファターゼ症の一例
第93回日本内分泌学会学術集会. 2020/07/20-08/31, Web
7. 泉井雅史, 原田大輔, 埴岡由樹, 上山 薫, 阪本夏子, 近藤可愛, 長松有衣子, 柏木博子, 石浦嘉人, 山田寛之, 難波範行, 清野佳紀
骨形成不全症の心機能と大動脈基部の形態的特徴の評価
第93回日本内分泌学会学術集会. 2020/07/20-08/31, Web
8. 原田大輔, 柏木博子, 上山 薫, 折山恭子, 清野佳紀
小児X染色体遺伝性低リン血症性くる病に対するBurosumabの治療効果
第38回日本骨代謝学会学術集会. 2020/10/09-11, Web
9. 上山 薫, 原田大輔, 折山恭子, 柏木博子, 難波範行, 清野佳紀
自己免疫性多内分泌腺症候群3型の14歳女児例
日本小児内分泌学会・2020年特別学術集会. 2020/10/01-31, web開催
10. 原田大輔, 木村美貴子, 福西志登美, 北林愛理, 中野真由, 倉谷千尋, 阪本夏子, 柏木博子, 鈴木志帆, 中野美佳, 大八木知史, 中筋葉子, 山田寛之
親子の絆づくりプログラム「赤ちゃんがきた!」が子育て中の母親に与える影響の検討
第67回日本小児保健協会学術集会. 2020/11/04-06, Web
11. 上山 薫, 原田大輔, 折山恭子, 柏木博子, 清野佳紀, 山田寛之
新規遺伝子変異を同定したサイログロブリン異常症の小児例
第30回臨床内分泌代謝Update. 2020/11/13-14, Web
12. Daisuke Harada, Hiroko Kashiwagi, Kaoru Ueyama, Kyoko Oriyama, Hiroyuki Yamada, Hiroyuki Tanaka, Noriyuki Namba, Yoshiki Seino
Monthly intravenous alendronate treatment can maintain bone strength in osteogenesis imperfecta patients following cyclical pamidronate treatment
International Conference on Children's Bone Health Virtual Forum. 2020/11/18-20, Web
13. 柏木博子, 原田大輔, 上山 薫, 折山恭子, 長谷川高誠, 山田寛之, 清野佳紀
骨幹端軟骨異形成症Schmid型におけるX型コラーゲン遺伝子変異の検討
日本人類遺伝学会第65回大会. 2020/11/18-12/02, Web
14. 山田寛之
当院の小児発熱外来について
第2回福島区医師会小児科病診連携の会. 2021/03/10, web
15. 上山 薫
BCG不適切接種が原因と疑われた皮膚結核様病変の一例
第2回福島区医師会小児科病診連携の会. 2021/03/10, web
16. 埴岡由樹
一般小児外来における小児早期警告スコアリングシステムの導入
第2回福島区医師会小児科病診連携の会. 2021/03/10, web

【原著・総説・著書】

1. Okada K, Miura K, Fujimoto M, Morita K, Yoshida M, Yamamori H, Yasuda Y, Iwase M, Shinozaki T, Fujita I, Hashimoto R
Impaired inhibition of return during free-viewing behaviour in patients with schizophrenia
Sci Rep. 2021 .2 : 11 : 3237
2. Idemoto K, Ishima T, Niitsu T, Hata T, Yoshida S, Hattori K, Horai T, Otsuka I, Yamamori H, Toda S, Kameno Y, Ota K, Oda Y, Kimura A, Hashimoto T, Mori N, Kikuchi M, Minabe Y, Hashimoto R, Hishimoto A, Nakagome K, Iyo M, Hashimoto K
Platelet-Derived Growth Factor BB: A Potential Diagnostic Blood Biomarker for Differentiating Bipolar Disorder from Major Depressive Disorder
J Psychiatr Res. 2021 .2 : 134 : 48-56
3. Matsumoto J, Fukunaga M, Miura K, Nemoto K, Koshiyama D, Okada N, Morita K, Yamamori H, Yasuda Y, Fujimoto M, Hasegawa N, Watanabe Y, Kasai K, Hashimoto R
Relationship between white matter microstructure and work hours
Neurosci Lett. 2021 .1 : 740 : 135428
4. Iida H, Iga J, Hasegawa N, Yasuda Y, Yamamoto T, Miura K, Matsumoto J, Murata A, Ogasawara K, Yamada H, Hori H, Ichihashi K, Hashimoto N, Ohi K, Yasui-Furukori N, Tsuboi T, Nakamura T, Usami M, Furihata R, Takaesu Y, Iwamoto K, Sugiyama N, Kishimoto T, Tsujino N, Yamada H, Hishimoto A, Nemoto K, Atake K, Muraoka H, Katsumoto E, Oishi S, Inagaki T, Ito F, Imamura Y, Kido M, Nagasawa T, Numata S, Ochi S, Iwata M, Yamamori H, Fujita J, Onitsuka T, Yamamura S, Makinodan M, Fujimoto M, Takayanagi Y, Takezawa K, Komatsu H, Fukumoto K, Tamai S, Yamagata H, Kubota C, Horai T, Inada K, Watanabe K, Kawasaki H, Hashimoto R
Unmet needs of patients with major depressive disorder - Findings from the 'Effectiveness of Guidelines for Dissemination and Education in Psychiatric Treatment (EGUIDE)' project: A nationwide dissemination, education, and evaluation study
Psychiatry Clin Neurosci. 2020 .12 : 74(12) : 667-669
5. Komatsu H, Takeuchi H, Kikuchi Y, Ono C, Yu Z, Iizuka K, Takano Y, Kakuto Y, Funakoshi S, Ono T, Ito J, Kunii Y, Hino M, Nagaoka A, Iwasaki Y, Yamamori H, Yasuda Y, Fujimoto M, Azechi H, Kudo N, Hashimoto R, Yabe H, Yoshida M, Saito Y, Kakita A, Fuse N, Kawashima R, Taki Y, Tomita H
Ethnicity-Dependent Effects of Schizophrenia Risk Variants of the OLIG2 Gene on OLIG2 Transcription and White Matter Integrity
Schizophr Bull. 2020 .12 : 1 : 46(6) : 1619-1628
6. Koshiyama D, Fukunaga M, Okada N, Morita K, Nemoto K, Yamashita F, Yamamori H, Yasuda Y, Matsumoto J, Fujimoto M, Kudo N, Azechi H, Watanabe Y, Kasai K, Hashimoto R
Association between the superior longitudinal fasciculus and perceptual organization and working memory: A diffusion tensor imaging study
Neurosci Lett. 2020 .11 : 738 : 135349
7. Ichihashi K, Hori H, Hasegawa N, Yasuda Y, Yamamoto T, Tsuboi T, Iwamoto K, Kishimoto T, Horai T, Yamada H, Sugiyama N, Nakamura T, Tsujino N, Nemoto K, Oishi S, Usami M, Katsumoto E, Yamamori H, Tomita H, Suwa T, Furihata R, Inagaki T, Fujita J, Onitsuka T, Miura K, Matsumoto J, Ohi K, Matsui Y, Takaesu Y, Hashimoto N, Iga J, Ogasawara K, Yamada H, Watanabe K, Inada K, Hashimoto R
Prescription patterns in patients with schizophrenia in Japan: First-quality indicator data from the survey of "Effectiveness of Guidelines for Dissemination and Education in psychiatric treatment (EGUIDE)" project
Neuropsychopharmacol Rep. 2020 .9 : 40(3) : 281-286

8. Sekiguchi M, Sobue A, Kushima I, Wang C, Arioka Y, Kato H, Kodama A, Kubo H, Ito N, Sawahata M, Hada K, Ikeda R, Shinno M, Mizukoshi C, Tsujimura K, Yoshimi A, Ishizuka K, Takasaki Y, Kimura H, Xing J, Yu Y, Yamamoto M, Okada T, Shishido E, Inada T, Nakatochi M, Takano T, Kuroda K, Amano M, Aleksic B, Yamamoto T, Sakuma T, Aida T, Tanaka K, Hashimoto R, Arai M, Ikeda M, Iwata N, Shimamura T, Nagai T, Nabeshima T, Kaibuchi K, Yamada K, Mori D, Ozaki N
ARHGAP10, which encodes Rho GTPase-activating protein 10, is a novel gene for schizophrenia risk
Transl Psychiatry. 2020.7 ; 10(1) : 247
9. Miyanishi H, Uno K, Iwata M, Kikuchi Y, Yamamori H, Yasuda Y, Ohi K, Hashimoto R, Hattori K, Yoshida S, Goto Y, Sumiyoshi T, Nitta A
Investigating DNA methylation of SHATI/NAT8L promoter sites in blood of unmedicated patients with major depressive disorder
Biol Pharm Bull. 2020.7 ; 43(7) : 1067-1072
10. Kudo N, Yamamori H, Ishima T, Nemoto K, Yasuda Y, Fujimoto M, Azechi H, Niitsu T, Numata S, Ikeda M, Iyo M, Ohmori T, Fukunaga M, Watanabe Y, Hashimoto K, Hashimoto R
Plasma levels of matrix metalloproteinase-9 (MMP-9) are associated with cognitive performance in patients with schizophrenia
Neuropsychopharmacol Rep. 2020.6 ; 40(2) : 150-156
11. Biton A, Traut N, Poline JB, Aribisala BS, Bastin ME, Bülow R, Cox SR, Deary IJ, Fukunaga M, Grabe HJ, Hagenaars S, Hashimoto R, Kikuchi M, Muñoz Maniega S, Nauck M, Royle NA, Teumer A, Valdés Hernández M, Völker U, Wardlaw JM, Wittfeld K, Yamamori H ; Alzheimer's Disease Neuroimaging Initiative, Bourgeron T, Toro R
Polygenic Architecture of Human Neuroanatomical Diversity
Cereb Cortex. 2020.4 ; 30(4) : 2307-2320
12. Koshiyama D, Fukunaga M, Okada N, Morita K, Nemoto K, Usui K, Yamamori H, Yasuda Y, Fujimoto M, Kudo N, Azechi H, Watanabe Y, Hashimoto N, Narita H, Kusumi I, Ohi K, Shimada T, Kataoka Y, Yamamoto M, Ozaki N, Okada G, Okamoto Y, Harada K, Matsuo K, Yamasue H, Abe O, Hashimoto R, Takahashi T, Hori T, Nakataki M, Onitsuka T, Holleran L, Jahanshad N, van Erp TGM, Turner J, Donohoe G, Thompson PM, Kasai K, Hashimoto R, COCORO
White matter microstructural alterations across four major psychiatric disorders: mega-analysis study in 2937 individuals
Mol Psychiatry. 2020.4 ; 25(4) : 883-895
13. Koshiyama D, Fukunaga M, Okada N, Morita K, Nemoto K, Usui K, Yamamori H, Yasuda Y, Fujimoto M, Kudo N, Azechi H, Watanabe Y, Hashimoto N, Narita H, Kusumi I, Ohi K, Shimada T, Kataoka Y, Yamamoto M, Ozaki N, Okada G, Okamoto Y, Harada K, Matsuo K, Yamasue H, Abe O, Hashimoto R, Takahashi T, Hori T, Nakataki M, Onitsuka T, Holleran L, Jahanshad N, van Erp TGM, Turner J, Donohoe G, Thompson PM, Kasai K, Hashimoto R, COCORO
Differences in fractional anisotropy between the patients with schizophrenia and healthy comparison subjects
Mol Psychiatry. 2020.4 ; 25(4) : 697-698
14. 埜本大喜, 藤本美智子, 近江 翼, 片上茂樹, 岩瀬真生, 橋本亮太, 山森英長, 安田由華, 阿古目純, 中川幸延, 池田 学
Clozapineによる薬疹を疑われ中止した後には再投与した治療抵抗性統合失調症の1例
精神神経学雑誌. 2020.6 ; 122(6) : 424-430

脳神経内科

【学会発表】

1. 上田周一, 明浦公彦, 山下和哉, 寺川晴彦
Arterial Spin-Labeling MR画像での中大脳動脈近位部血栓性閉塞に伴う脳梗塞病態解析
第61回日本神経学会学術大会. 2020/09/01, 岡山(現地開催中止)

放射線診断・IVR科

【学会発表】

1. 臼杵則朗 他
膝アーケード領域の動脈性出血に対するIVRの検討
第56回日本医学放射線学会秋期臨床大会. 2020/10, Web

麻酔科

【原著・総説・著書】

1. 別府曜子, 堀 泰雄, 山間義弘, 八木真美, 栗田 聡, 中谷桂治
脊髄くも膜下麻酔中の鎮静におけるネーザルハイフローTMシステムの利用
麻酔. 2020 ; 69 : 542-545

【学会発表】

2. 福岡功士, 濱田 拓
CPA蘇生後低心機能患者において腕神経叢ブロックで管理した前腕切断術の1例
第7回日本区域麻酔学会. 2020/08/09, Web開催
3. 福岡功士, 村田久仁子, 西田宙夢, 今村圭佑, 堀 泰雄
経食道エコーで診断した肺動脈カテーテルの縫着の一例
第25回日本心臓血管外科麻酔学会. 2020/09/02, Web開催
4. 今村圭佑, 堀 泰雄, 福岡功士, 西田宙夢, 中谷桂治, 佐藤善一
扁桃腺摘出後の繰り返す術後出血でICU管理が必要となった1例
第48回日本集中治療医学会. 2021/02/12, Web開催

病理診断科

【原著・総説・著書】

1. M. Ogata
Pax8-positive sarcomatoid carcinoma arising from the liver with aggressive phenotype; An autopsy case
Pathology International. 2020 ; 70 : 825-827

【学会発表】

2. 緒方正史
脱分化型脂肪肉腫に老人性全身性アミロイドーシスを合併していた一剖検例
第66回日本病理学会秋期特別総会. 2020/11/12-13, アクトシティ浜松(オンライン開催含む)
3. 緒方正史
頭蓋骨腫瘍の一例
第90回日本病理学会近畿支部学術集会. 2020/09/11, オンライン開催

集中治療部

【学会発表】

1. 今村圭佑, 堀 泰雄, 福田功士, 西田宙夢, 中谷桂治, 佐藤善一
扁桃腺摘出後の繰り返す術後出血でICU管理が必要となった1例
第48回日本集中治療医学会学術集会. 2021/02/12-14, web開催
2. 佐藤善一
一般演題 代謝・内分泌 症例2(座長)
第48回日本集中治療医学会学術集会. 2021/02/12-14, web開催

薬剤部

【学会発表】

1. 浦嶋和也
複数要因により腎機能が増悪した症例への介入
第30回日本医療薬学会年会. 2020/10/24-11/01, WEB開催

【学会講演】

2. 浦嶋和也
腎機能低下時のメトホルモンの使い方 ～ありのままでもいい？～
関西腎と薬剤研究会20周年&第100回記念webinar. 2020/08/03-16, WEB開催
3. 浦嶋和也
薬物動態の知識を活用した腎機能低下患者への介入例 ～その2～
第14回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会2020. 2020/12/14-28, WEB開催

放射線室

【原著・総説・著書】

1. 鈴木恵子, 細川聖記, 萩原芳明, 伊藤 洵, 小松有希
血管撮影装置における日常点検の標準化
日本診療放射線技師会誌. 2020 ; 67(816) : 1043-1048

【学会発表】

2. 大槻健生
動的フェンステストによるVMAT中のMLC位置精度の評価
日本放射線腫瘍学会第33回学術大会. 2020/10/01, Web開催

栄養管理室

【原著・総説・著書】

1. 玉置まどか
糖尿病患者のコンビニ食・中食活用マニュアル 1. 総論 最近のコンビニ食・中食の傾向と付き合い方
糖尿病ケア. 2021 ; 18(1) : 6-10

臨床工学室

【原著・総説・著書】

1. 松本景史
完全房室ブロック症例におけるQuickOptの有用性
心電図. 2020 ; 4 : 228-234

【学会講演】

2. 松本景史
SmartSync デバイスマネージャー効率的な運用
臨床工学技士. 2020/07/03, web
3. 松本景史
SmartSync デバイスマネージャー効率的な運用
臨床工学技士. 2020/07/28, web
4. 松本景史
頑張らない遠隔モニタリング
臨床工学技士. 2021/02/08, web

【原著・総説・著書】

1. 谷岡美佐枝, 中野美佳, 森本結美, 鈴木志帆
師長に求められる「次世代の管理者」の育成
ナースマネージャー・日総研. 2020; 8: 18-24
2. 中村明美
調べただけで満足しない! 実践につなげる! 文献レビューの看護実践への活かし方
重症集中ケア. 2020; 2: 65-68

【学会発表】

3. 清水加世子
医療関連機器圧迫創傷(MDRPU)発生の実態と今後の課題
第12回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会. 2020/09/13, 大阪
4. 浦上友江
超緊急帝王切開術の他部門他職種合同シミュレーションにおいて副看護師長に望まれる役割
第51回日本看護学会看護管理学会学術集会. 2020/11/01-30, オンライン開催
5. 篠田美佐紀
乳房切除術(胸筋温存乳房切除術)後の乳がん患者の乳房補整への思いと対処行動
～退院後の患者に焦点を当てて～
第35回日本がん看護学会学術集会. 2020/02/27～2か月間, 完全WEB開催
6. 明比かな
多胎妊婦の入院中の経験と工夫
第35回日本助産学会学術集会. 2021/03/20-21, オンライン開催

【学会講演】

7. 谷岡美佐枝
日本看護管理学会 COVID-19対応緊急フォーラム ー大阪府 受入協力医療機関における取り組みー
対象: 看護管理者. 2020/07/11, Zoom
8. 谷岡美佐枝
第49回日本医療福祉設備学会 COVID-19対応病棟におけるサブステーション「出島」(分散看護拠点)の活用
対象: 医療職・病院建設関係者. 2020/11/12, Zoom

病 院 年 報 第 5 卷

2021年10月発行

■発行■

独立行政法人

地域医療機能推進機構 大阪病院

〒553-0003 大阪市福島区福島4丁目2-78

TEL：06-6441-5451(代表)

<http://osaka.jcho.go.jp>

■印刷■

共進社印刷株式会社

〒540-0003 大阪市中央区森ノ宮中央2丁目9-5

TEL：06-6941-8881